ALL ROUND INSPECTION GUIDE

総合検査の

ご案内

2024.6~





CONTENTS

SOME TO

総合検査のご案内

検査項目索引	検査項目索引 ······· I	
ご利用の手引き	ご利用の手引き ··················· 1	
実施料について	実施料について	
異常値報告対象項目とその基準	異常値報告対象項目とその基準… 9	
生化学検査	蛋白・膠質反応 10 低分子窒素化合物 13 電解質・微量金属 19 生体色素 10 糖 有機酸 15 ポルフィリン関連 21 酵素 11 脂質 16 その他 22 アイソザイム 12 ビタミン 18 産業衛生関連検査 23	10
薬物検査	抗てんかん剤 30 気管支拡張剤 32 抗悪性腫瘍剤 33 精神神経用剤 31 抗生剤 32 抗パーキンソン薬 33 抗不整脈剤 31 解熱 鎮痛剤 32 免疫抑制剤 33 強心剤 32 抗炎症・抗リウマチ剤 32 その他 33	30
内分泌学検査	下垂体 37 副腎髄質・交感神経・中枢神経 40 胎盤 44 甲状腺 38 腎・副腎皮質 41 膵・消化管 44 副甲状腺 38 性腺 43 その他 45	37
腫瘍関連検査	腫瘍関連検査 48	48
ウイルス学検査	ウイルス抗体の検出(CF) ··· 53 ウイルス抗体の検出(FAT)··· 57 レトロウイルス ··· 61 ウイルス抗体の検出(HI) ··· 54 ウイルス抗体の検出(EIA) ··· 57 ウイルス抗原の検出 ··· 61 ウイルス抗体の検出(NT) ··· 55 肝炎ウイルス関連検査 ··· 59 ウイルス核酸の検出 ··· 61	53
免疫血清学検査	感染症血清反応 64 補体 70 妊娠検査 74 蛋白 67 自己免疫関連 70 免疫グロブリン 69 血液型検査 73	64
細胞性免疫検査	細胞形態検査 78 細胞機能検査 79 組織適合性抗原 79	77
染色体検査	染色体検査 ············· 82 先天異常染色体 ········· 82 血液疾患染色体 ········· 83	82
血液学検査	血球計数 ············ 85 形態学的検査 ·········· 85 出血凝固検査 ······· 87	85
微生物学検査	一般細菌検査 92 その他 93 抗酸菌検査 92 食品衛生関連検査 97 医真菌検査 93	91
一般臨床検査	尿検査 98 腹水·胸水·穿刺液検査 100 糞便検査 98 精液検査 100 髄液検査 99	98
病理学検査	病理組織検査 ············ 104 細胞診検査 ········ 104	103
ホルター検査	ホルター心電図検査 ······· 107	107
主要参考文献	主要参考文献 109	109
容器一覧	容器一覧 116	116

	和名項	B		
コード				診療報酬
No.	ア	頁数	点数	区分
372	アイソザイム[ALP]	12	48	D007 14
373 393	アイソザイム[AMY]	13	48	D007 14
374	アイソザイム[CK]	12	55	D007 17
371 1773 1822	アイソザイム[LDH] アイソザイム[膵アミラーゼ]	12 13	48	D007 14
1822 676 1290	亜鉛[Zn]	20	132	D007 14 D007 37
801	アスコルビン酸[ビタミンC]	18	296	D007 57
2683	アスペルギルス抗原	66	157	D012 30
2913	(抗)アセチルコリンレセプター抗体	72	775	D014 45
1304	アセトアミノフェン	32	180	D007 47
2858	アディポネクチン	45	_	
404	アデノ〈CF法〉	53	79	D012 11
434~ 443	アデノ〈NT法〉	55	79	D012 11
89	アデノウイルス抗原(定性)(イムノクロマト法)	61	60	D012 7
660	アデノシンデアミナーゼ[ADA]	12	32	D007 11
2187	アビウム・イントラセルラー核酸検出	93	421	D023 16
1196 1201~	アプリンジンアポ蛋白	31 17	[470] 1項目 31 2項目 62 3項目以上 94	B001 2 D007 10
1206 2587	アミオダロン	32	3類目以上 94	D007 10 B001 2
648	アミカシン	32	[470]	B001 2
815	アミノ酸11分画	14	1107	D010 4
810 811	(総)アミノ酸分画	14	1107	D010 4
367	(血清)アミラーゼ[S-AMY]	11	11	D007 1
368	(尿)アミラーゼ[U-AMY]	11	11	D007 1
373 393	アミラーゼアイソザイム	13	48	D007 14
147	アメーバ(便)	99	67	D017 3
345	アルカリフォスファターゼ[ALP]	11	11	D007 1
551 559	アルドステロン	42	122	D008 15
4494	アルドステロン/レニン活性比	41	100 122+	D008 8 D008 15
4493	アルドステロン/レニン濃度比	41	102	D008 10
363 799	アルドラーゼ[ALD] (蓄尿)アルブミン	11 67	11 99	D007 1
1495	(随時尿)アルブミン	67		D001 9
392	アルブミン[Alb] 〈改良BCP法〉	10	11	D007 1
302	アルブミン・グロブリン比[A/G]	10	_	2007 .
1652	アルベカシン	32	[470]	B001 2
681	アルミニウム[Al]	20	109	D007 29
3438 3439 3440 3453 3579 3587	アレルゲン[IgE-CAP16]	70	1430	D015 13
	(シングル)アレルゲン[IgE(特異的)]	70		D015 13
1511	(特異的12種吸入性)アレルゲン[アトピー鑑別試験]	70		D015 21
1101~ 1106	(マルチ)アレルゲン[IgE(特異的)]	70		D015 13
662	アンギオテンシン[転換酵素[ACE]	41		D007 39
733 735	アンチトロンビンⅢ(活性) [ATⅢ] アンチプラスミン[α ₂ -PI]	88 88	70 128	D006 9 D006 16
309	アフテフラスミフ[α₂-PI] (血中)アンモニア(NH₃)	13	50	D006 16
コード	(IVI 13)			診療報酬
No.	1	頁数	点数	区 分
685	イオン化カルシウム	19	26	D007 7
2934	異性間骨髄移植(BMT)	83	2477	D006-5
876	(抗)胃壁細胞抗体	72	_	
	イベントホルター(携帯型発作時心電図)	107		D210
571	インスリン[IRI]	44		D008 8
4177 2782 2783	インスリン抗体 インフルエンザ〈HI法〉	54	107	D014 6
	インフルエンザ(HI法)	61		D012 11
	インフルエンザA型〈CF法〉	53		D012 22
	インフルエンザB型〈CF法〉	53		D012 11

コード	Ċ	頁数	点数	診療報酬
No.	ウノルフ目字			区分
1387 1386	ウイルス同定ウイルス分離	61		
105	ウロビリノーゲン定性[尿一般検査]	98	(26)	D000
707	ウロポルフィリン	21	105	D000
コード			103	診療報酬
No.	I	頁数	点数	区分
242	エキノコックス抗体	65		
485~487 490	エコー〈川法〉	54	79	D012 11
763~ 782	エコー〈NT法〉	56	79	D012 11
2143	エステラーゼ染色[血液特殊染色(末血)]	86	37加算	D005 6
714	エステラーゼ染色[血液特殊染色(マルク)]	86	60加算	D005 14
2147	エステラーゼNaF阻害染色[血液特殊染色(末血)]	86	37加算	D005 6
1376	エステラーゼNaF阻害染色[血液特殊染色(マルク)]	86	60加算	D005 14
564	エストラジオール[E ₂]	43	167	D008 33
689	エタノール	22	105	D007 26
645	エトスクシミド	30	[470]	B001 2
578	エラスターゼ1	48	120	D009 8
596	エリスロポエチン[EPO]	45	209	D008 41
1244	塩基性フェトプロテイン[BFP]	49	150	D009 17
783 784	エンテロ〈NT法〉	56	_	
2354~ 2358	エンドトキシン(透析液中)	65	_	
1185	エンドトキシン定量	65	229	D012 52
コード	-	= *+	_E-%F	診療報酬
No.	4	頁数	点数	区 分
503	黄体形成ホルモン[LH]	37	105	D008 12
790	オウム病[クラミドフィラ・シッタシ]	66	79	D012 11
1367	オステオカルシン[BGP]	39	157	D008 26
2881	オリゴクローナルバンド	69	522	D004 11
コード	カ	頁数	点数	診療報酬
No.	力		点数	診療報酬 区 分
No. 2883	覚せい剤検査	33		区分
No. 2883 4090	覚せい剤検査 ガストリン	33 45	_ 101	区 分 D0008 9
No. 2883 4090 2159	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP]	33 45 48	— 101 175	区 分 D008 9 D009 24
No. 2883 4090 2159 23	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT]	33 45 48 87	— 101 175 29	D008 9 D009 24 D006 7
No. 2883 4090 2159 23 549 550	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画	33 45 48 87 40	101 175 29 161	D008 9 D009 24 D006 7 D008 29
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中)	33 45 48 87 40 40	101 175 29 161	D008 9 D009 24 D006 7
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd]	33 45 48 87 40 40 21	101 175 29 161 161	D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム [Cd] ガバペンチン	33 45 48 87 40 40 21 30	101 175 29 161 161 — [470]	D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン-2レセプター[slL-2R]	33 45 48 87 40 40 21 30 79	101 175 29 161 161 — [470] 438	D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1506 2707 3080 1869 323 382	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン-2レセプター[sll-2R] カリウム[K]	33 45 48 87 40 40 21 30 79	- 101 175 29 161 161 - [470] 438	D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[slL-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査貪食能	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5
No. 2883 4090 2159 23 549 5707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査負食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム[Ca]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 79		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5
No. 2883 4090 2159 23 559 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査資食能 顆粒球スクリーニング検査教菌能 カルシウム[Ca] カルシウムイオン[Caイオン]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 79 19		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食能 顆粒球スクリーニング検査食能 類粒球スクリーニング検査の カルシウム[Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 19 19		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査資食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム「Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 79 19 23 38		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 1 D007 7 D014 29 D008 18
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査貪食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム[Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GP[複合体抗体 カルシトニン[CT]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 79 19 19 72 38 18		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 1 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査負食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム[Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 79 19 72 38 18 30		B001 2 D008 5 D009 36 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 1 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2
No. 2883 4090 2159 23 549 559 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査負食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム「Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 79 19 72 38 18 30 93		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査食食能 颗粒球スクリーニング検査の登略を カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 79 19 72 38 18 30 93 45		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 3223 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 6444 72 1669 3128	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll・2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査食食能 和ルシウム「Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 72 38 18 30 93 45 66		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 1 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54 D0012 23
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669 3128 213 1779	覚せい剤検査 ガストリン ガストリンは出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査食食能 知地対スクリーニング検査後菌能 カルシウム「Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原 間接クームス試験[抗プロブリン試験]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 72 38 18 30 93 45 66 73		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669 3128 213 1779 391	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査後菌能 カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原 間接クームス試験[抗プロブリン試験] 間接ビリルビン[I-BIL]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 19 72 38 18 30 93 45 66 73 10		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54 D012 23 D011 2
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669 3128 213 1779 391 622	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査負食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム「Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原 間接クームス試験[抗グロブリン試験] 間接ビリルビン[I-BlL] 癌胎児性抗原[CEA]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 72 38 18 30 93 45 66 73 10 48		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54 D012 23 D011 2
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 3223 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669 3128 1779 391 622 4857	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査食食能 颗粒球スクリーニング検査役菌能 カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原 間接クームス試験[抗グロブリン試験] 間接ビリルビン[I-BIL] 癌胎児性抗原[CEA] 寒冷凝集反応	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 72 38 18 30 93 45 66 73 10 48 64		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54 D012 23 D011 2 D009 3 D014 1
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669 3128 213 1779 391 622	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査負食能 顆粒球スクリーニング検査殺菌能 カルシウム「Ca] カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原 間接クームス試験[抗グロブリン試験] 間接ビリルビン[I-BlL] 癌胎児性抗原[CEA]	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 72 38 18 30 93 45 66 73 10 48		D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54 D012 23 D011 2
No. 2883 4090 2159 23 549 550 1526 1505 2707 3080 1869 323 382 1241 1241 325 384 685 1677 529 805 644 72 1669 3128 2179 391 622 4857 No.	覚せい剤検査 ガストリン ガストリン放出ペプチド前駆体[Pro GRP] 活性化部分トロンボプラスチン時間[APTT] カテコールアミン3分画 (遊離)カテコールアミン3分画(尿中) カドミウム[Cd] ガバペンチン 可溶性インターロイキン・2レセプター[sll-2R] カリウム[K] 顆粒球スクリーニング検査食食能 顆粒球スクリーニング検査食食能 颗粒球スクリーニング検査の音能 カルシウムイオン[Caイオン] (抗)カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体 カルシトニン[CT] カルニチン分画 カルバマゼピン 簡易培養 肝細胞増殖因子[HGF] カンジダマンナン抗原 間接クームス試験[抗ブロブリン試験] 間接ビリルビン[-BIL] 癌胎児性抗原[CEA] 寒冷凝集反応	33 45 48 87 40 40 21 30 79 19 79 19 72 38 18 30 93 45 66 73 10 48 64		図 分 D008 9 D009 24 D006 7 D008 29 D008 29 B001 2 D009 36 D007 1 D016 5 D016 5 D007 7 D014 29 D008 18 D007 23 B001 2 D018 6 D007 54 D012 23 D011 2 D009 3 D014 1 診療報酬 区 分

	凝固活性 第V因子	89		D006 29		血小板粘着能	87		D006 8
721	凝固活性 第VII因子	89		D006 29		9 9	73		D011 6
	凝固活性 第2回因子	89		D006 29		血清アミラーゼ[S-AMY]	11		D007 1
	凝固活性 第区因子	89		D006 29			68		D015 6
724	凝固活性 第X因子	89		D006 29	3100		49	163	D009 22
725	凝固活性 第XI因子	89	223	D006 29	331	血清鉄	19	11	D007 1
726	凝固活性 第XⅡ因子	89	223	D006 29	334	血清銅	20	23	D007 5
727	凝固活性 第XⅢ因子	89	223	D006 29	672	血清補体価[CHso]	70	38	D015 4
1194	凝固抑制 第Ⅷ因子	90	144	D006 19	699	結石分析(成分比率)	23	117	D010 2
2597	凝固抑制 第区因子	90	144	D006 19	309	血中アンモニア(NH₃)	13	50	D007 16
コード	<i>h</i>	-5 *h	_E-\# <i>F</i> -	診療報酬	376	血糖[グルコース]	15	11	D007 1
No.	9	頁数	点数	区 分	378	血糖(負荷)	15	[200]	D288 1
695	グアナーゼ	11	35	D007 12	110	ケトン体定性〈尿一般検査〉	98	(26)	D000
213 1779	(間接)クームス試験[抗グロブリン試験]	73	47	D011 2	700 1604	ケトン体分画	16	59	D007 19
213 1778	(直接)クームス試験[抗グロブリン試験]	73	34	D011 2			92	122加算	D018
	クラミドフィラ・シッタシ[オウム病]	66		D012 11	1240	ゲンタマイシン	32	[470]	B001 2
	クラミジア・トラコマチス核酸検出	66		D023 1					診療報酬
	クラミジア・トラコマチス抗体IgA&IgG	66		D012 43	No.		頁数	点数	区分
	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体 IgA	66		D012 10		抗ARS抗体	71	190	D014 23
	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体 IgG	66		D012 9		抗BP180抗体[抗BP180NC16a抗体]	73		D014 36
	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体IgM	66		D012 29		抗CCP抗体	71		D014 24
	グラム染色	92		D017 3		抗DNA抗体	71		D014 17
	クリオグロブリン	68		D015 5		抗dsDNA抗体	71		
	グリコアルブミン[GA]	15		D013 3	2151		44		D014 17 D008 19
	グルコース[血糖]	15		D007 17		抗GBM抗体[抗糸球体基底膜抗体]	72		D008 19
	グルコース負荷試験	15	[200]			抗IA-2抗体	44		D014 34
		13					71		D006 43
	クレアチニン[CRE]		- 11	D007 1		抗Jo-1抗体			
	クレアチニンクリアランス	23	_	D007 1		抗LKM-1抗体	72		D014 28
	クレアチンキナーゼ[CK]	11	11			抗MDA5抗体	72		D014 37
	クロール[Cl]	19	11	D007 1		抗Mi-2抗体	72		D014 37
	クロール(髄液)	99		D007 1		(血清)抗p53抗体	49		D009 22
	クロナゼパム	30		B001 2		抗RNP抗体	71		D014 13
	クロバザム	30	[470]	B001 2		抗Scl-70抗体	71		D014 16
	クロム[Cr]	21	_			抗Sm抗体	71		D014 14
	クロルプロマジン	31				抗SS-A抗体	71		D014 18
コード	4	頁数	点数	診療報酬		抗SS-B抗体	71		D014 16
No.	$ \mathcal{T} $	央奴	///QX	区分		抗ssDNA抗体	71	159	D014 17
2155	頸管膣分泌液中癌胎児性フィブロネクチン	44	204	D015 23		抗TIF1-γ抗体	72		D014 37
	血液一般検査		_		2913	抗アセチルコリンレセプター抗体	72	775	D014 45
1	[白血球数]	85		D005 5	876	抗胃壁細胞抗体	72	_	
2	[赤血球数]	85		D005 5		抗核抗体[ANA]〈FA〉	71	99	D014 5
3	[ヘモグロビン]	85	21	D005 5	1644	抗ガラクトース欠損IgG抗体[CA-RF]	71		D014 8
4	[ヘマトクリット]	85		D005 5		抗カルジオリピン・β₂GPI複合体抗体	72		D014 29
9	[血小板数]	85		D005 5		抗カルジオリピンIgG抗体	72	226	D014 30
	血液型		_			抗グロブリン試験〈間接クームス試験〉	73		D011 2
16	[ABO式]	73	24	D011 1	213 1778	抗グロブリン試験〈直接クームス試験〉	73	34	D011 2
17	[RhD]	73	24	D011 1		抗血小板抗体	73	261	D011 8
37	[ABO式]血液型亜型	73	260	D011 7	57	口腔気道または呼吸器培養同定	92	180	D018 1
40	血液交差試験	73	[30+47]	K920 8	2907	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体[抗TPO抗体]	38	138	D014 11
8	血液像	85	15	D005 3	1687	抗好中球細胞質抗体[PR3-ANCA][C-ANCA]	72	252	D014 33
	血液特殊染色(末血)	86	37			抗好中球細胞質抗体[MPO-ANCA] [P-ANCA]	72	251	D014 32
	血液特殊染色(マルク)	86	60			交差適合試験	73		K920 8
60	血液または穿刺液培養同定	92		D018 3		好酸球数	85		D005 4
	結核菌群核酸検出	93		D023 14		好酸球增多症(4q12)(4q12欠失/挿入解析)	84		D006-5
	結核菌特異的IFN-γ[QFT-Plus]	93		D015 30		抗酸菌感受性検査	92		D022
	結核菌特異的IFN-γ[T-スポット.TB]	93		D015 30		抗酸菌抗体定性[MAC抗体]	65		D012 18
	血小板凝集能	87		D006 34		抗酸菌染色〈蛍光法〉	92		D017 1
	(抗)血小板抗体	73		D011 8		抗酸菌同定	93		D017
	血小板第4因子[PF-4]	88		D006 25		抗酸菌分離培養	92		D020 2
	血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体[HIT抗体]	89		D000 23		抗酸菌培養(液体法)	92		D020 1
3400	「一川」をは、「これをは、「これをは、」、「とれて、「これをは、」、「とれて、「これをは、」、「これをは、「これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、	0,5	330	2011 10	23/3	J UCK (스타니 5호 (/IX Iヤ/스)	72	500	D020 1

	—·>>								
640	抗糸球体基底膜抗体[抗GBM抗体]	72	262	D014 34	4 2470	シスタチンC	13	112	D007 30
4108	甲状腺刺激抗体[TSAb]	38	330	D014 40	883	ジソピラミド	31	[470]	B001 2
524	甲状腺刺激ホルモン[TSH]	37	98	D008 6	1868	シフラ[サイトケラチン19フラグメント]	49	154	D009 18
2906	抗サイログロブリン抗体[Tg-Ab]	38	136	D014 10		シベンゾリン	32	[470]	B001 2
	抗ストレプトリジンO価[ASO]	64		D012		脂肪酸分画(4成分)	17		D010 7
	抗セントロメア抗体	71		D014 20		シュウ酸	15		D001 18
	好中球アルフォス染色[N-ALP]	86		D005			107		D237 1
	抗デスモグレイン1抗体	73		D014 39		集卵(虫卵)	99		D003 1
	抗デスモグレイン3抗体	73		D014 36		消化器培養同定	92		D018 2
	抗トロンビンⅢ活性[ATⅢ]	88		D006 9	9 139	消化度(便)	99	20	D003 2
	抗平滑筋抗体	72	_			食品衛生関連検査	97		
	抗ヘリコバクター・ピロリ抗体	67		D012 12		心筋トロポニンT	68		D007 29
	酵母様真菌感受性検査	92		D019-2		シングルアレルゲン[IgE(特異的)]	70		D015 13
	抗ミトコンドリアM2抗体	72		D014 22		神経特異エノラーゼ[NSE]	49		D009 14
	抗ミトコンドリア抗体	72		D014 2		心室筋ミオシン軽鎖[68		D007 48
	抗ミューラー管ホルモン[AMH]	43 37		D008 52		浸透圧(血液)	22		D005 3
	抗利尿ホルモン[AVP] コクサッキーA群〈CF法〉	54		D008 47		浸透圧(尿)	22	16	D001 3
	コクサッキーA群〈NT法〉	55		D012 1		 ス	頁数	点数	診療報酬 区 分
	コクサッキーB群〈CF法〉	54		D012 1		 膵アミラーゼ[P-アミラーゼ]	13	48	D007 14
	コクサッキーB群〈NT法〉	56		D012 1			45		D007 14
	骨型アルカリフォスファターゼ[BAP]	39		D008 26			99		D000 23
	骨髄像「マルク」	85		D005 14	A 860	水銀[Hg]	21	_	D004 4
	コプロポルフィリン定性	22	700	D003 1-	1245 618	水痘·带状疱疹〈CF法〉	53	79	D012 11
656 657	コプロポルフィリン定量	22	210	D007 52 D001 14			57		D012 44
351		11		D001 12		水痘·带状疱疹〈IgM〉〈EIA法〉	57		D012 44
536	(尿中)コルチゾール	42		D008 14		膵ホスホリパーゼA2[膵PLA2]	12		D007 51
555	コルチゾール	42		D008 14		ズダン黒B染色[血液特殊染色(末血)]	86		D005 6
320	(HDL)コレステロール	16	17	D007 3		ズダン黒B染色[血液特殊染色(マルク)]	86		D005 14
330	(LDL)コレステロール	16	18	D007 4	4 4378	スチレン代謝物	23	_	
1682	(RLP)コレステロール	17	174	D007 44	4 コード	1	古米九	- ⊨*h	診療報酬
321	コレステロール分画	17	57	D007 18	No.	セ	頁数	点数	区分
314	(総)コレステロール [T-CHO]	16	17	D007 3		精液量	100		D004 5
コード	サ	頁数	点数	診療報酬		精子数	100		D004 5
No.				区分		成長ホルモン[GH]	37		D008 12
77	細菌培養検査	92 92	頁参照 185	D019-1		赤血球数[RBC 血液一般検査] 赤血球·好中球表面抗原検査	85 78		D005 5 D016 6
77 594	細菌薬剤感受性検査 サイクリックAMP[c-AMP]	45		D019-1 D019-2 D019-3 D008 32		赤血球プロトポルフィリン	22		D010 0
	サイトケラチン19フラグメント[シフラ]	49		D000 32		セルブロック法	104		N000 2
	サイトメガロ〈CF法〉	53		D009 10		セルロプラスミン[Cp]	68		D015 9
	サイトメガロ〈IgG〉	57		D012 1		セレン[Se]	20		D007 40
	サイトメガロ〈IgM〉	57		D012 44			41		D007 40
	サイトメガロウイルス抗原[CMV-PP65]	61		D012 57		潜血[尿一般検査]	98	(26)	D000
251 261	細胞診検査	104		N004 N004		全脂質脂肪酸分画[TL-FA-F]	17		D010 7
269 3570	細胞診検査〈婦人科液状化細胞診〉	104	150+ 45	N004		染色体検査〈FISH法〉	82		D006-5
	細胞数[髄液一般検査]	99		D004 4	789	染色体検査〈Gバンド分染法〉	82		D006-5
	サイロキシン[T₄]	38		D008 1		(抗)セントロメア抗体	71		D014 20
530	(遊離)サイロキシン[F-T4]	38	121	D008 14	863	前立腺特異抗原[PSA]	49	121	D009 9
	サイロキシン結合グロブリン[TBG]	38		D008 18		3 /	頁数	点数	診療報酬
526	サイログロブリン[Tg]	38	128	D008 16			貝奴	宗 奴	区分
647	サリチル酸	32	[470]	B001 2	2 810 811	総アミノ酸分画	14		D010 4
コード	= 1	頁数	点数	診療報酬			78	13.0	D005 15
No.				区分		総コレステロール [T-CHO]	16	17	D007 3
	ジアゼパム	30		B001 2	1017		23	_	D005.15
	シアノコバラミン[ビタミンB ₁₂]	18		D007 39		総胆汁酸[TBA]	16		D007 13
	シアリルLe ^x -i抗原[SLX]	48		D009 13			10		D007 1
	シアリルTn抗原[STN]	49		D009 16		総鉄結合能[TIBC]	20		D007 1
	シアル化糖鎖抗原KL-6 子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	15 44		D007 28		総ビリルビン[T-BIL] 総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比[BTR]	10		D007 1 D010 5
	ナ呂頭官和液中親和球エラスターとシクロスポリン	33		B001 2		総ホモシステイン	14		D010 3
	ジゴキシン	32		B001 2		ソタロール	32		B001 2

								77—	717 1
1449	ゾニサミド	30	[470]	B001 2	377	糖定量[尿糖]	15	9	D001 2
	その他の部位培養同定	92		D018 5		糖定量(髄液)	99		D007 1
	ソマトメジン-C[IGF-I]	37		D008 42		糖定量(穿刺液)	100	11	D007 1
	7 (1-7-7-7-101-1)	3/	212			ドーパミン(総)	40	- ' '	D007 1
コード	夕	頁数	点数	診療報酬				02	D012.14
No.				区分		トキソプラズマIgG抗体	64		D012 14
1281	ターミナル・デオキシヌクレオチジル	78	250	D005 13		トキソプラズマIgM抗体	64		D012 15
	トランスフェラーゼ活性[TdT活性]					特異的IgE Ara h 2(ピーナッツ由来)	70		D015 13
1360	タクロリムス	33		B001 2		特異的12種吸入性アレルゲン[アトピー鑑別試験]	70		D015 21
349	(総)胆汁酸[TBA]	16		D007 13		トピラマート	30	[470]	B001 2
617	単純ヘルペス〈CF法〉	53	79	D012 11	1198	トブラマイシン	32	[470]	B001 2
430 431	単純ヘルペス〈NT法〉	55	79	D012 11	1654	(尿中)トランスフェリンCRE換算[Tf]	68	98	D001 8
1417	単純ヘルペス〈IgG〉〈EIA法〉	57	200	D012 44	638	トランスフェリン[Tf]	68	60	D015 7
1418	単純ヘルペス〈IgM〉〈EIA法〉	57	200	D012 44	1548~ 1550	トリクロル酢酸[TCA]	23	_	
432	単純ヘルペスウイルス特異抗原	61	180	D012 39		トリコモナス培養	93	60	D018 6
301	(総)蛋白	10		D007 1		トリプシン	12		D007 49
	蛋白定性[尿一般検査]	98		D000	165	トリプトファン反応[髄液一般検査]	99		D004 4
	蛋白定量(尿)	98		D001 1		トリメタジオン	30	[470]	
	蛋白定量(髄液)	99		D007 1		(遊離)トリヨードサイロニン[F-T₃]	38		D008 14
	蛋白定量(穿刺液)	100	11			トリヨードサイロニン[T ₃]	38		D008 7
311	蛋白分画(キャピラリー)	100		D007 1		(心筋)トロポニンT	68		D007 29
	蛋白万画(キャピフリー)	10	10			: = :=::			
コード	手	頁数	点数	診療報酬		トロンビン・アンチトロンビンII複合体[TAT]	88		D006 24
No.				区分	1639 1640	トロンボモジュリン[TM]	88	204	D006 27
	中性脂肪[TG]	16		D007 1	コード	+	頁数	点数	診療報酬
56	虫体同定	99	23	D003 3	No.	ナ	突然	жих	区分
132	虫卵(集卵)	99	15	D003 1	322 381	ナトリウム [Na]	19	11	D007 1
131	虫卵(塗抹)	98	20	D003 2	1571	鉛[Pb]	21	_	
213 1778	直接クームス試験[抗グロブリン試験]	73	34	D011 2	コード	_		H#F	診療報酬
357	直接ビリルビン[D-BIL]	10	11	D007 1	No.	_	頁数	点数	区分
3425	沈渣(関節液)	100	50	D004 2	830	ニトラゼパム	30	[470]	B001 2
	沈渣(穿刺液)	100	_			日本脳炎〈CF法〉	53		D012 11
	沈渣(尿)	98	(27)	D002	449	日本脳炎〈HI法〉	54		D012 11
コード			(27)	診療報酬		乳酸	15		D007 13
No.	ツ	頁数	点数	区 分		乳酸脱水素酵素[LD]	11	11	D007 13
	ツツガ虫(Gilliam) 〈IgG〉	65	202	D012 45		尿アミラーゼ[U-AMY]	11		D007 1
	ツツガ虫(Gilliam) 〈IgM〉	65		D012 45		尿菌数定量	92		D007 1
					71				
	ツツガ虫(Karp) 〈IgG〉	65		D012 45	307	尿酸[UA]	13		D007 1
	ツツガ虫(Karp) 〈IgM〉	65		D012 45		尿素呼気試験	93		D023-2 2
	ツツガ虫(Kato) (IgG)	65		D012 45	500	尿素窒素[UN]	13		D007 1
	ツツガ虫(Kato) 〈IgM〉	65	203	D012 45		尿蛋白定量	98		D001 1
コード	-	頁数	点数	診療報酬		尿中Ⅳ型コラーゲン	68		D001 15
No.		火奴	///XX	区 分	1495	尿中アルブミン(随時尿)	67	99	D001 9
2396	テイコプラニン	32	[470]	B001 2	799	尿中アルブミン(蓄尿)	67	99	D001 9
2573	デオキシピリジノリン[DPD]骨粗鬆症	39	191	D008 39		尿中一般物質定性半定量検査	98	(26)	D000
2378	デオキシピリジノリン[DPD]	50	191	D008 39	536	尿中コルチゾール	42	121	D008 14
654	テオフィリン	32	[470]	B001 2	679	尿中銅	20	23	D007 5
	テストステロン	43		D008 13		尿中トランスフェリン[Tf] CRE換算	68		D001 8
1752	(遊離)テストステロン	43		D008 27		尿中免疫電気泳動[BJ蛋白]	69		D015 22
	鉄[Fe]	19		D007 1		尿沈渣	98		D002
	鉄染色[血液特殊染色(末血)]	86		D005 6			15 98		D001 2
	鉄染色[血液特殊染色(マルク)]	86		D005 14		妊娠反応[HCG]	98 74		D008 1
				2003 14	コード	/_////////////////////////////////////	, 4	33	
483	デハイドロエピアンドロステロン サルフェート[DHEA-S]	42	164	D008 31	No.		頁数	点数	診療報酬 区 分
	2,00 T [[DIILA 3]			=^-			45		
コード	-	頁数	点数	診療報酬		脳性Na利尿ポリペプチド[BNP]	45	130	D008 18
No.	ARICO 1			区 分	3923 3924	農薬スクリーニング	33		
334 679	銅[Cu]	20	23	D007 5		ノロウイルス(リアルタイムRT-PCR法)	97	_	
2354~ 2358	透析液中エンドトキシン	65				ノロウイルスRNA定性	61		
	透析液(メンブランフィルター法)	93	_			ノロウイルス抗原定性	61		D012 28
	透析液(混釈培養法)	93	_		162	ノンネアペルト反応[髄液一般検査]	99	62	D004 4
3208	透析液(平板塗抹法)	93	_		コード	/\	古米	-5*A	診療報酬
104	糖定性[尿一般検査]	98	(26)	D000	No.		頁数	点数	区 分
376	糖定量[血糖]	15	11	D007 1	2619	肺炎球菌莢膜抗原定性	64	188	D012 41

	1次口水川				
2582	肺サーファクタントプロテイン-A[SP-A]	69	130	D007	35
1765	肺サーファクタントプロテイン-D[SP-D]		136	D007	39
.,	梅毒定性検査				
199		64	15	D012	1
	梅毒TP抗体定性(LA)	64		D012	
671	100 00111-1-1	64		D012	
0, 1	梅毒定量検査	0-1	154	DOTZ	23
247		64	3/1	D012	5
	梅毒TP抗体定量(LA)	64		D012	
	白血球数[WBC 血液一般検査]	85		D005	
	白血球像(白血球分画)[血液像]	85		D005	
	馬尿酸[HA]	23	- 13	D003	ی
	バニリルマンデル酸定性[VMA]	40	9	D001	2
	バニリルマンデル酸定量[VMA]	40		D008	
	ハプトグロビン[Hp]	67		D008	
785 786 787 738	パラインフルエンザ〈1、2、3型〉〈HI法〉		合/9	D012	11
	パラコート	33		D004	
	バルプロ酸ナトリウム	30		B001	
	ハロペリドール	31		B001	
	バンコマイシン	32		B001	
	パンディ反応[髄液一般検査]	99	62	D004	
コード	Ł	頁数	点数	診療報	
No.				区	分
	ヒアルロン酸	15		D007	46
111	比重[尿一般検査]	98	(26)	D000	
181	比重(穿刺液)	100	_		
161	比重[髄液一般検査]	99	62	D004	4
862	鼻汁喀痰中好酸球数	85	15	D005	3
1485	ヒスタミン	45	_		
1308	ビタミンA	18	_		
802	ビタミンB ₁	18	239	D007	56
803	ビタミンB₂	18	235	D007	55
804	ビタミンB。	18	_		
674	ビタミンB ₁₂	18	136	D007	39
801	ビタミンC	18	296	D007	60
1208	ビタミンE	18	_		
568 569	ヒト絨毛性ゴナドトロピン[HCG]	44	130	D008	18
	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白[H-FABP]	68	131	D007	36
3831	ヒト精巣上皮蛋白4[HE4]	48	200	D009	29
1414	ヒト心房性Na利尿ポリペプチド[hANP]	45	221	D008	46
	ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端				
3112	フラグメント[NT-proBNP]	45	136	D008	20
2385	ヒトパルボB19 <igg> <eia法></eia法></igg>	58	_		
	ヒトパルボB19 < IgM> < EIA法>	58	200	D012	44
	泌尿器または生殖器培養同定	92		D018	
55	皮膚糸状菌染色	93	67		
	百日咳菌抗体	65		D017	
3829	百日咳菌抗体IgA	65		D012	
	百日咳菌抗体IgM	65		D012	
853	(B細胞)表面免疫グロブリン(Sm-Ig)	78		D012	1
252		104			
				N000	
356	(総)ビリルビン[T-BIL]	10	11		
	(直接)ビリルビン[D-BIL]	10	11	D007	1
391	(間接)ビリルビン[I-BIL]	10	(0.0)	Dagg	
	ビリルビン定性[尿一般検査]	98		D000	
697	ピルビン酸	15	47		
	ピルシカイニド	31	[470]	B001	2
	ピルメノール	31	[470]	B001	2

コード	7	頁数	点数	診療報酬
No.	フィブリノーゲン[Fbg]	87		区 分 D006 4
1191	フィブリンモノマー複合体[FMテスト]	88		D006 4
2155	フィブロネクチン	44		D015 23
2935	フィラデルフィア染色体bcr/abl [t(9:22)転座解析]	83		D006-5
4306	風疹〈HI法〉	54	79	D012 11
1327	風疹〈IgG〉〈EIA法〉	57	200	
1326	風疹〈IgM〉〈EIA法〉	57	200	D012 44
641	フェニトイン	30	[470]	B001 2
642	フェノバルビタール	30	[470]	B001 2
624	フェリチン	67	102	
1275	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	89		D006 14
1261	フォン・ウィルブランド因子抗原定量	89	147	
32	不規則性抗体スクリーニング	73	159	
2351	不規則性抗体同定	73 38	159 161	
589 2774	副甲状腺ホルモンintact[PTH-intact] 副甲状腺ホルモン(whole-PTH)	38	161	D008 29
1725		39		D008 29
505	副腎皮質刺激ホルモン[ACTH]	37	184	
333		20	11	
734	プラスミノーゲン(活性)	88	100	
643	プリミドン	30	[470]	B001 2
663	プレアルブミン	67	101	D015 12
2111	フレカイニド	32	[470]	B001 2
728	プレグナンジオール[P₂]	43	213	
729		43		D008 48
1305	プロカインアミド	31	[470]	
3136		65		D007 59
566	プロゲステロン	43		D008 22
867 3566	プロコラーゲンⅢペプチド[P-Ⅲ-P] プレセプシン	68 65	301	D007 39 D007 61
1272		87		D007 81
1149		87		D006 30
	プロテインS(活性)	87		D006 23
1768		87		D006 22
1150	プロテインS(遊離)	87	154	D006 22
1573	プロトポルフィリンB	22	272	D007 58
24	プロトロンビン時間[PT]	87	18	D006 2
	プロパフェノン	31	[470]	
	ブロムペリドール	31	[470]	
507	プロラクチン[PRL]	37	98	D008 6
コード No.	^	頁数	点数	診療報酬区 分
665		72	_	
	平均赤血球血色素濃度[MCHC]	85	_	
6	平均赤血球血色素量[MCH]	85		
1507 2562	平均赤血球容積[MCV]ペプシノゲン[PG]	85 12		
	ベプリジル	32	[470]	B001 2
	ヘマトクリット[Ht 血液一般検査]	85	21	D005 5
	ヘモグロビン[Hb 血液一般検査]	85	21	
	ヘモグロビンA1c[HbA1c(NGSP)]	15		D005 9
	ヘモグロビンF[HbF]	15		D005 11
3757		31	[470]	B001 2
4351	(抗)ヘリコバクター・ピロリ抗体	67	80	D012 12
1862		93	200	D018 2
13	ペルオキシダーゼ染色[血液特殊染色(末血)]	86	37加算	
711	ペルオキシダーゼ染色[血液特殊染色(マルク)]	86	60加算	D005 14

									7.7.
	(単純)ヘルペス〈CF法〉	53		D012 11		Ŧ	頁数	点数	診療報酬
751	(単純)ヘルペス〈NT法〉	55		D012 11	No.				区分
	(単純)ヘルペス〈IgG〉〈EIA法〉	57		D012 44		網状赤血球数[RET][レチクロ]	85	12	D005 2
	(単純)ヘルペス (IgM) 〈EIA法〉	57		D012 44		モノクローナル抗体法[T細胞サブクラス]	78	一連につき 185	D016 2
	(単純)ヘルペスウイルス特異抗原	61		D012 39		ヤ	頁数	点数	診療報酬
	便脂肪球	99		D003 2	No.				区 分
	ベンスジョーンズ蛋白定性 ベンスジョーンズ蛋白同定[BJ蛋白同定]	98	201	D01F 22		薬剤によるリンパ球幼若化試験[LST]	79	1蒸剤 345 2蒸剤 425 3薬剤以上515	D016 7
	便中へモグロビン定性	69 99		D015 22 D003 5	コード No.	ュ	頁数	点数	診療報酬 区 分
2214		99		D003 5		遊離カテコールアミン3分画(尿中)	40	161	D008 29
	便中へモグロビン及びトランスフェリン	99		D003 7		遊離サイロキシン[F-T4]	38		D008 29
	便中へリコバクター・ピロリ抗原	67		D003 6		遊離テストステロン	43		D008 14
コード	と	07		診療報酬		遊離トリヨードサイロニン[F-T3]	38		D008 14
No.	木	頁数	点数	区 分		遊離HCG-β[HCG-βサブユニット]	50		D008 17
	膀胱組織抗原[BTA]	50	[220]			遊離L鎖K/L比	69		D015 29
	(血清)補体価[CH ₅₀]	70		D015 4	コード				診療報酬
	ホモバニリン酸[HVA]	40		D008 3	No.	3	頁数	点数	区分
	ボリコナゾール	32		B001 2	675	葉酸	18	146	D007 41
	ホルター心電図解析	107		D210	コード	_			診療報酬
コード	_	wr	⊢ ₩ L	診療報酬	No.	フ	頁数	点数	区分
No.	~	頁数	点数	区分	3762	ラコサミド	31	[470]	B001 2
227 433	マイコプラズマ抗体	64	32	D012 4	3384	ラモトリギン	30	[470]	B001 2
	マグネシウム[Mg]	19	11	D007 1	504	卵胞刺激ホルモン[FSH]	37	105	D008 12
446	麻疹〈NT法〉	55	79	D012 11	コード	11	古米九	上米石	診療報酬
1395	麻疹〈IgG〉〈EIA法〉	57	200	D012 44	No.	ט	頁数	点数	区分
	麻疹〈IgM〉〈EIA法〉	57		D012 44	1330	(IgG型)リウマチ因子	70	198	D014 26
	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3[MMP-3]	12		D014 9		リウマチ因子定量[RF定量]	70		D014 2
	マルク[骨髄像]	85		D005 14		リストセチンコファクター[VON.WILL因子活性]	89	126	D006 14
1467 1504	マンガン[Mn]	20	27	D007 8		リゾチーム[ムラミダーゼ]	12		
	マンデル酸[MA] (EB)	23	_			リチウム	31		B001 2
コード	=	頁数	点数	診療報酬		リドカイン	31		B001 2
No.				区 分		リパーゼ(血清)	11	24	D007 6
	ミエリン塩基性蛋白[MBP]	73		D004 12		リバルタ反応	100	107	D007.07
001	ミオグロビン	68		D007 36		リポ蛋白(a) [LP(a)]	17 17		D007 27
	(心室筋)ミオシン軽鎖I (抗)ミトコンドリアM2抗体	68 72		D007 48 D014 22		リポ蛋白分画 (無機)リン[P]	19		D007 15 D007 3
	(抗)ミトコンドリア抗体	72		D014 21		淋菌核酸検出	66		D007 3
コード		72	101	診療報酬		淋菌&クラミジアトラコマチス同時核酸検出	66		D023 5
No.	L	頁数	点数	区 分		リン脂質[PL]	16		D007 2
	無機リン[P]	19	17	D007 3		(薬剤)リンパ球幼若化試験[LST]	79		D016 7
	ムラミダーゼ[リゾチーム]	12	_			リンパ球幼若化試験	79		D016 7
	ムンプス〈CF法〉	53	79	D012 11	コード	11			診療報酬
	ムンプス〈HI法〉	54		D012 11	No.	<i>J</i> V	頁数	点数	区 分
	ムンプス〈NT法〉	55		D012 11	1585	ループスアンチコアグラント[LA]	89	265	D014 35
489	ムンプス〈IgG〉〈EIA法〉	57	200	D012 44	3672	ルフィナミド	31	[470]	B001 2
488	ムンプス〈IgM〉〈EIA法〉	57	200	D012 44	コード	1.	古粉	占米石	診療報酬
コード	~	頁数	点数	診療報酬	No.		頁数	点数	区分
No.	^	只奴		区分	2267	レジオネラ菌定量培養	93	_	
	メキシレチン	31		B001 2		レジオネラ抗原定性(尿)	64		D012 46
	メタネフリン2分画	40	220	D008 45		レチノール結合蛋白[RBP]	18		D015 15
	メタノール	22				レニン活性[PRA]	41		D008 8
	メチル馬尿酸[MHA]	23	-	D001 -		レニン濃度[ARC]	41		D008 10
	メトトレキサート	33		B001 2		レベチラセタム	30		B001 2
	免疫グロブリン[IgA]	69		D015 4		レムナント様リポ蛋白(RLP)コレステロール	17	1/4	D007 44
	免疫グロブリン[IgE]	69		D015 11	コード		頁数	点数	診療報酬
	免疫グロブリン[IgG] 免疫グロブリン[IgM]	69 69		D015 4		ロイシンアミノペプチダーゼ[LAP]	11		区 分 D007 1
	免疫電気泳動[BJ蛋白同定]	69		D015 4 D015 22		ロタウイルス抗原定性	61		D007 1
	免疫電気泳動[抗ヒト]	69		D015 22	00	ロンフェルヘかは不足は	01	03	0 ۲۱۷۵
	免疫電気泳動[特異]	69		D015 17					
243	2017 DVANJEN [1322]		210	2013 24					

	アルファベットで始ま	まる	項目	
コード No.	Α	頁数	点数	診療報酬 区 分
16	ABO式血液型	73	24	D011 1
37	ABO式血液型亜型	73	260	D011 7
662	ACE [アンギオテンシン[転換酵素]	41	136	D007 39
2146	ACP染色[血液特殊染色(末血)]	86	_	
792	ACP染色[血液特殊染色(マルク)]	86		
	ACTH[副腎皮質刺激ホルモン]	37	184	D008 37
	ADA[アデノシンデアミナーゼ]	12	32	
621	AFP[αフェトプロテイン]	48		D009 2
	AFPレクチン分画[AFP-L3%]	48		D009 26
	A/G[アルブミン・グロブリン比]	10	100	D007.00
681	AI[アルミニウム]	20		D007 29
	Alb[アルブミン] 〈改良BCP法〉 ALD[アルドラーゼ]	10	11	
	ALD[アルトラーセ] ALP[アルカリフォスファターゼ]	11	11	
	ALPアイソザイム	12		D007 14
	ALP染色「血液特殊染色(末血)]	86	37加算	
791	ALP染色「血液特殊染色(マルク)]	86		D005 14
347	ALT[GPT]	11		D003 14
3122	AMH「抗ミューラー管ホルモン	43		D007 5
373 393	AMYアイソザイム[アミラーゼアイソザイム]	13		D007 14
4245	ANA[抗核抗体]〈FA〉	71		D014 5
23	APTT「活性化部分トロンボプラスチン時間」	87		D006 7
1593	ARC[レニン濃度]	41		D008 10
3578	(抗)ARS抗体	71	190	D014 23
207	ASO[ASLO抗ストレプトリジンO価]	64	15	D012 1
346	AST[GOT]	11	17	D007 3
733	ATⅢ活性[アンチトロンビンⅢ]	88	70	D006 9
826	ATLA抗体 [HTLV-I抗体] 《スクリーニング》	61	159	D012 31
3961	ATLA抗体 [HTLV-I抗体]《確認試験》 <lia法></lia法>	61	425	D012 60
3670	ATM(11q22.3欠失解析)	84	2477	D006-5
3464	AVP[抗利尿ホルモン]	37	224	D008 47
コード No.	В	頁数	点数	診療報酬 区 分
2195	BAP[骨型アルカリフォスファターゼ]	39	157	D008 26
1595	BCA225	49		D009 20
2947	BCL6(3q27転座解析)	84		D006-5
1244	BFP[塩基性フェトプロテイン]	49	150	D009 17
1367	BGP[オステオカルシン]	39	157	D008 26
119	BJ蛋白定性[ベンスジョーンズ蛋白定性]	98	_	
244	BJ蛋白同定[ベンスジョーンズ蛋白同定]	69		D015 22
2934	BMT (異性間骨髄移植)	83		D006-5
1878	BNP [脳性Na利尿ポリペプチド]	45		D008 18
2878	(抗)BP180抗体[抗BP180NC16a抗体]	73		D014 36
1793	BTA[膀胱組織抗原]	50	[220]	
2183	BTR[総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比]	14		D010 5
3157	B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	59		D013 12
853	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)	78	155	D016 1
コード No.	C	頁数	点数	診療報酬 区 分
594 1509	c-AMP[サイクリックAMP]	45		D008 32
1687	C-ANCA	72		D014 33
2959	CBFβ[inv(16)(p13q22)転座•逆位解析]	83		D006-5
2971	CCND1(BCL1)/IgH[t(11;14)転座解析]	83	2477	
2809	c-myc(8q24転座解析)	84		D006-5
3210	c-myc/lgH[t(8;14)転座解析]	84	2477	
205	C-反応性蛋白[CRP]	68	16	D015 1

577 586 1227	C-ペプタイド[CPR]	45	105	D008 12
573	C-ペプタイド[CPR]・負荷	44	[900]	D288 2
1282	C1インアクチベーター活性	89	253	D015 25
237	C3[β₁C/β₁Aグロブリン]	70	70	D015 8
238	C4[β₁Eグロブリン]	70	70	D015 8
549 550	CA-3F[カテコールアミン3分画]	40	161	D008 29
	(遊離)CA-3F[遊離カテコールアミン3分画(尿中)]	40	161	D008 29
	CA-RF[抗ガラクトース欠損IgG抗体]	71	111	
325 384	Ca[カルシウム]	19	11	D007 1
	CA15-3	48	112	
	CA19-9	48	121	
	CA72-4	48	146	
	CA125	48		D009 10
		19		
	Calfation (1)		20	D007 7
1505 2707	Cd[カドミウム]	21	_	501010
	CD抗原・トキシンA/B	93		D012 12
	CEA[癌胎児性抗原]	48		D009 3
	CH50[血清補体価]	70		D015 4
351	ChE[コリンエステラーゼ]	11	11	
	CK[CPK]	11	11	
	CK-MB[CPK-MB]	13	90	D007 22
	CK[CPK]アイソザイム	12	55	D007 17
324 383	Cl[クロール]	19	11	D007 1
403	CMV[サイトメガロ]〈CF法〉	53	79	D012 11
1209	CMV-IgG[サイトメガロ]	57	200	D012 44
1210	CMV-IgM[サイトメガロ]	57	200	D012 44
2199	CMV-PP65[サイトメガロウイルス抗原]	61	356	D012 57
637	Cp[セルロプラスミン]	68	90	D015 9
1476 1477 1506	Cr[クロム]	21	_	
	CRP[C-反応性蛋白]	68	16	D015 1
307 388	CRE[クレアチニン]	13	11	D007 1
337	Creクリアランス[60・120分クレアチニンクリアランス]	23	_	
3623	CSF1R(5q33-34欠失解析)	83	2477	D006-5
529	CT[カルシトニン]	38	130	D008 18
334 679		20	23	D007 5
コード				診療報酬
No.	D	頁数	点数	区 分
357	D-BIL[直接ビリルビン]	10	11	D007 1
1579	D-ダイマー	87	127	D006 15
	DHEA-S[デハイドロエピアンド			
483	ロステロンサルフェート]	42	164	D008 31
673	(抗)DNA抗体	71	159	D014 17
2573	DPD[デオキシピリジノリン] 骨粗鬆症	39	191	D008 39
2378	DPD[デオキシピリジノリン]	50	191	D008 39
1373 1374	(抗)dsDNA抗体	71	_	
886	DUPAN-2	48	159 115	D014 17 D009 7
3211	D13S319(13q14欠失解析)	84	2477	
3092	D20S108(20q12欠失解析)	83	2477	
コード	D203100(20q12)()(A+1/II)	05	24//	
No.	I E	頁数	点数	診療報酬 区 分
	e-GFR[糸球体濾過量推定値]	13	_	
564	E ₂ [エストラジオール]	43	167	D008 33
477	EBV (EA-DR-IgA) 〈FAT法〉	57	79	D008 33
477	EBV (EA-DR-IgG) 〈FAT法〉	57		D012 11
	EBV(EBNA)〈FAT法〉	57		D012 44
479	EBV(VCA-IgA)〈FAT法〉	57		D012 11
	EBV(VCA-IgA)(FAT法)	57		D012 11
473	EBV(VCA-IgG)(FAT法)	57		D012 44
	「D A (A CU-IRIAI) /LW I 位/			DU 1 Z 44
	EDU[エロコロポエモン]	15	200	D008 41
3116	EPO[エリスロポエチン] EWS(22q12転座解析)	45 84	209 2477	D008 41 D006-5

						112	, — '	7T I	>1< 7 I
コード	_		- N/-	診療報酬	4753	HIV抗原/抗体 定性	61	109	D012 16
No.	F	頁数	点数	区分	3121	HIV-1RNA定量	61	520	D023 18
520	F-T₃[遊離トリヨードサイロニン]	38	121	D008 14	4896	HIV-1/2抗体《確認試験》	61	660	D012 63
530	F-T₄[遊離サイロキシン]	38	121	D008 14	2425	HLA遺伝子型判定(A Locus)	79	_	
21	Fbg[フィブリノーゲン]	87		D006 4	2829	HLA遺伝子型判定(B Locus)	79	_	
25 749	FDP	87	80 72	D006 10 D001 7	2830	HLA遺伝子型判定(C Locus)	79	_	
331	Fe[鉄]	19	11	D007 1		HLA遺伝子型判定(DPB1)	79	_	
3084	FGFR3/IgH[t(4;14)転座解析]	84	2477	D006-5	2828	HLA遺伝子型判定(DQA1)	79	_	
	FISH法[染色体検査]	82		D006-5		HLA遺伝子型判定(DQB1)	79	_	
	FMテスト[フィブリンモノマー複合体]	88		D006 11		HLA遺伝子型判定(DRB1)	79	_	
	FSH[卵胞刺激ホルモン]	37		D008 12		HLA型判定(A,BLocus)	79	_	
671	FTA-ABS法[梅毒定性]	64	134	D012 23		HLA型判定(DRLocus)	79	_	
コード	G	頁数	点数	診療報酬		Hp[ハプトグロビン]	67		D015 14
No.				区分		HPV核酸検出	105	347	D023 11
	GA[グリコアルブミン]	15		D007 17		HRV・パワースペクトル解析	107	_	
501	GH[成長ホルモン]	37		D008 12		Ht[ヘマトクリット・血液一般検査]	85		D005 5
	GLU[グルコース]	15		D007 1		HTLV-I抗体(ATLA抗体)《スクリーニング》	61		D012 31
	GOT[AST]	11	17			HTLV-I抗体 (ATLA抗体)<確認試験> <lia法></lia法>	61		D012 60
	GPT[ALT]	11		D007 3 D006-5	1.0	HVA[ホモバニリン酸]	40	69	D008 3
	Gバンド分染法[染色体検査]	82	2477+ 397		コード No.		頁数	点数	診療報酬 区 分
コード No.	H	頁数	点数	診療報酬 区 分		- -BIL[間接ビリルビン]	10		
	HA[馬尿酸]	23			1190		22	[150]	D286
	HA-IgG抗体	59	146	D013 8		ICG[停滞率]	22		D289 2
	HA-IgM抗体	59		D013 8	233		69		D015 4
	hANP[ヒト心房性Na利尿ポリペプチド]	45		D008 46		IgA-HEV抗体	60		D013 10
	Hb[ヘモグロビン・血液一般検査]	85		D005 5		IgE(非特異的)	69		D015 11
517	HbA1c(NGSP)[ヘモグロビンA1c]	15	49	D005 9	3579	IgE-CAP16(アトピー学童)	70	1430	D015 13
1300	HBc抗体〈PHA法〉	59	130	D013 6	3438		70	1430	D015 13
605	HBc抗体〈CLIA法〉	59	130	D013 6	3587	IgE-CAP16(アトピー乳幼児)	70	1430	D015 13
609	HBc-lgM抗体	59	146	D013 8	3453	IgE-CAP16(アレルギー性喘息)	70	1430	D015 13
3157	HBcrAg(B型肝炎ウイルスコア関連抗原)	59	252	D013 12	3440	IgE-CAP16(花粉症·鼻炎)	70	1430	D015 13
603	HBe抗原	59	98	D013 4	3439	IgE-CAP16(食物アレルギー)	70	1430	D015 13
604	HBe抗体	59	98	D013 4		IgE(特異的)[シングルアレルゲン]	70	各110	D015 13
	HbF[ヘモグロビンF]	15		D005 11		特異的IgE Ara h 2(ピーナッツ由来)	70		D015 13
	HBs抗原	59		D013 1	1101~ 1106		70		D015 13
	HBs抗原〈IC法〉	59		D013 1		IGF-I[ソマトメジン-C]	37		D008 42
	HBs抗原〈CLIA法〉	59		D013 3		IgG	69		D015 4
	HBs抗体	59		D013 2		IgG4	69		D014 41
	HBs抗体〈IC法〉	59		D013 2		IgG型リウマチ因子	70		D014 26
	HBs抗体〈CLIA法〉 HBV-DNA定量IU	59		D013 3 D023 4		IgH(14q32転座解析) IgH/BCL2[t(14;18)転座解析]	83		D006-5
	HBVゲノタイプ	59 60		D023 4		IgH/MAF[t(14;16)転座解析]	84 84		D006-5
	HCG-βサブユニット[遊離HCG-β]	50		D013 14		IgG-FcR ⁺ T細胞百分率	78		D006-3
	HCG「ヒト絨毛性ゴナドトロピン]	44		D008 17		IgG·HA抗体	59		D010 3
	HCG[妊娠反応]	74		D008 1		IgM	69		D015 4
	HCV RNA定量PCR	60		D023 15		IgM·HA抗体	59		D013 8
	HCV群別(グルーピング)	60		D013 11		IgM·HBc抗体	59		D013 8
	HCV抗原(コア蛋白)	60		D013 5		IRF-1 (5q31欠失解析)	83		D006-5
1315	HCV抗体(3rd)	60	102	D013 5		IRI[インスリン]	44	100	D008 8
1565	HCV抗体(2nd)	60	102	D013 5	コード		百兆	一一米九	診療報酬
1329	HCV抗体〈IC法〉	60	102	D013 5	No.	J	頁数	点数	区 分
2635	HCVサブタイプ系統解析	60	_		1629	(抗)Jo-1抗体	71	140	D014 12
	HDL-コレステロール[HDL-CHO]	16		D007 3	コード	K	頁数	点数	診療報酬
	HER-2(遺伝子増幅解析)	84		N005 1	No.				区 分
	H-FABP(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	68		D007 36		K[カリウム]	19		D007 1
	HE4[ヒト精巣上皮蛋白4]	48		D009 29	1681	KL-6[シアル化糖鎖抗原KL-6]	15	108	D007 28
	Hg[水銀]	21	227	D007.5.4					
	HGF[肝細胞増殖因子]	45 89		D007 54 D011 10					
3400	HIT抗体[血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体]	09	230	טוווטם					

コード	1	頁数	点数	診療報酬		p53(17p13欠失解析)	84		D006-5
No.				区 分		PAIgG[血小板IgG]	73		D011 6
	L-FABP[L型脂肪酸結合蛋白] L-ドーパ	69 33	210	D001 19		PAS染色[血液特殊染色(末血)] PAS染色[血液特殊染色(マルク)]	86		D005 6 D005 14
	LA[ループスアンチコアグラント]	89	265	D014 35		Pb[鉛]	86 21	00加昇	D005 14
	LAP[ロイシンアミノペプチダーゼ]	11		D014 33		PCT[プロカルシトニン]	65	276	D007 59
	LD[乳酸脱水素酵素]	11		D007 1		PDGFRβ(5q32-33転座解析)	84		D007-53
	LDHアイソザイム	12		D007 14		PF-4[血小板第4因子]	88		D006 25
	LDLコレステロール[LDL-CHO]	16		D007 14	1507 2562	PG[ペプシノゲン]	12		D000 23
	LH[黄体形成ホルモン]	37		D008 12	101	pH[尿一般検査]	98	(26)	D000
	(抗)LKM-1抗体	72		D014 28		PIC[α₂プラスミンインヒビター・			
	LP(a) [リポ蛋白(a)]	17		D007 27	1311	プラスミン複合体]	88	150	D006 21
	LP解析	107	_		1267	PIVKA-II	49	131	D009 10
	LST[薬剤によるリンパ球幼若化試験]	79	1薬剤 345 2薬剤 425 3薬剤以 F515	D016 7	318	PL[リン脂質]	16		D007 2
	L型脂肪酸結合蛋白[L-FABP]	69	03/012/2020-0	D001 19		PLG活性[プラスミノーゲン活性]	88	100	D006 12
コード				診療報酬		PLT[血小板数·血液一般検査]	85		D005 5
No.	M	頁数	点数	区分		PL凝集能[血小板凝集能]	87	50	D006 34
3625	M2BPGi[Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体]	69	194	D007 50	30	PL粘着能[血小板粘着能]	87	64	D006 8
3533	MA[マンデル酸]EB	23	_		2936	PML/RARα[t(15;17)転座解析]	83	2477	D006-5
3625	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体[M2BPGi]	69	194	D007 50	1687	PR3-ANCA[抗好中球細胞質抗体]	72	252	D014 33
3585	MAC抗体[抗酸菌抗体定性]	65	116	D012 18	552	PRA[レニン活性]	41	100	D008 8
2803	MALT1(18q21転座解析)	84	2477	D006-5	507	PRL[プロラクチン]	37	98	D008 6
819	MBP[ミエリン塩基性蛋白]	73	570	D004 12	2159	ProGRP[ガストリン放出ペプチド前駆体]	48	175	D009 24
6	MCH[平均赤血球血色素量]	85	_		2561	PSA-F/T比	49	150	D009 17
7	MCHC[平均赤血球血色素濃度]	85	_		1235	PSA[タンデム]	49	121	D009 9
5	MCV[平均赤血球容積]	85	_		863	PSA[前立腺特異抗原]	49	121	D009 9
3689	(抗)MDA5抗体	72	270	D014 37	24	PT[プロトロンビン時間]	87	18	D006 2
327 329	Mg[マグネシウム]	19	11	D007 1	589	PTH-intact[副甲状腺ホルモンintact]	38	161	D008 29
1552	MHA [メチル馬尿酸]	23	_		1725	PTHrP[副甲状腺ホルモン関連蛋白]	39	186	D008 38
3755	(抗)Mi-2抗体	72	270	D014 37	コード		頁数	点数	診療報酬
	MLL(11q23転座解析)	83	2477	D006-5	No.	Q			区分
	MMP-3[マトリックスメタロプロテイナーゼ-3]	12		D014 9		QFT-Plus	93	593	D015 30
1467 1504	Mn[マンガン]	20		D007 8	3668	QT解析	107		
	MPO-ANCA[抗好中球細胞質抗体]	72	251	D014 32	コード	R	頁数	点数	診療報酬
	MRSA培養	93	- 210	D015 04	No.				区 分
	M蛋白同定〈免疫電気泳動〉	69	218	D015 24		RUNX1(21q22転座解析)	83		D006-5
コード	N	頁数	点数	診療報酬 区 分		RUNX1/RUNX1T1[t(8;21)転座解析]	83		D006-5
No.	N-メチルホルムアミド	23				RBC[赤血球数・血液一般検査] RBP[レチノール結合蛋白]	85 18		D005 5 D015 15
	Na[ナトリウム]	19	11	D007 1		RB1 (13q14欠失解析)	84		D006-5
	NAG活性	12		D007 1	11		85		D005 2
	N-ALP[好中球アルフォス染色]	86		D005 6		RF定量[リウマチ因子定量]	70		D014 2
		49		D009 6		RhD式血液型	73		D011 1
	NH₃[血中アンモニア]	13		D007 16		RLP-コレステロール[レムナント			
		84		D006-5	1682	様リポ蛋白コレステロール]	17	174	D007 44
	NSE[神経特異エノラーゼ]	49	142	D009 14	3508	(抗)RNP抗体	71	144	D014 13
3112	NT-proBNP[ヒト脳性Na利尿ペプチド	45				RPN1-EVI1 (3q26.2転座解析)	83	2477	D006-5
3112	前駆体N端フラグメント]	45	136	D008 20		RPR法[梅毒脂質抗体定性]	64	15	D012 1
2386	NTX[I型コラーゲン架橋N-テロペプチド]	50	156	D008 25	247	RPR法[梅毒脂質抗体定量]	64	34	D012 5
2574	NTX[I型コラーゲン架橋	39	156	D008 25	407	RS〈CF法〉	53	79	D012 11
23/4	N-テロペプチド] 骨粗鬆症	33	150		444	RS〈NT法〉	55	79	D012 11
コード	Р	頁数	点数	診療報酬	コード	S	頁数	点数	診療報酬
No.				区 分	No.				区 分
	P-ANCA	72		D014 32		S-AMY[血清アミラーゼ]	11		D007 1
	P-アミラーゼ[膵アミラーゼ]	13		D007 14		SAA[血清アミロイドA蛋白]	68		D015 6
	P-Ⅲ-P[プロコラーゲンⅢペプチド]	68		D007 39		SCC抗原	49		D009 4
	P[無機リン]	19		D007 3		(抗)Scl-70抗体	71		D014 16
	P ₂ [プレグナンジオール]	43		D008 43		Se[セレン]	20		D007 40
	P3[プレグナントリオール]	43		D008 48		slL-2R[可溶性インターロイキン-2レセプター]	79		D009 36
2019	p16(9p21欠失解析)	83	24//	D006-5	1225	SLX[シアリルLe ^x -i抗原]	48	140	D009 13

3509	(抗)Sm抗体	71	147	D014 14
2582	SP-A[肺サーファクタントプロテイン-A]	69	130	D007 35
1765	SP-D[肺サーファクタントプロテイン-D]	69	136	D007 39
1236	SPan-1抗原	48	144	D009 15
3511	(抗)SS-A抗体	71	161	D014 18
3512	(抗)SS-B抗体	71	157	D014 16
1371 1372	(抗)ssDNA抗体	71	_ 159	D014 17
1563	STN[シアリルTn抗原]	49		D009 16
コード	-	7166	- N/A-	診療報酬
No.		頁数	点数	区 分
356	T-BIL[総ビリルビン]	10	11	D007 1
314	T-CHO[総コレステロール]	16	17	D007 3
523	T₃[トリヨードサイロニン]	38	99	D008 7
522	T₄[サイロキシン]	38	105	D008 11
3189	TARC[Th2ケモカイン]	69	179	D015 18
1230	TAT[トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体]	88	171	D006 24
349	TBA[総胆汁酸]	16	47	D007 13
527	TBG[サイロキシン結合グロブリン]	38	130	D008 18
1548~ 1550	TCA[トリクロル酢酸]	23	_	
3576	TCF3/PBX1[t(1;19)転座解析]	84	2477	D006-5
1001	TdT活性「ターミナル・デオキシヌク		0.50	D005.40
1281	レオチジルトランスフェラーゼ活性]	78	250	D005 13
2949	TEL(12p13転座解析)	83	2477	D006-5
2801	TEL/AML1[t(12;21)転座解析]	83		D006-5
638	Tf[トランスフェリン]	68	60	D015 7
1654	Tf[尿中トランスフェリン] CRE換算	68		D001 8
526	Tg[サイログロブリン]	38		D008 16
2906	Tg-Ab[抗サイログロブリン抗体]	38		D014 10
316	TG[中性脂肪]	16	11	D007 1
3189	Th2ケモカイン[TARC]	69		D015 18
332	TIBC[総鉄結合能]	20	11	D007 1
3754	(抗)TIF1-γ抗体	72		D014 37
1223	TL-FA-F[全脂質脂肪酸分画]	17		D010 7
1639 1640	TM[トロンボモジュリン]	88		D006 27
3572	totalPINP[I型プロコラーゲン-N-プロペプチド]	39	160	D008 28
301	TP[総蛋白]	10	11	D007 1
2907	TPO-Ab[抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体]	38		D014 11
3168	TRACP-5b	39		D008 25
524	TSH[甲状腺刺激ホルモン]	37		D008 6
4108	TSAb[甲状腺刺激抗体]	38		D014 40
3484	TSHレセプター抗体定量(第3世代)	38		D014 27
3496	T-スポット.TB[結核菌特異的IFN-γ]	93	593	D015 30
1545~ 1547	TTC[総三塩化物]	23		D013 30
851	T細胞·B細胞百分率	78	193	D016 3
854	T細胞サブクラス	78	一連につき 185	D016 2
3669	T波オルタナンス[TWA]	107	185	B010 E
コード		107		診療報酬
No.	U	頁数	点数	区 分
306 387	UA[尿酸]	13	11	D007 1
368	U-AMY[尿アミラーゼ]	11	11	D007 1
3114	ucオステオカルシン	39	154	D008 24
333	UIBC[不飽和鉄結合能]	20	11	D000 24
304 386	UN[尿素窒素]	13	11	D007 1
	(1)(水土水)	13	11	
コード No.	V	頁数	点数	診療報酬 区 分
3983	Viewアレルギー39	70	1430	D015 13
	VMA(定性)[バニリルマンデル酸]	40	9	D013 13
3772	VMA(定量)[バニリルマンデル酸]	40	90	D001 2
1275	VON.WILL因子活性	89	126	D006 14
12/3		89	147	D006 14
1201	V OIV.VVILLED J J/W示C里	09	14/	D 000 Z0

コード No.	W	頁数	点数	診療報酬 区 分
1	WBC[白血球数·血液一般検査]	85	21	D005 5
2774	whole-PTH(副甲状腺ホルモン)	38	161	D008 29
コード No.	X	頁数	点数	診療報酬 区 分
2811	X染色体(cenの検出)	82	2477	D006-5
コード No.	Υ	頁数	点数	診療報酬 区 分
2806	Y染色体(cenの検出)	82	2477	D006-5
コード No.	Z	頁数	点数	診療報酬 区 分
676 1290	Zn[亜鉛]	20	132	D007 37

数字で始まる項目

	7			
コード No.		頁数	点数	診療報酬 区 分
1561	1,5-アンヒドログルシトール[1,5-AG]	15	80	D007 21
3637	1p1q(1p欠失1q增加解析)	84	2477	D006-5
1863	1,25-(OH)₂ピタミンD	18 40	388	D007 63
1557	2,5-ヘキサンジオン[2,5-HD]	23	_	
547 2377	5-HT[セロトニン]	41	_	
3774	5-ハイドロキシインドール酢酸[5-HIAA]	41	95	D008 5
3057	7染色体(Williams症候群)	82	2477	D006-5
2943	7染色体(7モノソミー/7q31欠失解析)	83	2477	D006-5
2944	8染色体(8トリソミー)	83	2477	D006-5
556	11-ハイドロキシコルチコステロイド [11-OHCS]	42	60	D008 2
3067	12染色体(12トリソミー)	83	2477	D006-5
2296	13染色体(13トリソミー/Patau症候群)	82	2477	D006-5
2804	15染色体(Angelman症候群)	82	2477	D006-5
2997	15染色体(Prader-Willi症候群)	82	2477	D006-5
2985	18染色体(18トリソミー/Edwards症候群)	82	2477	D006-5
2807	21染色体(21トリソミー/Down症候群)	82	2477	D006-5
2996	22染色体(DiGeorge症候群)	82	2477	D006-5
339	24時間クレアチニンクリアランス	23	_	
274	24時間自由行動下血圧測定	107	[200]	D225-3
3748	25-OHビタミンD くる病骨軟化	18 40	117	D007 31
3937	25-OHビタミンD(骨粗鬆症)	18 40	117	D007 31
337	60・120分クレアチニンクリアランス	23	_	

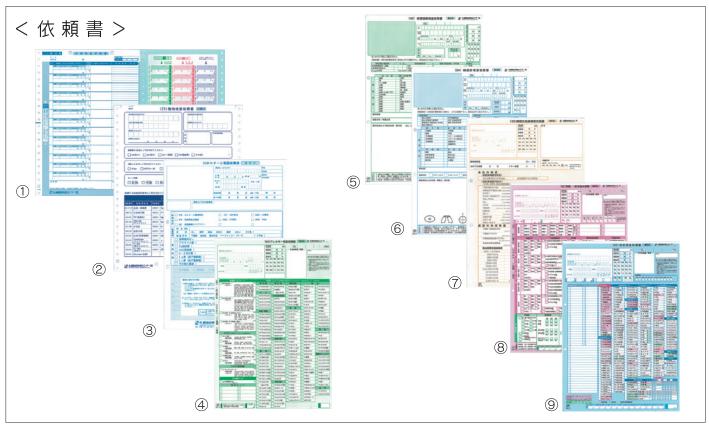
ローマ数字・ギリシア文字で始まる項目

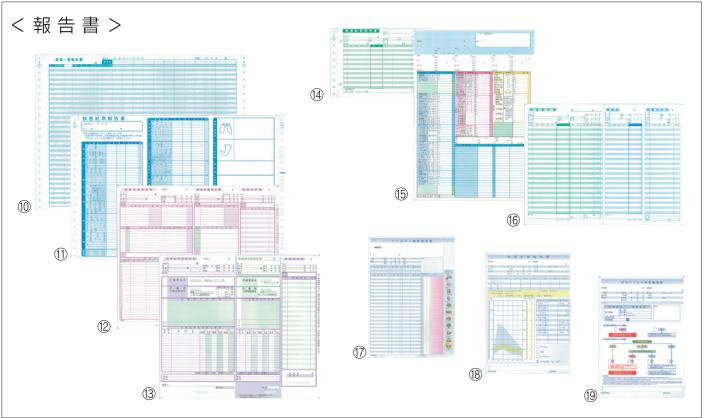
コード No.		頁数	点数	診療報酬 区 分
2152	I型コラーゲン-C-テロペプチド[I型-CTP]	50	[360]	B001 3
2574	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド [NTX・骨粗鬆症]	39	156	D008 25
2386	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド[NTX]	50	156	D008 25
3572	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド[total PINP]	39	160	D008 28
2593	Ⅳ型コラーゲン(尿)	68	184	D001 15
2234	Ⅳ型コラーゲン	68	131	D007 36
1197	IV型コラーゲン・7S	68	148	D007 42
1256	α 1アシドグリコプロテイン[α 1AG]	67	_	
630	α 1アンチトリプシン[α 1AT]	67	80	D006 10
736 737	α 1マイクログロブリン $[\alpha$ 1-M]	67	129	D015 14
1311	α₂プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体[PIC]	88	150	D006 21
735	α_2 -プラスミンインヒビター活性[α_2 -PI]	88	128	D006 16
732	$lpha_2$ マクログロブリン	67	138	D006 17
621	αフェトプロテイン[AFP]	48	98	D009 2
2161	β-D-グルカン	65	195	D012 42
807	β-カロチン	18	_	
1262	β-トロンボグロブリン[$β$ -TG]	88	171	D006 24
237	β_1 C/ β_1 Aグロブリン[C3]	70	70	D015 8
238	β 1Eグロブリン[C4]	70	70	D015 8
625 626	β₂マイクログロブリン	67	98	D015 10
350	γ -グルタミルトランスフェラーゼ[γ -GT]	11	11	D007 1
812	γ-セミノプロテイン[γ-Sm]	49	192	D009 28
1572	δ-アミノレブリン酸 $[δ$ -ALA $]$	21	106	D001 11



10
 検査項目索引
4
占
星
 新
51

検査依頼書・報告書





検査のご利用に当たっては、当社所定の検査依頼書および検体容器(検体ラベル)をご利用下さい。 必要な検査依頼書および検体容器は、営業員がお届けします。

容器の種類は、検査項目毎に表示してありますので、巻末の「容器一覧」(116~126頁)をご参照下さい。

[●]依頼書は数枚複写となっております。

一部を検査ご依頼元「控」に代えさせていただきますので、ご了承下さい。

ご利用の手引き

1. 取引のお申し込み

ご利用に際しましては、本社または最寄りの支店・営業所へご連絡下さい。担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。

2. 検査のご依頼

検査のご依頼に際しましては、所定の検査依頼書・検体容器および検 体ラベルをご使用下さい。

必要な検査依頼書等は、ご連絡により最寄りの支店・営業所からお届け致します。

[検査依頼書]

- ④患者名、担当医師名は、カタカナで明瞭にご記入下さい。(病理・細胞診検査依頼書は、患者名に漢字もご記入下さい)
- B採取月日、採取時刻、提出日もご記入下さい。
- ○カルテNo.、年齢、性別、生年月日、病室(病棟)もご記入下さい。

- ●性別、外来・入院、透析前後、診療科は□枠内に/印を記入し□と してご依頼下さい。
- 容器欄は、本数をご記入下さい。
- ●記載されていない検査項目、病名、仮診断名、薬剤投与歴等は、「そ の他検査/備考」欄にご記入下さい。
- ●検査項目によっては、身長、体重、妊娠週数、尿量などを必要に応じてご記入下さい。
- 検査依頼書は複写式となっていますので、ボールペンで強くお書き下さい。また一部を検査ご依頼元「控」とし、併せて検体受領明細書に代えさせていただきますのでご了承下さい。
- ○ご依頼項目は、該当箇所の□枠内に/印を記入し□としてご依頼下さい。訂正の場合は、\印を追加記入し□としてご記入下さい。当社の方で依頼の取消しと判断させていただきます。(下記例を参照下さい)

ご依頼方法例









(ご注意)

- ●性別、年齢により異なる基準値の検査項目がありますので、性別、年齢は必ずご記入をお願い致します。
- 依頼書は、機械で読み取らせる都合上、折り曲げたり、汚したりしないようにご提出下さい。
- 指定箇所以外におけるご記入はご遠慮下さい。図した場合、セット内項目は削除されますのでご注意下さい。

[検体ラベル]

●検体ラベルは、患者名、性別、年齢、採取日、材料をご記入の上、 容器にお貼り下さい。

[検体の採取条件]

- 本案内書をご参照の上、所定の容器に必要量を採取して下さい。容器の種類は検査項目毎に番号で表示してありますので、巻末の「容器一覧」(116~126頁)をご参照下さい。
- ●本案内書には、およその採取量・提出量を記載してあります。ご提 出量は原則として再検査に応じられるよう設定してあります。検体 量不足にならないようにご注意下さい。
- 採血・分注の順序(組織液混入のない血液を凝固・血算などに) ※真空採血管使用時(採血)
 - 1. 汎用容器(分離剤入り)
 - 2. 凝固検査用容器 (3.2%クエン酸Na)
 - 3. 血球検査用容器(EDTA-2K)
 - 4. グルコース・HbA1c用容器(NaF+ヘパリンNa)
 - 5. 血沈検査用採血管 (3.8%クエン酸Na入り)
 - 6. その他

※注射器(シリンジ)使用時(分注)

- 1. 凝固検査用容器 (3.2%クエン酸Na)
- 2. 血球検査用容器 (EDTA-2K)
- 3. グルコース・HbA1c用容器(NaF+ヘパリンNa)
- 4. 血沈検査用採血管 (3.8%クエン酸Na入り)
- 5. 汎用容器 (分離剤入り)
- 6. その他
- ●培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にて ご提出下さい。

[検体の提出条件]

●血清分離の要否等、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。本案内書の「提出量」、「容器」、「備考」の各欄を併せてご参照下さい。

[検体の保存条件]

- ●検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、 所定の保存条件をお守り下さい。
- ●本案内書「保存方法」欄をご参照の上、凍結検体の場合は、冷凍庫 またはドライアイス中での保存をお願い致します。冷蔵検体の場合 は、冷蔵庫で4~10℃での保存をお願い致します。
- 検査項目毎に適正な検査結果をお届けすることができる検体採取後の「検体の安定性」を明記しておりますので、ご参照下さい。

3. 検体の受領・輸送

検査のご依頼に際しましては、当社営業員が受領に伺いますので、検 査依頼書と検体を照合の上、ご提出下さい。

[検体の受領]

●貴院への集配は、予め申し合わせの上、ご指定の日時・場所へお伺い致します。

検体受領日時

検体受領場所

[検体の輸送]

●お預かりした検体および依頼書は、厳密な管理の下に当社ラボに搬入致します。平均搬送時間は、

① 本	社	ラボでは	時間
(2)		ラボでは	時間

____ となっております。

ご利用の手引き

一部の検査につきましては、当社責任管理の下に、他施設に再委託 致します。

再委託先は、当該検査項目毎に以下の記号を「備考」欄右下に記載 しております。なお、本社ラボより最終委託先への平均搬送時間は、 各施設名の後に括弧にて表示の通りとなっております。

- ●2 株式会社LSIメディエンス(24時間)
- 多8 株式会社エスアールエル(24時間)
- 圏 日本赤十字社北海道ブロック血液センター(2時間)
- 憂 E 北海道臨床衛生検査技師会立衛生検査所(2時間)
- ●G ユーロフィンジェネティックラボ株式会社(2時間)
- 愛S 株式会社ビーエムエル (24時間)

4. 所要日数

- 検体をお預かりした翌営業日を起算日とし、成績を先生のお手元にお届けするまでの日数です。
- 依頼検査項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずること があります。
- ●再検査の場合は、さらに若干の日数を要することがあります。
- ●天災等により、所要日数が増加する場合があります。

5. 検査結果のご報告

- ●検査結果は、当社所定の報告書にてお届け致します。
- ■至急を要する検査結果は、電話もしくはFAXでご報告致します。
- 本案内書で特に指定した緊急項目において異常データを示した場合は、測定後速やかに電話かFAXにてご報告致します。報告基準につきましては、巻頭(9頁)をご参照下さい。
- 定量検査では、弊社独自の基準により測定範囲に上限を設け、検査結果が上限を超える場合"○○以上"とご報告させていただくことがあります。

検査結果の表記

- 「 ・ |札.幌臨床検査センター
- 「 」株式会社札幌ミライラボラトリー

6. 再検査・追加検査

- ●当社再検査基準に基づき、再検査を実施し、報告致します。
- 医療機関からの再検査、追加検査で検体量不足、及び検体の安定性を 越えた場合は応じられないことがあります。

7. 統計情報

検査のご依頼にあたり、以下の点をご了承下さい。

弊社はお預かりした検体の情報を基に、個人情報を含まず被験者及びご依頼の施設情報を特定することができない状態にして統計情報を作成する場合があります。例えば、各検査項目における一定の地域、期間ごとの受託件数や陽性率などを性別や年齢によって解析致します。統計情報は、弊社において検査精度の検証に用いること、公衆衛生疫学等の分野において参照されること、弊社のホームページでの公開および提供するサービスに利用する場合があります。

8. 免責

ご依頼頂きました検査は弊社検査実施基準に基づき実施しますが、お預かりした検体の状態、または検査方法の技術的限界により期待された検査結果を得られない場合があります。この場合弊社はその検査結果に対し免責とさせていただきます。

9. 検体の保管

- 検査実施後の検体は、当社規定により一定期間保存させていただきます。
- 保管中検体への再検査依頼には応ずる事が可能です。
- 保管日数は、お預かりした検体の種類によっても異なりますが、腐敗、 変性の著しい材料は検査実施後速やかに処分させていただきますの で、予めご了承下さい。
- 検査精度維持・向上を目的とした管理用の試料や検討用の試料として、 分取してプール化または匿名化を行い個人情報保護法およびガイドラインに従ったうえで使用することがあります。
- 検体保管期間中に検査を委託した医療機関より検体の返却を求められた場合は、速やかに返却します。

10. 検査についてのお問い合わせ

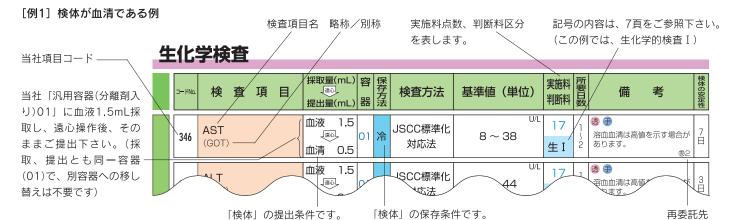
●検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、当社営業担当者、検査責任者またはインフォメーションにお申し付け下さい。 (TEL011-641-6311)

11. 料金のご請求とお支払い方法

- ●請求書は1ヶ月分をまとめてお届け致します。お支払い方法は契約にしたがってお願い致します。
- 請求書の検査項目名は当社所定の「検査略称」によって記載されますので、ご了承下さい。
- お支払いはなるべく銀行振込にてお願い致します。 なお、銀行振込の場合は、振込金受領書をもちまして、領収書に代え させていただきます。領収書の要望がございましたら、その旨、担当営 業員にお申し付け下さい。

12. 本文の記載内容について

- 本文では、検体採取量・提出量、検査方法、基準値、実施料・判断料等、 検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記してあります。下記の例をご参照の上、正確な検体の採取にご協力下さい。
- ●記載内容変更等が発生した場合すみやかに内容をお知らせします。



[例2] 検体が添加剤入り血液である例

⊐ KN0	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)		保存方法
1	<mark>白血球数</mark> (WBC) (ワイセ)	EDTA加血液 2.0 T	14	冷 凍結 不可

当社「血球検査用容器(14)」に、血液2.0mL採取し、転倒混和の上、ご提出下さい。

検査項目名称

既に日本語化しているドイツ語はそのままとし、それ以外のものはアメリカ英語読みに従いました。但し、アミラーゼアイソザイムのようにほぼ日本語化している検査項目名称については慣例に従いました。また、略号が通例化しているものは、略号をもって検査項目名としました。 検査の実施

札幌臨床検査センター 病理学検査、細胞性免疫検査 株式会社札幌ミライラボラトリー 他検査

「保存方法」の欄の記号

提出材料の保存条件です(採取した材料そのものの保存条件ではありません)。

検査項目によっては、検査成績が保存状態の影響を明らかに受けるもの もありますので、お取り扱いにご注意下さい。

- 凍 必ず凍結保存して下さい。凍結温度指定のあるものは、その 旨記載致します。
- 冷 4~10℃で保存して下さい。また、数日以上にわたって保存 される場合は、凍結していただくようお願い致します。なお、 凍結不可の材料については、その旨記載致します。
- 室 室温保存(20℃前後)して下さい。
- 遮 直射日光または蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。

●検体の安定性

適正な検査結果をお届けすることができる、検体採取後における提出材料の保存安定性の維持期間です。

「容器」欄の番号

検体採取および提出時に用いる容器を番号にて表示しております。詳細は、巻末の容器一覧表(116~126頁)をご参照下さい。

特定健康診査における検体取り扱いのお願い

特定健康診査における検体取り扱いにつきましては、厚生労働省より「健康診査における精度管理の在り方」が発表されております。

1) 受診者への事前注意事項

- ●検査前の食事については、健診10時間前より、水以外のすべての飲食物を摂取しないようご指示下さい。
- 2) 採血時
 - ・適切に採血して下さい。
 - ・受診者が事前注意事項を満たしているかを確認して下さい。
 - ・採血手技や採血時の留意事項は、日本臨床検査標準協議会(JCCLS)の標準採血法ガイドライン(GP4-A3)を参考にして下さい。

3) 採血管の選択

- ①生化学(TG、HDL-C、LDL-C、AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GT、その他)
 - 当社採血管01汎用容器(分離剤入り)をご使用下さい。採血後はゆっくりと3回ほど転倒混和をして下さい。
- ②空腹時血糖、HbA1c
 - 当社採血管04グルコース用容器(NaF入り)をご使用下さい。採血後はゆつくりと5回以上転倒混和をして下さい。
- ③血液一般
- 当社採血管14血球用容器(EDTA-2K入り)をご使用下さい。採血後はゆっくりと5回以上転倒混和をして下さい。

4) 採取した検体の取り扱い

- ①01汎用容器(分離剤入り)・・・・・採血後は室温に静置して下さい。
- ②04グルコース用容器 (NaF入り)・・・採血後は4~10℃で保存して下さい。

14血球用容器(EDTA-2K入り)

[例3] 添加剤入り容器に採取後、遠心分離して、上清 をご提出いただく例

⊐-FNo.	検査項目	採取量(mL) 容 保存方 提出量(mL) 器 法
1485	ヒスタミン	血液 1.5 15 ↓ 凍 EDTA血漿 0.3 02

当社「内分泌学用容器(15)」に、血液1.5mL採取し、 遠心操作後、血漿を汎用容器(02)に移し替えてご提出下さい。

「基準値」欄の記号

M:男性(Male) F:女性(Female)

「基準値」欄の単位記号

	1 1123 11400 - 12200 5		
L	Liter(=1,000mL)	mmol	millimole (=0.001mol)
dL	deciliter(=100mL)	μ mol	micromole(=0.001mmol)
mL	milliliter	nmol	nanomole(=0.001μmol)
mm³	cubicmillimeter	pmol	picomole(=0.001nmol)
μ^3	cubicmicron	fmol	femtomole(=0.001pmol)
g	gram	mEq	milli Equivalent
mg	milligram(=0.001g)	Meq.	mega Equivalent
μg	microgram(=0.001mg)	FE	Fibrinogen Equivalent
ng	nanogram(=0.001μg)	BCE	Bone Collagen Equivalent
pg	picogram(=0.001ng)	LGE	Log Genome Equivalent
U	Unit	mOsm	milli Osmole
UA	Allergen Unit	sec	second
mU	milli Unit(=0.001U)	min	minute
μU	micro Unit (=0.001mU)	h	hour
IU	International Unit	%	percent
ISU	International Standard Unit	%	permill
AU	Arbitrary Unit	SI	Stimulation Index
BU	Bethesda Unit	cpm	count per minute
CU	Casein Unit	RBC	Red Blood Cell
RLU	Relative Light Unit	CFU	Colony Forming Unit

ご利用の手引き

検査材料に関する主な用語

検査材料	概要
血液	検査のために採取していただく肘静脈血を表します。
~加血液	採血後速やかに添加剤を混和した血液を表します。添加剤の種類により、「EDTA加血液」、「ヘパリン加血液」、「クエン酸加血液」、「NaF加血液」などと表示致します。 (所定の添加剤入り当社指定容器に血液を採取して下さい)
~血漿	採血後速やかに添加剤を混和し、遠心分離によって得られた血漿を表します。 添加剤の種類により、「EDTA血漿」、「ヘパリン血漿」「クエン酸血漿」などと表示致します。 なお、単に「血漿」とあるものについては、「備考欄」に添加剤の種類を別記しております。
血清	採血後、血餅の収縮をまって遠心分離して得られた上清を 表します。 特に添加剤を用いる必要のある場合は、その旨備考欄に記 載しております。

検査材料	概要
快旦彻村	1以 女
尿	原則として自然排尿された尿を表します。なお、「蓄尿」 を要する場合、「備考欄」に使用する防腐剤の種類を記載 しております。
	採尿方法については、以下を参考として下さい。 1) 普通尿の場合
	新鮮尿を乾燥した清潔な容器に直接排尿するか、乾燥した清潔な携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。
	2) 中間尿の場合
	清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。最初は 便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断 せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、 再び便器に放尿します。
	3) 無菌尿の場合
	男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清 潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。
	細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採 尿しても構いません。

[検査方法の略号と概略]

補体結合反応

Complement Fixation test

抗原 - 抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、 免疫グロブリンのFc部分に補体を結合する現象を応用した検査方 法。主にウイルス抗体の検出に用いられる最も基本的なものである。 CF活性を持つのはIgGとIgMのみであるが、一般に感染後短期間 のみ検出される場合が多い。ペア血清で測定するのが望ましい。

CI FIA 化学発光 酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加える。この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光し、その発光量をルミノ メーターで測定し定量する検査方法である。

CLIA 化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immunoassay 被検検体にアクリジニウム・エステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサンドイッチ法により測定する検査方法。磁気分離固相法によりB/F分離した後、専用アナライザーでアクリジ ニウム・エステル発光の量により定量する。

希釈ラッセル蛇毒試験法

dRVVT 希釈ラッセル蛇毒試験法
Diluted Russell's Viper Venom Time
ラッセル蛇毒は、外因系の第四因子、接触因子、内因系の抗出
血性因子の関与を受けずに直接血漿中の第X因子を活性化して凝
固反応を開始し、リン脂質、カルシウム、活性第V因子の共存下
で最終的にトロンビンを生成する。抗リン脂質抗体の一種である
ループスアンチコアグラント(LA)が存在すると上記反応系か
らリン脂質が消費される結果として凝固時間の延長をきたす。こ
こで過剰なリン脂質を添加して同様の反応を行いLAの影響を予
め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中の
LAの存在を間接的に証明できる。

電気化学発光免疫測定法

ECLIA 電気化学死元光度例を伝 Electro Chemiluminescent Immunoassay 電解反応により生成されるエネルギーによりルテニウムピリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一種である。被検検体に測定を目的とする物質(A)に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した(A)にルテニウム標識抗体を反応させると、サマドイツギャの複合物が形成される。さらにビーズを洗 があるとサンドイッチ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上に電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標準に発生した。 2021年度 1202年度 は(A)の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

酵素免疫測定法

Enzyme Immunoassay

Enzyme mimimoassay 抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素 標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発 色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非 競合法に大別され、広く各種ホルモン、ウイルス抗原・抗体価、 薬物濃度などの測定に用いられる。標識抗体にはペルオキシダー ゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられる。

酵素免疫測定法

Enzyme-Linked Immunosorbent Assay

固相化した抗体に抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗 原に2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する。

ELISPOT

Enzyme-Linked ImmunoSpot

も検出可能とされる。結核菌感染既往を検査するT-SPOT.TB検査に用いられており、抗原により刺激してIFN-γ産生細胞数を 計測することにより感染診断を行う。

ENITE Enzyme-multiplied Immunoassay Technique EMITは、主に薬物濃度測定に用いられる検査方法である。検体中の薬物とグルコース-6-リン酸脱水素酵素(G-6-PDH)で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合のG-6-PDHが、さらにニコチンアミドアデニンジヌクレオチド(NAD)をNADHに還元することによって生じる吸光度の変化を測定することを利用した酵素免疫法の一種である。

FAT 蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Test

抗原または抗体を測定する場合にFITCなどの蛍光色素を標識 があるたばが、時で制定する場合に下口しなどの単元 日系を信識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると反応が生じた場合は特異的な蛍光が見られる。抗体(抗原)に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後さらに抗血清に蛍光色 素を反応させる間接法がある。

FEIA 蛍光·酵素免疫測定法

Fluorescence-Enzyme Immunoassay EIA法の一つである。主にアレルゲン特異的IgE抗体を測定するのに用いられている。酵素を標識として用い測定対象のアレルゲン(抗原)を被検検体に入れ、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により検量線より濃度を測定する。 測定する。

FISH

Fluorescence In Situ Hybridization

ISH法(In Situ Hybridization)は、細胞培養や核酸抽出などを行わずに染色体、細胞、組織などを相補的プローブを用いて核酸ハイブリダイゼーションを行い、標的遺伝子の有無や異常などを判定する検査方法である。FISH法は蛍光物質(Fluorescence)を用いて非放射性プローブによりISH法を行うものである。

ガスクロマトグラフィー法

Gas Chromatography

固定相としてキャピラリーカラムを用い、測定試料が移動相(キャリアーガス)にのって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。固定相は測定試料の構造により無極性型が極り、検出器には電子補獲検出器(ECD)、水素炎イン・化検出器(ECD)、水素炎イン・化検出器(ECD)、水素炎イン・化検出器(ECD)、水素炎イン・ 出器(FID)、熱伝導度検出器(TCD)などが用いられる。

ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ法

Homogeneous Enzyme Immunoassay

Homogeneous Enzyme Immunoassay 検体中の測定対象物質(抗原物質)は試薬中の酵素(G-6-PDH)で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。その結果、抗体と結合できなかったG-6-PDHで標識された測定対象物質はG-6-PDHの酵素活性により補酵素であるNADが還元され、NADHに変換される。しかし、この酵素活性は抗体と結合することにより活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例してNADHの量が増加する。吸光度によりこのNADHを測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

赤血球凝集抑制試験

Hemagglutination Inhibition Test

一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持つており、 ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤 血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被 検検体と反応させた後、赤血球を加え、どの希釈倍率まで凝集が 抑制されたかにより抗体価を判定する。

高速液体クロマトグラフィー法

IPLL 両迷液体クロイトクフノイー法High Performance Liquid Chromatography 微細な球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。

イムノクロマトグラフィー法

Immunochromatography 液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さ らに膜に固相化した抗体で抗原・抗体複合体を捕捉する。こうして形成されたサンドイッチ複合体(色素標識抗体-抗原-固相化抗体)は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認 することができる。

IR 赤外吸収スペクトロメトリー法 Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているため、測定試料に照射する赤 外線の波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動 周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じ た固有の振動スペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸 収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行う方法で

IRMA 免疫放射定量法

Immunoradiometric Assay RIA法 (ラジオイムノアッセイ) の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。 非競合的な反応に ぶことがある。

Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

検体中の測定対象物質と試薬中の測定対象物質に対する抗体を 反応させる。検体中に測定対象物質が存在する場合は測定対象物質とその抗体が反応し、試薬中の抗体量が減少する。しかし、測定対象物質が存在する場合は対象物質が存在する場合は対象中の抗体量は変化しない。こ れらの反応液に測定対象物質が結合した微粒子(Microparticles) が入った溶液を添加し反応させると、反応液中に残存する抗体量 に比例して微粒子が凝集する。この凝集を吸光度として測定し、 標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

ラテックス凝集法・ラテックス凝集比濁法

Latex Agglutination ·

Latex Agglutination-Turbidimetric Immunoassay

特異抗体と結合させたラテックス粒子と検体を混合し反応させると検体中に抗原があれば溶液内抗原抗体反応によりラテックス粒子は凝集を始める。これに一定波長の光を当てると、凝集塊の生成に比例して透過度の減少、即ち吸光度の増加が生じる。これを分光光度計にて測定し、抗原を定量する。

LC-MS/MS タンデムMS法
Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry
LC-MS/MSは高速液体クロマトグラフ(HPLC)と質量分析計
(MS)を2段結合させた装置。試料をHPLCにより分離し、1台目のMSでイオン化させ質量毎に分離(プレカーサーイオン)する。これを不活性ガスと衝突させ、1台目のMSで選択したイオンから生じた2次的イオン(プロダクトイオン)を2段のMSで計削する。2回の質量分離を行うため高い分離能と特異性が得られるため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確 るため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確 な定量を行うことができる。

LPIA ラテックス近赤外比濁法

Latex Photometric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合さ 、これに被検検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁 度が変化する。これに赤外線を当てその透過度により定量する方 法である。

混合受身赤血球凝集試験

Mixed Passive Hemagglutination Test プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗 浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様 の基準で判定を行う。

中和試験

Neutralization Test

Neutralization Test ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈 レウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果 (CPE) が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

粒子凝集試験

Particle Agglutination Test ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原 を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が存在する場合にはゼラチン粒子が凝集する。

ポリメラーゼ連鎖反応

Polymerase Chain Reaction

Polymerase Chain Reaction DNAの断片を増幅させる方法である。目的とする領域のDNA を増幅するために、まず加熱し変性させ一本鎖DNAにする。次に2種のプライマーを混合させ適当な温度条件でアニールさせると各々のプライマーは変性したDNAと相補性のある塩基で対を形成し、DNAポリメラーゼの反応により鎖が伸長し、最初のDNA部分の鎖は1回だけ増幅される。このプロセスを数十回繰り返していくと数百塩基対から数千塩基対のDNA断片のコピーをほぼ無限大に得ることができる。

受身赤血球凝集反応

Passive Hemagglutination Test 動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、 これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

ラジオイムノアッセイ

Radioimmunoassay

Nadiominiolossay 測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体 を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープ (主に¹²⁵I)で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物 (bound)と未反応物(free)を分離(B・F分離)し、放射活性 を測定してB/Fの比率を求めて検量線から誤を別定する。一般 に二抗体法のような競合反応以外の方法をIRMAと呼んでいる。

RT-PCR

Reverse Transcriptase-Polymerase Chain Reaction

RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素 (reverse transcriptase: RT) により相補的なcDNAを合成してPCRを行う。

免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay 被検検体中の測定目的物質に対する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

UV 紫外部吸光光度分析法

Ultraviolet Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、 補酵素がNADHやNADPHの場合は波長が340nm付近の紫外部 に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合 はUV法が用いられる。

実施料について

- ●「実施料」欄は、2024年6月現在の検体検査実施料に準じてあります。
- ●「実施料」欄中、検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料などは、 点数に〔〕を付してあります。
- ●「実施料」欄中、青色にて印刷されている点数は、以下の表に従い点数が算 定されます。
- ●検体検査判断料、病理学的検査診断・判断料の区分は「実施料」欄に下 記の通り記載してあります。

①尿•糞便等検査判断料区分(34点)	尿便	⑥免疫学的検査判断料区分(144点)	免疫
②遺伝子関連・染色体検査判断料区分(100点)	遺伝子	⑦微生物学的検査判断料区分(150点)	微生
③血液学的検査判断料区分(125点)	血液	⑧組織診断料区分(520点)、細胞診断料区分(200点)	
④生化学的検査(I)判断料区分(144点) ······	生Ι	または病理判断料区分(130点)	病理
⑤生化学的検査(II)判断料区分(144点) ······	生Ⅱ	⑨検体検査判断料なし	

●下記(適用項目)に掲げた検査を、1回に採取した材料を用いて複数行った場合、 その点数は、項目数に応じて実施料欄に示したように算定されます。

①生化学的検査(I)	5項目以上7項目以下	8項目又は9項目	10項目以上
	93点	99点	103点

総ビリルビン	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	総蛋白	アルブミン(BCP改良法・BCG法)	尿素窒素
クレアチニン	尿酸	アルカリホスファターゼ(ALP)	コリンエステラーゼ(ChE)	γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ - GT)
中性脂肪	ナトリウム及びクロール	カリウム	カルシウム	マグネシウム
クレアチン	グルコース	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	アミラーゼ	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)
クレアチンキナーゼ(CK)	アルドラーゼ	遊離コレステロール	鉄(Fe)	血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの)
不飽和鉄結合能(UIBC) (比色法)	総鉄結合能(TIBC) (比色法)	リン脂質	HDL-コレステロール	無機リン及びリン酸
総コレステロール	アスパラギン酸アミノトランス フェラーゼ(AST)	アラニンアミノトランス フェラーゼ(ALT)	LDL-コレステロール	蛋白分画
銅(Cu)	リパーゼ	イオン化カルシウム	マンガン(Mn)	

② 生化学的検査(Ⅱ)	3項目以上5項目以下	6項目又は7項目	8項目以上	
少工17441316日(11)	410点	623点	900点	
成長ホルモン(GH)	卵胞刺激ホルモン(FSH)	C-ペプチド(CPR)	黄体形成ホルモン(LH)	テストステロン
遊離サイロキシン(FT4)	遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)	コルチゾール	アルドステロン	サイログロブリン
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β サブユニット(HCG-β)	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	脳性Na利尿ペプチド(BNP)	カルシトニン	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)定量
ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)半定量	抗グルタミン酸デカルボキシ ラーゼ抗体(抗GAD抗体)	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端 フラグメント(NT-proBNP)	ヒト胎盤性ラクトーゲン(HPL)	サイロキシン結合能(TBC)
プロゲステロン	グルカゴン	低カルボキシル化オステオカ ルシン(ucOC)	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)
オステオカルシン(OC)	骨型アルカリホスファターゼ (BAP)	遊離テストステロン	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP)	副甲状腺ホルモン(PTH)
カテコールアミン分画	インタクトI型プロコラーゲン -N-プロペプチド (Intact PINP)	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量	サイクリックAMP(cAMP)
エストラジオール(E ₂)	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX) (尿)	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)	エストリオール(E₃)	エストロゲン半定量
エストロゲン定量	副甲状腺ホルモン関連蛋白C 端フラグメント(C-PTHrP)	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	カテコールアミン	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)
デオキシピリジノリン(DPD) (尿)	17-ケトジェニックステロイド (17-KGS)	エリスロポエチン	ソマトメジンC	17-ケトステロイド分画 (17-KS分画)
17α-ヒドロキシプロゲステロン (17α-OHP)	抗IA-2抗体	プレグナンジオール	メタネフリン	17-ケトジェニックステロイド 分画(17-KGS分画)
メタネフリン・ノルメタネフリ ン分画	心房性Na利尿ペプチド(ANP)	抗利尿ホルモン(ADH)	プレグナントリオール	ノルメタネフリン
インスリン様成長因子結合 蛋白3型(IGFBP-3)	遊離メタネフリン・遊離ノルメ タネフリン分画			



	2項目	3埧目	4項目以上	
③腫瘍マーカー	230点	290点	385点	
α-フェトプロテイン(AFP)	癌胎児性抗原(CEA)	扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	組織ポリペプタイド抗原(TPA)	NCC-ST-439
CA15-3	DUPAN-2	エラスターゼ1	前立腺特異抗原(PSA)	CA19-9
PIVKA-II半定量	PIVKA-II定量	CA125	核マトリックスプロテイン22 (NMP22)定量(尿)	核マトリックスプロテイン22 (NMP22)定性(尿)
シアリルLeX-i抗原(SLX)	神経特異エノラーゼ(NSE)	SPan-1	CA72-4	シアリルTn抗原(STN)
塩基性フェトプロテイン(BFP)	遊離型PSA比(PSA F/T比)	サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	シアリルLe ^X 抗原(CSLEX)	BCA225
サイトケラチン8・18(尿)	抗p53抗体	I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	CA54/61
α-フェトプロテインレクチン 分画(AFP-L3%)	CA602	組織因子経路インヒビター2 (TFP12)	γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	ヒト精巣上体蛋白4(HE4)
可溶性メソテリン関連ペプチド	S2, 3PSA%	プロステートヘルスインデックス(phi)	癌胎児性抗原(CEA)定性 (乳頭分泌液)	癌胎児性抗原(CEA)半定量 (乳頭分泌液)
HER2蛋白	アポリポ蛋白A2(APOA2) アイソフォーム	可溶性インターロイキン- 2レセプター(sIL-2R)		

3項目 4項目 5項目以上 ④肝炎ウイルス関連検査 290点 360点 425点

HBs抗原	HBs抗体	HBe抗原	HBe抗体	HCV抗体定性・定量
HCVコア蛋白	HBc抗体半定量·定量	HCVコア抗体	HA-IgM抗体	HA抗体
HBc-IgM抗体	HCV構造蛋白及び非構造	HCV構造蛋白及び非構造	HE-IgA抗体定性	HCV血清群別判定
	蛋白抗体定性	蛋白抗体半定量		
HBVコア関連抗原(HBcrAg)	デルタ肝炎ウイルス抗体	HCV特異抗体価	HBVジェノタイプ判定	

2項目 3項目以上 ⑤自己抗体検査 320点 490点

抗サイログロブリン抗体	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	抗Jo-1抗体定性	抗Jo-1抗体半定量	抗Jo-1抗体定量
抗RNP抗体定性	抗RNP抗体半定量	抗RNP抗体定量	抗Sm抗体定性	抗Sm抗体半定量
抗Sm抗体定量	C ₁ q結合免疫複合体	抗Scl-70抗体定性	抗ScI-70抗体半定量	抗ScI-70抗体定量
抗SS-B/La抗体定性	抗SS-B/La抗体半定量	抗SS-B/La抗体定量	抗SS-A/Ro抗体定性	抗SS-A/Ro抗体半定量
抗SS-A/Ro抗体定量	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	抗ARS抗体	抗MDA5抗体	抗TIF1-γ抗体
抗Mi-2抗体				

⑥出血·凝固検査	3項目又は4項目	5項目以上		
	530点	722点		

			_	
Dダイマー定性	von Willebrand因子 (VWF)活性	Dダイマー半定量	プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)	Dダイマー
α2-マクログロブリン	PIVKA-II	凝固因子インヒビター	von Willebrand因子 (VWF)抗原	プラスミン・プラスミンインヒ ビター複合体(PIC)
プロテインS抗原	プロテインS活性	β-トロンボグロブリン (β-TG)	トロンビン・アンチトロンビン 複合体(TAT)	血小板第4因子(PF4)
プロトロンビンフラグメント F1+2	トロンボモジュリン	フィブリンモノマー複合体	凝固因子(II、V、VII、VIII、IX、X、XI、XII、XII、XIII)	プロテインC抗原
プロテインC活性	tPA·PAI-1複合体			

【慢性維持透析患者外来医学管理料】 2211点

- 1)透析導入後3ヶ月以上が経過し、(入院中の患者以外の)安定した状態にある慢性維持透析患者について、特定の検査結果に基づいて計画的な治療を行った 場合に、月1回を限度に算定します。
- 2) 本管理料に含まれる検査の点数を別に算定することはできません。 3) この『検査案内書』において"管理料"の包括対象となる項目については、各々の備考欄に ® の記号を付してあります。 4) 本管理料は検査の実施される種類および回数に関わらず、所定点数のみを算定します。
- また、これらの検査料および尿・糞便等検査判断料、血液学的検査判断料、生化学的検査(Ⅰ)判断料、生化学的検査(Ⅱ)判断料、免疫学的検査判断料は 本管理料に含まれ、別に算定することはできません。

【手術前医学管理料】 1192点

- 1)手術前に行われる検査結果に基づいて計画的な医学管理を行う保険医療機関において、手術の実施に際して硬膜外麻酔、脊椎麻酔または、マスクまたは気管内挿管 による閉鎖循環式全身麻酔を行った場合に、当該手術に係る手術料を算定した日に算定します。
- 2) 同一の患者について1月以内に手術前医学管理料を算定すべき医学管理を2回以上行った場合は、第1回目の手術前医学管理に係る手術料を算定した日1回に限り 算定します。
- 3) 当該手術を行う前1週間以内に行った検査および画像診断は、所定点数に含まれます。 但し、当該期間において同一の検査または画像診断を2回以上行った場合の第2回目以降のものについては、手術前医学料を算定せず、それぞれの検査項目の所定 点数を算定することができます。
- 4) この『検査案内書』において"管理料"の包括対象となる項目については、各々の備考欄に 爭 の記号を付してあります。
- 5) 血液学的検査判断料、生化学的検査 (I) 判断料および免疫学的検査判断料、特定入院料または基本的検体検査判断料を算定している患者については、算定するこ とができません。
- 6) 本管理料の包括されている肝炎ウイルス関連検査を行った場合には当該検査の結果が陰性であった場合も含め、当該検査の結果について患者に適切な説明を行い、 文書により提供することが必要です。

異常値報告対象項目とその基準

●下記検査項目において、弊社基準に基づき、電話又はFAXにて緊急報告させて頂きます。

	検 査 項 目	異常値報告基準値	基準値
生化学			
	尿素窒素(UN) * 1	80.0以上(mg/dL)	8.0~20.0
	ナトリウム(Na)	110以下、170以上(mEq/L)	137~147
	カリウム(K) * 1	2.5以下、6.5以上(mEq/L)	3.5~5.0
	カルシウム(Ca)	6.0以下、14.0以上(mg/dL)	8.4~10.2
	AST(GOT)	500以上(U/L)	8~38
	ALT(GPT)	500以上(U/L)	4~44
	LD (LDH)	1,000以上(U/L)	120~245
	CK(CPK)	1,000以上(U/L)	M50~220 F40~170
	総ビリルビン(T-BIL)	12.0以上(mg/dL)	0.2~1.2
	血清アミラーゼ	1,000以上(U/L)	37~125
	グルコース〈空腹時〉	50以下、500以上(mg/dL)	70~109
免疫学			
	直接クームス〈新生児〉	陽性	陰性
血液学			
	白血球数	1,000以下、25,000以上(/μL)	4,000~8,000
	血液像*2	ブラスト出現	
	ヘモグロビン値 <mark>* 1</mark>	5.0以下(g/dL)	M14.0~18.0 F12.0~16.0
	ヘマトクリット値*1	15.0以下(%)	M39.0∼50.0 F36.0∼48.0
	血小板数	3.0以下、100.0以上(×10⁴/μL)	12.0~40.0
	D-ダイマー	60.00以上(µg/mL)	1.00未満
細菌学			
	血液培養	菌検出	陰性
	髄液培養	菌検出	陰性
	細菌培養	2類・3類・5類感染症菌検出	陰性

*1:透析患者検体は除外 *2:初診者より検出した場合のみ

	検査項目	異常値報告基準値	有効治療濃度
血中薬物濃度			
	フェノバルビタール	60.0以上(µg/mL)	10.0~40.0
	フェニトイン	30.0以上(µg/mL)	成人・小児 10.0~20.0 新生児 8.0~15.0
	カルバマゼピン	12.0以上(µg/mL)	4.0~12.0
	バルプロ酸ナトリウム	150.0以上(µg/mL)	50.0~100.0
	テオフィリン	25.0以上(µg/mL)	10.0~20.0
	ジゴキシン	2.5以上(ng/mL)	0.9~2.0
	バンコマイシン	60.0以上(µg/mL)	10.0~15.0
	プリミドン	15以上(µg/mL)	5.0~12.0
	エトスクシミド	120以上(µg/mL)	40.0~100.0
	リチウム	2.0以上(mEq/mL)	治療濃度範囲 0.3~1.2
	プロカインアミド	12以上(µg/mL)	4.0~10.0
	リドカイン	6.0以上(µg/mL)	1.2~5.0
	テイコプラニン	(Trough) 60以上(µg/mL)	Trough15~30
	サリチル酸	400以上(µg/mL)	150~300 (抗リウマチ薬として)
	メトトレキサート	48時間後1.0以上(μmol/L)	危険限界濃度: 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上

	⊐- FNo.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
蛋	301	総蛋白 (TP)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	ビューレット法	g/dL 6.7~8.3	11 生 I	1 5 2	∞ ⊕	1 ヶ 月
白・膠	392	アルブミン (Alb)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	改良BCP法	g/dL 3.8~5.2	11 生 I	1	 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★] ケ 月
修 質 反	302	アルブミン・グロブリン比 (A/G)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	ビューレット法 改良BCP法 (計算法)	1.10~2.00	_	1		l ケ 月
応	311	蛋白分画(キャピラリー)	血液 1.5 血清 0.4	01	冷	キャピラリー 電気泳動法	25頁参照	18 生 I	3 4	窓血検体でのご依頼は避けて下さい。造影 剤等の薬物を投与された場合には検査値に 影響がみられる可能性があります。 ⑧2	7 日
生	356	総ビリルビン (T-BIL)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	バナジン酸酸化法	mg/dL 0.2~1.2	11 生 I	1	∞ ⊕	7 日
体色	357	直接ビリルビン (D-BIL)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	バナジン酸酸化法	mg/dL 0.1~0.6	11 生 I	1	● 直接・間接ビリルビンのご依頼の場合、 保険請求は「総ビリルビン」、および「直 接ビリルビン」と明記して下さい。	7 日
素	391	間接ビリルビン (I-BIL)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	バナジン酸酸化法 (計算法)	mg/dL 0.0~0.6	_	1 5 2	直接・間接ビリルビンのご依頼の場合、保険請求は「総ビリルビン」、および「直接ビリルビン」と明記して下さい。	7 日

「生化学検査」「免疫血清学検査」等において多項目を同時にご依頼の場合、下表のグループ別血清量を目安としてご提出下さい。

グループ I 12項目以上ご依頼の場合は血清1.0mL、それ以下の場合は $\{0.4+(0.05\times項目数)\}$ mLをご提出下さい。

301	総蛋白	346	AST	304	尿素窒素	325	カルシウム
392	アルブミン	347	ALT	306	尿酸	326	無機リン
302	アルブミン・グロブリン比	348	LD	307	クレアチニン	205	CRP
356	総ビリルビン	345	ALP	322	ナトリウム		
357	直接ビリルビン	354	CK	323	カリウム		
391	間接ビリルビン	367	血清アミラーゼ	324	クロール		

グループ \mathbb{I} 全項目ご依頼の場合は血清0.8mL、それ以下の場合は $\{0.4+(0.05 imes$ 項目数) $\}$ mLをご提出下さい。

		27, 3 0 . 0	(с горуг голодиолия с то		220771112002000000000000000000000000000		
314	総コレステロール	320	HDL-コレステロール	346	AST	350	γ-GT
316	中性脂肪	330	IDI-コレステロール	347	ALT	392	アルブミン

グループⅢ 12項目以上ご依頼の場合は血清1.0mL、それ以下の場合は{0.4+(0.05×項目数)}mLをご提出下さい。

353	LAP	331	血清鉄	237	C3	233	IgA
318	リン脂質	332	総鉄結合能	238	C4	234	IgM
364	リパーゼ(血清)	333	不飽和鉄結合能	221	RF(定量)	330	LDLコレステロール
207	ASO	232	IgG				

	⊐- FNo.	検査項目	採取量(mL) 容 _{遠心} 提出量(mL) 器	垤	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	346	AST (GOT)	血液 1.5 ^適 0.5	冷	JSCC標準化 対応法	U/L 8~38	17 生 I	1		7 日
	347	ALT (GPT)	血液 1.5 ^{適心} 0.5	冷	JSCC標準化 対応法	U/L 4~44	17 生 I	1 5 2		3 日
	348	LD (乳酸脱水素酵素)	血液 1.5 ^{適心} 0.5	冷	IFCC標準化 対応法	^{U/L} 120∼245	11 生I	1 5 2		2
	345	ALP (アルカリフォスファターゼ)	血液 1.5 ^適 0.5	冷	IFCC標準化 対応法	^{U/L} 38∼113	11 生 I	1	透手 基準値は年齢、妊娠と共に増 加傾向が認められます。	
	353	LAP (ロイシンアミノペプチターゼ)	血液 1.5 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	冷	L-ロイシル-p- ニトロアニリ ド基質法	^{U/L} 30∼70	11 生 I	1	∞ ⊕	1 ヶ 月
	350	γ-GT (γ-グルタミルトランス フェラーゼ)	血液 1.5 ^適 0.5	冷	JSCC標準化 対応法	M 80以下 F 30以下	11 生 I	1	∞ ⊕	1 ヶ 月
琴	351	コリンエステラーゼ (ChE)	血液 1.5 血清 0.5	冷	P-ヒドロキシ ベンゾイルコリン基質 (JSCC標準化対応法)	^{U/L} 213∼501	11 生 I	1	⊗ ⊕	14 日
	354	CK (CPK) (クレアチンキナーゼ)	血液 1.5 ^{適心} 0.5	冷	JSCC標準化 対応法	M 50~220 F 40~170	11 生 I	1 5 2		7 日
	363	アルドラーゼ (ALD)	血液 2.0 ^{遠心} 0 血清 0.5	冷	UV-酵素法	^{U/L} 2.1∼6.1	11 生I	3	● 溶血検体は検査値に影響を及 ぼす場合がありますので避け て下さい。	
	364	リパーゼ(血清)	血液 1.5	冷	1,2ジグリセリド 基質TOOS法	^{U/L} 13∼55	24 生 I	1 5 2		1 ヶ月
	367	血清アミラーゼ (S-AMY)	血液 1.5 ^{適心} 0.5	冷	Et-G7-PNP基質 (JSCC標準化対応法)	^{U/L} 37∼125	11 生I	1 5 2		1 ヶ月
	368	尿アミラーゼ (U-AMY)	尿 5.0 28	冷	Et-G7-PNP基質 (JSCC標準化対応法)	^{U/L} 76~438	11 生 I	1	经	3 日
	695	グアナーゼ	血液 2.0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	冷	酵素法	U/L 1.0以下	35 生 I	3 < 5	88	

	⊐- FNo.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	660	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血液 2.0	01	冷	酵素法	^{U/L} 5.0~20.0	32 生 I	3		
	480	リゾチーム	血液 1.0	01	凍	比濁法	μg/mL 4.2~11.5	_	4 (4 週
	481	(ムラミダーゼ)	尿 1.0	28		FG/39/23	μg/mL 1. 0未満 (検出限界値)		7	<u></u>	
	590	トリプシン	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	ラテックス 凝集比濁法	ng/mL 210~570	189 生 I	3 ~ 5		
酵素	1398	膵ホスホリパーゼA2 (膵PLA2)	血液 1.0	01	凍	RIA固相法	ng/dL 130~400	204 生 I	3 6		21 日
	1507	ペプシノゲン	血液 各1.0	01	×	CLIA	ng/mL		3		4
	2562	(PG)	血清 各0.3	UI	/T I	LA (ラテックス 凝集比濁法)	24頁参照	_	4	<u></u>	週
	692	NAG活性 (NAG)	尿 5.0	28	冷	MPT-NAG 基質法	U/L 11.5以下	41 尿便	1 5 2	酸性蓄尿は不可。	7 日
	2588	MMP-3 (マトリックスメタロプロテ イナーゼ-3)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	LTIA	ng/mL M 36.9~ 121 F 17.3~59.7	116 免疫	1	不活化(非働化)検体ではデータに影響を及ぼす場合がありますので、避けて下さい。	
アイ	371	LDHアイソザイム	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	アガロースゲル 電気泳動法	LDH1 20.0~31.0 % LDH2 28.8~37.0 LDH3 21.5~27.6 LDH4 6.3~12.4 LDH5 5.4~13.2	48 生 I	3	全血では常温保存を推奨します。 長期保存の場合は、-45℃以下 の保存を推奨します。 ⑧2	4 ⊟
ソザ	372	ALPアイソザイム	血液 1.0	01	冷	アガロースゲル 電気泳動法	ALP1 0.0~ 5.3 % ALP2 36.6~69.2 ALP3 25.2~54.2 ALP4 0.0~18.1 ALP6 –	48 生 I	3 4	<u></u>	1 週
イム	374	CKアイソザイム (CPKアイソザイム)	血液 1.0	01	冷	アガロースゲル 電気泳動法	BB 0~ 2 MB 0~ 3 MM 96~100	55 生 I	3 4	<u></u>] 週

			于快旦									
		⊐— KNa.	検査項目	採取量(m 趣) 提出量(m		保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
		1170	CK-MB (CPK-MB)	血液 1 血清 0	01	凍	ECLIA	ng/mL 5.0以下	90 生 I	1 5 2		2 ケ 月
	ア イ	373	アミラーゼアイソザイム	血液 1 血清 0	01	~	アガロースゲル	S 36.0~84.3 P 15.7~64.0	48 生 I	3 <		
	ノザ	393	(AMYアイソザイム)	尿 O).5 28	冷	電気泳動法	S 17.7~61.3 P 38.7~82.3	48 生 I	5	88	
	イム	1773	膵アミラーゼ	血液 2 血清 0	01	冷	阻害抗体法	^{U/L} 19∼53	48 生 I	3 (1
		1822	(P-アミラーゼ)	尿 O).5 28	Л	阳台加州公	U/L	48 生 I	4	<u></u>	週
		304	尿素窒素	血液 1 血清 0	.5 01).5	冷	ウレアーゼ GLDH法	mg/dL 8.0~20.0	11 生 I	1	6	7 日
		386	(UN)	尿 5	5.0 28	Λij	(アンモニア 消去法)	g/day 7~14	11 生 I	2		
1	氐	306	尿酸	血液 1 血清 0	.5 01 0.5	冷	ウリカーゼ	mg/dL 2.0~7.0	11 生 I	1	◎ ●	l ケ 月
	分 子	387	(UA)	尿 5	5.0 28		POD法	g/day 0.4~1.0	11 生 I	2		
	室表	307	クレアチニン	血液 1 血清 0	01	冷	酵素法	M 0.66~1.11 F 0.50~0.86	11 生 I	1	◎ ●	7 日
	七	388	(CRE)	尿 5	5.0 28		时 未/丛	g/day 0.50~1.50	11 生 I	2		
4	勿	3028	e-GFR creat 糸球体濾過量推定値	血液 1 血清 0	01	冷	計算法(日本腎臓学会)	mL/min/1.73m² 90.0以上	_	1	ご依頼方法 性別、年齢を必ず記入の上、 307血清クレアチニンと同 時にご依頼下さい。	
		309	血中アンモニア (NH ₃)	血液 1	. ↓	凍	藤井·奥田変法	μg/dL 30~86 (採血直後)	50 生 I	1	専用容器(除蛋白液4.0mL入)に正確 に1.0mLの血液を加え、十分混和 した後、遠心分離後の上清2.0mL を凍結し、ご提出下さい。	
		2470	シスタチンC	血液 1 血清 0	01	冷	金コロイド比色法	M 0.63~0.95 F 0.56~0.87	112 生 I	1 5 2		

	⊐- FNa.	検う	查 項	目	採取量(mL 遠心 提出量(mL		垤	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	810				血液 2.0	0 10)			1107		採血後直ちに遠心分離し、速 やかに血漿を凍結して下さ	
低	010	総アミノ	一种		へパリン麟 O.	5 02	連	LC-MS/MS	26、27頁参照	生Ⅱ	5 (い。 8 82	
分	811	中心ノーノ	政力凹		尿 O.	(رزا		LO-1010/1010	20、27兵多派	1107	6	早朝2番尿を直ちに凍結して下さい(トルエン、塩酸など	
子	011				(早朝2番尿)				生Ⅱ		の防腐剤は加えないで下さい)。 い)。 ®2	
窒	015	アミノ酸	11公面	i	血液 2.1	0 10	凍	LC-MS/MS	27頁参照	1107	4	採血後直ちに遠心分離し、速 やかに血漿を凍結して下さ	
素	013	ノベノ政	11/1/11/11		へパリン 嵊 O .	5 02		LG-IVIO/IVIO	乙/ 兵罗照	生Ⅱ	5	い。 <u> </u>	1
化	2183	BTR (総分岐鎖	ドマミ /形	± / ∡ □	血液 2.0	0	凍	酵素法	BTR 4.41~10.05	203	3	溶血でのご依頼は避けて下さ	
合	2103	シンモル		Z/	血清 0.		沐	野糸広	μmol/L BCAA 344~713 チロシン 51~98	生Ⅱ	5	しい。 **********************************	3
物	0004	494 T 2		•	血液 1.0	0 15		LONG (MC	nmol/mL	279	4	採血後、速やかに血漿分離し	21
	2004	総ホモシ	ステイン		EDTALIA O.S	3 02	冷	LC-MS/MS	M 7.0~17.8 F 5.3~15.2	生Ⅱ	6	て下さい。	

	⊐— KNo.	検査項目	採取量(mL) _{遠心} 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	376	血糖 (GLU) (グルコース)	NaF加血液 2.O	04	冷凍結不可	ヘキソ キナーゼ法	mg/dL 70~109	11 生 I	1	◎ ●	7 日
	377	尿糖定量	尿 5.0	28	冷	酵素電極法	mg/dL 20以下	9 尿便	1		
	378	グルコース 負荷試験 血糖(負荷)	NaF加血液各2.0	04	冷凍結不可	ヘキソ キナーゼ法	【正常域】 mg/dL 空腹時值110未満 2時間值140未満 【糖尿病域】 空腹時值126以上 2時間值200以上	[200]	1	75gOGTTにおける判定区分 と判定基準。(日本糖尿病学会) 27頁参照	
	517	ヘモグロビンAlc HbAlc (NGSP)	NaF加血液 2.O	04	冷凍結不可	酵素法	4.6~6.2	49 血液	1		3 日
+	518	ヘモグロビンF (HbF)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	HPLC	1.1以下	60	1	へパリン加血液も検査可。	7 日
唐 -	1561	1,5-アンヒドログルシ トール (1,5-AG)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	酵素法	M 14.9 \sim 44.7 F 12.4 \sim 28.8	80 生 I	3	窓面検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。	l ヶ月
三	1815	グリコアルブミン (GA)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	酵素法	11.0~16.0	55 生 I	2 / 3	5	7 日
Z	1319	ヒアルロン酸	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	ラテックス凝集 免疫比濁法	ng/mL 50以下	179 生 I	3	88	
	1681	KL-6 (シアル化糖鎖抗原KL-6)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	LA	U/mL 500未満	108 生 I	1	KL-6、SP-A及びSP-Dのうちいずれか複数を実施した場合は主たるもののみ算定できます。	
	696	乳酸	血液 1.0 ^{速心} 解計 0.4	1		乳酸オキシ ダーゼによる 酵素法	mg/dL (全血中) 3.0~17.0	47 生 I	3	(±) 1 (8) 8	
	697	ピルビン酸	血液 1.0 ^{強心} 羅 解 1.0	1	冷	ピルビン酸 オキシダーゼ による酵素法	mg/dL (全血中) 0.30~0.94	47 生 I	3 ~ 5	(∄ 1) (⊛ 8)	
	846	シュウ酸	酸性蓄尿 3.0	28	冷凍結不可	キャピラリー 電気泳動法	mg/day M 10.3~41.5 F 9.0~37.7	200 尿便	4 5 10	⊕2⊗8	21 日

②1:採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分撹拌後3000rpm、5分間遠心分離し、その上清液をご提出下さい。
③2:6N塩酸10mLを入れた蓄尿ビンへ24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出下さい。なお、尿量があらかじめ少ないと予想される場合には、尿200mLに対して6N塩酸1mLの割合で添加して下さい。酸性蓄尿されていない場合は、シュウ酸カルシウムが析出する可能性がありますので、必ず酸性蓄尿(pH1.0~2.0)して下さい。

	⊐- FNa.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
糖・方	700	ケトン体分画 (動脈血)	血液 各2.0	01	凍	酵素法	ケトン体比 0.7以上	59	3,	ブドウ糖投与下または食後(血糖 120mg/dL以上)に動脈採血して下さい。採血後は速やかに冷却遠心にて 分離し、凍結保存して下さい。	7
有機酸	1604	ケトン体分画 (静脈血)	血清 各0.5	01		野米/広	μmol/L 総ケトン体 130以下 アセト酢酸 55以下 3-ヒドロキシ酪酸 85以下	生I	5	早朝空腹時採血(静脈)して下さい。採血後は速やかに冷却遠心にて分離し、凍結保存して下さい。	
	316	中性脂肪 (TG)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	遊離グリセ ロール消去法	mg/dL 30~149	11 生 I	1		4 ⊟
	314	総コレステロール (T-CHO)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	コレステロー ルオキシダー ゼ法	mg/dL 130~220	17 生 I	1	● 目★性では、加齢と共に増加傾向が認められます。	7 日
脂	320	HDL-コレステロール (HDL-CHO)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	選択的抑制法	M 40~ 90 F 40~100	17 生 I	1	透り 基準値は年齢により若干差が あります。	14 日
質	330	LDL-コレステロール (LDL-CHO)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	選択的可溶化法	mg/dL 70~139	18 生 I	1	6	7 日
	318	リン脂質 (PL)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	酵素法	mg/dL 145~260	15 生 I	1	⊕	7日
	349	総胆汁酸 (TBA)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	酵素サイクリング法	μmol/L 10.0以下	47 生 I	1		l ヶ月

⁽銀) 1:基準値上限は日本動脈硬化学会が提唱する高脂血症の医療開始基準に則った値です。また、下限は健常者の測定値分布より統計的に算出される正常範囲に則った値です。10時間以上絶食後、採血して下さい。

	⊐— KNa.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	1223	全脂質脂肪酸分画 (TL-FA-F)	血液 3.0 血清 0.5	01	冷	Gas- Chromatograph 法	μg/mL,重量%	393 生II	11 \{ 15	脂肪酸名は25頁参照。 ⑧8	45 日
	3239	脂肪酸分画(4成分)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	Gas- Chromatograph 法	μg/mL 25頁参照	393 生II	5 { 7		45 日
	808	リポ蛋白分画	血液 1.0 血清 0.3	01	冷凍結不可	アガロースゲル 電気泳動法	25頁参照	49 生 I	3 ~ 5		7 日
	321	コレステロール分画	血液 1.0 血清 0.3	01	冷凍結不可	アガロースゲル 電気泳動法	HDLコレステロール 23~48 [%] LDLコレステロール 47~69 VLDLコレステロール 2~15	57 生 I	3 < 5		7 日
	1578	LP (a) (リポ蛋白(a))	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	TIA	mg/dL 40以下	107 生 I	1		2日
	1682	レムナント様リポ蛋白 コレステロール (RLP-コレステロール)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷凍結不可	酵素法	mg/dL 7.5以下	174 生 I	3 ~ 5	糖尿病、冠動脈疾患等の既往 歴のある場合は"5.2mg/dL 以上"がハイリスク域といわ れています。	
复	1201	アポ蛋白A-I					mg/dL M 119~155 F 126~165				
	1202	アポ蛋白A-II					mg/dL M 25.9~35.7 F 24.6~33.3	7 「現日 の場合 31 2項目 の場合 1 62			
	1203	アポ蛋白B	血液 各2.0		×	TIA	mg/dL M 73~109 F 66~101		3		2 ~ 3
	1204	アポ蛋白C-II	血液 各2.0 血清 各0.5	UT	市	TIA	M 1.8~ 4.6 F 1.5~ 3.8	3項目以 上の場合 94	4		3
	1205	アポ蛋白C-Ⅲ					mg/dL M 5.8~10.0 F 5.4~ 9.0	生I			
	1206	アポ蛋白E					M 2.7~ 4.3 F 2.8~ 4.6			82	

	⊐- KNa	検査項目	採取量(mL) 容 保存方 提出量(mL) 器 法	検査方法	基準値(単位)	実施料判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	807	β-カロチン	血液 2.0 01 凍血清 0.6 85 遊	HPLC	M 6.6 \sim 47.6 F 20.4 \sim 105.2	_	6 } 12	® 8	1 ケ 月
	1308	ビタミンA	血液 2.0 01 冷血清 0.4 85 遊	HPLC	97~316	_	4 5 6	®8	
	802	ビタミンBı	EDTA血液 O.5 89	LC-MS/MS	ng/mL 24~66	239 生 I	4 6	88	6 ケ 月
	803	ビタミンB₂	EDTA血液 O.5 89 遮	HPLC	ng/mL 66.1~111.4	235 生 I	4 6	(検体のご提出について) 血液 は必ず遮光ポリスピッツに移 し替えて凍結してご提出下さ い。	l ケ 月
	804	ビタミンB。	血液 2.0 01 冷血清 0.5 85 遮	HPLC	ng/mL 25頁参照	_	4 5 6	® 8	
	674	ビタミンB12 (シアノコバラミン)	血液 1.5 血清 0.4	CLEIA	pg/mL 180~914	136 生 I	1		3 ヶ 月
ビ タ	675	葉酸	血液 1.5	CLEIA	ng/mL 4.0以上	146 生 I	1	赤血球中の葉酸濃度は血清中の濃度に比べはるかに高いため、溶血すると正の誤差を生じます。	
ミン	805	カルニチン分画	血液 2.0	酵素サイクリング法	μmol/L 総カルニチン 45~91 遊離カルニチン 36~74 アシルカルニチン 6~23	95+95 生 I	3 4	関係学会の定める診療に関する指針を 遵守する必要があります。「総カルニチン」95点、「遊離カルニチン」95点を 合算した点数になります。	
	801	ビタミンC (アスコルビン酸)	血液 2.0 01 血清 0.5 81 除蛋白上清 0.5 85	HPLC	μg/mL 5.5~16.8 (血清中)	296 生 I	4 5 6	正確に血清0.5mLを専用容器 (No.81)に加え、混和後遠心分離し、その上清を遮光容器 (No.85) にてご提出下さい。	7 日
	3748	25-0HビタミンD くる病骨軟化	血液 1.5 ・ 01 冷 血清 0.5	CLEIA	ng/mL	117 生 I	1	ビタミンD欠乏20以下 溶血により正の誤差を生じる 場合があります。	3 ヶ 月
	3937	25-OHビタミンD (骨粗鬆症)	血液 1.5	CLEIA	ng/mL	117 生 I	1	ビタミンD欠乏20未満 溶血により正の誤差を生じる 場合があります。	3 ヶ 月
	1863	1,25-(OH)₂ビタミンD	血液 2.0	RIA2抗体法	成人 20.0~60.0 小児 20.0~70.0	388 生 I	4 5 8	8 8	
	1208	ビタミンE	血液 2.0 01 凍血清 0.5 85 遮	蛍光法	mg/dL 0.75~1.41	_	8 \ 14	88	
	664	レチノール結合蛋白 (RBP)	血液 2.0	ラテックス 凝集比濁法	M 2.7~6.0 F 1.9~4.6	132 免疫	3 ~ 5	® 8	

	⊐— KNa.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	322	ナトリウム	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	電極法	^{mEq/L} 137∼147	11 生 I]	७ 1	1 ヶ月
	381	(Na)	尿 5.0	28	777	电他冮	g/day 4.0~8.0	11 生 I	2		
	324	クロール	血液 1.5 血清 0.5	01	. ^	#.F.\+	mEq/L 98~108	11 生 I]	∞ ● (±) 1	1 ケ 月
	383	(CI)	尿 5.0	28	冷	電極法	g/day 6.0∼12.0	11 生 I	2		
	323	カリウム	血液 1.5 血清 0.5	01 ↓ 02	冷	面板汁	^{mEq/L} 3.5∼5.0	11 生 I	1	● 全血での放置によりKが高くなります。特に冷蔵保管では著しく高値となります。状態を2年になる。	1 ヶ 月
電解	382	(K)	尿 5.0	28	/ Т	電極法	g/day 2.0~2.5	11 生 I	2	に放置し、凝固が確認されたら、遠心してNo.2汎用容器に 向清を分離して下さい。採血に あたっては、溶血しないように 注意して下さい。	
質.	325	カルシウム	血液 1.5 血清 0.5	01	~	アルセナゾⅢ法	mg/dL 8.4~10.2	11 生 I	1	ॐ €	14 日
微量	384	(Ca)	尿 5.0	28	777	アルセアノ皿法	g/day 0.1~0.3	11 生 I	2		
金属	326	無機リン	血液 1.5 血清 0.5	01	~	而 华 李之十	mg/dL 2.5~4.5	17 生 I	ļ	७ €	7 日
	385	(P)	尿 5.0	28	冷	酵素法	g/day 0.5~1.0	17 生 I	2		
	327	マグネシウム	血液 1.5 血清 0.5	01	~	而 华 李之十	mg/dL 1.8~2.4	11 生 I	ļ	ॐ €	14 日
	329	(Mg)	尿 5.0	28	冷	酵素法	g/day 0.02~0.13	11 生 I	2		
	685	イオン化カルシウム (Caイオン) (カルシウムイオン)	血液 1.5 血清 0.5	63	冷	イオン電極法	mEq/L 2.26~2.62	26 生 I	2 \ 3	(F)	
	331	鉄 (Fe)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	Nitroso-PSAP法	^{μg/dL} M 60~200 F 50~160	11 生 I	1 5 2	透手 EDTA血漿は検査不可。	14 日

② ↑:「ナトリウム」「クロール」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれかの一方のみとなります。

	⊐-FNa	検査項目	採取量(mL) _{速心} 提出量(mL)		保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	332	総鉄結合能 (TIBC)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	Nitroso-PSAP法 (計算法)	$^{\mu g/dL}$ M 250~380 F 250~450	11 生 I	1	● 目○ 目EDTA血漿は検査不可。	3 ヶ 月
	333	不飽和鉄結合能 (UIBC)	血液 1.5 _{連心} 血清 0.5	01	冷	Nitroso-PSAP法	μg/dL M 170~250 F 180~270	11 生 I	1	● 目● 目EDTA血漿は検査不可。	3 ヶ 月
	334	銅	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	3.5-DiBr- PAESA法	μg/dL 78~131	23 生 I	1		
電解	679	(Cu)	尿 5.0	82		原子吸光法	1日量 13以下 ルピル 濃 度 18以下	23 生 I	4 5 7	② 蓄尿の場合は、蓄尿量を明記して 下さい。部分尿の場合は「換算不 可」でご報告します。◎ 82	4 週
質・	676	亜鉛 (Zn)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	比色法	μg/dL 80~130 ⊕3	132 生 I	3 4	② 4 測定値に影響がでますので溶血検体での で依頼は避けて下さい。真空採血管のゴム栓には 亜鉛が含まれているものがあります。当社指定容 器以外を使用の際には十分ご注意下さい。 ⑧ 2	
微量	1290		尿 5.0	82		原子吸光法	μg/L 64~947	132 生 I	4 5 7	⊕2 ⊚ 2	4 週
金属	681	アルミニウム (AI)	血液 2.0 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	64	冷	原子吸光法	μg/dL 不以9.00	109 生 I	5 6	33333333333333343456782 8	3週
	2916	セレン (Se)	血液 2.0 血清 0.5	64	冷	ICP-MS	μg/dL 10.0~16.0	144 生 I	4 5	⊕2 ⊚ 2	3週
	1504	マンガン (Mn)	へパリン加血液 〇.5	5 10	冷	ICP-MS	μg/dL 0.4~2.0	27 生 I	6 /	<u></u> 82	3
	1467		尿 0.5	i 82			^{μg/L} 2.0未満	27 生 I		⊕2	週

③] : TIBCとUIBCを同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定できます。 ② 2 : 指定容器をご使用下さい。 ③ 3 : 基準値は日本臨床栄養学会「亜鉛欠乏症の診療指針2018」の亜鉛欠乏症診断基準に則った値です。 ③ 4 : 日内変動や食物の摂取により血中濃度が低下しますので、朝食前の午前中に採血して下さい。(基準値は朝食前の採血により得られたデータです。)

		⊐— KNo.	検査項目	採取量(1	,	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備	考	検体の安定性
		1571	鉛 (Pb)	へパリン加血液	1.0	10	冷	原子吸光法	μg/dL 1.0以下 ∰2	_	5 6		8	4 週 2
		1506	クロム (Cr)	へパリン加血液(0.5	10			μg/dL				8	2
冒角		1476		血液	-	64	冷	原子吸光法	μg/dL	_	7 } 13	(∄) 1	8	3 週 2
質		1477		尿	1.0	82			μg/L			(a) 1	8	8
行 量		1505	カドミウム (Cd)	へパリン加血液(0.5	10	冷	ICP-MS	μg/dL 0.5以下	_	5 ~ 8		8	<u>2</u> 3 週
台属		2707		尿	1.0	82	713		_{μg/L} 3.8以下		5 } 11	(∄) 1	®	
		1245	水銀 (Hg)	へパリン加血液(0.5	10	冷	原子吸光法	μg/dL 5以下	_	6		8	2 3 週
		860		尿	1.0	82	נוע	赤]	^{μg/L} 25以下		11	1	8	
オリーフ	ポレフィ	1572	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿	1.0	86	冷遮	HPLC	mg/L (参考値) 2.2以下 (筆2	106	5 6		8	4 週 2
ホルフィリン関連	リノ目車	707	ウロポルフィリン	尿	3.0	86	冷遮	HPLC	μg/g·Cr 36以下	105	6 } 12		8	2 週 2

② 1:指定容器をご使用下さい。③ 2:産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は、24頁を参照して下さい。

	⊐− FNa.	検査項目	採取量(mL) _{遠心} 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ポル	116	コプロポルフィリン定性	尿 2.0	86	冷遮	HPLC	(-)	_	4 5 7		5
フィ	656	- コプロポルフィリン定量	へ(リン加藤 1.5	84	冷鬱遮	HPLC	μg/dL RBC 1以下	210 生 I	6 } 11		
リン	657		尿 3.0	86	冷遮		µg/g·Cr 170以下	131	6 } 12	<u></u>] 週
関連	1573	赤血球プロトポルフィリン (プロトポルフィリンB)	へパリン加畝 0.5	84	冷遮	HPLC	μg/dL全血 急 1	272 生 I	5 } 11	<u></u>	3週
	689	エタノール	へパリン加血液 1.0	10	凍	Gas- Chromatograph 法	mg/mL 0.1未満	105 生 I	4 5 7	⊕ 2 ⊚ 8	
	1173	メタノール	尿 2.0	28	凍	GC	mg/L 3未満	_	5 7	検出限界未満を基準値としま す。 ®2	自
その	453	浸透圧	血液 3.0 血清 1.0	01	冷	氷点降下法	m0sm/kg·H₂0 275~290	15	1		l ヶ月
他	454		尿 5.0	28		JUMPA I /A	m0sm/kg·H≥0 50~1,300	16	2		l ヶ月
	366	ICG (停滞率)	血液 各3.0 血清 各1.0	01	冷	比色法	% 0.0~10.0 (15分血中停滞率)	[100]	1 5 2	ICG投与前に対象血液を、投 与15分後に被検血液を採取 し、計2本ご提出下さい。 28頁参照	
	1190	ICG血中消失率(K) (消失率)	血液 各3.0 血清 各1.0	01		比色法		[150]	1 5 2	ICG投与前に対象血液を、投 与後5分・10分・15分の被検 血液を採取し、計4本ご提出 下さい。28頁参照	

② 1:産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は、24頁を参照して下さい。 ② 2:血液はポリスピッツに移し替え、必ず凍結保存にてご提出下さい。

	_										
	⊐-FNo.	検査項目	採取量(mL ^{遠心} 提出量(mL	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
そ	337	60・120分クレアチ ラ クリアランス (Creクリアランス)	血清 0.5	01	冷	酵素法	mL/min 70.0~156.0	_	1 5 2	血清、尿の両材料をご提出下 さい。身長、体重、尿量を依 頼書に必ずご記入下さい。 28頁参照	
ての他	339	24時間クレアチニン クリアランス	血液 1.5 血清 0.5 蓄尿 5.0	01	冷	酵素法	mL/min 82.0~207.0	_	1 5 2	血清、尿の両材料をご提出下 さい。身長、体重、尿量を依 頼書に必ずご記入下さい。 28頁参照	
	699	結石分析 (成分比率)	結石10m	g 26	室	赤外線吸収 スペクトロフォ トメトリー	%	117 生II	5 7	サンプルは乾燥させ結石専用容器 にてご提出ください。血液等の付いたサンブルは蒸留水で洗浄後、 乾燥させてご提出下さい。	
	1551	馬尿酸 (HA)	尿 1.0	28	冷	LC-MS	g/L	_	5 6	(金) 124頁参照(※) 2	4 週
	1552	メチル馬尿酸 (MHA)	尿 1.0	28	冷	LC-MS	g/L	_	5 6	② 124頁参照◎ 2	4週
産業	4378	スチレン代謝物	尿 1.0	28	冷	LC-MS	g/L 0.43以下 (合算值)	_	5 6	② 1 24頁参照。マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸 (PGA) および合算値 (MA+PGA) の3つをご報告します。 (分布区分はご報告しません) ⊗2	週
衛生	3533	マンデル酸 (EB) (MA)	尿 1.0	28	冷	LC-MS	g/L	_	5 6	対象物質はエチルベンゼンです。⊗2	週
関連	1545 1546 1547		「 尿 各1.0	28	冷	GC	mg/L	_	5 6	⊕224頁参照⊛2	4 週
検 査	1548 1549 1550	トリクロル酢酸	「 三 尿 各1.C 三	28	冷	GC	mg/L	_	5 6	⊕224頁参照⊗2	4週
	1556	N-メチルホルムアミ	尿 2.0	28	冷	GC	mg/L	_	5 6	324頁参照8	4週
	1557	2,5-ヘキサンジオン (2,5HD)	尿 3.0	28	冷	GC	mg/L	_	5 6	② 1② 24頁参照③ 2	4 週

(銀) 1: [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。 (銀) 2: [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の5日目以降(週末)。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

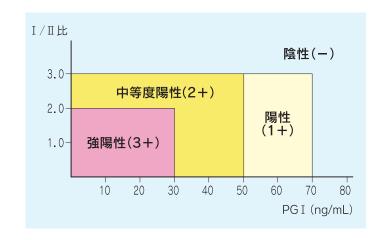
「特殊健診項目」名称および分布区分

入力コード	対象物質名	検査項目名	依頼書記載名	単位	分 布			
人/リコート	刈象物貝石	快旦坝日石	似棋音記製石	中加	1	2	3	
1571		鉛	同左	μg/dL	≦20	20<, ≦40	40 <	
1572	鉛	δ-アミノレブリン酸	同左	mg/L	≦5	5<,≦10	10<	
1573		赤血球プロトポルフィリン	同左	μg/dL全血	≦40	40<,≦100	100<	
1551	トルエン	馬尿酸	同左	g/L	≦1	1<,≦2.5	2.5<	
1552	キシレン	メチル馬尿酸	同左	g/L	≦0.5	0.5<,≦1.5	1.5<	
4378	スチレン	スチレン代謝物	同左	g/L	-	-	-	
3533	エチルベンゼン	マンデル酸(EB)	同左	g/L	-	-	-	
1556	N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	同左	mg/L	≦10	10<, ≦40	40 <	
1557	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	同左	mg/L	≦2	2<,≦5	5<	
1545	1 1 1 1 1 1 1 1 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	総三塩化物	TTC (ET)	mg/L	≦10	10<, ≦40	40 <	
1548	1,1,1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸	TCA (ET)	mg/L	≦3	3<,≦10	10<	
1546		総三塩化物	TTC (3E)	mg/L				
1549	トリクロルエチレン	トリクロル酢酸	TCA (3E)	mg/L				
1547		総三塩化物	TTC (4E)	mg/L				
1550	テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸	TCA (4E)	mg/L				

出典:鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)、特定化学物質健康診断結果報告書(特定化学物質障害予防規則、様式第3号)有機溶剤等健康診断個人票(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号)、有機溶剤等健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)

ペプシノゲン(PG)による胃粘膜萎縮度の判定基準

本川 云	>		測定	! 値
判定		PG I (ng/ml	_)	1/11比
強陽性	3+	30以下	かっ	2.0以下
中等度陽性	2+	50以下	かっ	3.0以下
陽性	1+	70以下	かっ) 3.0以下
陰 性	_	上	記条係	牛以外



基準範囲一覧

[蛋白分画(キャピラリー)]

	百分率(%)
ALB	55.8~66.1
α_1	2.9~4.9
α_2	7.1~11.8
β_1	4.7~7.2
β_2	3.2~6.5
γ	11.1~18.8
A/G	1.3~1.9

	[ビタミンB₀]		
化学	分画成分名	男性(ng/mL)	女性(ng/mL)
学	ピリドキサミン(PAM)	0.6 以下	0.6 以下
	ピリドキサール(PAL)	6.0~40.0	4.0~19.0
	ピリドキシン(PIN)	3.0 以下	3.0 以下

[リポ蛋白分画]

分画成分名	男性(%)	女性(%)
α	26.9~50.5	32.6~52.5
Preβ	7.9~23.8	6.6~20.8
β	35.3~55.5	33.6~52.0

[脂肪酸分画4成分]

分画成分名	濃度(μg/mL)
ジホモ-γ-リノレン酸	22.6 ~ 72.5
アラキドン酸	135.7 ~ 335.3
エイコサペンタエン酸	10.2 ~ 142.3
ドコサヘキサエン酸	54.8 ~ 240.3
EPA/AA比	0.05 ~ 0.61*
DHA/AA比	0.27 ~ 1.07*
(EPA+DHA)/AA比	0.32 ~ 1.66*

^{*}単位なし

[全脂質脂肪酸分画]

L 主 相 員 相 肋 酸 刀 画 」 分画成分名	略号	濃度(μg/mL)	重量(%)
ラウリン酸	C12:0	// (μg/IIIL)	0.31以下
	C12:0	10.25% [*	
ミリスチン酸			0.36~1.43
ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2以下	0.09以下
パルミチン酸	C16:0	495.1~918.3	19.18~23.84
パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8~117.3	0.87~3.18
ステアリン酸	C18:0	167.6~312.7	6.13~8.49
オレイン酸	C18:1ω9	433.9~910.1	16.19~23.66
リノール酸	C18:2ω6	708.1~1286.0	23.24~36.89
γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5~25.6	0.09~0.72
リノレン酸	C18:3ω3	11.5~45.8	0.40~1.30
アラキジン酸	C20:0	6.9~14.4	0.24~0.46
エイコセン酸	C20:1ω9	2.6~9.5	0.09~0.30
エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3~9.3	0.15~0.26
5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0以下	0.17以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6~72.5	0.79~2.05
アラキドン酸	C20:4ω6	135.7~335.3	4.21~9.30
エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2~142.3	0.36~3.99
ベヘニン酸	C22:0	14.6~30.3	0.43~0.91
エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
ドコサテトラエン酸	C22:4w6	2.9~10.4	0.10~0.30
ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5~31.8	0.34~0.89
リグノセリン酸	C24:0	15.5~31.2	0.49~0.90
ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8~240.3	1.88~6.86
ネルボン酸	C24:1ω9	27.1~53.0	0.78~1.64
T/TŁŁ(C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02以下*	
EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)		0.05~0.61*	
DHA/AA比 (C22:6ω3/C20:4ω6)	0.27~1.07*		
(EPA+DHA)/AA比*		0.32~1.66*	
ω3/ω6比*		0.09~0.36	

^{*}単位なし

[アミノ酸分画]

成分名	略号	血漿(nmol/mL)	尿(μmol/L)
タウリン	Tau	34.5~80.6	23.3~2349
ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0以下	65.5以下
アスパラギン酸	Asp	5.7以下	13.8以下
ハイドロキシプロリン	Нур	19.7以下	20.2以下
トレオニン	Thr	89.2~241.6	28.7~788.8
セリン	Ser	78.4~200.1	56.4~1062
アスパラギン	Asn	37.7~78.5	20.6~361.8
グルタミン酸	Glu	13.3~86.7	33.6以下
グルタミン	Gln	503.4~851.4	57.8~1439
サルコシン	Sarco	5.0以下	12.7以下
α-アミノアジピン酸	α-ΑΑΑ	5.0以下	117.2以下
プロリン	Pro	89.8~304.7	42.0以下
グリシン	Gly	136.8~397.7	277.7~4443
アラニン	Ala	253.6~601.9	38.4~956.7
シトルリン	Cit	18.2~50.1	34.4以下
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.2~40.1	33.7以下
バリン	Val	162.9~351.4	5.1~94.4
シスチン	Cys Cys	34.9~77.7	221.8以下
メチオニン	Met	18.1~43.5	25.1以下
シスタチオニン	Cysthio	5.0以下	58.4以下
イソロイシン	lle	44.9~120.3	30.9以下
ロイシン	Leu	84.4~200.2	77.5以下
チロシン	Tyr	46.7~103.6	10.0~263.6
β-アラニン	β-Ala	8.0以下	84.6以下
フェニルアラニン	Phe	49.0~90.8	7.9~135.5
	BAIBA	6.7以下	7.8~3013
ホモシスチン	Homocys	5.0以下	5.0以下
γ-アミノ酪酸	GABA	5.0以下	5.0以下
モノエタノールアミン	MEA	6.7~12.2	73.6~1076
ハイドロキシリジン	Hyl	5.0以下	46.0以下
オルニチン	Orn	50.8~137.4	76.1以下
1-メチルヒスチジン*1	1-Me-His	26.5以下	23.2~1990
ヒスチジン	His	68.0~116.6	86.1~2375
リジン	Lys	138.6~294.2	20.2~1500
3-メチルヒスチジン* ²	3-Me-His	7.2以下	26.2~755.8
トリプトファン	Trp	46.7~92.0	8.4~186.7
アンセリン	Ans	5.0以下	85.4以下
	Carno	5.0以下	51.9以下
カルノシン	Arg	44.1~115.2	77.4以下
アルギニン	allo-ile	5.0以下	5.0以下
アロイソロイシン			
グリシルプロリン	Gly-Pro	5.0以下	32.8以下
ホモシトルリン	hCit	5.0以下	43.0以下
S-スルホシステイン	SSC	5.0以下	27.0以下
キヌレニン	Kyn	5.0以下	16.9以下
アルギノコハク酸	ASA	5.0以下	22.8以下
フィッシャー比*3		2.36~4.69*4	_

*1:1-メチルヒスチジンのIUPAC名は「3-メチル-L-ヒスチジン」

*2:3-メチルヒスチジンのIUPAC名は「1-メチル-L-ヒスチジン」

*3:フィッシャー比= /パリン+イソロイシン+ロイシン チロシン+フェニルアラニン

*4:単位なし

生	
化	

	成分名	略号	血漿(nmol/mL)
	バリン	Val	162.9~351.4
	メチオニン	Met	18.1~43.5
ア	イソロイシン	Ile	44.9~120.3
Ξ	ロイシン	Leu	84.4~200.2
1	チロシン	Tyr	46.7~103.6
酸	フェニルアラニン	Phe	49.0~90.8
11	オルニチン	Orn	50.8~137.4
分	ヒスチジン	His	68.0~116.6
画	リジン	Lys	138.6~294.2
	トリプトファン	Trp	46.7~92.0
	アルギニン	Arg	44.1~115.2
	フィッシャー比* ¹		2.36~4.69*2

*1:フィッシャー比=

バリン+イソロイシン+ロイシン

チロシン+フェニルアラニン

*2:単位なし

アミノ酸分画について

<血漿>

血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸(Asp、Glu、Ala、Lys)が増加をきたします。 溶血血漿ではAsp、Gluが著しい高値を、Cys Cys、Trpが低値を示します。

蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝2番尿による測定をお勧めします。

糖代謝異常の判定区分と判定基準

①早朝空腹時血糖值^{注1)}126mg/dL以上-

- ②75gOGTTで2時間値200mg/dL以上
- ③随時血糖值*200mg/dL以上
- ④HbA1c (NGSP) が6.5%以上

①~④のいずれかが 確認された場合は「糖 尿病型」と判定する。 ただし①~③のいず れかと④が確認され た場合には、糖尿病と 診断してよい。

⑤早朝空腹時血糖值110mg/dL未満

一⑤および⑥の血糖値 が確認された場合に ⑥75gOGTTで2時間値140mg/dL未満 はに正常型と判定する。

●上記の「糖尿病型」「正常型」いずれにも属さない場合は 「境界型」と判定する。

空腹時血糖値および75gOGTTによる判定区分と判定基準

		血糖測定時間		判定区分
	空腹時		負荷後2時間	刊定区刀
	126mg/dL以上	または	200mg/dL以上	糖尿病型
グルコース濃度 (静脈血漿) ^{注1)}	糖尿病型に	こも正常型にも属る	さないもの	境界型
	110mg/dL未満	および	140mg/dL未満	正常型 ^{注2)}

注1) 血糖値は、とくに記載のない場合には静脈血漿値を示す。

注2) 正常型であっても1時間値が180mg/dL以上の場合は180mg/dL未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いので、境界型に準じた取り 扱い(経過観察など)が必要である。また、空腹時血糖値が $100\sim109$ mg/dLは正常域ではあるが、「正常高値」とする。この集団は糖尿病への移 行やOGTT時の耐糖能障害の程度からみて多様な集団であるため、OGTTを行うことが勧められる。

*随時血糖値・・・食事と採血時間との時間関係を問わないで測定した血糖値。糖負荷後の血糖値は除く。

(糖尿病治療ガイド2012-2013)

妊娠糖尿病の定義と診断基準

妊娠糖尿病の定義 妊娠中に初めて発見または発症した糖尿病に至っていない糖代謝異常 75gOGTTにおいて次の基準の1点以上を満たした場合に診断する 空腹時血糖値 ≥ 92mg/dL 診断基準 ≥ 180mg/dL 1時間値 2時間値 ≥ 153mg/dL ただし臨床診断において糖尿病と診断されるものは除外する

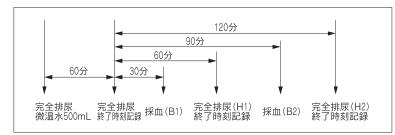
(糖尿病治療ガイド2012-2013)

24時間クレアチニンクリアランスの検体採取方法

- 1) 朝6時に完全排尿させ、以後の尿を翌朝6時まで蓄尿して下さい。
- 2) 蓄尿はよく撹拌して均一化し、尿量を記録した後、その一部(5.0mL) を試験管に入れて下さい。
- 3) 採血(2.0mL) は昼食前(午前11時頃)に行って下さい。
- 4) 身長・体重・尿量を必ず依頼書に記入して下さい。

60・120分クレアチニンクリアランスの検体採取方法

- 1) 完全排尿後、微温水500mLを飲ませて下さい。
- 2) 飲水約60分後に完全に排尿させ、排尿終了の時間を正確に(1分以内の誤差で)記録して下さい。
- 3) 開始30分後に2.0mL採血して下さい。… (B1)
- 4) 開始60分後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録して下さい。尿量5.0mL採尿。…(H1)
- 5) 開始90分後に2.0mL採血して下さい。…(B2)
- 6) 開始120分後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録して下さい。尿量5.0mL採尿。… (H2)
- 7) 身長・体重・尿量を必ず依頼書に記入して下さい。



ICGの検体採取方法

[停滞率] (検査項目:ICG 項目コード:366)

- 1)対照として早朝空腹時に3mL採血し、溶血を避けて血清分離をして下さい。(BO) 2)ICG試験薬25mgを無菌蒸留水5mLに溶解し、体重10kgにつき1mLの割合で正確に静脈注射して下さい。
- 3) ICG注射から15分後に注射時と反対側から3mL採血し、溶血を避けて血清分離して下さい。(B1)
- 4) 以上のようにして得た血清(BO、B1)を4~6℃にて暗所に保存し、各1mLを提出して下さい。その際、採血時間を必ず明記して下さい。 <留意事項>
- ① 検査は早朝空腹時に実施し、ICG注射後の採血終了まで被験者を安静仰臥させて下さい。
- ② 被験者に肥満、浮腫、腹水を認める場合のICG注射量は、標準体重から計算して下さい。
- ③ 「ジアグノグリーン注」の能書をご参照下さい。

- [消失率] (検査項目: ICG血中消失率(K) 項目コード: 1190)

 1) 対照として早朝空腹時に3mL採血し、溶血を避けて血清分離をして下さい。(B0)

 2) ICG試験薬25mgを無菌蒸留水5mLに溶解し、体重10kgにつき1mLの割合で正確に静脈注射して下さい。
- 3) ICG注射から5分、10分、15分後に注射時と反対側から3mL採血し、溶血を避けて血清分離して下さい。 (B1、B2、B3)
- 4) 以上のようにして得た血清(BO、B1、B2、B3)を4~6℃にて暗所に保存し、各1mLを提出して下さい。その際、採血時間を必ず明記して下さい。 <留意事項>
- ① 検査は早朝空腹時に実施し、ICG注射後の採血終了まで被験者を安静仰臥させて下さい。
- ② 被験者に肥満、浮腫、腹水を認める場合のICG注射量は、標準体重から計算して下さい。
- ③ 「ジアグノグリーン注」の能書をご参照下さい。

	来171大旦												
⊐- FNa.	検査項目	遠心	保存方法	検査方法	基準値(単位) (有効治療濃度)	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性			
642	フェノバルビタール (Phenobarbital,PB)	血液 1.5 ^{適心} 01 血清 0.5	冷	ラテックス法	μg/mL 10.0~40.0	[470]	1	フェノバール ワコビタール ルピアール		1ヶ月			
643	プリミドン	遠心	冷	EIA	μg/mL 5.0~12.0	[470]	3	ブリミドン ブリムロン					
641	フェニトイン (Phenytoin,PHT)	血液 1.5 ^{適心} 01 血清 0.5	冷	ラテックス法	μg/mL 成人·小児 10.0~20.0 新生児 8.0~15.0	[470]	1	アレビアチン ヒダントール		l ケ 月			
644	カルバマゼピン (Carbamazepine,CBZ)	血液 1.5 ^{適心} 01 血清 0.5	冷	ラテックス法	#g/mL 4.0~12.0 他の抗てんかん薬併用時 4.0~8.0	[470]	1 5 2	テグレトール カルバマゼピン		1 ヶ 月			
646	バルプロ酸ナトリウム (ValproicAcid,VPA)	血液 1.5 適 01 血清 0.5	冷	ラテックス法	μg/mL 50.0~100.0	[470]	1	デパケン パレリン デパケンR セレニカR	バルプロ酸と して測定。] ケ 月			
645	エトスクシミド	適心	冷	EIA	μg/mL 40.0~100.0	[470]	3 ~ 5	ザロンチン エビレオプチマル	®8				
649	トリメタジオン	遠心	凍	LC-MS/MS	μg/mL 300~500	[470]	5 } 11	ミノアレ	活性代謝物で あるジメタジ オンを測定。 ② 2	週			
655	クロナゼパム	遠心	冷	LC-MS/MS	ng/mL 20~70	[470]	4 6	ランドセン リボトリール					
830	ニトラゼパム	遠心	冷	LC-MS/MS	ng/mL 20~200	[470]	4 6	ベンザリン、ネルボン					
892	ジアゼパム	適心	冷	HPLC	ng/mL ジアゼパム 600~1000	[470]	4 5 7	セルシン、ホリゾン ジアバックス	(∄] (⊛ 8)				
1449	ゾニサミド	遠心	冷	ラテックス 凝集法	μg/mL 10~30	[470]	3 ~ 5	エクセグラン					
2598	クロバザム	遠心	冷	LC-MS/MS	ng/mL	[470]	4 6	マイスタン					
3080	ガバペンチン	適心	冷	LC-MS/MS	μg/mL	[470]	4 6	ガバペン錠					
3345	レベチラセタム	遠心	冷	LC-MS/MS	μg/mL 12~46	[470]	4 5 6	イーケブラ		21 日			
3384	ラモトリギン	適心	冷	LC-MS/MS	μg/mL 2.5~15	[470]	4 5 6	ラミクタール					
3388	トピラマート	適心	冷	LC-MS/MS	μg/mL 5~20	[470]	4 5 5	トビナ		4 週			
	642 643 641 644 646 645 649 655 830 892 1449 2598 3080	642 フェノバルビタール (Phenobarbital,PB) 643 プリミドン 641 フェートイン (Phenytoin,PHT) 644 カルバマゼピン (Carbamazepine,CBZ) 646 バルプロ酸ナトリウム (ValproicAcid,VPA) 645 エトスクシミド 649 トリメタジオン	1	642 フェノバルビタール	642 フェノバルビタール 血液 1.5 の 冷 ラテックス法 の の か の の か の の か の の	642 フェノバルピタール 血液 1.5 の1 冷 ラテックス法 10.0~40.0 10.0 10.0~40.0 10.	642 フェノバルビタール 血液 1.5 四滴 0.5 四滴 0.5	642 アンバリレジョール 血液 1.5 口 冷 ラテックス法 口 ロールー 日本の 日	642 フェノバリとタール 四液 1.5 1.5	542 フェノバリピタール 一点 1.5 一点 1.5			

「採血時期」および「特定薬剤治療管理料」は35、36頁をご参照下さい。
②]: N-デスメチルジアゼパムも同時報告致します。
③ 2: デスメチルクロバザムも同時報告致します。

	⊐-KNa	検 査 項 目	採取量(mL) 容 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位) (有効治療濃度)	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
抗	3672	ルフィナミド	血液 1.0 74 ↓ 血清 0.3 02	冷	LC-MS/MS	μg/mL	[470]	4 6	イノベロン	82	4週
抗てんかん剤	3757	ペランパネル	血液 1.0 74 ↓ 血清 0.3 02	冷	LC-MS/MS	μg/mL	[470]	4 5	フィコンパ	EDTA血漿 も可。 ®2	週
剤	3762	ラコサミド	血液 1.0 15 ↓ EDTA血漿 0.3 02	冷	LC-MS/MS	μg/mL	[470]	4 5	ビムパット	血清も可。 <u></u>	4週
精	328	リチウム	血液 2.0 74 ↓ 血清 0.5 02	冷	比色法	mEq/L 治療範囲濃度 0.3~1.2	[470]	3 \ 5	リーマス リチオマール		
神神	1651	クロルプロマジン	血液 3.0 74 ↓ 血清 1.0 02	凍	LC-MS/MS	ng/mL 30~350	_	5 7	コントミン クロルプロマジン塩酸塩		4 週
経用	900	ハロペリドール	血液 2.0 74 ↓ 血清 0.5 02	冷	金コロイド 凝集法	ng/mL 3∼17	[470]	3 \ 5	セレネース ハロステン リントン ネオペリドール ハロマンス	(∄] (⊛ 8)	
剤	2173	ブロムペリドール	血液 2.0 74 ↓ 血清 0.5 02	冷	金コロイド 凝集法	ng/mL 至適血中濃度 15以下	[470]	3 \ 5	インプロメン ルナプロン	(∄] (⊛ 8)	
	832	キニジン	血液 2.0 74 ↓ 血清 0.4 02	冷	EIA	μg/mL 2.0~6.0	[470]	3 \ 9	硫酸キニジン		
	1305	プロカインアミド	血液 2.0 74 ↓ 血清 0.4 02	冷	EIA	μg/mL 4.0~10.0	[470]	3	アミサリン		
	883	ジソピラミド	血液 1.5 血清 0.5	冷	EMIT	μg/mL 2.0~5.0	[470]	1 5 2	リスモダン ジソピラミド		l ヶ月
抗	1296	リドカイン	血液 1.0 74 ↓ 血清 0.3 02	冷	EIA	μg/mL 1.2~5.0	[470]	3	キシロカイン		
不整脈	1196	アプリンジン	血液 1.0 74 ↓ 血清 0.3 02	冷	LC-MS/MS	μg/mL 0.25~1.25	[470]	4 5	アスペノン		4週
剤	1720	ピルシカイニド	血液 1.0 74 ↓ 血清 0.3 02	冷	LC-MS/MS	μg/mL 0.2~0.9	[470]	4 6	サンリズム	へパリン血漿 でも可。 ⊗ 8	
	1848	プロパフェノン	血液 1.0 74 ↓	冷	LC-MS/MS	ng/mL	[470]	4 6	לעםלע		
	1580	メキシレチン	血液 1.0 74 ↓	冷	LC-MS/MS	μg/mL 0.5~2.0	[470]	4 6	メキシチール		
	2584	ピルメノール	血液 4.0 10 ↓ 1.3 02	冷	HPLC	ng/mL 400.0以上	[470]	4 5 10	ピメノール		

[「]採血時期」および「特定薬剤治療管理料」は35、36頁をご参照下さい。

③]:ハロペリドール・ブロムペリドールはほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意下さい。

	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一												
	⊐- FNa	検 査 項 目	採取量(mL) 容 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位) (有効治療濃度)	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性		
	2587	アミオダロン	血液 1.0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	冷	LC-MS/MS	ng/mL	[470]	4 5 6	アンカロン	(∄ 1) (⊛ 8)			
抗	2182	シベンゾリン	血液 1.0 74 点面 0.3 02	冷	LC-MS/MS	ng/mL Trough濃度 70~250	[470]	4 6	シベノール				
不整脈	2111	フレカイニド	血液 1.0 74 点 0.3 02	冷	LC-MS/MS	ng/mL 200~1,000	[470]	4 6	タンボコール	へパリン血漿 でも可。 ⑧8			
剤	3477	ベプリジル	血液 1.0 10	冷	LC-MS/MS	ng/mL 250~800	[470]	4 6	ベブリコール	88	21 日		
	3507	ソタロール	血液 1.0 15 EDTAL 0.3 02	冷	LC-MS/MS	μg/mL	[470]	4 5 7	ソタコール		4週		
強心剤	651	ジゴキシン	血液 1.5 血清 0.5	冷	ラテックス 凝集比濁法	ng/mL 0.9~2.0	[470]	1 5 2	ジゴキシン ジゴシン		7 日		
気管支拡張剤	654	テオフィリン	血液 1.5 血清 0.5	冷	ラテックス法	μg/mL 10.0~20.0	[470]	1	テオドール テオロング スロービット ユニフィルLA		1 ヶ 月		
	1240	ゲンタマイシン	血液 1.0 74 血清 0.3 02	冷	EMIT	#g/mL グラム陰性菌感染症に対する標準治療 Peak 15~20 Trough 1未満	[470]	3	ゲンタシン エルタシン	82	4 週		
	1198	トブラマイシン	血液 1.0 74	冷	HEIA	μg/mL グラム陰性菌感染症に対する標準治療 Peak 15~20 Trough 1未満	[470]	3	トブラシン	82	4週		
+-	648	アミカシン	血液 1.0 74	冷	KIMS	#g/mL グラム陰性菌感染症に対する標準治療 Peak 50~60 Trough 4未満	[470]	3	アミカマイシン	82	4週		
抗生剤	1626	バンコマイシン	血液 1.5 血清 0.5	冷	EMIT	μ g/mL Trough 10.0~15.0	[470]	1	塩酸パンコマイシン パンコマイシン		l ヶ月		
Αυ	2396	テイコプラニン	血液 1.0 74 血清 0.3 02	冷	ラテックス 凝集比濁法	μ g/mL Trough 15~30	[470]	3 \ 5	タゴシッド	88			
	1652	アルベカシン	血液 1.0 74	冷	LA(ラテックス 凝集比濁法)	Peak $15\sim20$ Trough $1\sim2未満$	[470]	3	ハベカシン		4週		
	3344	ボリコナゾール	血液 1.0 74	冷	LC-MS/MS	μg/mL	[470]	4 5 6	ブイフェンド				
解熱・鎮痛剤	1304	アセトアミノフェン	血液 2.0 74 点 0.4 02	冷	EIA	中毒域 μg/mL 200.1以上(4時間) 100.1以上(8時間) 50.1以上(12時間)	180 生 I	3 9	アセトアミノフェン ピリナジン ナパ				
抗災症・抗リウマチ剤	647	サリチル酸 および「特定薬剤治療管理料」(a	血液 1.0 74	冷	酵素法	μg/mL 抗リウマチ薬として 150~300	[470]	3	アスピリン ハフトロン ヘ/ いえ		4週		

[「]採血時期」および「特定薬剤治療管理料」は35、36頁をご参照下さい。
② 1:アミオダロン有効血中濃度:500~1000ng/mL(200mg/日投与、定常状態、トラフ値) Desethylamiodarone/Amiodarone=0.8 (定常状態)

	⊐- KN	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位) (有効治療濃度)	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
抗悪性腫瘍剤	1383	メトトレキサート	血液 2.0 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	74 ↓ 02	冷	EIA	μmol/L 危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上	[470]	3 5 5	メソトレキセート		
抗パーキンソン薬	842	L-ドーパ	血液 5.0 EDTA血漿 1.5	15 ↓ 02	凍	HPLC	ng/mL 1.2∼2.2	_	6 } 19			
免疫抑制剤	1318	シクロスポリン	EDTA加血液 O.フ	131	凍	ECLIA	ng/mL	[470]	3 \ 5	サンディミュン ネオーラル	他の検査項目との 同時依頼はできま せんのでご注意下 さい。	
制剤	1360	タクロリムス	EDTA加血液 O.フ	131	凍	ECLIA	ng/mL	[470]	3 5	プログラフ グラセブター	他の検査項目との 同時依頼はできま せんのでご注意下 さい。	
	3923		へパリン加血液 4.0		牛	LO MO /MO	μg/mL		8		対象農薬については34頁参照。	
7	3924	農薬スクリーニング	尿 4.0			LC-MS/MS	8 検出せず	_	13		検出された場合、定量値を ご報告致します。 <u>®</u> 2	
その	738		血液 3.0 血清 1.0	74 ↓			μg/mL		5		検出限界未満	
他	739	パラコート	尿 1.0		凍	HPLC	0.1未満	_	š 11		を基準値とし ます。 <u></u> 8 2	週
		覚せい剤検査 および「特定薬剤治療管理料」	尿 8.0		冷	EMIT法 (スクリーニング) LC-MS/MS (確認試験)	検出せず	_	4 5 5		③ 1 ⑥ 2	

「採血時期」および「特定薬剤治療管理料」は35、36頁をご参照下さい。

規制薬・医薬品等スクリーニング検査対象薬物

			乱用薬物スクリーニング	乱用薬物検査	覚せい剤検査	N .	コカイン系麻薬検査	大麻・マリファナ検査		ゾジアゼピンスクリーニン	三・四環系抗うつ薬スクリーニング 農薬スクリーニング
	覚せい剤*1	アンフェタミン、メタンフェタミン(ヒロポン)	+-	_	•						
	アヘンアルカロイド系麻薬*2	コデイン、モルヒネ、6-アセチルモルヒネ	•	•		•					
	麻 コカアルカロイド系麻薬*2	コカイン、ベンゾイルエクゴニン(コカイン代謝物)	•	•			•				
規制	薬 幻覚剤*2	MDA(メチレンジオキシアンフェタミン)、 MDEA(メチレンジオキシエチルアンフェタミン)、 MDMA(メチレンジオキシメタンフェタミン)、 フェンシクリジン	•	•					•		
薬	大麻・マリファナ	THCカルボン酸体、 (11-ノル-⊿º-テトラヒドロカンナビノール-9-カルボン酸体)	•	•				•			
医薬	ベンゾジアゼピン類	クロナゼパム*2、二トラゼパム*2、ジアゼパム*2、 デスメチルジアゼパム(ジアゼパム代謝物)*2、 クロバザム*2、デスメチルクロバザム(クロバザム代謝物)、 クロチアゼパム*2、フルニトラゼパム*2、ミタゾラム*2、 エスタゾラム*2、アルプラゾラム*2、プロチゾラム*2、 エチゾラム*2、トリアゾラム*2、二メダゼパム*2、プロマゼパム*2								•	
品	三環系抗うつ薬	アミトリプチリン、ノルトリプチリン、イミプラミン、 デシブラミン(イミブラミン代謝物)、トリミプラミン、 クロミブラミン ノルクロミブラミン(クロミブラミン代謝物)、 アモキサピン、ドスレピン									•
	四環系抗うつ薬	ミアンセリン、セチプチリン、マプロチリン								- (•
	有機リン系農薬	スミチオン (MEP)、マラチオン、CYAP、エチルチオメトン、 EPN、ダイアジノン、MPP、メチダチオン、 イソキサチオン、ピリミホスメチル、DDVP、トリクロルフォン									•
農	ピレスロイド剤	フェンバレレート、シペルメトリン、ペルメトリン									•
	トリアジン系農薬	メトリ ブ ジン、シマジン(CAT)									•
薬	カーバメート系農薬	フェノブカルブ、カルバリル、メソミル									•
	アニリン系農薬	アラクロール、プロパニル									•
	ジピリジリウム系農薬	パラコート*3									

- [ご注意]
 1) 規制薬物検査においては、まずEMIT法にてスクリーニングを行います(スクリーニング陰性の場合、その旨ご報告致します)。 スクリーニング検査で陰性が確定しない場合、LC-MS/MSにて確認後、ご報告致します。
 2) [農薬スクリーニング] 検査にてスクリーニング対象外の農薬曝露の可能性が示唆された場合、その農薬名をご報告致します。

- *1:「覚せい剤取締法」の規制対象薬物。
 *2:「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象薬物。
 *3: パラコートについては、個別の定量分析として実施(「農薬スクリーニング」対象外)。

薬

物

主な薬物検査の採血時期

薬剤名	採血時期
抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)*
プリミドン	次回投与直前(トラフ)
フェニトイン	経口:投与直前(トラフ) 静注:投与直前(トラフ)
カルバマゼピン	・ 投与直前(トラフ)
バルプロ酸ナトリウム	投子巨削(トンフ)
エトスクシミド	次回投与直前(トラフ)
トリメタジオン	投与直前(トラフ)*
クロナゼパム	次回投与直前(トラフ)
ニトラゼパム	次回投与直前(トラフ)
ジアゼパム	ただし、抗てんかん剤として用いる場合
ゾニサミド	
レベチラセタム	次回投与直前(トラフ)
ラモトリギン	
精神神経用剤	
リチウム	最終投与後12時間または早朝投与前(トラフ)
ハロペリドール	・ 随時(ただし、採血時刻を一定とする)
ブロムペリドール	随时(/こ/こし、抹皿时刻を一定こりる)
抗不整脈剤	
キニジン	次回投与直前(トラフ)
プロカインアミド	次回投与直前(トラフ)
ジソピラミド	カプセル: 投与直前(トラフ)および 投与後2~4時間(ピーク) 徐 放 錠: 投与直前(トラフ)および 投与後4~7時間(ピーク) 注 射 剤: 投与直前(トラフ)
リドカイン	静 注:投与後2時間 点滴静注:6~12時間
アプリンジン	経 口:次回投与直前(トラフ) 投与後2~4時間(ピーク) 静 注:次回投与直前(トラフ)
ピルシカイニド	次回投与直前(トラフ)
メキシレチン	経 口:次回投与直前(トラフ) 静 注:随時
ピルメノール	随時
アミオダロン	次回投与直前(トラフ)
シベンゾリン	朝投与直前(トラフ)
フレカイニド	次回投与直前(トラフ)
強心剤	
ジゴキシン	経 口:投与直前(トラフ)または 投与後6時間以降 注射剤:投与直前(トラフ)または 静注後3時間以降
*: 半減期が長いため随時も可能	能ですが、同一患者では一定時刻に採血

薬剤名	採血時期
気管支拡張剤	
テオフィリン	速放性製剤: 投与直前(トラフ)および 投与後2時間(ピーク) 徐放性製剤: 投与直前(トラフ)および 投与4時間後(ピーク) 静注・点滴静注: 投与直前(トラフ)および 投与後30分(ピーク) 持続静注: 投与後4~6時間および その後12~24時間ごと
抗生剤	
ゲンタマイシン	
トブラマイシン	- 点滴開始1時間後
アミカシン	(30分で投与した場合、終了30分後) (ピーク)
アルベカシン	投与前30分以内(トラフ)
バンコマイシン	投与直前(トラフ)
テイコプラニン	投与前30分以内(トラフ)
抗炎症・抗リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前(トラフ)
抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間
免疫抑制剤	
シクロスポリン タクロリムス	- 次回投与直前(トラフ)

^{*:} 半減期が長いため随時も可能ですが、同一患者では一定時刻に採血することが推奨されます。

特定薬剤治療管理料

*** 女!! ク	松本モロ	特定薬剤	台療管理料	加算点	/## -† /
薬剤名	検査項目		4ヶ月以降	(初回月)	備考
ジギタリス製剤(心疾患)	ジゴキシン	470点	235点		ジギタリス製剤の急速飽和 を行った場合所定点数(470 点)に関わらず、1回に限 り740点を算定する。
抗てんかん剤(てんかん)	フェノバルビタール、プリミドンフェニトイン、遊離フェニトイン カルバマゼピン、エトスクシミドバルプロ酸、遊離パルプロ酸、ゾニサミドトリメタジオン、クロナゼパム、ニトラゼパムシアゼパム、クロバザム、レベチラセタムトピラマート、ラモトリギン、ガバペンチンアセタゾラミド、ラコサミド、ペランパネルスチリペントール、ルフィナミド	470点	470点		てんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射薬剤等の血中濃度を測定し、所定点数(470点)にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
テオフィリン製剤 (気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性 気管支炎、肺気腫、又は未熟児無呼吸発作)	テオフィリン	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行った	
抗不整脈用剤(不整脈)	プロカインアミド、ジソピラミド、キニジン アプリンジン、リドカイン、ピルシカイニド プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド シベンブリン、ピルメノール、アミオダロン ソタロール塩酸塩、ベプリジル	470点	235点	初回月のみ加算)	
ハロペリドール製剤(統合失調症) ブロムペリドール製剤(統合失調症)	ハロペリドール ブロムペリドール	470点	235点		
リチウム製剤(躁うつ病)	リチウム	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム (躁うつ病又は躁病)	バルプロ酸 遊離バルプロ酸		200/11		
カルバマゼピン (躁うつ病又は躁病)	カルバマゼピン	470点	470点		
免疫抑制剤(臓器移植後)	シクロスポリン タクロリムス エベロリムス ミコフェノール酸	470点	470点	2740点 (臓器移植を行った日の属する 月を含め3月に限り加算)	*1 *2
シクロスポリン(免疫抑制剤) ベーチェット病(活動性・難治性眼症状を有するもの)、その他の非感染性がどう膜炎(既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性がどう膜炎に限る)、再生不良性貧血、赤芽球療、専常性乾癬、鹿島性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎(既存治療で十分な効果が得られない患者に限る)、ネフローゼ症候策 川崎病の急性期	シクロスポリン	470点	470点		
サリチル酸系製剤 (若年性関節リウマチ、リウマチ熱、 関節リウマチ)	サリチル酸	470点	235点		
メトトレキサート(悪性腫瘍)	メトトレキサート	470点	235点		
タクロリムス水和物(免疫抑制剤) (全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大爆炎 又は間質性肺炎(多発性筋炎または皮膚筋炎に合併するものに限る))	タクロリムス	470点	470点		
トリアゾール系抗真菌剤[入院中] 「重症又は黄治性真悪染症又は造血幹細胞移植 (血幹細胞移植) 患者にあっては深在性真態の予防を目的とするものに限る。))	ボリコナゾール	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行った	
バルプロ酸ナトリウム(片頭痛)	バルプロ酸 遊離バルプロ酸	470点	235点	初回月のみ加算) (バンコマイシンを除く)	
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点	(I = T F = Craft)	
エベロリムス (結節性硬化症)	エベロリムス	470点	235点		
スニチニブ(抗悪性腫瘍剤) (腎細胞癌)	スニチニブ	470点	235点		
シロリムス製剤 (リンパ脈管筋腫症)	シロリムス	470点	235点		
アミノ酸糖体抗生物質[入院中]	ゲンタマイシン トブラマイシン アミカシン アルベカシン	470点	235点		
グリコペプチド系抗生物質[入院中]	テイコプラニン バンコマイシン				*3
トリアゾール系抗真菌剤[入院中]	ボリコナゾール	470点	235点		
治療抵抗性統合失調症治療薬 (統合失調症)	クロザピン	470点	235点		

エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、エベロリムスの初回投与を行った日の属する月を含め3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。 ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、6月に1回に限り250点を所定点数に加算する。 パンコマイシンを投与している患者であって、同一暦月に複数回の血中のパンコマイシンの濃度を測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、530点を所定点数を加算する。

[%]3

	⊐-FNo.	検査項目	採取量(mL) 容 係 た 提出量(mL) 器 法	· 検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	501	成長ホルモン (GH)	血液 2.0 血清 0.5	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13~9.88	105 生II	3 5		
	503	LH (黄体形成ホルモン)	血液 1.5 01 流血清 0.4	CLEIA	mIU/mL 46頁参照	105 生II	1 5 2		3 ヶ 月
	504	FSH (卵胞刺激ホルモン)	血液 1.5 01 汽血清 0.4	CLEIA	mIU/mL 46頁参照	105 生II	1		3ヶ月
下垂体	505	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	血液 2.0 15 ↓ ↓ ↓ EDTA嵊 0.5 02	ECLIA	pg/mL 午前7~10時 7.2~63.3	184 生II	3 ~ 5	ACTHはEDTA濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取下さい。 採血後、速やかに血漿分離して下さい。溶血でのご依頼は避けて下さい。	21日
	524	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	血液 1.5 01 流血清 0.5	CLEIA	μIU/mL 0.61~4.23	98 生II	1 5 2	透 IFCC標準化対応	3 ヶ 月
	507	プロラクチン (PRL)	血液 1.5 血清 0.5	CLEIA	M 2.64~13.13 F(閉経前) 3.34~26.72 (閉経後) 2.74~19.64	98 生II	1 5 2		3 ヶ月
	3464	抗利尿ホルモン (AVP)	血液 4.0 15 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	RIA (二抗体法)	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下	224 生I	6	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 ⑧2	
	516	ソマトメジン-C (IGF-I)	血液 2.0	ECLIA	ng/mL 46頁参照	212 生I	3	性別・年齢を必ずご記入下さ い。 ®2	4週

	⊐- FNo.	検 査 項 目	採取量(mL) 容 提出量(mL) 器	1子	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性	
	522	サイロキシン (T ₄)	血液 2.0 ^{適心} 0.5	冷	CLEIA	μg/dL 4.53~8.38	105 生II	3 5	® 8	21 日	
	523	トリヨードサイロニン (T ₃)	血液 2.0 _{適心} 01 血清 0.5	冷	CLEIA	ng/mL 0.62~1.16	99 生II	3	® 8	21 日	
	530	F-T ₄ (遊離サイロキシン)	血液 1.5 ^{遠心} 0.5	冷	CLEIA	ng/dL 0.75~1.45	121 生I	1	6	3ヶ月	
	520	F-T ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	血液 1.5 0.5	冷	CLEIA	pg/mL 2.5~4.1	121 生II	1	3	3ヶ月	
甲	526	サイログロブリン (Tg)	血液 1.5 ^趣 0.5	冷	CLEIA	ng/mL 2.00~31.00	128 生I	1		3 ヶ月	
状腺	2906	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	血液 1.5 0.3	冷	CLEIA	IU/mL 19.3未満	136 免疫	1			
	2907	抗TPO抗体 (抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体)	血液 1.5 0.3	冷	CLEIA	IU/mL 3.3未満	138 免疫	1			
	3484	TSHレセプター抗体定量 (TRAb定量) 第3世代	血液 3.0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	冷	CLEIA	IU/L 2.0未満	214 免疫	3 ~ 5		日	
	4108	甲状腺刺激抗体 (TSAb)	血液 1.0 _{適心} 01 血清 0.3	冷	Bioassay	% 110未満	330 免疫	3 / 5	(3) 溶血検体でのご依頼は避けて下さい。(溶血検体では、測定値が低値となる可能性があります。) 88	21 日	
	527	<mark>サイロキシン結合</mark> グロブリン (TBG)	血液 1.0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	凍	CLEIA	μg/mL 14~31	130 生II	3 6	<u></u>	2 週	
副	529	カルシトニン (CT)	血液 1.0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	凍	ECLIA	(空腹時) ^{pg/mL} M 5.15以下 F 3.91以下	130 生II	3	5	24 ヶ 月	
甲状	589	副甲状腺ホルモン intact (PTH-intact)	血液 1.5	冷	CLEIA	pg/mL 9.5~65.5	161 生II	1		1 ケ 月	
腺	2774	副甲状腺ホルモン (whole-PTH)	血液 2.0 07 0.5	冷	CLEIA	pg/mL 8.3~38.7	161 生II	3 ~ 5	EDTA血漿も可。 ®8	14 日	

③ 】:「TSHレセプター抗体」と「甲状腺刺激抗体」を同時に行った場合は、いずれか一方の実施料のみ算定できます。 ③ 2:PTHは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離する方が不活性化を防ぎます。実施料は「副甲状腺ホルモン(PTH)」として一連の算定になります。

	⊐— KNo.	検 査 項 目	採取量(mL) 容 掘山量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	
	1725	副甲状腺ホルモン関連 蛋白インタクト (PTH-rP-intact)	血液 2.0 08 ↓ 血漿 0.5 02	凍	RIA固相法 (IRMA)	pmol/L 1.1以下	186 生II	6	不活化(非働化)検体は検査 値に影響を及ぼす場合があり ますので、避けて下さい。 ⑧8	7 ∃
	1367	オステオカルシン (BGP)	血液 1.0 血清 0.3	凍	ECLIA	ng/mL M 8.4~33.1 F(閉経前) 7.8~30.8 (閉経後) 14.2~54.8	157 生II	3 ~ 5	② 1溶血検体でのご依頼は避けて下さい。⊗8	
	2574	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTX) [骨粗鬆症]	尿 3.0 28	冷	CLEIA	nmol BCE/mmol Cr M 13.0~66.2 F(閉経前) 9.3~54.3 (閉経後) 14.3~89.0	156 生I	3 ~ 5	② 1、2午前中の第二尿をご提出下さい。血尿でのご依頼は避けて下さい。◎8	
副甲	2573	デオキシピリジノリン (DPD) [骨粗鬆症]	尿 3.0 28	冷	EIA	nmol/mmol Cr M 2.1~5.4 F 2.8~7.6	191 生II	3 ~ 5	● 1、2午前中の第二尿をご提出下さい。●8	
状腺	3168	TRACP-5b	血液 1.0 血清 0.3	凍	EIA	M 170~590 F(YAM) 120~420	156 生II	3	② 1YAM:若年者成人平均值◎2	
	3572	I型プロコラーゲン -N-プロペプチド (total PINP)	血液 1.0 血清 0.4	冷	ECLIA	M (30~83歳) ng/mL 18.1~74.1 F閉経前 (30~44歳) 16.8~70.1 閉経後 (45~79歳) 26.4~98.2	160 生II	3 ~ 5	②3溶血検体でのご依頼は避けて 28下さい。(溶血の場合、データが低値傾向となります。) ⊗8	
	2195	骨型アルカリフォスファ ターゼ (BAP)	血液 3.0 血清 0.8	冷	CLEIA	μg/L M 3.7~20.9 F (閉経前) 2.9~14.5 (閉経後) 3.8~22.6	157 生II	2		
	3114	ucオステオカルシン	血液 2.0 血清 0.5	凍	ECLIA	ng/mL 4.50未満	154 生I	3 ~ 5	溶血でのご依頼は避けて下さ い。	

● 1:「オステオカルシン」「NTX」「DPD」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定できます。● 2: 原発性副甲状腺機能亢進症、あるいは癌の骨転移の診断・治療効果判定指標としての「同名」の各検査項目(項目コード: 2386、2378)とは取り扱いが異なります。骨粗鬆症の検査としてご利用の場合、依頼書上に本欄に記載されている項目コードを明記して下さい。

🔒 3: 「BAP」「IntactP I NP」「ALPアイソザイム (PAG電気泳動法)」および「total P I NP」のうち2項目以上を併せて実施した場合は主たるもののみ算定できます。

[NTX(骨粗鬆症)]

[DPD(骨粗鬆症)]

判定基準(nmol BCE/mmol Cr)

骨量低下リスクのカットオフ値:35.3 骨折リスクのカットオフ値:54.3

判定基準(nmol/mmol Cr)

骨量低下リスクのカットオフ値:5.9 骨折リスクのカットオフ値:7.6

	⊐− KNa.	検査項	目	採取量(mL) ^{速心} 提出量(mL)		保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
副	3748	25-0Hビタミン [くる病骨軟化	ס	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL	117 生 I	1	ビタミンD欠乏20以下 溶血により正の誤差を生じる 場合があります。	3ヶ月
甲状	3937	25-0Hビタミン [(骨粗鬆症)	D	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL	117 生 I	1 5 2	ビタミンD欠乏20未満 溶血により正の誤差を生じる 場合があります。	3 ヶ月
腺	1863	1,25-(OH)₂ビタミ	ミンロ	血液 2.0 血清 0.6	01	冷	RIA (二抗体法)	成人 20.0~60.0 小児 20.0~70.0	388 生 I	4 5 8	8 8	
副	550	カテコールアミン		血液 4.C EDTA血漿 1.5	Į.	凍	LIDIO	pg/mL アドレナリン (A) 100以下 ノルアドレナリン (NA) 100~450 ドーバミン (DA) 20以下	161 生II	4	®8	1ヶ月
腎髄	549	(CA-3F-P 血漿) (CA-3F-H 尿)		酸性蓄尿 2.0	28	冷	HPLC	μg/day アドレナリン (A) 3.4~26.9 ノルアドレナリン (NA) 48.6~168.4 ドーパミン (DA) 365.0~961.5	161	6	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出下さい。 酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れて下さい。	28
質	1526	遊離カテコールア 3分画(尿中) (遊離CA-3F)	プミン	酸性蓄尿 1.0	28	冷	HPLC	μg/day アドレナリン (A) 0.6~14.1 ノルアドレナリン (NA) 9.7~41.4 ドーバミン (DA) 120~310	生Ⅱ	4 5	(第1) 実施料は「カテコールアミン 分画」として一連の算定にな ります。 (多2)	自
交感	544	メタネフリン2分	画	酸性蓄尿 2.0	28	冷	LC-MS/MS	mg/day メタネフリン (MN) 0.04~0.19 ノルメタネフリン (NMN) 0.09~0.33	220 生II	4 5 6	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を 24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出下さい。 酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れて下さい。 メタネフリン線(mg/day)も報告します。 ⑧ 8	$ \sqcup $
神経	117	バニリルマンデル酸	定性	尿 5.0		~	試験管法	(-)	9 尿便	1		
· 中	3772	(VMA)	定量	酸性蓄尿 1.0		冷	LC-MS/MS	mg/day 1.4~4.9	90 生II	4 5	(注) バニリルマンデル酸濃度もご報告致します。 (※)2	週
枢神	3773	ホモバニリン酸 (HVA)		酸性蓄尿 1.0	28	冷	LC-MS/MS	mg/day 1.6~5.5	69 生II	4 5 5	③ 1 ホモバニリン酸濃度もご報告 致します。⑥2	週
経	540	ドーパミン(総)		血液 5.C EDTA血漿 2.C	1	凍	HPLC	ng/mL 0.5~6.2	_	7 { 12	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 ⑧2	

^{(3) □ 1: 6}mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後尿量測定の上、所定量をご提出下さい。

		⊐— KNa.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
三田臣「周月后」	削爭迶宣	547	セロトニン (5-HT)	EDTA加血液 O.6	15	凍	LC-MS/MS	ng/mL 52.8~200		4	必ず専用検体としてご提出下さい。ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。	
・交感神経	之茲申圣	2377		EDTA加加液 2.0 多血小板血漿 (PRP) 0.6	15 ↓ 02	冰	LO IVIO/IVIO	ng/mL 623以下		10	採血後、4℃、900rpm、 20分間遠心分離によりPRP を採取して下さい。 ◎2	
一村本糸	中区申圣	3774	5-ハイドロキシ インドール酢酸 (5-HIAA)	酸性蓄尿 1.0	28	冷	LC-MS/MS	^{mg/day} 0.6∼4.1	95 生II	4 5	② 1 5-HIAA濃度もご報告致します。 ◎2	4 週
		552	レニン活性 (PRA)	血液 2.0 EDTALL 0.7	15 ↓ 02	凍	EIA	ng/mL/h 臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1	100 生II	4 6	⊕ 2, 3 ® 8	14 日
冒	习	1593	レニン濃度 (ARC)	血液 2.0 EDTALL 0.5	15 ↓ 02	凍	CLEIA	pg/mL 2.21~39.5	102 生II	3 ~ 5	⊕ 2, 4 ® 8	21 日
	到	4493	アルドステロン/レニン 濃度比	血液 2.5 EDTAL版 1.0	15 ↓ 02	凍	CLEIA	濃度比 20未満 pg/mL アルドステロン 4.0〜82.1 レニン濃度 2.21〜39.5	122+102 生Ⅱ	3 ~ 5	母4,5,6 基準値は日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。 ⊗8	21 日
	复复	4494	アルドステロン/レニン 活性比	血液 3.0 EDTAL版 1.2	15 ↓ 02	凍	アルドステロン: CLEIA レニン活性: EIA	活性比 100未満 別ドプログ 4,0~82.1 pg/mL ルン活性 臥位 0.2~2.3 gml/m 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1	122+100 生Ⅱ	4 6	(3,5,6 基準値は日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。 ⊗8	14 日
		662	アンギオテンシンI 転換酵素 (ACE)	血液 3.0 血清 0.7	01	冷	笠原法	8.3~21.4	136 生 I	3~5	EDTA血漿は測定不能となり ます。 ®8	

- (ᡱ】: 6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後尿量測定の上、 所定量をご提出下さい。

- 所定量をご提出下さい。
 ②2:「レニン活性(PRA)」と「レニン濃度(ARC)」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみになります。
 ③3:「552 レニン活性」、「4494 アルドステロン/レニン活性比」と同時依頼はできません。
 ③4:「1593 レニン濃度」、「4493 アルドステロン/レニン濃度比」と同時依頼はできません。
 ③5:「551 アルドステロン」、「4493 アルドステロン/レニン濃度比」、「4494 アルドステロン/レニン活性」は同時依頼できません。
 ③6:陽性判定は濃度比≧40または活性比≧200かつ血漿アルドステロン濃度≧60pg/mLです。ただし、「ARR境界域」の濃度比20~40未満または活性比100~200未満かつ血漿アルドステロン濃度≧60pg/mLの場合には、暫定的に陽性とされます。暫定的に陽性の場合、患者ニーズと臨床所見、特に低カリウム血症や副腎腫瘍の有無、年齢などを考慮して、機能確認検査実施の要否を個別に検討する、とされています。

	⊐- FNo.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	555	コルチゾール	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	μg/dL 午前:4.1~19.2	121 生I	1	EDTA血漿も検査可。	3 ヶ 月
腎	536	尿中コルチゾール	蓄尿 5.0	28	冷	CLIA	μg/day 4.3~176	121 生II	3 { 7	非抱合型コルチゾールの測定 となります。 酸性蓄尿は不可。 ⑧8	21日
副	551	アルドステロン	血液 2.0 EDTA雌 0.5		凍	CLEIA	pg/mL 4.0~82.1	122 生I	3 \ 5	(注) 血清も検査可。 (※8)	21日
腎皮	559	לם לאיוער	蓄尿 2.0		/木	CLEIA	μg/day 1.0~19.3	122 生II	4 5 6	⊕2 ® 2	
質	556	11-ハイドロキシ コルチコステロイド (11-OHCS)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	蛍光法 (De Moor変法)	μg/dL (午前10時採血) 7.0~23.0	60 生II	3 \ 9	88	
	483	デハイドロエピアンドロ ステロンサルフェート (DHEA-S)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLEIA	μg/dL 47頁参照	164 生II	3 ~ 5	年齢・性別を明記して下さい。 ⑧8	

② 1: 「551 アルドステロン」、「4493 アルドステロン/レニン濃度比」、「4494 アルドステロン/レニン活性」は同時依頼できません。③ 2: 蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。(塩酸およびC-ペプチド安定化剤は使用しないで下さい。)検体提出時は凍結してご提出下さい。

	⊐-FNo.	検査項目	採取量(mL) 名 提出量(mL) 名	[[季	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備 考 ***
	728	プレグナンジオール (P ₂)	蓄尿 2.0 2	8 冷	LC-MS/MS	mg/day 47頁参照	213 生II	6	蓄尿時は冷暗所に保管して下 さい。(保存剤による影響は ありません) ®2
	729	プレグナントリオール (P3)	蓄尿 2.0 2	8 冷	LC-MS/MS	mg/day 47頁参照	232 生I	6	蓄尿時は冷暗所に保管して下 さい。(保存剤による影響は ありません) ®2
性腺	561	テストステロン	血液 2.0 血清 0.4	1 冷	ECLIA	M 1.31~8.71 F 0.11~0.47	119 生II	3 \ 5	性別を明記して下さい。 ⑧8
	1752	遊離テストステロン	血液 1.0 血清 0.3	1 凍	RIA チューブ固相法	pg/mL 47頁参照	159 生II	3 6	午前中(9~12時)に採血 して下さい。性別・年齢を必 すご記入下さい。
	566	プロゲステロン	血液 2.0 血清 0.5	1 冷	ECLIA	ng/mL 47頁参照	143 生II	3 < 5	性別を明記して下さい。 妊婦の場合は、妊娠週数を 明記して下さい。 ⑧8
	564	エストラジオール (E ₂)	血液 2.0 血清 0.5	1 冷	CLEIA	pg/mL 47頁参照	167 生II	1	妊婦の有無、妊娠週数を必ず 明記して下さい。
	3122	抗ミューラー管ホルモン (AMH)	血液 2.0 ^{遠心} 0 血清 0.5	1 冷	CLEIA	ng/mL 47頁参照	597 生I	3	21 日 ⑧8

	⊐-FNa	検 査 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	568	ヒト絨毛性ゴナドトロピン	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	FEIA	mlU/mL 47頁参照	130 生II	3 \	妊娠の有無、妊娠週数を必ず ご記入下さい。	12 调
胎	569	(HCG)	尿 0.4	28				130 生II	4	\$2	
盤	2325	子宮頸管粘液中顆粒球 エラスターゼ	子宮頸管粘液	93	凍	LA (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL 1.60以下	116	3 4	⊕ 1	12 週
	2155	頸管膣分泌液中癌胎児性 フィブロネクチン	頸管膣分泌液	94	凍	EIA	陰性(一)	204 免疫	3 ~ 5	⊕1,2,3 ⊛2	4週
	571	インスリン (IRI)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	μIU/mL (空腹時負荷前) 1.1~9.0	100 生II	2 \ 3	溶血不可	1ヶ月
膵・	4177	インスリン抗体	血液 1.0	01	冷	RIA	U/mL 0.4未満	107 免疫	4 5 7		
消化	2151	抗GAD抗体	血液 1.0	01	冷	ELISA	U/mL 5.0未満	134 生II	3 ~ 5		
管	2785	抗IA-2抗体	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	EIA	U/mL 0.6未満	213 生II	4 5 10	<u></u> \$2	
	573	C-ペプタイド・負荷 (CPR-フカ)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL (空腹時負荷前) 0.61~2.09	[900]	1		3 ヶ 月

② 1:検体採取は膣洗浄前に行って下さい。必ず専用の採取器具を用い、抽出・濾過検体をご提出下さい。 ② 2:検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないで下さい。 ③ 3:検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

	⊐— FNa.	検査項目	採取量(mL) 容 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	586		血液 1.5 01 01 01			ng/mL (空腹時負荷前) 0.61~2.09	105		® ⊕5	
膵	577	C-ペプタイド (CPR)	尿 1.0	冷	CLEIA	μg/L	4- 11	1 5 2		3 ヶ 月
消化	1227		蓄尿 1.0			μg/day 29.2~167.0	生Ⅱ		® ⊕3,5	
管	3850	膵グルカゴン	血液 2.0 08	凍	ELISA	^{pg/mL} 空腹時 5.4~55.0	150 生II	6 } 12	指定の容器に採血し、よく混 和させ、低温(4℃)で血漿 分離し、直ちに凍結保存して 下さい。 ⑧8	28日
	4090	ガストリン	血液 2.0 血清 0.5	凍	RIA PEG法	pmol/L 11.9~46.9	101 生II	3 { 7	安静、空腹時(10時間以上空ける)に採血して下さい。血清分離後、速やかに凍結して下さい。 ⑧8	21日
	1414	hANP (ヒト心房性Na利尿ポリペプチド)	血液 2.0 08 ↓	凍	FEIA	pg/mL 43.0以下	221 生I	2 \ 3		3ヶ月
	1878	BNP (脳性Na利尿ポリペプチド)	血液 1.5 15 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	凍	CLEIA	pg/mL 18.4以下	130 生II	2 \ 3		
	3112	ヒト脳性Na利尿ペプチド 前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	血液 1.5 [」] 01 血清 0.5	冷	CLIA	pg/mL 125以下	136 生II	1 5 2		
そ	596	エリスロポエチン (EPO)	血液 3.0 0.1 血清 0.8	冷	CLEIA	mIU/mL 4.2∼23.7	209 生I	3		28日
での他	1669	肝細胞増殖因子 (HGF)	血液 1.0 血清 0.3	凍	EIA	ng/mL 0.39以下	227 生 I	3 < 9	<u></u>	
ie.	594	サイクリックAMP	血液 2.0 15 ■		RIA	pmol/mL 6.4~20.8	165 生I	5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 82	12
	1509	(c-AMP)	蓄尿 1.0 28	凍	(DCC法)	μmol/day 3.3~6.1	165 生I	11	塩酸蓄尿も検査可。●2	週
	1485	ヒスタミン	血液 1.0 15 EDTAL 0.3 02	凍	EIA	ng/mL 0.15~1.23	_	15 \(\) 22	必ず血漿分離の上ご提出下さい。血清は 検査不可。採血後20分以内に4~10℃ 900×gで10分間遠心分離して下さい。 血漿の上部を所定量ご提出下さい。 ⑧2	
	2858	アディポネクチン	血液 2.0 血清 0.4	冷	LA (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL 4.0以上	_	3 6	<u></u>	

基準値一覧

[ソマトメジン-C]

	<u> </u>	男!	生 (ng/mL)			女 性 (ng/mL)							
年齢 (歳)	-2SD~+2SD	年齢 (歳)	-2SD~+2SD	年齢 (歳)	-2SD~+2SD	年齢 (歳)	-2SD~+2SD	年齢 (歳)	-2SD~+2SD	年齢 (歳)	-2SD~+2SD		
0	11~149	26	119~329	52	86~242	0	15~154	26	146~336	52	78~213		
1	14~148	27	116~322	53	85~240	1	23~186	27	141~328	53	77~212		
2	18~154	28	114~315	54	84~239	2	32~213	28	137~320	54	76~211		
3	24~164	29	111~309	55	84~238	3	40~227	29	133~312	55	75~210		
4	32~176	30	109~303	56	83~237	4	48~238	30	129~304	56	74~208		
5	44~193	31	107~297	57	82~236	5	56~252	31	126~297	57	73~207		
6	55~215	32	105~292	58	81~235	6	69~287	32	122~290	58	72~205		
7	63~247	33	103~287	59	80~233	7	89~357	33	119~283	59	71~203		
8	72~292	34	102~283	60	79~232	8	111~438	34	115~277	60	70~201		
9	84~350	35	100~279	61	77~230	9	133~517	35	112~271	61	69~198		
10	99~423	36	99~275	62	76~228	10	155~588	36	109~265	62	68~196		
11	113~499	37	97~272	63	75~226	11	175~638	37	106~260	63	66~194		
12	125~557	38	96~269	64	73~224	12	188~654	38	103~254	64	65~191		
13	133~579	39	95~266	65	72~221	13	193~643	39	100~250	65	64~188		
14	138~570	40	94~263	66	70~219	14	193~625	40	98~245	66	62~186		
15	141~552	41	94~261	67	68~216	15	192~614	41	95~240	67	61~183		
16	142~543	42	93~259	68	66~213	16	192~611	42	93~236	68	60~180		
17	142~540	43	92~257	69	65~209	17	191~599	43	90~233	69	59~177		
18	142~526	44	92~255	70	63~206	18	188~574	44	88~229	70	57~175		
19	143~501	45	91~253	71	61~202	19	182~539	45	87~226	71	56~172		
20	142~470	46	90~250	72	58~198	20	175~499	46	85~224	72	55~170		
21	139~436	47	90~250	73	56~194	21	168~459	47	83~221	73	54~167		
22	135~405	48	89~248	74	54~190	22	161~425	48	82~219	74	53~165		
23	131~379	49	88~246	75	52~185	23	155~397	49	81~218	75	52~163		
24	128~356	50	87~245	76	50~181	24	151~375	50	80~216	76	50~160		
25	125~337	51	87~243	77	48~177	25	147~358	51	79~215	77	49~158		

[LH/FSH基準値]

		LH(mIU/mL)	FSH(mIU/mL)			
	成人男性	1.24~ 8.62	1.27~ 19.26			
女	卵胞期	2.12~ 10.89	3.85~ 8.78			
	排卵期	19.18~103.03	4.54~ 22.51			
性	黄体期	1.20~ 12.86	1.79~ 5.12			
	閉経女性	10.87~ 58.64	16.74~113.59			

[DHEA-S]

年 齢	男性(μg/dL)	女性(µg/dL)
18~20歳	24~537	51~321
21~30歳	85~690	18~391
31~40歳	106~464	23~266
41~50歳	70~495	19~231
51~60歳	38~313	8~188
61~70歳	24~244	12~133
71歳~	5~253	7~177

$[P_2/P_3]$

		P2 (mg/day)	P₃ (mg/day)
	男 性	0.12~0.93	0.25~1.48
女	卵胞期	0.16~1.28	0.07~1.24
	黄体期	0.69~4.70	0.25~1.58
性	閉経後	1.00以下	1.00以下

[プロゲステロン]

1	na/m	ı

			(119/1112
	男	性	0.22 以下
		卵胞期	0.28 以下
+	性	排卵期	5.69 以下
女	Ί±	黄体期	2.05~24.2
		閉経後	0.33 以下
		初期(4~13週)	13.0~51.8
妊	婦	中期(14~27週)	24.3~82.0
		後期(28~38週)	63.5~174

[遊離テストステロン]

CYTINE A A A I A A				
年 齢	男性(pg/mL)	女性(pg/mL)		
20~29歳	7.6~23.8	0.4~2.3		
30~39歳	6.5~17.7	0.6~2.5		
40~49歳	4.7~21.6	0.3~1.8		
50~59歳	4.6~19.6	0.8~1.7		
60~69歳	5.3~11.5	0.8~1.7 (50歳以上)		
70歳以上	4.6~16.9	(30/)(0,0)(1)		

[エストラジオール(E₂)] (pg/mL)

	男 性	15~32
	卵胞期前期(初期)	22~115
非	卵胞期中期	25~115
媫	排卵ピーク	32~517
非妊娠女性	黄体期中期	37~246
	閉経後女性	25以下
	133232 1	

[抗ミューラー管ホルモン(AMH)] (ng/mL)

	22~25歳	0.28~8.01
女	26~30歳	0.29~12.2
	31~35歳	0.07~10.0
性	36~40歳	9.23以下
	41~45歳	4.48以下

[HCG]

T. I.			
		血清(mIU/mL)	尿(mIU/mL)
	男性	1.0 以下	2.5 以下
女	性(非妊婦)	1.0 以下	2.5 以下
	~ 6 週	4,700~ 87,200	1,100~ 62,600
妊	7 ~10週	6,700~202,000	1,800~191,000
婦	11~20週	13,800~ 68,300	3,100~125,000
	21~40週	4,700~ 65,300	1,400~ 29,400

腫瘍関連検査

	⊐-FNo.	検査項目	採取量(mL) 容 湿心 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	621	AFP (αフェトプロテイン)	血液 1.5 ^{遠心} 0.1 血清 0.5	冷	CLEIA	ng/mL 10以下	98 生II	1		3 ヶ 月
	2198	AFPレクチン分画 (AFP-L3%)	血液 2.0 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	冷	LBA (LBA-EATA)	L3分画 10.0未満	185 生I	4 5 5	\$2	3 週
	622	癌胎児性抗原 (CEA)	血液 1.5 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	冷	CLEIA	ng/mL 5.0以下	99 生II	1		3 ケ 月
	886	DUPAN-2	血液 2.0 ^{遠心} 0.1 血清 0.4	冷	EIA	U/mL 150以下	115 生I	3 \ 5	®8	
	578	エラスターゼ1	血液 2.0 ^{」 (0.1} 血清 0.5	凍	ラテックス 免疫比濁法	ng/dL 300以下	120 生I	3		
腫瘍	580	CA19-9	血液 1.5 ^(w) 0.1 血清 0.5	冷	CLEIA	U/mL 37以下	121 生I	1	1	3ヶ月
関連	579	CA125	血液 1.5 ^(w) 0.1 血清 0.5	冷	CLEIA	U/mL 35.0以下	136 生II	1		3ヶ月
検査	3831	HE4 (ヒト精巣上皮蛋白4)	血液 1.0 ^{遠心} 0.3	冷	CLIA	pmol/L F (閉経前) 70.0以下 (閉経後) 140以下	200 生II	4 5 6	日本人卵巣癌患者における病態 の経過観察としてのカットオフ 値:70.0pmol/L以下(閉経前、 閉経後) <u></u> ⑧2	14 日
	1471	CA72-4	血液 2.0 血清 0.5	冷	ECLIA	U/mL 10.0以下	146 生II	3 < 5	® 8	
	587	CA15-3	血液 1.5 ^(達) 0.1 血清 0.5	冷	CLEIA	U/mL 28.0以下	112 生I	1		3ヶ月
	1236	SPan-1抗原	血液 1.0	冷	RIA固相法 (IRMA)	U/mL 30以下	144 生II	3 ~ 5	® 8	
	1225	シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)	血液 1.0 適心 01 血清 0.3	冷	RIA固相法 (IRMA)	U/mL 38以下	140 生II	3 \ 5	溶血検体でのご依頼は避けて 下さい。 ®8	
	2159	ガストリン放出ペプチド 前駆体 (Pro GRP)	血液 2.0 15 BOTAL 0.4 02	凍	CLEIA	pg/mL 81.0未満	175 生II	3 \ 5	88	

⁽金) 1:本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際は、検体の取り扱いには十分ご注意下さい。「腫瘍部位とマーカーの有用性」と「検体検査実施料」および「悪性腫瘍特異物質治療管理料」は50、51、52頁をご参照下さい。

腫瘍関連検査

	⊐- FNa	検査項目	採取量(mL) 遠心 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	620	SCC抗原	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL 2.5以下	101 生II] } 2	(♣) 1	3 ヶ 月
	1868	シフラ (サイトケラチン19フラグ メント)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL 3.5以下	154 生II	1 5 2		
	812	γ-セミノプロテイン (γ-sm)	血液 2.0 血清 0.5	01	凍	CLEIA	ng/mL 4.0以下	192 生I	3 5	(基準値について) 4.0ng/ mLは良性疾患との鑑別値で す。	
	863	PSA (前立腺特異抗原)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL 4.000以下	121] } 2	前立腺癌診断のcut-off値と しては、"10.0ng/mL"が 推奨されます。	3 ケ
	1235	PSA (タンデム)	血液 1.5 血清 0.5	01	נול	CLEIA	ng/mL 4.000以下	生Ⅱ	1 5 2		- 月
腫瘍	2561	PSA-F/T比	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	25%以上	150 生II	1 5 2	PSAタンデムとフリーPSA の測定値も併せてご報告いた します。	
関連	825	NSE (神経特異エノラーゼ)	血液 1.5 血清 0.4	01	冷	ECLIA	ng/mL 16.3以下	142 生II] } 2	溶血検体では、NSE値は上 昇するため、避けて下さい。	3ヶ月
検査	1267	PIVKA-II	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	mAU/mL 40未満	131 生II	1 5 2	EDTA2Naも検査可。	
	471	NCC-ST-439	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	EIA	M 4.5未満 F 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満	112 生I	3 5	88	
	1244	塩基性フェトプロテイン (BFP)	血液 1.0 血清 0.3	1	冷	EIA	ng/mL 75未満	150 生II	3 \ 9		
	3100	血清抗p53抗体	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	CLEIA	U/mL 1.30以下	163 生II	3 { 4	<u></u>] 週
	1595	BCA225	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	CLEIA	U/mL 160.0未満	158 生I	3 \ \ 4	<u></u>	3週
	1563	<mark>シアリルTn抗原</mark> (STN)	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	RIA固相法	U/mL 45以下	146 生II	3	88	

^{● 1:}本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際は、検体の取り扱いには十分ご注意下さい。● 2:採血後2時間以内に血清分離して下さい。

腫瘍関連検査

	J- FM	検査項目	採取量(mL) _{遠心} 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	511	遊離HCG-β (HCG-βサブユニット)	血液 1.0 ・ 適応 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	01	冷	CLIA	ng/mL 1.00未満	129 生II	3	(∄] (⊛ 8)	21 日
腫		I型コラーゲン- C-テロペプチド (I型-CTP)	血液 1.0 ・	01	冷	RIA2抗体法	ng/mL 4.5未満	[360]	3 5	⊕ 2 ® 8	
瘍関	2378	デオキシピリジノリン (DPD)	尿 3.0	28	冷	EIA	nmol/mmol Cr M 2.1~5.4 F 2.8~7.6	191 生II	3 5	●3午前中の第二尿をご提出下さい。●8	
連検・	2386	I型コラーゲン架橋N- テロペプチド	尿 3.0	28	冷	CLEIA	nmol BCE/mmol Cr 参考値 M 13.0~66.2 F (閉経前) 9.3~54.3 (閉経後) 14.3~89.0	156	3 \	(⇒3) 午前中の第二尿をご提出下さい。血尿でのご提出は避けて	
查		(NTX)					骨吸収亢進の指標 55以上 副甲状腺摘出術の適応 200以上 悪性腫瘍の骨転移の指標 100以上	生Ⅱ	5	下さい。 <u>®8</u>	
	1793	膀胱組織抗原 (BTA)	尿 2.0	28	冷	ラテックス凝集法	陰性 (-)	[220]	4 5 6		2 日

:「HCG- β サブユニット」、「HCG定性」、「HCG」、「HCG半定量」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。

:「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ保険請求が認められます。

🔒 3:「腫瘍マーカー」として測定した場合は、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ保険請求が認められます。

「腫瘍部位とマーカーの有用性」と「検体検査実施料」および「悪性腫瘍特異物質治療管理料」は本ページ下および51、52頁を参照。

【悪性腫瘍特異物質治療管理料】

- 1)悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月 1回に限り算定する。
- 2)悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー 検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。
- 3)腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に添付又は記載する。
- 5)[D009]腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合は、1項目とみなして、本管理料を算定する。
- 6)当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査(本語知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。)を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。 (例)肝癌の診断が確定している患者でα-フェトプロテインを算定し、別に、「D008」内分泌学的検査を行った場合の算定
 - 悪性腫瘍特異物質治療管理料[ロ]の「(1)」 +「D008」内分泌学的検査の実施料
 - +「D026」の「5」生化学的検査(II)判断料
- 7)特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として 準用が通知された算定方法により算定する。

- 1)腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。悪性腫瘍の た。 診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理やに行った腫瘍マーカーの検査の費用は「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次 に掲げる場合においては、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
 - ア)急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために[8]のエラスターゼ1を行った場合
 - イ)肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、「2」のα-フェトプロテイン(AFP)、「10」のPIVKA-II半定量又は定量を行った場合(月1回に限る。)
 - ウ)子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「11」のCA125又は「27」のCA602を行った場合(診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。) 工)家族性大腸腺腫症の患者に対して「3」の癌胎児性抗原(CEA)を行った場合
- 2)「1」の尿中BTAは、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「B001」 特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。 3)[3]の癌胎児性抗原(CEA)と[7]のDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
- 3月3月3日2日は日本は日本の日本の日本は大学に関係していません。 3月3日により、19月3日は日本の日本により、19月3日には、19月 おいては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- 5)「11」のCA125及び「27」のCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。 6)上記1)にかかわらず、5)に掲げる項目について、1つを「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の項目とし、他の1つの検査を腫瘍マーカーの項目として算定す ることはできず、いずれか一方のみ算定する。 7)核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)又は定量(尿)
- ア)「12」の核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)及び核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)は、「D002」尿沈渣(鏡検法)により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患
- [B001]特定疾患治療管理料の[3]悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。
- 8)「12」の核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)又は核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)及び「21」のサイトケラチン8・18(尿)を同時に実施した場合は、いずれか -方の所定点数を算定する。
- 9)「17」の遊離型PSA比(PSA F/T比)は、診療及び他の検査(前立腺特異抗原(PSA)等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
- 10)「18」のサイトケラチン19フラグメント(シフラ)は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪 性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
- 11)サイトケラチン8・18(尿)
 - ア) [21] のサイトケラチン8・18(尿)は、「D002」尿沈渣(鏡検法)により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

腫瘍	部位	とマ-	ーカー	の有	用性							
	肺・	乳腺		消化管		朋	F・胆・	膵		性腺・	泌尿器	
項目名	肺癌	乳癌	食道癌	胃癌	大腸癌	肝癌	胆囊·胆道癌	膵癌	卵巣癌	子宮癌	腎·膀 胱癌	前立腺癌
CEA	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
BFP	0				0	0	0	0	0	0	0	0
AFP						0						
AFP-L3%						0						
PIVKA- Ⅱ						0						
エラスターゼ1								0				
CA19-9				0	0	0	0	0				
SPan-1				0	0	0	0	0				
DUPAN-2				0		0	0	0				
NCC-ST-439	0	0		0	0	0	0	0	0			
SLX	0					0	0	0	0			
CA125	0			0				0	0	0		
CA602									0	0		
HE4									0			
STN				0	0			0	0	0		
CA72-4				0	0			0	0	0		
CA54/61				0	0			0	0	0		
SCC抗原	0		0							0		
CYFRA(シフラ)	0											
NSE	0											
ProGRP	0											
CA15-3		0										
抗p53抗体		0	0		0							
BCA225		0										
HER2蛋白		0										
PSA												0
γ–Sm												0

イ)「21」のサイトケラチン8・18(尿)は、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

◎:特に有用性の高いもの

○:有用性を認められているもの

12)シアリルLeX抗原(CSLEX) ア)「「19」のシアリルLeX抗原(CSLEX)は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。

4項目以上 385点

イ) [19] のシアリルLe^X抗原(CSLEX)と[6] のCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

13)「22」の抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

1回に採取した検体を用いて2項目以上の検査を行った場合、項目数により次の点数になります。

- 14) [23] の「型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)、「D008] 内分泌学的検査の [25] の「型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX) 又は同区分 [39] のデオキシピリジノリン(DPD) (尿) は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、 [B001] 特定疾患治療管理料の[3] 悪性腫瘍特異物質治療管理料の[ロ] を算定する。
- 15)「24」のガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)を「14」の神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- 16)[26]のα-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。 17)[27]の組織因子経路インヒビター2(TFPI2)は、EIA法により測定した場合に算定できる。
- 18) 「29」のヒト精巣上体蛋白4(HE4)は、CLIA法又はECLIA法により測定した場合に算定できる。

3項目 290点

19)可溶性メソテリン関連ペプチド

2項目 230点

- ア) [30] の可溶性メソテリン関連ペプチドは、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実 施した場合に算定する。
- イ)本検査を悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療 報酬明細書の摘要欄に記載すること。
 - (イ)石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者
 - (口)体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者
- (ハ)画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者
- ウ)本検査を悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療 管理を行った場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
- 20)プロステートヘルスインデックス (phi) ア) [32]のプロステートヘルスインデックス (phi) は、診療及び他の検査(前立腺特異抗原 (PSA)等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者であって、以下の(イ)から (ハ)までのいずれかに該当する者に対して、CLEIA法により、前立腺特異抗原(PSA)、遊離型PSA及び[-2]proPSAを測定し、プロステートヘルスインデックス(phi)を算出した場合 に限り算定する。
 - (イ)前立腺特異抗原(PSA)値が4.0ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下
 - (ロ)50歳以上65歳未満であって、前立腺特異抗原(PSA)値が3.0ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下
 - (ハ)65歳以上70歳未満であって、前立腺特異抗原(PSA)値3.5ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下
 - イ)ア)に該当する患者に対して、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に、原則として1回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。
 - ウ) 「9」の前立腺特異抗原(PSA)を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

 - エ) [17] の遊離型PSA比(PSA F/T比)を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。 オ)本検査を算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原(PSA)の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を2回以上算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄にその必要性を記載すること。
- 21) 「33」の癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)又は同半定量(乳頭分泌液)は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘤性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中の癌胎児性抗原(CEA)を測定した 場合に算定する。
- 22)「34」のHER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌 24月3月37日に登山は、近日は海が山にほどの日には、アイドに区国口圏対策が、1980年1日である。日には国口圏対策が、1980年1日では、日に国口圏対策が、1980年1日では、日に国口圏対策が、1980年1日では、1980年1日に、19
- 非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経週観察のために測定した場合は、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の 「ロ」により算定する。
- 24)「注2」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と「33」の癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)又は同半定量(乳頭分泌液)を同一日に行った場合にも、適用する。

給休給杏宝協判と亜性腫疸性異物質治療管理判

	悪性腫瘍が	強く疑われる患者	悪性腫瘍であると既に診断が確定した患者
	検体	検査実施料	悪性腫瘍特異物質治療管理料
尿中BTA *1	(80点)		220点
α-フエトプロテイン(AFP)	98点		
癌胎児性抗原(CEA)	99点		
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	101点		
組織ポリペプタイド抗原(TPA)	110点		
NCC-ST-439	110-		
CA15-3	112点		
DUPAN-2	115点		
エラスターゼ1	120点		
前立腺特異抗原(PSA) CA19-9	121点		
PIVKA-II 半定量 PIVKA-II 定量	131点		
CA125	136点		
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)*2 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)*2	139点		
シアリルLe ^x ーi抗原 (SLX)	140点		
神経特異エノラーゼ(NSE)	142点		
SPan-1	144点		
CA72-4 シアリルTn抗原(STN)	146点		
塩基性フェトプロテイン(BFP) 遊離型PSA比(PSA F/T比)	150点	2項目 230点 3項目 290点	1 項目 360点 2 項目以上 400点
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	154点	4項目以上 385点	
シアリルLe ^x 抗原(CSLEX)	156点		初回月加算 150点
BCA225	158点		当該初回月の前月に腫瘍マーカー
サイトケラチン8・18 (尿) *2	160点		検査実施料の所定点数を算定して
抗p53抗体	163点		いる場合は、当該初回月加算は算 定できない。
I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)*1	170点		20000
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	175点		
CA54/61	184点		
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	185点		
CA602 組織因子経路インヒビター2(TFPI2)	190点		
γ ーセミノプロテイン(γ ーSm)	192点		
ヒト精巣上皮蛋白4 (HE4)	200点		
可溶性メソテリン関連ペプチド	220点		
S2,3PSA%	248点		
プロステートヘルスインデックス(phi)	281点		
癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液) 癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)	305点		
HER2蛋白*1	320点		
アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム	335点		
可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	438点		
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b) I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX) デオキシピリジノリン(DPD) (尿)			

- [注]*1:「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ算定。
 - *2:「検体検査実施料」としてのみ算定。

25)S2,3PSA%

- ア)「31」のS2、3PSA%は、前立腺癌であることが強く疑われる者であって、前立腺特異抗原(PSA)の結果が、4.0ng/mL以上10.0ng/mL以下である者に対して、LBA法(定量)により、 S2.3PSA%を測定した場合に限り算定できる。
- イ)本検査は、前立腺癌の診断に当たって実施した場合に、原則として1回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月 に1回限り、3回を限度として算定できる。
- ウ) S2, 3PSA%と、本区分の[9]前立腺特異抗原 (PSA)、[17]遊離型PSA比 (PSA F/T比)又は[32]プロステートヘルスインデックス (phi)を併せて実施した場合には、いずれか主た るもののみ質定する。
- 工)診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原(PSA)の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を2回以上算定する場合は、本検査の2回以上の実施が必要と判断し た医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- た医子が死死を必須来は明明が過音が過去。ことで、26)アポリポ蛋白名(APOA2)アイソフォームア)「35」のアポリポ蛋白名(APOA2)アイソフォームは、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体としてELISA法によりア)「35」のアポリポ蛋白名(APOA2)アイソフォームは、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体としてELISA法により測定した場合に、膵癌の診断の確定までの間に原則として1回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と 判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること
 - (イ)関連学会が定める指針に基づき膵癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上で ある場合には、本検査は算定できない。
 - (ロ)関連学会が定める指針に基づき膵癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下 の患者。
 - (ハ)関連学会が定める指針に基づき膵癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。
 - イ)アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォームと、本区分の[3]癌胎児性抗原(CEA)、[7]DUPAN-2又は[15]SPan-1を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
 - ウ)本検査をア)の(イ)に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、ア)の(ロ)及び(ハ)に対して実施する場合は癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9の測定年月日並 びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

	⊐- KN	検査項目	採取量(mL) 容 保存方 提出量(mL) 器 法	検査方法	基準値(単位) (最低希釈倍率)	実施料 判断料	所要日数	備	考	検体の安定性
	617	単純ヘルペス	血液 1.0 01	CF	血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		-88	3
7	618	水痘带状疱疹	血液 1.0 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		®8	3
ار ال	403	サイトメガロ (CMV)	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4 02	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		88	3
フ 打	404	アデノ	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4 02	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		88	3
12 0	405	インフルエンザA型	血液 1.0 01	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7			3
村出	400	インフルエンザB型	血液 1.0 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		- 8	3
C		RS	血液 1.0 01 01 cm	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		88	3
.)		ムンプス	血液 1.0 01 血清 0.3 髄液 0.4 02	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 <u>免疫</u>	5 7			3
	412	日本脳炎	血液 1.0 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01	CF	倍 血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	5 7		88	3

ウイルス抗体検出 (CF, HI, NT, FAT) 検査の留意点

【検査結果の解釈】

急性期(発病初期)と回復期(発病2~3週間後)の血清を同時に測定し、抗体価が4倍以上の上昇を示した場合、血清学的に有意と見なします。 従って、急性期と回復期の血清をベアにしてご依頼いただくことをお勧め致します。 なお、ベア血清をご提出の際は、1 依頼書で1 検体とし、それぞれの依頼書には必ず採血日を記入して下さい。

【検査実施料の算定】

- 1) 同一ウイルスに対して複数の測定方法を行った場合でも、所定点数は1回分として算定されます。 2) 同一検体を用いて特定のウイルスの個々の群または型について測定を行った場合でも、所定点数は1回分として算定されます。 3) 同一検体について複数のウイルス抗体価を測定した場合、検査実施料の算定は8項目が限度となります。

	⊐-FNa	柯	き 査 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位) (最低希釈倍率)	実施料 判断料	所要日数	備	考	検体の安定性
ウ	417	コク	サッキーA群9型					倍	79				
イル	418		1型						/9				
が	419	コク	2型	血液 各1.0	01			加速 4 未进		5			
イルス抗体の検出	420	コクサッキー	3型	血清 各0.3		冷	CF	血清 4未満 髄液 1未満	免疫	5 7			
	421	I B 群	4型	髄液 各0.4	02				, , , ,				
(OF)	422	群	5型										
	423		6型									(⊛8
	2782	イン	フルエンザA型	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	. ~		倍 血清 10未満	79 + 79	4	1		
ウ	2783	イン	フルエンザB型	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01	沞	HI	髄液 10未満	免疫	6	53頁参照	(
イ ル	785	パラィ	1型 (HA-2)	血液 各1.0					各79				
ルス	786	パラインフルエンザ	2型 (CA)	血清 各0.3	01	冷	HI	血清 10倍 髄液 10倍未満	<u> </u>	4 6	53頁参照		4 週
抗	787	シザ	3型 (HA-1)	髄液 各0.4	02				免疫			(⊛2
体の	615	ムン	プス	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	冷	Н	倍 血清 8未満 髄液 8未満	79 <u>免疫</u>	4 6	53頁参照	(®8
検出	4306	風疹	:	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	冷	Н	血清 8未満 髄液 1未満	79 免疫	4 6	53頁参照	(<u></u>
Щ	485		3型						79				
Н	486		7型	血液 各1.0	01	冷	HI	血清 8倍		4	53頁参照		4
1	487	于	11型	血清 各0.3 髄液 各0.4	02		П	髄液 原液	名 応	6	03貝参照		4 週
)	490		12型						免疫			(® 2
	449	日本	脳炎	血液 2.0 血清 0.5 髄液 1.0	01 02	ᄱ	НІ	血清 10未満 髄液 10未満	79 免疫	5 ~ 8	53頁参照	(8 8

1: '23年11月現在の測定株は次の通りです。
 A型: A/ビクトリア/4897/2022 (H1N1)、A/ダーウィン/9/2021 (H3N2)
 B型: B/ブーケット/3073/2013 (山形系統)、B/オーストリア/1359417/2021 (ビクトリア系統)

	⊐-FNa	検	查	項	目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位) (最低希釈倍率)	実施料 判断料	所要日数	備	考	検体の安定性
	430 431	単純ヘルペス	1型 2型			血液 各1.0 血清 各0.3 髄液 各0.4	01 02	ᄺ	NT	血清 4未満 髄液 1未満	79 免疫	7 } 13	<mark>建]</mark> 1型、2型間に があります。 53頁参照	は抗原交差性 ®8	
	434 435		1型			-				倍	Ĭ		(≥) 1		
	436		3型							血清 4未満		8			
ウ	437	アデ	4型 5型			血液 各1.0	01	冷	NT	髄液 1未満	79	8 21	53頁参照		
イル	439 440	5	6型 7型			血清 各0.3 髄液 各0.4	02		IVI		免疫				
ス	441		8型							血清 8未満 任 髄液 原液		10 \{ 15	注 153頁参照注 1	<u>\$8</u>	
抗体	442		11型							血清 4未満 髄液 1未満		8 5 21	53頁参照		
の検	444	RS				血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	ᄺ	NT	血清 4未満 髄液 1未満	79 <u>免疫</u>	8 } 12	3 □ 153頁参照	®8	
出()	445	ムン	プス			血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	ΛIJ	NT	血清 4未満 髄液 1未満	79 <u>免疫</u>	8 5 14	3 □ 153頁参照	® 8	
N T	446	ムンプス 麻疹			血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	ᄺ	NT	血清 4未満 髄液 1未満	79 <u>免疫</u>	8 } 12				
	751		4型							倍	3		1		
	752	그	6型								79				
	753	コクサッキー	7型			~	01	冷	NT	血清 4未満	79	8 5 21	53頁参照		
	754		9型			血清 各0.3 髄液 各0.4	02		IVI	髄液 1未満	免疫				
	755	A 群	10型								73/2	ρ			
	756		16型									8 5 14			

③ 1:中和試験の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますのでご了承下さい。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますのでご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

	⊐− FNo.	検	き査	項	目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位) (最低希釈倍率)	実施料 判断料		備	考	検体の安定性
	757		1型							倍	i		1		
	758	_	2型												
	759	クサッ	3型			血液 各1.0	01			血清 4未満	79	8			
	760	コクサッキーB	4型			血清 各0.3		沞	NT	髄液 1未満		8 5 14	53頁参照		
	761	B 群	5型			髄液 各0.4	02				免疫				
	762		6型												8
	763		1型								i		1		801
	764		3型									8 { 19			
ウ	765		4型									19			
1	766		5型									8			
ル	767		6型									8			
ス	768		7型									19			
抗	769	9型							8 5 12						
体	770								8						
の	771		12型								7.0	21			
検	772	-	13型			血液 各1.0	01	·^	NIT	血清 4未満	79	8 5 19			
出	773	1	14型			血清 各0.3 髄液 各0.4		市	NT	髄液 1未満		8	53頁参照		
	774		16型								免疫	6 \ 19			
N	775		17型									8 \ 19			
T	776		18型									6 5 19			
	777		19型												
	778		21型									8			
	779		22型*									21			
	780		24型												
	781		25型									8 \ 19			
	782		30型									19			®8
	783	エン	70型			血液 各1.0	01		NIT	倍 血清 4未満	i	7	1		
	784	エンテロ	71型			血清 各0.3 髄液 各0.4		冷	NT	髄液 1未満	_	20	53頁参照		⊚8

^{⊕ 1:}中和試験の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますのでご了承下さい。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますのでご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。
※パレコウイルス1型

	⊐− KNo.	柯	章 項	目	採取量(mL)	容品	保存方法	検査方法	基準値(単位) (最低希釈倍率)	実施料 判断料	所要日数	備考		検体の安定性
r r	472		VCA-IgG		提出量(mL)	器	法		(取以布朳) 倍	200	数			権
ウイルス抗体の検出	473	VCA-IgG VCA-IgA								<u>免疫</u> 79				
人抗体	475	Е	VCA-IgM		血液 各1.0	01			血清 10未満 髄液 1未満	<u>免疫</u> 200	4			
の検出	476	B V	EA-DR-IgG	;	血清 各0.3 髄液 各0.4		冷	FAT		免疫	6	53頁参照		
(FAT)	477		EA-DR-IgA	\						79 免疫				
Ţ	479		EBNA							79 免疫			®8	
	447	- 水痘帯状疱疹		IgG	血液 各1.0	01	\times	EIA	陰性 (−) EIA価 2.0未満	200	3	58頁参照 ®8		4週
	448			IgM	血清 各0.3	O I	/TJ		陰性 (−) index 0.80未満	免疫			⊛2	週
	1327			IgG 血液 各1.0				陰性 (-) EIA価 2.0未満	200	3			4	
ウィ	1326	風疹		IgM	血清 各0.3	01	冷	EIA	陰性 (-) index 0.80未満	免疫	3 ~ 6	58頁参照 		週
ルス	1395	- 麻疹		IgG	血液 各1.0	*	EIA	陰性 (-) EIA価 2.0未満	200	3 {			4	
抗体の	1396			IgM	血清 各0.3	01	冷	LIA	陰性 (-) index 0.80未満	免疫	6	58頁参照		4週
の検出	1417		: a III a° =7	IgG	血液 1.0 血清 0.3 髄液 0.3	01 02	×	EIA	陰性 (-) EIA価 血清: 2.0未満 髄液: 0.20未満	200	3 ~ 6	58頁参照		4
H (E	1418	半 舰	ヘルペス	IgM	血液 1.0 血清 0.3	01	冷		陰性 (-) index 0.80未満	免疫			®2	4 週
I A		lgG 血	血液 _ 各2.0	0.1	×		AU/mL 陰性 (-) 6.0未満	200	3					
		(CM		IgM	血清 各0.5	01	冷	CLIA	陰性 (-) index 0.85未満	免疫	5			
		IgG	血液 各1.0			陰性 (-) EIA価 2.0未満	200	3			Δ			
		ムン		IgM	血清 各0.3	01	冷	EIA	陰性 (-) index 0.80未満	免疫	6	58頁参照		4 週

	⊐— KNa.	検 査 項	目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗体の検出(E-A)	2385	ヒトパルボ ウイルスB19	lgG lgM	血液 各1.0 (本) 血清 各0.3	01	冷	EIA	陰性 (-) index 0.80未満	_ 200 免疫	4 { 10	下欄参照 紅斑が出現している15歳以 上の成人について感染が強く 疑われ、IgM型のウイルス抗 体価を測定した場合に算定で きます。	

ウイルス抗体検出(EIA)判定基準

判定		IgG測	則定値		lg	M測定值	対象項目名		
刊佐	血清		髄 液(※)		血清)		
陰 性(-) 判定保留(±) 陽 性(+)	EIA価	2.0 未満 2.0~3.9 4.0 以上	EIA価	0.20 未満 0.20~0.39 0.40 以上	index	0.80 未満 0.80~1.20 1.21 以上	水痘帯状疱疹、風疹、麻疹、単純ヘルペス、 ムンプス (※:髄液検体における判定基準は、「単純ヘルペス」に適用)		
陰 性(-) 判定保留(±) 陽 性(+)	index	0.80 未満 0.80~0.99 1.00 以上			index	0.80 未満 0.80~0.99 1.00 以上	ヒトパルボウイルスB19		

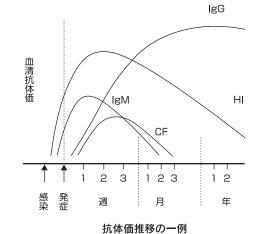
ウイルス抗体検査について

ウイルス抗体検査に関しては、ほとんどの人が抗体を保有しているものもあり、一律に「正常値」と表現することは適切ではない場合があります。抗体価は一般に感染の既往を表し、抗原系検査とは異なり現在感染状態にあると確定できない場合があります。検査結果が希釈倍率により報告される抗体検査は急性期と回復期(発症後2週間程度)に採取し

た検体(ペア血清)で、抗体価を比較して4倍以上の上昇が認められた場合に有意の感染があったと推定されます。また、単一血清で初感染か否かを診断するためにはIgM抗体を測定し、陽性の場合には感染後あまり時間が経過していないと推定されます。

【グロブリンクラス別抗体価測定の意義】

抗体	特 徵
IgG	感染後IgMに少し遅れて出現し、長期に亘り検出される。 胎盤通過性あり。
IgM	感染後早期に出現し、2~3ヶ月程度で消滅する。 胎盤通過性なし。



【主な検査方法の特徴】

検 査 法	測 定 原 理	特 徴			
CF(補体結合反応) Complement fixation test	抗原抗体複合物が補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に結合する性質を応用したもの。	・簡便である ・比較的早期に抗体価が上昇する ・型特異性に乏しい			
HI(赤血球凝集抑制試験) Hemagglutination inhibition test	ウイルスが動物の赤血球を凝集する性質を利用し、抗体が存 在した場合に赤血球凝集が抑制されることにより判定する。	・早期に抗体価が上昇する ・抗体が長期に亘り持続する ・型特異性がある			
NT(中和試験) Neutralization test	検体中に抗体が存在する場合、ウイルスを中和し細胞変性効果(CPE)が起こらないことを応用したもの。	・ウイルス特異性および型特異性が高い ・検査に時間を要する			
EIA(酵素抗体法) Enzyme Immunoassay	検体中に抗体が存在する場合、抗原と結合し、さらに酵素標 識抗体を反応させることで基質が発色し、その吸光度により 抗休価を判定するもの。	・グロブリンクラス別の測定が可能である ・IgM、IgG抗体を測定することにより初 感染または感染既往の推定ができる			

		アハナドスム								
	⊐- KNo.	検査項目	採取量(mL) 容 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料		備考	検体の安定性
	606	IgG·HA抗体	血液 2.0 © 01 血清 0.4	冷	CLIA	陰性(-)	146 免疫	3 ~ 5	●1 60頁参照 不活化(非働化)検体は判定 に影響を及ぼす場合がありま すので、避けて下さい。 _{⑧8}	
	607	IgM·HA抗体	血液 2.0 血液 0.1 血清 0.4	冷	CLIA	陰性(-)	146 免疫	3 ~ 5	(金) 160頁参照(金) 8	
	217		血液 1.5 血清 0.5		CLIA		29	1	意3定性結果のみのご報告となり	
	263	HBs抗原	血液 1.0	冷	IC	陰性 (-)	免疫	2	ます。 60頁参照	3 ヶ月
肝	601		血液 1.5 血清 0.5		CLIA	陰性 (-) 0.05IU/mL未満	88 免疫	1	過3 60頁参照	
炎 ウ	218		血液 1.5 血清 0.5		CLIA	- 陰性 (-)	32	1	定性結果のみのご報告となり	
イル	264	HBs抗体	血液 1.0 ⁽¹⁾ 血清 0.5	冷	IC	医住(一)	免疫	2	ます。 60頁参照	3 ヶ 月
ス 関	602		血液 1.5 血清 0.5		CLIA	陰性 (−) 10.0mlU/mL未満	88 免疫	1	★★★60頁参照	
連検	603	HBe抗原	血液 1.5 血清 0.5	冷	CLIA	陰性 (-)	98 免疫	1	60頁参照	3 ヶ月
查	604	HBe抗体	血液 1.5 血清 0.5	冷	CLIA	陰性 (-)	98 免疫	1	60頁参照	3 ヶ月
	1300	LID-4÷/+	血液 1.0 ^{運心} 01 血清 0.3	×	PHA	陰性 (-) 64倍未満	130 免疫	3 ~ 5	⊕260頁参照⊗8	
	605	HBc抗体	血液 1.5 回流 0.5	冷	CLIA	s/co 陰性(-)	130 免疫	1	❸260頁参照	3 ヶ月
	609	IgM・HBc抗体	血液 2.0 血清 0.5	冷	CLIA	陰性 (-)	146 免疫	3 ~ 5	(計2)60頁参照(※)8	
	4953	HBV-DNA定量IU	血液 5.0 適心 66 血清 1.8	凍	PCR (リアルタイム PCR)	Log IU/mL 検出せず	256 微生	4 5 6	他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査 方法ではコンタミネーションの影響がより 大きくなりますので、検体採取にあたっては 取扱いに充分ご注意下さい。 ⑧8	日
	3157	B型肝炎ウイルス コア関連抗原 (HBcrAg)	血液 2.0	冷	CLEIA	LogU/mL 2.1未満	252 免疫	3 6		

 ^{● 1: 「}IgG·HA抗体」、「IgM·HA抗体」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。
 ● 2: 「HBo抗体」、「IgM·HBo抗体」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。
 ● 3: 測定法の限界上、陰性判定であっても陽性を完全に否定するものではありません。B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HBc抗体測定等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断下さい。

^{★4:}WHOの勧告では、「B型肝炎ウイルス感染防御能を持つHBs抗体濃度は10mlU/mL以上」とされています。

ウイルス学検査

	⊐- FNo.	検査項	目	採取量(mL) _{遠心} 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	3396	HBVゲノタイプ		血液 2.0 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	01	凍	EIA		340 免疫	4 5 10	□ 1□ HB s 抗原量が少なく型判定が不能な場合、判定保留とご報告します。	
	1315		3rd	血液 1.5 血清 0.5		冷	CLEIA		102	1	● 1● 2, ● 3スクリーニング検査としてご利用下さい。下欄参照	3ヶ月
肝炎	1565	HCV抗体	2nd	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	CLIA	陰性 (-)	免疫	3	● 3スクリーニング検査としてご利用下さい。下欄参照● 2	12 週
ウィ	1329			血液 1.0 血清 0.2		冷	IC		767又	1	3 ⊕ ⊕2, ⊕3	3 ヶ 月
ルス	2158	HCV群別 (HCVグルーピング)		血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLEIA	報告結果は 62頁参照	215 免疫	3 \ 5	不活化(非働化)検体は判定に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。保険請求の際は「HCV血清群別判定」とご記入下さい。	
関連	2957	HCV抗原(コア	蛋白)	血液 3.0 _{適心} 血清 0.8	01	冷	CLIA	fmol/L 3.0未満 (定量下限値)	102 免疫	3	保険請求の際は「HCVコア 蛋白」とご記入下さい。 ⑧8	
検査	4954	HCVRNA定量PCR		血液 5.0 遠心 血清 1.8	66	凍	RT-PCR (リアルタイム PCR)	Log IU/mL 検出せず	412 微生	4 6	他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査 方法ではコンタミネーションの影響がより大 きくなりますので、検体採取にあたっては取 扱いに充分ご注意下さい。	
	2635	HCVサブタイプ 系統解析		血液 2.0 ・	66	凍	RT-PCR/ ダイレクト シークエンス法	型別判定 1a,1b,1c,1d,2a,2b, 2c,3a,3b,4,5a,6a	_	6 } 11	必ず専用容器をご使用下さい。 62頁参照	
	3434	1 IgA-HEV抗体		血液 1.0 血清 0.3	01	凍	EIA	陰性 (-)	210 免疫	4 5 10	82	

- 3 : B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回限り算定できます。
 3 : C型肝炎ウイルス(HCV) 感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断下さい。

肝炎ウイルス検査判定基準

1	14-4		- 1:1	1	11
コードNo.	検査項目名		陰 性	判定保留	陽性
606	IgG-HA抗体	s/co	1.00未満		1.00以上
607	IgM-HA抗体	s/co	0.80未満	0.80以上 1.20以下	1.21以上
601	HBs抗原	濃度	0.05IU/mL未満		0.05IU/mL以上
602	HBs抗体	濃度	10.0mIU/mL未満		10.0mlU/mL以上
603	HBe抗原	s/co	1.00未満		1.00以上
604	HBe抗体	抑制率	50.0%未満		50.0%以上
605	HBc抗体	s/co	1,00未満		1,00以上
					低力価:1.0~10.0未満
					高力価: 10.0以上
609	lgM・HBc抗体	s/co	1.00未満		1.00以上
1565	HCV抗体-2nd	s/co	1.00未満		1.00以上
1315	HCV抗体-3rd	C.O.I.	1.0未満		1.0以上

B型肝炎ウイルス抗原・抗体と一般的な臨床的考察

検査項目名				判	定			
HBs抗原	+	+	+	+	+	_	_	_
HBe抗原	+	+	_	_	+or-	_	_	_
HBe抗体	_	_	+	+	+or-	+or-	+or-	+or-
HBc抗体	+高力価	+低力価	+高力価	+低力価	+高力価	+高力価	+低力価	+or-
HBs抗体	_	_	_	_	+	_	_	+
吃生的老家	持続感染および それからの肝炎 発症が考えられ る。	急性B型肝炎の 初期、あるいは 中期。	持続感染が考え られる。	急性B型肝炎の 中期、後期。	変異株の存在ある いはSubtypeの異 なる重感染と考え られる。	B型肝炎の回復 期、あるいは、	感染の既往をあ	急性B型肝炎の回復期以後。あるいは、感染の既往が考えられる。 またHBs抗原の再三
臨床的考察	感染性が強く、 の増殖がうかが	盛んなウイルス われる。	感染性	は弱い。	ラれる。 同一Subtypeの共 存例は非常にわず かである。	期、あるいは、持続感染が考えられる。	らわす。	の曝露歴がうかがわれる。HBc抗体価が非常に高い場合、稀に持続感染例がある。

ウイルス学検査

	 ⊐— ₭No.	検査項目	採取量(mL)	容	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料	所要日数	備考	検体の安定性
	4753	HIV抗原/抗体 定性	提出量(mL) 血液 1.5	8 01		CLEIA	陰性	判断料 109 免疫	2 2	62頁参照	性
レトロウィ	4896	HIV-1/2抗体 《確認試験》	血清 0.5 血液 2.0 血清 0.5	01	冷	イムノクロマト法	陰性	660 免疫	4 5 6	他項目との重複依頼は避けて下さい。確認検査(イムノクロマト法)をご依頼の際は、改めて採血しご提出下さい。	7 日
	3121	HIV-1 RNA定量 《TaqManPCR法》	血液 8.0 EDTA雌 2.1	97	冷	ロシュ/リ アルタイム RT-PCR法	コピー/mL 定量結果:2.0×10 ¹ 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル:検出せず	520 微生	4 5 5	必ず専用容器をご使用下さい。 62頁参照 血清は不可。 ⑧2	6 ⊟
イルス	826	HTLV-I抗体 《スクリーニング》 (ATLA抗体)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLIA	陰性 (−) (S/CO)1.00未満	159 免疫	3	陽性の場合は「確認試験」の実施をお勧め致します。抗HTLV-I抗体及びII抗体の検出が可能です(型別の報告はできません) _{⑧2}	2週
	3961	HTLV-I抗体《確認試験》 (ATLA抗体)	血液 2.0 血清 0.6	01	冷	ラインブロット法 (LIA)	陰性	425 免疫	4 5 10	判定基準については62頁参 照。 ⑧2	60 日
_	432	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹標本 2枚	80	凍	FA	1型抗原 陰性 2型抗原 陰性	180 免疫	3 ~ 5	● (注) 1 検体の採取については63頁 参照。	
ウィー	2199	CMV-PP65 (サイトメガロウイルス抗原)	EDTA加血液 5.0	15	冷凍結不可	間接酵素抗体法 (アンチジェネミア法)	判定(一) 陽性細胞数スライド1:0個 陽性細胞数スライド2:0個	356 免疫	3	受付曜日:月~木曜日。採血後速やかに検体をご提出下さい。(原則として採血後24時間以内の検体を用います) ⑧2	
ルス抗	2699	インフルエンザA・B 迅速試験	鼻腔ぬぐい液 咽頭ぬぐい液 鼻腔吸引液	30	冷	IC	A型 陰性(-) B型 陰性(-)	132 免疫	1	⊕2	
加原の	88	ロタウイルス抗原定性	糞便 1g (小指大)	32	冷	IC	(-)	65 免疫	2 \ 3	ロタウイルス抗原とアデノウ イルス抗原を同時に検査した 場合は、ロタウイルス抗原一 方のみ算定となります。	
検出	89	アデノウイルス抗原定性	糞便 1g (小指大)	32	冷	IC	(-)	60 免疫	2 \ 3	ロタウイルス抗原とアデノウ イルス抗原を同時に検査した 場合は、ロタウイルス抗原一 方のみ算定となります。	
	3118	ノロウイルス抗原定性	糞便 1g (小指大)	32	冷	IC	陰性	150 免疫	2 \ 3	他検査と併用はできません。	
核酸の検出	2603	ノロウイルスRNA定性	糞便 0.5g	30	凍	RT-PCR (リアルタイム PCR)	検出せず	_	3 ~ 9	他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査方法では コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意下さい。 依頼件数によって所要日数が変動致します。	7 日
	1386	ウイルス分離	63頁参照					_		測定は月1回(不定期)です。 <u></u> ⑧2	
	1387	ウイルス同定	63頁参照					_		測定は月1回(不定期)です。 ®2	

② 1: 専用容器 (無蛍光スライド) は予めご依頼下さい。検体はスライドガラス2枚ご提出下さい。 ③ 2: 発症後48時間以内に実施した場合に限り算定可能です。

4753 HIV抗原/抗体 定性の留意点

- 1) 本検査はスクリーニングとしてご利用下さい。 2) 専用容器の提出は不要となり、汎用容器での検査となります。
- 3) 結果のご報告は、「陰性」または「陽性」と記載の上、通常報告書にて お届けします
- 4) 本検査にて「陽性」を呈した場合は、4896 HIV-1/2抗体確認検査を お勧めします。
- 5) 4896 HIV-1/2抗体確認検査への自動追加には対応していません。 ご希望の際は改めて採血の上、ご依頼下さい。

[HTLV-1抗体 (ATLA抗体) 確認試験]判定基準

ラインが認められない						
ラインが1本認められる(≧±)	gag p19かgag p24か env gp46のいずれかが認められる	陰性				
	env gp21が認められる	保留				
ニノンがの大図ゆこれで(ヘエ)	env gp21が認められない	本田				
ラインが2本認められる(≧±)	env gp21が認められる					
ラインが3本以上認められる(≧生)						

イムノクロマトグラフィー法によるHIV-1抗体とHIV-2抗体の判定基準

● HIV-1抗体の判定基準

● HIV-2抗体の判定基準

判定結果	測定結果	判定結果	測定結果
陽性	p31、gp160、p24、gp41のうち、gp160またはgp41のいずれかを含む2本以上のバンドが認められる。	陽性	gp36、gp140の両バンドが認められる。
陰性	p31、gp160、p24、gp41のいずれも認められない。	陰性	gp36、gp140のいずれも認められない。
判定保留	上記、陽性および陰性でない場合。	判定保留	上記、陽性および陰性でない場合。

HCV群別 報告結果
グループ1
グループ2
判定保留(抗体価同等のため)
判定不能(抗体価陰性のため)

血清を用いた遺伝子増幅 (PCR等) 検査の留意点

【検体の取り扱い、および依頼方法】

- 1)遺伝子増幅検査の検体採取・保存に際しては、核酸分解酵素の影響及び検体相互のコンタミネーションを防ぐため、以下の点にご注意下さい。
 - ①同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい。 (遺伝子検査専用検体)
- ②専用の真空採血管(分離剤入り、容器番号66、97)を使用し、採血してご提出下さい。 ③上記指定容器に採取後、4~5回静かに転倒混和し、室温にて30~60分放置して下さい。
- ④凝固完了を確認後遠心分離し、容器番号66はそのまま凍結、容器番号97は冷蔵にてご提出下さい。なお凍結融解しないで下さい。 <留意事項>

未分離凍結検体、溶血検体では抽出効果の低下、遺伝子増幅阻害等によるデータへの影響が考えられます。HIV-1RNA定量は遠心分離(1200g± 400gで20分間)し、冷蔵にてご提出下さい。

2) 遺伝子増幅につきましては、ヘパリンによる増幅反応の阻害があるため、透析患者等では、検出されないことが考えられますので、ご注意下さい。

3) HIV-1RNA検査のご依頼に際し、患者名にはイニシャルまたはID番号をご使用下さい。

単純ヘルペス特異抗原検査の留意点

【検体の採取方法】

病巣基底細胞が多数得られるように採取して下さい。

早期の水疱病巣が検体として最適です。水泡内容液および膿は不適当で

- ①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がして下さい。 (図1)
- ②病巣を覆っていた上部の皮をピンセットで除去します。 (図2)
- ③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
- ④ウイルス感染細胞は病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を 綿棒で強くぬぐいます。 (図3)

<注意>

膿が出ている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を 採取して下さい。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意して下さ

【操作法】

検体の塗抹

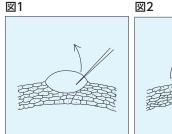
①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。 この時綿棒は、スライドガラスに平行して全表面が触れるように塗 抹します。

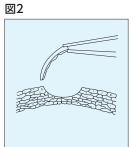
不均一にならないように注意して下さい。(図4)

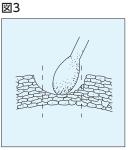
- ②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。 均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、 そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
- ③そのまま風乾します。
- ④乾燥したスライドガラス上に充分な量(検体にゆきわたる)のアセト ンを添加し、蒸発させます。検体はスライドガラス2枚をご提出下さ

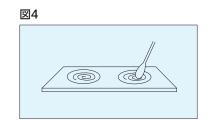
検体の保存

乾燥後のスライドガラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入 れ、病院名、氏名等を記入後、凍結保存して下さい。









ウイルス分離・同定

分離可能ウイルス		主要	検体		保存 条件	同定可能な型	実施料 判断料	所要 日数	備考
サイトメガロ(CMV)	咽頭ぬぐい液	尿			冷 凍結				測定は月1回(不定期)です。 主要検体の内訳
水痘・帯状ヘルペス	水疱				不可*2				□: 主として用いられる検体 □: 必要に応じて用いられる検体 検査方法
単純ヘルペス	咽頭ぬぐい液	水疱	陰部ぬぐい液			1,2型			検査方法 組織培養 ・ HeLa(ヒト子宮頚癌細胞)
アデノ	咽頭ぬぐい液	糞便	尿	結膜ぬぐい液		1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 19, 37型			- HeLa(こ下子音頭標本間) - Hep-2(ビト降頭層細胞) - HEL(ヒト胎児肺細胞) - MDCK(イヌ腎細胞) - Vero(ミドリザル腎細胞)
インフルエンザ	咽頭ぬぐい液					A/H1, A/H3, B型			- MDCK(イヌ腎細胞) - Vero(ミドリザル腎細胞) - RD18S(ヒト横紋筋腫細胞)
パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液	喀痰			凍	1, 2, 3, 4型			- RD163(マーモットリンパ球由来細胞) - B95a(マーモットリンパ球由来細胞) - A549(ヒト肺癌細胞)
ムンプス	髄液	咽頭ぬぐい液			-70°C] —	_	·LLC-MK2(アカゲザル腎細胞)
コクサッキーA群	髄液	咽頭ぬぐい液	糞便	結膜ぬぐい液		7, 9, 16, 24型			同定方法 蛍光抗体法、中和試験等。アデノウイルスに ついては、PCR法により同定を行います。エン
コクサッキーB群	髄液	咽頭ぬぐい液	糞便			1, 2, 3, 4, 5, 6型			テロウイルスついては、中和試験もしくはPCR 法にて同定致します。
エコー	髄液	咽頭ぬぐい液	糞便			1,3,4,5,6,7,9,11,12,13,14,16, 17,18,19,22,24,25,30型			水疱液の採取に際しては、予め滅菌生理食塩水にて皮膚を洗浄して下さい(アルコール消毒は不可)。
エンテロ	髄液	咽頭ぬぐい液	糞便			71型			ウイルスが分離された場合のみ同定検査を実施致します。ウイルス「分離」および「同定」は
麻疹*3	咽頭ぬぐい液								施致します。ウイルス「分離」および「同定」は 個別に検査料金を申し受けます。

- ウイルス保存液(ゲンタマイシン加0.5%BSA含有ブイヨン)入りバイアルびんは、当社にて準備いたしますので、担当者にお申し付け下さい。
- 発症後速やかに(一般的に4日以内)無菌的に検体を採取・保存して下さい。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もあ りますので、ご注意下さい。

[各種ぬぐい液及び水疱]

- 滅菌済みのプラスチック製綿棒にて検体を採取して下さい。
- ウイルス保存液入りバイアルびんに綿棒を入れてよく攪拌後、綿棒を容器上部で折り、密栓して下さい。
- 3 木製綿棒の使用は避けて下さい。使用した場合は、綿棒を抜いて密栓して下さい。 [糞便] 小指頭大の半分(0.5g)をウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。

[髄液] 1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。

- 「喀痰・尿」 1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。
- *1:凍結は-70℃とし、-20℃では保存しないで下さい。
- *2:サイトメガロ、水痘・帯状ヘルペスは、凍結により活性が低下するため、冷蔵で保存して下さい。また、他のウイルスと同時に依頼される場合 2本に分けて(1本冷蔵、1本凍結)提出して下さい。
- *3:麻疹ウイルスの分離をご依頼される場合は、事前にご連絡下さい。

免疫血清学

免疫血清学検査

	⊐-FNa	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	207	ASO (ASLO) (抗ストレプトリジン0価)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	LA	IU/mL 160以下	15 免疫	1	(F)	1 ヶ 月
	2583	レジオネラ抗原定性 (尿)	尿 1.0	30	冷	IC	陰性	205 免疫	2 ~ 3		
	2619	肺炎球菌莢膜抗原定性	尿 1.0 髄液 0.3	30	冷	IC	陰性	188 免疫	2 ~ 3		
	199	梅毒脂質抗体定性 (RPR)	血液 1.5	0.1	×		(-)	15 <u>免疫</u>]	を手定性、定量検査を同時に行った場合、点数は定量検査の所定点数のみ算定されます。	7
	247	梅毒脂質抗体定量 (RPR)	血清 0.5	01	市	令 LA →	R.U 1.O未満	34 免疫	2	定性、定量検査を同時に行った場合、点数は定量検査の所定点数のみ算定されます。	自
感染症	193	梅毒TP抗体定性 (LA)	血液 1.5	01	冷	LA	(-)	32 免疫] (定性、定量検査を同時に行った場合、点数は定量検査の所定点数のみ算定されます。	7
血清	197	梅毒TP抗体定量 (LA)	血清 0.5		נו	LA	U/mL 5未満	53 免疫	2	定性、定量検査を同時に行っ た場合、点数は定量検査の所 定点数のみ算定されます。	日
月 反 応	671	梅毒定性 (FTA-ABS法)	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	FAT	(-)	134 免疫	3 ~ 5	<u></u>	2週
,,,,	433	マイコプラズマ抗体	血液 1.0	01		CF	倍 4未満	32	5 7	88	
	227	マイコンフスマが中	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	PA	倍 40未満	免疫	3~5	88	
	4857	寒冷凝集反応	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	НА	倍 256未満	11 <u>免疫</u>	4 6	採血後、速やかに血清分離して下さい。(血清分離までは37℃保存) ⑧8	
	2458	トキソプラズマIgG 抗体	血液 各1.0	0.1	\times		IU/mL 6未満	93 免疫	3 (
	2459	トキソプラズマIgM 抗体	血清 各0.3	01	ĬŪ	ELISA	c.o.i O.8未 満	95 免疫	5		

197 梅毒TP抗体定量(LA) 判定基準

判定	U/mL
陰性	5未満
判定保留	5以上、10未満
陽性	10以上

193 梅毒**TP抗体**定性(LA)と197梅毒**TP抗体**定量(LA)の同時依頼で判定保留域の場合の報告表現。

193 梅毒TP抗体定性(LA): ハンテイホリュウ197 梅毒TP抗体定量(LA): 測定値を記載

^{※193} 梅毒**TP抗体**定性(LA)、197梅毒**TP抗体**定量(LA)において、結果が判定保留の場合、経時的に検査し、 また、他の検査結果(**梅毒脂質抗体(RPR)**、FTA-ABS法等)や臨床症状等を考慮した上で、総合的にご判断下さい。

7. 汉 <u>邮</u> /月子 次 <u> </u>												
	⊐-FNa.	検査項	目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	3585	MAC抗体 (抗酸菌抗体定性)		血液 2.0 血清 0.5	01	冷	ELISA	U/mL 陰性 0.7未満	116 免疫	4 6	本検査は定性検査です。抗体 濃度を参考値としてご報告し ます。	15 日
	242	エキノコックス抗	体	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	ELISA	陰性(-)	_	5 ~ 9	EDTA、ヘパリン等の抗凝固 剤は使用不可。 ®E	
	1185	エンドトキシン定		血液 2.0	55	冷凍結不可	比濁時間分析法	pg/mL 1.0以下 (カットオフ値)	229 免疫	3		
	2354		A液					EU/mL				
	2355 2356 2357	透析液中 エンドトキシン	B液 RO水 調整液	透析液 各4.0	108	冷凍結不可	合成基質法		_	3	検体は、必ず専用の安定化剤 入り透析液採取管にてご提出 下さい。コンタミネーション 防止などのため、検体採取後 は容器を開拴しないで下さい。 A液は40倍希釈、B液は20倍 希釈で測定します。] 週
	2358		その他									
感染	2161	J β-D-グルカン		血液 2.0	55	冷凍結不可	発色合成基質法	pg/mL 20.0以下 (カットオフ値)	195 免疫	3 ~ 5	●2(基準値について) 20pg/mLは、深在性真菌症のカットオフ値です。●8	
架 症 血	3136	プロカルシトニン (PCT)		血液 2.0 血清 0.4	01	凍	CLEIA	ng/mL 0.05以下	276 生 I	3 ~ 5	敗血症(細菌性)の鑑別診断の カットオフ値: 0.50ng/mL未満 敗血症 (細菌性) の重症度判定の カットオフ値: 2.00ng/mL以上 _{⑧ 8}	28 日
清反	3566	プレセプシン		血液 2.0 (地) (地) (地) (地) (単) (単) (単) (単) (単) (単) (単) (単) (単) (単	10 ↓ 02	凍	CLEIA	pg/mL 敗血症(細菌性)診断の カットオフ値500	301 生 I	3	専用検体としてご提出下さい。(同一検体での他項目との重複拡類は避けて下さい。) EDTA血漿も可。 ボルテックスミキサーなどによる強い機幹は測定値が上昇するので使用しないで下さい。	12 週
応	1830 1831	ツツガ虫 (Gilliam)	IgG IgM					倍	203 免疫			
	1832 1833	ツツガ虫 (Kato)	IgG IgM	血液 各1.0 血清 各0.3	01	冷	FA	10未満	203 免疫	4 5 7	感染の有無はペア血清で判断 して下さい。	
	1834 1835	ツツガ虫 (karp)	IgG IgM						203 免疫			
	2133	百日咳菌抗体		血液 1.0 血清 0.3	01	冷	EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満	257 免疫	3 ~ 5	88	28 日
	3829	百日咳菌抗体IgA		血液 1.0	01	冷	ELISA	陰性 8.5未満	80 免疫	3 \ 5	判定基準については76頁参 照。 ⑧8	日
	3830	百日咳菌抗体IgN	Л	血液 1.0	01	冷	ELISA	陰性 8.5未満	80 免疫	3 \ 5	判定基準については76頁参 照。 <u></u> ⑧8	日

② 1 :本検査においては、血漿中のエンドトキシンを測定致します。血液2mLを専用容器にて採血し、よく混和して下さい。データ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出下さい。凍結検体は避けて下さい。 (② 2 :本検査においては、血漿中の(1→3)-β-Dグルカンを測定致します。血液2mLを専用容器にて採血し、よく混和させ、速やかに冷蔵保存にてご提出下さい。凍結検体は避けて下さい。グルカン製剤(抗悪性腫瘍剤)、セルロース膜で精製した血液製剤などの投与、セルロース膜での透析後の血液などは、データが高値を示す可能性があります。また、多発性骨髄腫・高γ-グロブリン血症では非特異的反応を示す可能性があります。溶血検体では、溶血の度合いにより検査不能となる場合があります。

	⊐-FNa	検 査	項	B	採取量(mL) _{遠心} 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	790	オウム病 (クラミドフィラ	j・シック	タシ)	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	CF	倍 4未満	79 <u>免疫</u>	5 7	- 88	
	1877	クラミジア・トラコマチスを	核酸検	出	初尿 ぬぐい液 うがい液	67 178	冷	リアルタイム PCR法	陰性	188	2	同一容器で2310淋菌核酸 検出と併用できます。採取方 法については下記を参照下さ い。	-
感	1188	クラミジア・ チス抗体IgA	-		血液 1.0 血清 0.3	01	冷	EIA	陰性 (-) (C.O.I)O.900未満	200 免疫	4 5 6	判定基準については76頁参 照。 ⑧2	
染症血	1666 1667 2375	クラミドフィラ ニューモニエ! 体	ラ・ 抗	lgG lgA lgM	血液 各1.0	01	冷	ELISA	陰性 (-) EIU値 30未満 陰性 (-) EIU値 8未満 陰性 (-) S/CO値 0.5未満	70 免疫 75 免疫 152 免疫	3 \ 5	判定基準については76頁参 照。 ⑧8	日
清反	2310	淋菌核酸検出	L		初尿 ぬぐい液 うがい液	67 178	冷	リアルタイム PCR法	陰性	198	2 \ 3	同一容器で1877クラミジア 核酸検出と併用できます。採 取方法については下記を参照 下さい。	:
応	3925	淋菌&クラミジ トラコマチス同		竣検出	初尿 ぬぐい液 うがい液	67 178	冷	リアルタイム PCR法	陰性	262 微生	2 \ 3		
	3128	カンジダマン	ナン抗	原	血液 3.0 血清 0.8	01	冷	ELISA	U/mL 0.05未満	134 免疫	3 ~ 5	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに充分ご注意下さい。	;
	2683	アスペルギル	ノス抗原	京	血液 3.0	01	冷	ELISA	0.5未満	157 免疫	3	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を 示す場合がありますので、検体の取り扱いに充分で 注意下さい。また、ピペラシリン/タゾバクタム合 剤の投与で偏陽性となる場合があります。	ì

クラミジア・トラコマチス核酸検出/淋菌核酸検出検査の検体採取方法

[尿検体の採取]

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。 専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えて下さい。 キャップをしつかり閉めて、5回転倒混和させて下さい。

[うがい液検体の採取]

生理食塩水(日局方など)をコップに15~20mL入れて下さい。

生理食塩水15~20mLを口に含み、顔を上に向けて10~20秒間、勢いよく"ガラガラ"とうがいを行います。

うがい液全量をコップに回収し、専用容器へ移します。専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるようにうがい液を加えて下さい。 キャップをしっかり閉めて、5回転倒混和させて下さい。

[子宮頸管部検体の採取]

●.スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の 過剰な粘液を充分拭い取ります。

【注意】粘渡を拭ったスワブは廃棄します。

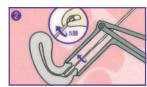
- ②.付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(まわし過ぎないで下さい。) スワブを引き抜く際は 膣の粘膜に触れないように注意して下さい。
- ❸.コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したフロックスワブをコバスPCRメディアチューブに入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。
- ④.コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして 折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折られた柄は廃棄して下さい。

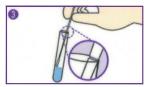
スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないで下さい。



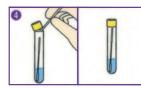
子宮頸部の粘液除去



子宮頸管検体の採取



子宮頸管検体の保存



	元汉业月于汉且											
	⊐-FNa	検査項目	採取量(]	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
感染症血清反応	4351	抗ヘリコバクター・ ピロリ抗体	血液血清	_	01	冷	ラテックス 凝集比濁法	U/mL 10未満	80 免疫	3 \ 5		28 日
温清反応	2626	便中へリコバクター・ ピロリ抗原	糞便 専用スティ	ック1本)	110	冷	EIA	陰性	142 免疫	3 ~ 5	必ず専用容器で採取し、 ご提出下さい。 ⑧8	
	663	プレアルブミン	血液血清	_	01	冷	免疫比濁法	mg/dL 22.0~40.0	101 免疫	3 ~ 5		
	799	尿中アルブミン(蓄尿)	蓄尿	5	-28	Ņ	TIA	mg/day 22.0以下	99	1	1日蓄尿量をご記入下さい。	2ヶ月
	1495	尿中アルブミン (随時尿) (クレアチニン補正)	尿	5	20	/ TJ	TIA	mg/g·Cr 13.6以下	尿便	2		角
	736	αιマイクログロブリン	遠心	2.0 0.5	01	冷	ラテックス	M 12.5~25.5 F 11.0~19.0	129	3 (
	737	(α ₁ -M)	尿	0.5	28		凝集免疫法	M 1.0~15.5 F 0.5~9.5	免疫	5	88	
蛋	625		遠心	1.5 0.5	01	\times	LA (ラテックス	mg/L 2.0以下	98	1	8	3 ケ
白	626	β₂マイクログロブリン	尿	1.0	28	冷	凝集比濁法)	μg/L 150以下	免疫	2	尿 はpH5.5~7.5を 確 認 の 上、ご提出下さい。酸性蓄尿 は不可。	月
	624	フェリチン	血液血清	J	01	冷	CLEIA	M 24.0~268.0 F 3.0~121.0	102 生 I	1		3 ヶ月
	1256	α ₁ アシドグリコ プロテイン (α ₁ AG)	血液血清		01	冷	TIA	mg/dL 42~93	_	3 6	\$2	4 週
	627	ハプトグロビン (Hp)	血液血清		01	冷	TIA/薄層アク リルアミドゲル 電気泳動法	mg/dL 1-1型 43~180 2-1型 38~179 2-2型 15~116	129 免疫	5 6	感度(10mg/dL)未満の場合は型判定不能でご報告致します。 ⑧2	
	732	α₂マクログロブリン	血液血清	J	01	冷	ネフェロメトリー	M 100~200 F 130~250	138	3 6		4 週
	630	α ₁ アンチトリプシン (α ₁ ΑΤ)	血液血清	J	01	冷	ネフェロメトリー	mg/dL 94~150	80	3 ~ 5	88	

⁽銀) 1: 基準値は、アジア地域共有基準範囲設置国際プロジェクト 2009 日本国内データ より。 (銀) 2: 鉄欠乏性貧血または貧血のない鉄欠乏症の診断基準となる血清フェリチン値は12ng/mL未満です。 (鉄剤の適正使用による貧血治療指針(日本鉄バイオサイエンス学会))

	元汉 <u>四</u> 月丁汉旦										
	⊐- FNa	検査項目	遠心	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	205	CRP (C-反応性蛋白)	血液 1.5 ^{適心} 血清 0.5	01	冷	LA	mg/dL (-) 0.30以下	16 <u>免疫</u>	1	◎ ●	7日
	1761	血清アミロイドA蛋白 (SAA)	血液 2.0	01		ラテックス 疑集免疫法	mg/L 3.0以下	47 <u>免疫</u>	3 ~ 5		28日
	637	セルロプラスミン (Cp)	血液 2.0	01	冷 ネ	フェロメトリー	mg/dL 21~37	90 免疫	3~5		
	638	トランスフェリン (Tf)	血液 2.0	01	冷身	免疫比濁法	M 190~300 F 200~340	60 免疫	3~5	8	
	1654	尿中トランスフェリン (CRE換算)	尿 1.0	28		ラテックス 疑集比濁法	mg/g・Cr 尿中トランスフェリン換算値 1.00以下	98 尿便	3 ~ 5	凍結保存は避けて下さい。採尿後、速やかにご提出下さい。⊗8	
	824	クリオグロブリン	血液 3.0	01	冷寒	寒冷沈殿法	(-)	42 免疫	4 6	採血時より血清分離までの間 は、37℃の状態で行って下 さい。	週
	1508	<mark>ヒト心臓由来脂肪酸 結合蛋白</mark> (H-FABP)	血液 1.0	01		LA (ラテックス 疑集比濁法)	ng/mL 5.0以下	131 生 I	3 ~ 9		1ヶ月
蛋白	683	~+#PI*>,	血液 2.0 血清 0.5	01	~	CLIA	ng/mL M 154.9以下 F 106.0以下	131 生 I	3~5	®8	
	684	ミオグロビン	尿 6.0		冷 —	CLEIA	ng/mL 2.0未満	131 生 I	3~5	採尿後、速やかに専用容器に入れ、冷蔵して下さい。凍結は避けて下さい。 ⑧8	日
	1491	心室筋 ミオシン軽鎖I	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	EIA	ng/mL 2.5以下	184 生 I	3 { 7	88	
	1648	心筋トロポニンT (トロポニンT)	血液 1.5 血清 0.4	01	凍	ECLIA	ng/mL 0.014以下 (急性心筋梗塞診断の カットオフ値0.100)	109 生 I	1		1年
	867	プロコラーゲンⅢ ペプチド (P-Ⅲ-P)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLIA	ng/mL 3.62~9.52	136 生 I	3 ~ 5	溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合 がありますので、避けて下さい。カットオフ値(肝の線維化のみられる疾患) 6.95ng/mL ⑧8	
	2234	Ⅳ型コラーゲン	血液 2.0 血清 0.4	01		ラテックス 疑集比濁法	ng/mL 150以下	131 生 I	3~5	⊕2 ⊚8	
	1197	IV型コラーゲン・7S	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL 4.4以下	148 生 I	3 ~ 5	⊕2 ⊚8	23 日
	2593	尿中Ⅳ型コラーゲン	尿 5.0		冷 東結 不可	EIA	μg/g·Cr 30~39歳 4.0以下 40歳以上 4.9以下	184	4 } 10	●1,3早朝一番尿をご提出下さい。 凍結保存および他項目との重 複は避けて下さい。●8	1 ヶ 月

② 1:「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」、「尿中Ⅳ型コラーゲン」は、糖尿病または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限る)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できます。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定できます。

②2:「ATX」、「M2BPGi」、「P-III-P」、「IV型コラーゲン」、「IV型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は主たる項目のみ算定できます。 ③3:随時尿による参考基準値(健常人)は $7.3\,\mu g/g \cdot Cr$ 以下と報告されています。

元汉业/月子伏且											
3 -	— KNa.	検 査 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
30		M2BPGi (Mac-2結合蛋白 糖鎖修飾異性体)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLEIA	(-) C.O.I 1.00未満	194 生 I	3 ~ 5	② 1 陰性 (-) 1.00未満 陽性 (1+) 1.00~3.00未満 陽性 (2+) 3.00以上 _{⑧8}	
34	465	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	尿 2.0	28	冷	CLEIA	μg/g·Cr 8.4以下	210 尿便	3 ~ 5	② 凍結保存は避けて下さい。酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出下さい。	14 日
3.	189	TARC (Th2ケモカイン)	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	CLEIA	Pg/mL 6ヶ月以上~12ヶ月末満 1367末満 1歳以上~2歳末満 998末満 2歳以上~16歳末満 743末満 16歳以上 450末満	179 免疫	3 ~ 5	月1回を限度として算定できます。 トロンビン入り採血管では測定値 に影響を与える恐れがあるため使 用を避けて下さい。 88	
17		SP-D (肺サーファクタント プロテイン-D)	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLEIA	ng/mL 110未満	136 生 I	3 ~ 5	「KL-6」、「SP-A」及び「SP-D」 のうちいずれか複数を実施し た場合は主たるもののみ算定 できます。	
2		SP-A (肺サーファクタント プロテイン-A)	血液 1.0	01	冷	CLEIA	ng/mL 43.8未満	130 生 I	3 \ 5	「KL-6」、「SP-A」及び「SP-D」 のうちいずれか複数を実施し た場合は主たるもののみ算定 できます。	
2	231	免疫電気泳動 (抗ヒト)	血液 1.0	0.1		免疫電気泳動		170 免疫	5		
2	243	免疫電気泳動 (特異)	血液 2.0 血清 0.4	UI	冷	公应田中 计		218 免疫	7		
2	244	免疫電気泳動 (ベンスジョーンズ蛋白同定・ BJ蛋白同定)	尿 5.0	28		光役回正法		201 免疫	4 6	88	
	847	遊離L鎖K/L比	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	LA (ラテックス 凝集比濁法)	K鎖 3.3~19.4mg/L L鎖 5.7~26.3mg/L K/L比 0.26~1.65	388 免疫	3	<u></u>	
7 2	881	オリゴクローナルバンド			冷	等電点 電気泳動法	検出せず	522 尿便	11 5 15	さい。他項目との重複依頼は	
17	799	lgG4	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	LA (ラテックス 凝集比濁法)	mg/dL 11~121	377 免疫	3	\$2	2 週
	232	lgG	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	TIA	mg/dL 870~1,700	38 免疫	1	® ⊕3	1 ヶ 月
2	233	IgA	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	TIA	mg/dL 110~410	38 免疫	1 5 2	ⓑ ⊕3	1 ヶ月
2	234	IgM	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	TIA	mg/dL M 33~190 F 46~260	38 免疫	1 5 2	® ⊕ 3	1 ヶ 月
2	236	IgE (非特異的IgE)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	CLEIA	IU/mL 202以下	100	1		3 ヶ月
		2582 2582 231 243 244 1847 2881 1799 232 233	M2BPGi (Mac-2結合蛋白 糖鎖修飾異性体) 3465 L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 1785 SP-D (所サーファクタントプロティン-D) 2582 SP-A (所サーファクタントプロティン-A) 231 免疫電気泳動 (抗ヒト) 243 免疫電気泳動 (特異) 244 パンスジョーンズ蛋白同定・BJ蛋白同定) 1847 遊離L鎖K/L比 2881 オリゴクローナルバンド 1799 IgG4 232 IgG 233 IgA IgM 236 IgE	P-File 快 査 項 目 提出量(mL) 2.0 Mac-2結合蛋白 加液 2.0 Mag/may Mag/ma	10 10 10 10 10 10 10 10	3625 M2BPGi m液 2.0	3625 M2BPGi (Mac-2léa) 音音 (Mac-2léa) 音音 (L-FABP) Mais (Mac-2léa)	M2BPGi	3825 M2BPGi	M2BPGi	M2BPG

② 1: 「ATX」、「M2BPGi」、「P-Ⅲ-P」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は主たる項目のみ算定できます。
 ③ 2: 原則として3月に1回に限り算定できます。ただし、医学的な必要からそれ以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄にご記入下さい。
 ③ 3: 国際標準物質(CRM470)を用いて国内で設定された健常成人の基準範囲。

	⊐- FNa.	検 査 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
		IgEシングルアレルゲン (特異的) (シングルアレルゲン)	血液 各1.0 血清 各0.3	01	冷	FEIA	U./mL 0.35未満	各110 <u>免疫</u>	3 ~ 5	各種アレルゲンおよび判定基 準については75、76頁参照。 ⑧8	
	1101	IgE マルチアレルゲン (特異的) (マルチアレルゲン)	血液 各1.0	01	冷	FEIA	U./mL 0.35未満	各110 <u>免疫</u>	3~5	各種アレルゲンおよび判定基 準については75、76頁参照。 ⑧8	
	3601	特異的IgE Ara h 2 (ピーナッツ由来)	血液 1.0	01	冷	FEIA	U _. /mL 陰性 0.35未満	110 免疫	3~5	特異的IgEピーナッツの陽性 者が対象です。 判定基準は76頁参照。 ⑧8	
4	1511	アトピー鑑別試験 (特異的12種吸入性アレルゲン)	血液 1.0 血清 0.3	01	冷	FEIA	陰性	194 免疫	3~5	保険請求の際は「アトピー鑑別試験」とご記入下さい。 アレルゲン構成は76頁参照。 ⑧8	
免疫グ	3438	IgE-CAP16 (特異的アレルゲン16種) アトピー成人					U _a /mL				
フ ロ ブ	3439	IgE-CAP16 (特異的アレルゲン16種) 食物アレルギー									
ノリン	3440	IgE-CAP16 (特異的アレルゲン16種) 花粉症・鼻炎	血液 各5.0	01	冷	FEIA	0.35未満	1430	3 (アレルゲン構成および判定基	12 週
	3453	IgE-CAP16 (特異的アレルゲン16種) アレルギー性喘息	血清 各1.5		נוע	I LIA	ひ.ひ ジ/ 八 /呵	免疫	4	準については76頁参照。	週
	3579	IgE-CAP16 (特異的アレルゲン16種) アトピー学童									
	3587	IgE-CAP16 (特異的アレルゲン16種) アトピー乳幼児								\$2	
	3983	Viewアレルギー39	血液 3.0 血清 1.0	01	冷	FEIA	(index) 0.27未満	1430 免疫	3 ~ 5	アレルゲン構成および判定基 準については76頁参照。 ®8	自
	672	血清補体価 (CH50)	血液 2.0 血清 0.4	01	東	Mayer法 相対比濁法	CH ₅₀ /mL 25.0~48.0	38 免疫	3~5	®⊕ 1®8	1ヶ月(20以下)
補体	237	C3 (β ₁ C/β ₁ Aグロブリン)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	TIA	mg/dL 62~132	70 免疫	1	8	7 日
	238	C4 (β ₁ Eグロブリン)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	TIA	mg/dL 16~51	70 免疫	1	65	7 日
自己免疫関連	221	RF定量 (リウマチ因子定量)	血液 1.5 血清 0.5	01	冷	LA	IU/mL 15以下	30 免疫	1		1 ヶ 月
疫関連		IgG型リウマチ因子	血清 0.3	01	冷	ELISA	2.00未満	198 免疫	3 ~ 5		

② 】:血清分離後、直ちに−20℃以下で保存して下さい。

	⊐— FNa.	検査項目	採取量(mL) 容 虚 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備 考	検体の安定性
	1644	抗ガラクトース欠損 IgG抗体 (CA-RF)	血液 1.0 血清 0.3	冷	ECLIA	AU/mL 6.0未満	111 <u>免疫</u>	3 ~ 5		
	2429	抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド 抗体)	血液 1.5 血清 0.5	冷	CLIA	U/mL 4.5未満	193 免疫	1 5 2		l ヶ月
	4245	抗核抗体 (ANA) FA	血液 1.0 ^{適心} 0.3	冷	FA	倍 40未満	99 免疫	3 ~ 5	® 8	
	673	抗DNA抗体 RIA	血液 1.0 血清 0.3	冷	RIA 硫安塩析法	IU/mL 6.0以下	159 免疫	3 ~ 5		
	1374	抗dsDNA抗体IgG	血液 1.0 血清 0.3	冷	ELISA	IU/mL 12以下	159 免疫	3 ~ 5	実施料は「抗DNA抗体(定量)」として一連の算定となります。	
	1373	抗dsDNA抗体IgM	血液 1.0 血清 0.3	<i>/</i> TJ	EIA	U/mL 6未満	Ι	3 ~ 9	\$2	12 週
自	1372	抗ssDNA抗体IgG	血液 1.0 血清 0.3	冷	ELISA	AU/mL 25以下	159 免疫	3 ~ 5	実施料は「抗DNA抗体 (定量)」として一連の算定となります。 ・ ®8	
己免	1371	抗ssDNA抗体IgM	血液 1.0 血清 0.3	/TJ	ELISA	U/mL 17未満	-	3 ~ 9	88	
疫関	3508	抗RNP抗体	血液 2.0 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	144 免疫	3	\$2	4 週
連	3509	抗Sm抗体	血液 2.0 血清 0.4	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	147 免疫	3	\$2	4週
	3511	抗SS-A抗体	血液 2.0 血清 0.4	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	161 免疫	3	\$2	4 週
	3512	抗SS-B抗体	血液 2.0 ・	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	157 免疫	3	<u></u>	4 週
	3510	抗Scl-70抗体	血液 2.0 血清 0.4	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	157 免疫	3		4 週
	882	抗セントロメア抗体	血液 2.0 [」] 血清 0.4	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	174 免疫	3	\$2	
	1629	抗Jo-1抗体	血液 2.0 ^{運心} 0.1 血清 0.4	冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	140 免疫	3 \ 5	⊕ 1	l ヶ 月
	3578	抗ARS抗体	血液 1.0 血清 0.3	冷	ELISA	陰性 index25.0未満	190 免疫	3 ~ 5		

^{☼ 1:「}抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定できます。

	⊐- FNa	検査項目	採取量(mL) 容 趣 提出量(mL) 器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	3689	抗MDA5抗体	血液 1.0 © 01 血清 0.3	冷	ELISA	32未満 陰性	270 免疫	3 ~ 5	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合があります ので避けて下さい。 ⑧8	28 日
	3755	抗Mi-2抗体	血液 1.0 _{適心} 01 血清 0.3	冷	ELISA	53未満 陰性	270 免疫	3 ~ 5	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合があります ので避けて下さい。 ⑧8	28 日
	3754	抗TIF1-γ抗体	血液 1.0 _{適心} 01 血清 0.3	冷	ELISA	32未満 陰性	270 免疫	3 ~ 5	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合があります ので避けて下さい。 ⑧8	日日
	659	抗ミトコンドリア抗体	血液 1.0 血清 0.3	冷	FA	倍陰性(20未満)	181 免疫	3~5	88	
	1391	抗ミトコンドリア M2抗体	血液 2.0 点流 0.4	713	CLEIA	陰性 (-) index7.0未満	189 免疫	3 4		
自	665	抗平滑筋抗体	血液 1.0 適心 01 血清 0.3	冷	FA	倍陰性(40未満)	_	3 5		
己免	1461	抗LKM-1抗体	血液 1.0 ^適 0.3	冷	ELISA	index 17未満	215 免疫	3 ~ 9	食性りますりますりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまずりまず<	
疫関	1687	抗好中球細胞質抗体 (C-ANCA) (PR3-ANCA)	血液 2.0 ^適 0.5	冷	CLEIA	U/mL 3.5未満	252 免疫	3~5	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合があります ので避けて下さい。 ⑧8	
連	1688	抗好中球細胞質抗体 (P-ANCA) (MPO-ANCA)	血液 2.0 血清 0.5	冷	CLEIA	U/mL 3.5未満	251 免疫	3 ~ 5	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合があります ので避けて下さい。 ⑧8	
	640	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	血液 2.0 ^{遠心} 01 血清 0.5	冷	CLEIA	U/mL 3.0未満	262 免疫	3 ~ 5	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合があります ので避けて下さい。 ⑧8	
	876	抗胃壁細胞抗体	血液 1.0 _{適心} 01 血清 0.3	冷	FA	倍 陰性(10未満)	_	3 ~ 5		
	1677	抗カルジオリピン・β ₂ GPI複合体抗体 (カルジオリピンGPI)	血液 1.0 _{適心} 01 血清 0.3	凍	ELISA	U/mL 3.5未満	223 免疫	3~5		l ケ 月
	2599	抗カルジオリピン IgG抗体	血液 1.0 _{運心} 01 血清 0.3	冷	ELISA	U/mL 12.3以下	226 免疫	3 ~ 5	® 8	7日
	2913	抗アセチルコリン レセプター抗体	血液 1.0 血清 0.3	冷	RIA	nmol/L 0.2以下	775 免疫	4 \$ 8		

^{● 1 ・}ウイルス肝炎、アルコール性肝障害および薬剤性肝障害が否定され、かつ抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載する必要があります。

	⊐— KNo.	検 査 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	2624	抗デスモグレイン 1抗体	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	CLEIA	U/mL 20.0未満	300 免疫	3	<u></u>	2 週
自	2625	抗デスモグレイン 3抗体	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	CLEIA	U/mL 20.0未満	270 免疫	3 ~ 5		2週
己免	2878	抗BP180抗体 (抗BP180NC16a抗体)	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	CLEIA	U/mL 9.0未 満	270 免疫	3	82] 週
疫関	819	ミエリン塩基性蛋白 (MBP)	髄液 0.5	02	凍	ELISA	pg/mL 102以下(参考值)	570 尿便	事前こご確認不さい。	®8	
連	50	抗血小板抗体	血液 2.0 血清 0.4	01	冷	MPHA (混合受身凝集法)	陰性	261 免疫	4 5 7	採血後室温で静置し完全に血餅 凝固後、血清分離して下さい。 (不活性化しないで下さい。) ⑧8	
	1425	PAIgG (血小板IgG)	血液 7.5	53	冷	ELISA	ng/10 ⁷ cells 46以下	190 免疫	3 ~ 5	受付曜日:月~木曜日。休前日は受付不可。 凍結保存は避けて下さい。血小板数3万/ ルL以下の場合は、専用容器2本を使用し 必ず10mL以上採血して下さい。	
	16	ABO式血液型	EDTA加加液 2.0	100	冷凍結不可	ゲルカラム 遠心凝集法		24 免疫	1 5 2		
	17	RhD式血液型	EDTA加加液 2.0	100	冷凍結不可	ゲルカラム 遠心凝集法		24 免疫	1 5 2		
	37	ABO式血液型亜型	EDTA加血液 フ.O	15	冷凍結不可	解離試験		260 免疫	7 } 14	® B	
血液型	213 1778	抗グロブリン 直接クームス試験 間接クームス試験	EDTA加血液 2.0	14	室	ゲルカラム	(-)	34 免疫	1		
主検査	213 1779	リン 試 間接クームス試験 験	血液 10.0	74 ↓ 02	冷凍結不可	遠心凝集法	()	47 免疫	2		
뵨	32	不規則性抗体スクリー ニング	血液 10.0 血清 5.0 EDTA加血液 2.0	l li	冷 凍結 不可 EDTA加 血液のみ 室	ゲルカラム 遠心凝集法 クームス法酵素法		159 免疫	1 5 3	輸血に伴って行った不規則性 抗体検査は、その回数にかか わらず、1月につき170点が 輸血料に加算されます。	
	2351	不規則性抗体同定	血液 10.0 血清 5.0 EDTA加液 7.0	02	冷 凍結 不可 EDTA加 血液のみ 室	ゲルカラム 遠心凝集法 クームス法酵素法		159 免疫	2 } 14		
	40	交差適合試験 (血液交差試験)	血液 5.0	74	室	食塩水法 アルブミン法 クームス法		[30+47]	1 5 2	輸血に伴って行った交差試験 または間接クームス検査は、 1回につき30点又は34点が 輸血料に加算されます。	/2 n±

	⊐- KNa	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
妊娠検査	230	妊娠反応〈HCG〉	尿 10.0	20	∽	イムノクロマト法		55	1		3
検査	230	STAIRIX III (1100)	<i>I</i> ,K 10.0	20	ΛIJ	147704174		生Ⅱ	2		自

血液型検査の留意点

【ABO式血液型】

- 1) 生後1年未満までは、血漿中の抗体価が低いため、オモテ検査のみでの報告となります。
- 2) オモテ検査・ウラ検査の結果が一致した場合のみ、血液型を報告致します。
- 3) オモテ検査・ウラ検査の結果が一致しない場合は、「判定保留」 と報告致します。尚、輸血予定があり、亜型検査を希望される場合は、ABO式血液型亜型検査用の検体を再提出していただき、 日本赤十字社北海道ブロック血液センターへ再委託致します。

【直接クームス試験】

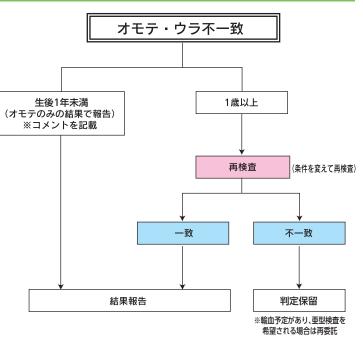
直接クームス陽性時の解離同定試験は実施しておりません。

【不規則性抗体同定】

「不規則性抗体同定調査書」の提出をお願いしております。詳しく は検査担当者にお問い合わせ下さい。

【ABO式血液型亜型】

「ABO亜型確認調査書」の提出をお願いしております。詳しくは検査担当者にお問い合わせ下さい。



「シングルアレルゲン」項目一覧

コードアレルゲン名	コードアレルゲン名	コードアレルゲン名	コードアレルゲン名	コード アレルゲン名
室内塵	1019 ヤギ上皮	960 クルミ(属)	1094 グレープフルーツ	2435 ヤマイモ
1011 ハウスダスト1*1	996 ラット	1136 クワ(属)	1056 ココナッツ	1098 洋ナシ
1012 ハウスダスト2*1		957 コナラ(属)	1055 ゴマ	1035 ライ麦
	寄生虫	963 スギ	1034 小麦	1069 卵黄
ダニ	1007 アニサキス	958 二レ(属)	1039 米	1031 卵白
1005 アシブトコナダニ	991 回虫	952 ハンノキ(属)	1059 サケ	1067 リンゴ
1004 ケナガコナダニ		949 ヒノキ	1115 サツマイモ	1030 ロブスター
1002 コナヒョウヒダニ(ダニ2)	イネ科植物花粉	956 ビャクシン(属)	1111 サバ	3943 Ana o 3(カシューナッツ)
1006 サヤアシニクダニ	907 アシ	955 ブナ(属)	1053 ジャガイモ	3685 Gly m 4 (大豆)
1001 ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)	906 オオアワガエリ	966 マツ(属)	2436 スイカ	3942 Jug r 1(クルミ)
	917 オオスズメノテッポウ	962 ヤナギ(属)	1028 セロリ	1075 α-ラクトアルブミン
真菌/細菌	903 カモガヤ		1040 ソバ	1076 β-ラクトグロブリン
1023 アスペルギルス	902 ギョウギシバ	食品	1043 大豆	3348 ω-5グリアジン
1026 アルテルナリア	909 コヌカグサ(属)	1047 アーモンド	1116 タケノコ	
1025 カンジダ	916 小麦(花粉)	2431 アサリ	1117 タコ	
1022 クラドスポリウム	913 スズメノヒエ(属)	1110 アジ	1062 玉ネギ	
1140 トリコフィトン	912 セイバンモロコシ	946 アボカド	1033 タラ	
1021 ペニシリウム	908 ナガハグサ	1112 アワ	2418 タラコ	昆虫
1027 ヘルミントスポリウム	901 ハルガヤ	1118 イカ	1074 チーズ	983 アシナガバチ
3346 マラセチア(属)	904 ヒロハウシノケグサ	2417 イクラ	1038 トウモロコシ	1010 ガ
1024 ムコール	905 ホソムギ	1060 イチゴ	1050 トマト	984 ゴキブリ
1473 エンテロトキシンA		1119 イワシ	1071 鶏肉	982 スズメバチ
1474 エンテロトキシンB	雑草花粉	1044 インゲン	1051 ニンジン	981 ミツバチ
4469 Asp f 1(アスペルギルス)	932 アキノキリンソウ	1049 エビ	1061 ニンニク	1070 ヤブカ(属)
	935 イラクサ(属)	1041 エンドウ	919 麦芽	1008 ユスリカ(成虫)
動物*2	923 オオブタクサ	1037 オート麦	1045 ハシバミ	
986 アヒル羽毛	1009 カナムグラ	1036 大麦	1029 パセリ	職業性アレルゲン
979 家兎上皮	930 シロザ	1078 オボムコイド	1092 バナナ	1016 イソシアネートHDI
975 イヌのフケ	928 タンポポ(属)	1052 オレンジ	1042 ピーナッツ	1015 イソシアネートMDI
974 ウシのフケ	925 ニガヨモギ	1121 力力才	1063 ビール酵母	1014 イソシアネートTDI
973 ウマのフケ	938 ヒメスイバ	2432 力キ(貝)	1073 羊肉	1017 エチレンオキサイド
985 ガチョウ羽毛	921 ブタクサ	3347 カシューナッツ	1058 豚肉	1013 オオバコ種子
990 セキセイインコ羽毛	922 ブタクサモドキ	1097 カゼイン	1046 ブラジルナッツ	1132 ホルマリン
988 セキセイインコのフン	927 フランスギク	1048 力二	1124 ホウレンソウ	1018 無水フタル酸
987 ニワトリ羽毛	929 ヘラオオバコ	1123 カボチャ	2433 ホタテ	1128 綿
971 ネコのフケ	926 ヨモギ	1125 カレイ	1054 マグロ	1126 ラテックス
980 ハムスター上皮	4-4 1	1100 キウイ	1020 マスタード	3684 Hev b 6.02(ラテックス)
978 羊上皮	樹木花粉	1114 +ビ	945 マンゴ	000,1100,000,002(0))))))
995 豚上皮	1066 アカシア(属)	1065 牛肉	1057 ムラサキイガイ	
997 マウス	959 オリーブ	1032 牛乳	1072 メロン	薬物
976 モルモット上皮	951 カエデ(属)	1077 グルテン	1096 モールドチーズ	米が
310 ヒルヒット工以	953 シラカンバ属	1129 クルミ	1099 モモ	1122 ヒトインシュリン

アレルゲン1項目毎に実施料110点を適用。但し、同一検体について、複数のアレルゲン特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1430点が限度となります。

- なります。 *** 1**: 「ハウスダスト1」はGreer Labs、「ハウスダスト2」はHollister-**Stier** Labsによりそれぞれ調整された室内塵エキスを検査用アレルゲンとして使用したものです。
- *2:動物系アレルゲン検査において、「フケ」は吸入性アレルギーを、「上皮」は接触アレルギーを主に疑う場合それぞれお選び下さい。

「マルチ・アレルゲン」項目一覧

入力コード	項目名	混合アレルゲンの内容
1101	マルチアレルゲン イネ科	ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ
1102	マルチアレルゲン 雑草	ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、 タンポポ(属)、アキノキリンソウ
1103	マルチアレルゲン 食物	卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆
1104	マルチアレルゲン 穀物	米、小麦、トウモロコシ、ゴマ、ソバ
1105	マルチアレルゲン 上皮	ネコのフケ、イヌのフケ、モルモット上皮、ラット、マウス
1106	マルチアレルゲン カビ	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム

「マルチアレルゲン」検査は、複数アレルゲンの混合物を用いておおまかなカテゴリー(イネ植物花粉、動物上皮等)としての原因アレルゲン検索を 行うものであり、個々のアレルゲンにおける陰性/陽性の別を判定することはできません。

「特異的IqE(シングルアレルゲン/マルチアレルゲン)」判定基準

特異的IgE抗体価(UA/mL)	クラス	判 定
0. 35未満	0	陰 性
0.35~0.70未満	1	疑 陽 性
0. 70~3. 50未満	2	
3. 50~17. 50未満	3	
17. 50~50. 0未満	4	陽性
50.0~100未満	5	
100以上	6	

「アトピー鑑別試験」混合アレルゲンの内容

	ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコのフケ、イヌのフケ、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ(属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア
--	---

「IgE-CAP16」構成アレルゲン

CAP16	食物系	ソバ、コムギ(実)、大豆、ピーナッツ、キウイ、エビ、カニ、サバ					
アトピー成人	吸入系	ダニ1、スギ、カンジダ、マラセチア(属)、 ネコ(フケ)、イヌ(フケ)、ゴキブリ、ガ					
CAP16 食物アレルギー	食物系	牛乳、卵白、オボムコイド、ソバ、コムギ(実)、大豆、ピーナッツ、 クルミ、バナナ、キウイ、牛肉、エビ、カニ、サケ、マグロ、イクラ					
CAP16 花粉症・鼻炎	吸入系	ハウスダスト1、ダニ1、スギ、ヒノキ、ハンノキ、カモガヤ、 ブタクサ、ヨモギ、ネコ(フケ)、イヌ(フケ)、ハムスター(上皮)、 ゴキブリ、ユスリカ(成虫)、ガ、カビマルチ					
	□腔系	トマト					
CAP16 アレルギー性喘息		ハウスダスト1、ダニ1、スギ、ヒノキ、ハンノキ、カモガヤ、 ブタクサ、ヨモギ、アルテルナリア、カンジダ、アスペルギルス、 ネコ(フケ)、イヌ(フケ)、ゴキブリ、ユスリカ(成虫)、ガ					
CAP16	食物系	牛乳、卵白、ソバ、コムギ(実)、大豆、ピーナッツ、キウイ、エビ、カニ、マグロ					
アトピー学童	吸入系	ダニ1、スギ、カンジダ、ネコ(フケ)、イヌ(フケ)、ゴキブリ					
CAP16 アトピー乳幼児	食物系	牛乳、卵白、オボムコイド、ソバ、コムギ(実)、大豆、 ピーナッツ、エビ、サケ、マグロ、イクラ					
アトロー孔幼児	吸入系	ダニ1、スギ、ネコ(フケ)、イヌ(フケ)、ゴキブリ					

各16項目について個々のデータをご報告致します。 判定基準は、「特異的IgE/シングルアレルゲン」に準じます。

「百日咳菌抗体IgA、百日咳菌抗体IgM」判定基準

判 定	NTU値
陰 性(-)	<8.5
判定保留(±) ※	8.5~11.5
陽 性(+)	>11.5

※2~4週間後に採血した血清による再検査をお勧めします。

「クラミジア・トラコマチス抗体IgA&IgG」判定基準

判 定	カットオフ・インデックス
陰 性(-)	0.900未満
判定保留(±)	0.900~1.099
陽 性(+)	1.100以上

「クラミドフィラ・ニューモニエ抗体IgG」判定基準

判 定	EIU値
陰 性(-)	EIU<30
判定保留(±) ※	30≦EIU≦45
陽 性(+)	EIU>45

※28日以降に採血した血清による再検査をお勧めします。

「クラミドフィラ・ニューモニエ抗体IgA」判定基準

判 定	EIU値
陰 性(-)	EIU<8
判定保留(±) ※	8≦EIU≦12
陽 性(+)	EIU>12

※28日以降に採血した血清による再検査をお勧めします。

「クラミドフィラ・ニューモニエ抗体IgM」判定基準

判定	S/CO值
陰 性(-)	S/CO<0.5
判定保留(±)※	0.5≦S/CO≦1.1
陽 性(+)	S/CO>1.1

※10日以降に採血した血清による再検査をお勧めします。

「Viewアレルギー39の構成アレルゲン」

	構成されるアレルゲン名称	指定されるアレルゲン群
	ヤケヒョウヒダニ	ダニ
吸入	ネコ皮屑	動物
	イヌ皮屑	到70
	卵白	
	ミルク	
	小麦	
	米	
	ゴマ	
	ソバ	
	ピーナッツ	
	大豆カニ	
	カニ	
食物	エビ	食品
及彻	豚肉	R 00
	牛肉	
	マグロ	
	サケ	
	リンゴ	
	サバ	
	鶏肉	
	キウイ	
	バナナ	
	オボムコイド	

	構成されるアレルゲン名称	指定されるアレルゲン群			
	カモガヤ	イネ科植物花粉			
	オオアワガエリ				
吸入	ハウスダスト1	室内塵			
	ゴキブリ	昆虫			
	ガ	比出			
その他	ラテックス	職業性アレルゲン			
	アスペルギルス	- 真菌(カビ)			
	カンジダ				
	アルテルナリア	呉困(ガモ)			
	マラセチア(属)				
吸入	ハンノキ(属)				
4XX	シラカンバ(属)	樹木花粉			
	スギ				
	ヒノキ				
	ブタクサ	が井井ナナツへ			
	ヨモギ	雑草花粉			

「Viewアレルギー39の判定基準」

判定	クラス	Index値
陰性	0	0.27未満
疑陽性	1	0.27~0.50未満
	2	0.50~1.80未満
	3	1.80~7.05未満
陽性	4	7.05~17.35未満
	5	17.35~29.31未満
	6	29.31以上

「特異的IgE Ara h 2(ピーナッツ由来)の判定基準」

判定	特異的IgE抗体価(UA/mL)
陽性	4.00以上
疑陽性	0.35~3.99
陰 性	0.35未満

細胞性免疫

細胞免疫検査のご依頼について

【依頼書】

- 1)細胞免疫検査ご依頼に際しては専用依頼書をご使用下さい。
- 2) 依頼書所定記入事項(検査材料名、疾患名等) は必ずお書き下さい。
- 3) 検体採取困難等で必要採血量(必要細胞数)に満たない場合、ご依頼に優先順位をお付け下さい。その指示に従って検査を進めます。
- 4) 依頼書に記載されていない抗体および二重染色については80頁の一覧表を参照されるか、当社担当までお問い合わせ下さい。

【採血】

採取後24時間以内に弊社へ到着するようにご提出下さい。

[末梢血]

- ①採血管はヘパリン入り(容器10)をご使用下さい。
- ②2mLで約10項目の検査が行えますので、これを目安に採血して下さい。
- ③採血後は充分混和して凝固を防止して下さい。
- ④白血球数が減少した患者において、所定の採血量でも検査不能となる場合があります。極端な白血球数減少が予想される際にはできるだけ多めに採血してご提出下さい。

[骨髄液]

- ①専用容器(容器101)をご使用下さい。
- ②0.5~1.0mLを採取し、充分混和して凝固を阻止して下さい。

[リンパ節]

- ①専用容器(容器101)をご使用下さい。
- ②脂肪組織を取り除き5mm角程度の組織を容器に入れて下さい。(細胞浮遊液でも可)

[胸水·腹水]

- ①滅菌スピッツ(容器30)をご使用下さい。
- ②約10mLを採取して下さい。

[気管支洗浄液]

- ①FALCON 50mL容器(容器77)をご使用下さい。
- ②約10mLで5項目の検査が行えますので、これを目安に採取して下さい。

【保険点数についての補足】

※モノクローナル抗体によるT細胞サブクラス検査とは、免疫不全の診断 目的に行う検査をいうものであり、検査方法にかかわらず、一連として 算定する。

※モノクローナル抗体による造血器悪性細胞検査について

- ア モノクローナル抗体を用いて蛍光抗体法、酵素抗体法、免疫ロゼット等により白血病細胞又は悪性リンパ腫細胞の細胞表面又は細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定できる。
- イ 対象疾患は白血病、悪性リンパ腫等である。
- ウ 検査を実施するに当たって用いたモノクローナル抗体の種類、回数 にかかわらず、一連として所定点数を算定する。
- エ 検査に用いられるモノクローナル抗体は、医薬品として承認された ものである。

薬剤によるリンパ球幼若化試験の留意点

- 1) 1薬剤ご依頼の場合、ヘパリン加血液(容器10)2mL×1本と保存液 入り容器(容器24)8mL×3本をご提出下さい。
- 2) 2薬剤以上をご依頼の場合、1薬剤追加毎にヘパリン加血液(容器 10)2mL×1本と保存液入り容器(容器24)8mL×1本を併せてご提出下さい。
- 3) 上記の検体量をご提出いただいても検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。そのため、2薬剤以上のご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示下さい。ご指示のない場合は、依頼書に記入いただいた順に従って検査させていただきます。
- 4) 検体と同時に1回投与量の薬剤をご提出下さい。薬剤が粉末のものは粉末を、油溶性薬剤でも粉末があるものは粉末を、座薬およびシロップ剤で粉末またはカプセルのあるものは粉末またはカプセルをご提出下さい。
- 5) 法律により規制される薬剤は受託できませんので、予めご了承下さい。

HLA型判定、遺伝子型判定検査の留意点

- 1) 検体相互のクロスコンタミネーションを防ぐため、以下の点に ご注意下さい。
 - ①真空採血管を使用し採血して下さい。
 - ②素手で採血管のゴムキャップに触れないで下さい。
 - ③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。
 - ④キャップの開封、検体の分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ 処理して下さい。
- 2) 複数項目同時依頼の場合の必要量は以下の通りです。 HLA型判定A、B LocusおよびDR LocusはEDTA加血液2mL、 HLA遺伝子型判定群では3項目までは同2mL、4項目以上で同4mL で検査可能です。ただし、DQA1は単独でEDTA加血液3mLが必要です。
- 3) 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能になることがあります。白血球数が3,000/µL以下の場合は所定量の2倍の血液をご提出下さい。
- 4) 血液以外の材料による検査を希望される場合は、予め受託可否についてお問い合わせ下さい。

細胞性免疫

細胞性免疫検査

	⊐- FNa	検 査 項	目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	851	T細胞·B細胞百分	率	へ(リン加藤 5.0	10	室	フローサイトメトリー [T細胞]CD3 [B細胞]CD19	" [T細胞]60~79 [B細胞] 5~17	193 免疫	1	ご依頼方法については77頁 を参照。	
	852	IgG-FcR ⁺ T細胞i	百分率	へ(リン加藤 5.0	10	室	フローサイト メトリー	9.5~23.1	193 免疫	1	ご依頼方法については77頁 を参照。	
	853		IgG					1.5~5.6				
	853		lgA	- 小川が加藤 5.0 1·	10			1.0~2.4				
	853	B細胞表面免疫 グロブリン	IgM			室	プローサイト メトリー	9.0~15.1	155	1	ご依頼方法については77頁	
細	853	(Sm-Ig)	lgD					5.0~11.5	免疫	ź	を参照。	
胞	853		K鎖					12.0~26.1				
形			λ鎖					6.1~12.5				
態検	854		CD3					60~79	一連につき			
查	054	T細胞サブクラス CD	CD4	 へパリン加血液 5.0	N(以加蘇 5.0 10	室	フローサイト メトリー	34~51	会 体	1 { 2	ご依頼方法については77頁 を参照。	
	854		CD8					26~37				
	1310	浩 而哭亜性睡疸	FSC/SSC ゲート	へパリン加藤 5.0 または	10	室	フローサイト		-連につき 1940	j	ご依頼方法については77頁 を、実施項目については80	
	1310	検査	CD45 ゲート	骨髄液 1.0	101	ヹ	メトリー		血液	ź	頁を参照して下さい。対象疾患は白血病・悪性リンパ腫等。	
	1281	TdT活性 (ターミナル・デオキシ: チジルトランスフェラー		ベリル臓 5.0 または 骨髄液 1.0		室	間接蛍光抗体法	陰性(-)	250 血液	4 6	白血病又は悪性リンパ腫の診断、又は治療効果測定のために行った場合に算定。	
	JECE	表面球.好由球	赤血球		10	_	フローサイト	% CD55 ⁻ /CD59 ⁻	320	1		
	2565	表面抗原検査	好中球	へパリン加藤 2.0	10	至	メトリー	1.0未満	免疫	2		

細胞性免疫検査

	⊐-FNa	検 査 項	目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	855	リンパ球幼若化試験	PHA	へパリン加液 5.0	10	室	EB蛍光DNA	>303	345	4	PHA·Phytohemagglutinin	
細胞機	033	(リンパ球分離培養法)	ConA	VV()///////////////////////////////////	10	土	プローブ法	>218	免疫	7	ConA:ConcanavalinA	
	856	薬剤によるリンパ 若化試験 LST (1薬剤の場		保存液入り容器24.0 (8.0mL×3本) および ヘバリン加油液 2.0	24 10	室	³H-サイミジン 取込能測定法	陽性 200以上 [%] 疑陽性 180~199 陰性 179以下	① 〕② 〕③ 〕② 〕② ② 〕② ② 〕② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	7	[予約検査] 受付曜日:月〜金曜日午前まで、土曜不可 リンパ球数 (WBC×リン/は球%) が1,000/μL以下 の場合採血量を増やす必要がありますので、当社担当 者までお問い合わせ下さい。77頁参照 ② 2	
能検	1241	顆粒球スクリー	貧食能	へパリン加液 2.0	10	安	フローサイト	70.0~	220]		
查	1241	ニング検査	殺菌能	VV.)У Диш/Д		至	メトリー	90.0~	免疫	Ź		
	1869	可溶性インターロ - 2レセプター (sIL-2R)	イキン	血液 2.0 血清 0.5	01	冷	CLEIA	U/mL 157~474	438 生I	3 ~ 5		21 日
	2868	HLA型判定	A,B Locus	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-rSSO		_	4 <	受付曜日:月~金曜日午前まで	
	2869		DR Locus	EDTA加血液 2.0						6	77頁、81頁、82頁参照	
4 Π	2425	HLA遺伝子型判別 (A Locus)	定	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-SBT		_	6 ~ 9	受付曜日:月~金曜日午前まで 77頁参照 ®2	
組織流	2829	HLA遺伝子型判別 (B Locus)	定	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-SBT		_	6 ~ 9	受付曜日:月~金曜日午前まで 77頁参照 82	
適合性	2830	HLA遺伝子型判 (C Locus)	定	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-SBT		_	6 ~ 9	受付曜日:月~金曜日午前まで 77頁参照 82	
1. 抗原	2286	HLA遺伝子型判 (DRB1)	定	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-SBT		_	6 ~ 9	受付曜日:月~金曜日午前まで 77頁参照 ®2	
坏	2828	HLA遺伝子型判 (DQA1)	定	EDTA加血液 3.0	14	冷	PCR-SSP		_	5 } 11	受付曜日:月~金曜日午前まで 77頁参照 ®2	
	1775	HLA遺伝子型判 (DQB1)	定	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-SBT		_	6 ~ 9	受付曜日:月〜金曜日午前まで 77頁参照 ®2	
	2287	HLA遺伝子型判》 (DPB1)	定	EDTA加血液 2.0	14	冷	PCR-SBT		_	6~9	受付曜日:月~金曜日午前まで 77頁参照 ®2	

モノクローナル抗体一覧

認識	CD No.	主要な分布細胞	正常値(単位:%)	標識
	CD1a	胸腺皮質細胞	1.0%以下	
Т	CD2	T細胞、NK細胞の大部分	56.0~91.0%	
	CD3	成熟T細胞	60.0~79.0%	
細	CD4	ヘルパー/インデューサーT細胞	34.0~51.0%	
	CD5	Pan-T細胞、一部のB細胞	65.0~79.0%	
胞	CD7	Pan-T細胞、NK細胞、骨髄細胞の一部		
	CD8	サプレッサー/細胞障害性T細胞	26.0~37.0%	
系	TCR-α/β	Τ細胞レセプター(αβ型)		
	TCR-γ/δ	Τ細胞レセプター(γδ型)		
	CD10	Common-ALL、顆粒球	1.0%以下	• •
	CD19	Pan-B細胞	5.0~17.0%	
В	CD20	成熟B細胞	3.0~21.0%	
細	CD21	成熟B細胞	5.0~17.0%	•
胞	CD22	成熟B細胞		
系	CD23	ヒトIg-Eの低親和性レセプター(Fcεレセプター)	2.4~6.0%	
	CD79a	B細胞		•
	HLA-DR	B細胞、単球、活性化T細胞	4.0~29.0%	
ŅK	CD16	NK細胞、顆粒球(Fcγレセプター)	8.0~22.0%	
細胞系	CD56	NK細胞		
系	CD57	NK細胞、サプレッサーT細胞の一部	13.0~27.0%	
	CD11b	顆粒球、単球、NK細胞、マクロファージ	5.0~16.0%	
	CD11c	単球、顆粒球、マクロファージ、HCL		
骨	CD13	骨髄細胞、単球、顆粒球	1.0%以下	
髄	CD14	単球、顆粒球	1.0%以下	
球	CD15	単球、顆粒球		
系	CD33	骨髄細胞、単球系細胞	1.0%以下	
गर	CD34	幹細胞、造血前駆細胞	1.0%以下	
	CD117	造血前駆細胞		
	MPO	好中球、単球		
<u></u>	CD41	血小板(GPⅡb)、巨核球		
小 板 系	CD42b	血小板(GPIb)、巨核球		
系	CD61	血小板(GPⅢa)、巨核球		
	CD25	活性化細胞、IL-2レセプター(α鎖)	5.0%以下	
そ	CD30	活性化リンパ球、ホジキン細胞		
o o	CD38	形質細胞、胸腺細胞、活性化細胞	3.0~11.0%	
	CD71	活性化及び増殖細胞		
他	CD138	形質細胞		
	CD235a	赤血球前駆細胞(赤芽球系細胞)		

[●]は、FITC標識、●は、PE標識の抗体です。two-color解析を希望の際は、●と●の抗体の組み合わせが可能です。但し、抗体の組み合わせによっては抗体の非特異的反応によるfalse positiveが起こる場合があります。尚、上記以外の抗体につきましては弊社担当にお問い合わせ下さい。

日本人集団におけるHLA遺伝子頻度と対応抗原

	A Lo	cus	
抗原	アリル	頻度1	頻度2
A-1	A*01:01	0.2%	0.25%
A-2	A*02:01	10.9%	11.64%
A-2 A-2	A*02:03	l r	0.10%
A-2	A*02:06	10.4%	8.74%
A-2	A*02:07	3.4%	3.39%
A-2	A*02:10	0.1%	0.44%
Null	A*02:15N	vr	vr
A-2	A*02:18	r	0.05%
-	A*02:28	r	r
A-2	A*02:42	vr	vr
A-3	A*03:01	0.8%	0.25%
A-3	A*03:02	r	0.10%
A-11	A*11:01	8.1%	10.22%
A-11	A*11:02	0.1%	0.25%
A-23	A*23:01		_
A-24	A*24:02	35.6%	36.20%
A-24	A*24:04	r	0.15%
A-24	A*24:08	r	r
A-24	A*24:20	r	0.83%
A-25	A*25:01		
A-26	A*26:01	9.8%	7.66%
A-26	A*26:02	2.2%	2.31%
A-26	A*26:03	2.1%	1.47%
A-26	A*26:04	vr	vr
A-26 A-26	A*26:05	r	0.05%
	A*26:06	vr	vr
Null	A*26:11N	vr	vr
A-29	A*29:01	vr	vr
A-30	A*30:01	0.3%	0.10%
A-30	A*30:04	vr	vr
A-31	A*31:01	7.7%	9.14%
A-31	A*31:05	vr	vr
A-32	A*32:01	vr	vr
A-33	A*33:03	7.9%	6.68%
A-34	A*34:01	vr	vr
A-36	A*36:01		_
A-43	A*43:01	_	_
A-66	A*66:01	_	_
A-68	A*68:01	r	r
A-69	A*69:01	_	_
A-74	A*74:01	_	_

B Locus								
	B LO	cus						
抗原	アリル	頻度1	頻度2					
B-7	B*07:02	5.2%	5.70%					
B-7	B*07:05	r	r					
B-8	B*08:01	_	_					
B-13	B*13:01	0.9%	1.28%					
B-13	B*13:02	0.1%	0.25%					
B-64	B*14:01	r	r					
B-62	B*15:01	7.2%	7.51%					
B-75	B*15:02	r	0.05%					
B-72	B*15:03	r	r					
B-62	B*15:05	vr	0.05%					
B-62	B*15:07	0.7%	0.44%					
B-70	B*15:09	vr	vr					
B-75	B*15:11	1.0%	0.83%					
B-71	B*15:18	0.9%	1.72%					

	B Locus	s(続き)	
抗原	アリル	頻度1	頻度2
Null	B*15:26N	vr	vr
B-62	B*15:27	vr	0.29%
B-62	B*15:28	r	0.05%
-	B*15:38	r	r
B-72	B*15:46	vr	vr
_	B*15:60	vr	vr
B-18	B*18:01	_	_
B-27	B*27:02	vr	vr
B-27	B*27:04	r	0.20%
B-27	B*27:05	r	0.05%
B-27	B*27:11	vr	vr
B-27 B-35	B*27:11 B*35:01	8.6%	7.76%
B_35	B*35:05	vr	0.05%
B-35	B*35:10	vr	vr
B-35	B*35:21	vr	vr
B-35	B*35:35	vr	vr
B-35	B*35:43	Vr	vr
B_37	B*37:01	0.2%	0.44%
B-37 B-38	B*38:02	0.2% 0.3%	0.25%
B-39	B*39:01	4.0%	3.44%
D-39		4.0%	0.30%
B-39 B-39	B*39:02 B*39:04	0.2%	0.39%
	2 00 0	0.2%	0.20%
B-39	B*39:23	r = 10/	0.05%
B-60	B*40:01	5.1%	5.40%
B-61	B*40:02	8.2% 1.1%	8.25%
B-61	B*40:03	1.1%	0.25%
B-61	B*40:06	5.3%	5.26%
B-60	B*40:07	vr	vr
B-61	B*40:29	vr	vr
B-41	B*41:01		_
B-42	B*42:01	_	_
B-44	B*44:02	1.0%	0.34%
B-44	B*44:03	6.9%	6.24%
B-45	B*45:01	_	_
B-46	B*46:01	3.8%	4.96%
B-46	B*46:02	vr	vr
B-47	B*47:01		
B-48	B*48:01	2.7%	2.65%
B-49	B*49:01		
B-50	B*50:01	_	_
B-51	B*51:01	7.9%	8.35%
B-51	B*51:02	0.1%	0.29%
B-51	B*51:03	Vr	vr
B-52	B*52:01	vr 13.7%	10.90%
B-53	B*53:01		- 0.0070
B-54	B*54:01	6.5%	8.79%
B-54	B*54:02	Vr Vr	vr
B-55	B*55:02	3.2%	1.92%
D 55	B*55:04		0.05%
B-55	B*55:10	r vr	
B-56	B*56:01	vr 1.0%	vr 1.47%
B-36 B-22	D*E6:03	0.2%	0.05%
	B*56:03		
B-56	B*56:05	Vr 0.10/	vr
B-57	B*57:01	0.1%	r 0.400/
B-58	B*58:01	0.6%	0.49%
B-59	B*59:01	1.7%	1.96%
B-67	B*67:01	1.0%	1.38%
B-78	B*78:02	vr	vr
B-81	B*81:01	vr	vr
	·		

	DRB	1	
抗原	アリル	頻度3	頻度2
DR-1	DRB1*01:01	4.76%	5.60%
DR-17	DRB1*03:01	0.22%	0.05%
DR-18	DRB1*03:02	_	_
DR-4	DRB1*04:01	1.16%	1.28%
DR-4	DRB1*04:03	3.00%	3.00%
DR-4	DRB1*04:04	0.22%	0.34%
DR-4	DRB1*04:05	15.51%	14.05%
DR-4	DRB1*04:06	3.22%	3.49%
DR-4	DRB1*04:07	0.44%	0.49%
DR-4	DRB1*04:10	1.82%	1.82%
DR-7	DRB1*07:01	0.81%	0.20%
DR-8	DRB1*08:02	4.99%	4.91%
DR-8	DRB1*08:03	7.55%	9.43%
DR-8	DRB1*08:09	r	0.05%
DR-9	DRB1*09:01	12.38%	14.88%
DR-10	DRB1*10:01	0.59%	0.39%
DR-11	DRB1*11:01	2.94%	2.80%
DR-12	DRB1*12:01	3.90%	3.59%
DR-12	DRB1*12:02	2.66%	1.72%
DR-13	DRB1*13:01	0.86%	0.44%
DR-13	DRB1*13:02	5.25%	6.43%
	DRB1*13:07	0.11%	0.10%
DR-13	DRB1*13:12	vr	0.05%
DR-14	DRB1*14:02	r	0.05%
DR-14	DRB1*14:03	1.57%	1.28%
DR-14	DRB1*14:05	2.56%	2.16%
DR-14	DRB1*14:06	1.36%	1.28%
DR-14	DRB1*14:07	0.27%	0.10%
DR-14	DRB1*14:12	r	0.05%
DR-14	DRB1*14:29	r	r
DR-14	DRB1*14:54	4.45%	3.83%
DR-15	DRB1*15:01	6.08%	5.75%
	DRB1*15:02	8.74%	9.87%
DR-16	DRB1*16:02	0.55%	0.54%

頻度1: Tanaka H, et al.: Clinical Transplants: 139,1996.

による日本人N=493のアリル頻度

頻度2:Azuma F, et al. MHC:166, 2004. 発表資料による日本人N=1018のアリ ル頻度

頻度3: Hashimoto M, et al.: Tissue Antigens: 166,1994. による日本人N=916のアリル頻度

その他、低頻度により上記の調査で検出されな かったアリルを「rare」とし、さらに低頻度と 思われるものを「very rare」とした。

r : rare

vr: very rare

一:日本人に検出されないアリル

日本組織適合性学会ホームページより抜粋

HLA型の種類

A Lo	ocus
A-1	A-30 (19)
A-2	A-31 (19)
A-3	A-32 (19)
A-9	A-33 (19)
A-10	A-34 (10)
A-11	A-36
A-23 (9)	A-43
A-24 (9)	A-66 (10)
A-25 (10)	A-68 (28)
A-26 (10)	A-69 (28)
A-28	A-74 (19)
A-29 (19)	A-80

	B Lo	ocus	
B-7	B-38 (16)	B-52 (5)	B-65 (14)
B-8	B-39 (16)	B-53	B-67
B-12	B-40	B-54 (22)	B-70
B-13	B-41	B-55 (22)	B-71 (70)
B-14	B-42	B-56 (22)	B-72 (70)
B-15	B-44 (12)	B-57 (17)	B-73
B-16	B-45 (12)	B-58 (17)	B-75 (15)
B-18	B-46	B-59	B-76 (15)
B-21	B-47	B-60 (40)	B-77 (15)
B-22	B-48	B-61 (40)	B-78
B-27	B-49 (21)	B-62 (15)	B-81
B-35	B-50 (21)	B-63 (15)	●HLA遺伝子型の
B-37	B-51 (5)	B-64 (14)	学会Webサイ

DR I	Locus
DR-1	DR-10
DR-2	DR-11 (5)
DR-3	DR-12 (5)
DR-4	DR-13 (6)
DR-5	DR-14 (6)
DR-6	DR-15 (2)
DR-7	DR-16 (2)
DR-8	DR-17 (3)
DR-9	DR-18 (3)

HLA遺伝子型の種類については、下記日本組織適合性 学会Webサイトにて最新情報をご確認下さい。 http://jshi.umin.ac.jp/databank/

										THE IT IN											
	⊐-FNa	検 査 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性										
染色体検査	789	Gバンド分染法	ペリン加減5.0 または 骨髄液 1.0		室	(血液) 分離培養法 (骨髄液) 短期培養法	M 46XY F 46XX	2477 397 遺伝子	7 { 10	対象疾患:先天性異常、血液 疾患等ご依頼の際は、下欄を ご参照下さい。											
	2296	13染色体 (13トリソミー/Patau症候群)			2 室					13、18、および21染色体の											
	2985	18染色体 (18トリソミー/Edwards症候群)								各トリソミー解析は細胞分裂像での確認を原則とします。 特にお急ぎの場合。間期核での確認も承ります(所要日数: 3~6日)。その際は、予めご	~ -										
先	2807	21染色体 (21トリソミー/Down症候群)																		相談下さい。	
天異	2811	X染色体(cenの検出)							2477												
常染	2806	Y染色体(cenの検出)	 へりン加速83.0	10		FISH法		遺伝子	5 7												
色体	3057	7染色体 (Williams症候群)						214 3		ご依頼の際は、下欄をご参照	אחל										
	2997	15染色体 (Prader-Willi症候群)								下さい。											
	2804	15染色体 (Angelman症候群)																			
	2996	22染色体 (DiGeorge症候群)																			

染色体検査のご依頼について

【依頼書】

- 1)染色体検査ご依頼に際しては専用依頼書をご使用下さい。2)依頼書所定記入事項(検査材料名、疾患名等)は必ずお書き下さい。

【検査材料】

- 1)検体は無菌的に採取して下さい。
- 2) 提出検体は常温(20℃前後)で保存して下さい。

- ①採血管はヘパリン入り(容器10)をご使用下さい。 ②5mL採血し充分混和して凝固を防止して下さい。
- ②5IIIC採血し元が混れして凝固を防止して下さい。 ③白血球数が減少した患者において、所定の採血量でも検査不能となる場合があります。極端な白血球数減少が予想される際にはできるだけ多めに採血してご提出下さい。

- ①専用容器(容器101)をご使用下さい。
- ②0.5~1.0mLを採取し、充分混和して凝固を阻止して下さい。 [リンパ節]
 - ①専用容器(容器101)をご使用下さい。
 - ②脂肪組織を取り除き5mm角程度の組織を容器に入れて下さい。 (細 胞浮遊液でも可)

[胸水·腹水]

- ①滅菌スピッツ(容器30)をご使用下さい。 ②約10mLを採取して下さい。

染色体

染色体検査

	⊐-FNa	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性	
	2941	IgH/BCL2 [t(14;18)転座解析]										
	2947	BCL6 (3q27転座解析)										
	2809	c-myc (8q24転座解析)										
	3210	c-myc/lgH [t(8;14)転座解析]										
	3084	FGFR3/IgH [t(4;14)転座解析]										
	3255	p53 (17p13欠失解析)										
ш	3254	IgH/MAF [t(14;16)転座解析]	√(!)ン恤減83.0 または 骨髄液80.5									
液疾	2803	MALT1 (18q21転座解析)						遺伝子				
患	3211	D13S319 (13q14欠失解析)			室	FISH法			5 { 7	ご依頼の際は、82頁をご参 照下さい。		
染色	2802	RB1 (13q14欠失解析)										
体	3637	lplq (1p欠失1g增加解析)										
	3576	TCF3/PBX1 [t(1;19)転座解析]										
	3116	EWS (22q12転座解析)										
	3670	ATM (11q22.3欠失解析)										
	2808	(2p24.1瑁幅解析)										
	3133	好酸球增多症(4q12) (4q12欠失/挿入解析)										
	3487	PDGFRβ (5q32-33転座解析)										
	2805	HER-2 (遺伝子増幅解析)	組織	47	室	FISH法		2700 病理	5 7			

				採取量(mL)	容	保			実施料	所		検
		- KNa	検査項目	提出量(mL)	器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	1		白血球数 (WBC) (ワイセ)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	フローサイト メトリー法	^{/μL} 4.0~8.0×10 ³	21	1 5 2	● ます。 ● まず まかり ・ として一連の算定となります。	
	2		赤血球数 (RBC) (ローテ)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	電気抵抗検出法	M 410~540×10 ⁴ F 380~500×10 ⁴	21	1	● また まず まず まず ます。	
	3	3	ヘモグロビン (Hb)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	SLS-Hb法	M 14.0~18.0 F 12.0~16.0	21	1	愛手 実施料は「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。	
	4	4	ヘマトクリット (Ht)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	赤血球パルス波高値検出法	M 39.0~50.0 F 36.0~48.0	21	1	愛手 実施料は「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。	
ш	á	9	血小板数 (PLT)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	電気抵抗検出法	/μL 12.0~40.0×10 ⁴	21	1	愛手 実施料は「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。	
球計	Ę	5	平均赤血球容積 (MCV)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	電気抵抗検出法	M 84~99 F 84~93	_	1		
数	6	6	平均赤血球血色素量 (MCH)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	電気抵抗検出法	M 30.0~38.0 F 27.0~32.0	_	1 5 2		
	7	7	平均赤血球血色素濃度 (MCHC)	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	電気抵抗 検出法	32.0~36.0	_	1 5 2		
	1	1	網状赤血球数(レチクロ) (RET)	EDTA加血液 2.0	14	冷 凍結 不可	フローサイト メトリー法	5~19	12	1	5	
	2	20	好酸球数	EDTA加血液 2.0	14	冷凍結不可	間接法	^{7μ} L 70~440	17	1	同一検体で「好酸球数」および「未梢血液像」検査を行った場合は、「末梢血液像」の所定点数のみの算定となります。	
	86	62	鼻汁喀痰中好酸球数	塗抹標本1枚以上	23	室	ギムザ染色	0	15	1		
形態学的検査	8	8	血液像	EDTA加藤 2.0 または 塗抹標本3枚		不可	フローサイト メトリー法 目視法 (鏡検)	NEUT 45~74 % [ST 0~6] [SEG 45~68] LYM 20~45 MON 2~ 8 EOS 0~ 6 BAS 0~ 3	15	1 5 2	७ ● ⊕ 1,2	
的検査	1	4	骨髄像 (マルク)	塗抹標本 3枚以上 末血標本 2枚	23	室	ライト・ギムザ 染色		788	8 } 17	「骨髄像依頼書」を添えてご 提出下さい。依頼書には臨床 所見等をご記入下さい。 ⑧2	

^{1:} 採血後8時間以上のものは、血球形態破壊が著しくなるため検査不能になることがあります。できるだけ早くご提出下さい。 ② : 塗抹標本でご提出の場合は、採血後直ちに作製して下さい。(標本冷蔵厳禁)STとSEGはNEUT(好中球)として一括表示されます。但し、目視法の際は個別に表示されます。

血液学検査

	⊐— KNa	楨	章 項 目	採取量(mL) 述 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考
	13		ペルオキシダーゼ (POX)染色				NEW PO-K染色	g	6		血液特殊染色は「血液像」における特殊 染色毎に、それぞれ37点加算となります。 メタノール固定を実施しますと、染色不 良となりますのでご注意下さい。
	2143		エステラーゼ (EST)染色				二重染色 (α-NB/N-ASDCA)				
	2147	血	エステラーゼNaF 阻害染色				二重染色 (α-NB/N-ASDCA)		各37		血液特殊染色は「血液像」に おける特殊染色毎に、それぞ
	2144	液 特 染色 染色	各染色ごとに	23		Sheehan- Storey法 室		加算血液	3~6	れ37点加算となります。	
	2142	色(末血)	鉄染色	塗抹標本2枚以上 	空枚以上	三	ベルリンブルー 染色			6	<u> </u>
	44		ALP染色				朝長法	SCORE 170~335 RATE %			● 1 血液特殊染色は「血液像」における特殊 染色毎に、それぞれ37点加算となります。 「ALP染色」の固定法については、予め お問い合わせ下さい。
形	2145		PAS染色				Mc Manus法				血液特殊染色は「血液像」に おける特殊染色毎に、それぞ れ37点加算となります。
態学	2146		ACP染色				アゾ色素法		_		
的検	711		ペルオキシダーゼ (POX)染色				NEW PO-K染色				血液特殊染色は「骨髄像」に
査	714		エステラーゼ (EST)染色				二重染色 (α-NB/N-ASDCA)				おける特殊染色毎に、それぞれ60点加算となります。 メタノール固定を実施しますと、染色不良となりますのでご注意下さい。
	1376	ф	エステラーゼNaF 阻害染色				二重染色 (α-NB/N-ASDCA)		各60		272,64 23 %
	715	血液特殊染色	ズダン黒B(SBB) 染色	各染色ごとに	23	室	Sheehan- Storey法		加算血液	3 \	血液特殊染色は「骨髄像」に おける特殊染色毎に、それぞ
	712	口 (マルク)	鉄染色	塗抹標本2枚以上 		3 室 -	ベルリンブルー 染色			6	れ60点加算となります。
	791		ALP染色				朝長法				は 血液特殊染色は「骨髄像」における特殊 染色毎に、それぞれ60点加算となります。 「ALP染色」の固定法については、予め お問い合わせ下さい。
	713 PAS染色			Mc Manus法				血液特殊染色は「骨髄像」に おける特殊染色毎に、それぞ れ60点加算となります。			
	792		ACP染色				アゾ色素法		_		

② 1: ALP染色固定法:標本作製後、直ちに調整済み固定液(-3℃~-5℃)にて固定(5秒間)し、流水で15~30秒水洗いした後、十分乾燥してご提出下さい。

血液学検査

	コードNo	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	29	血小板凝集能 (PL凝集能)	クエン酸加血液 5.0	16		比濁透過法 (ADP)	32.0~50.0	50	1 5 2	同時依頼の場合、末梢血液一 般検査の所定点数は算定でき ません。	
	30	血小板粘着能 (PL粘着能)	クエン酸ル់臓 5.0	16	室	ガラスフィルター法	M 26.0~46.0 F 25.0~50.0	64	1		
	24	プロトロンビン時間 (PT)	血液 1.8 がい かりで から から から から から から から から から から から から から	16 ↓ 02	凍	光散乱法	活性値 70~120% PT-INR 0.85~1.15	18	1	⊕ (±) 1	l ヶ 月
	23	活性化部分トロンボプ ラスチン時間 (APTT)	血液 1.8 灯磁 0.5	16 ↓ 02	凍	光散乱法	23.0~35.0秒	29	1	⊕ (a) 1	l ヶ月
	21	フィブリノーゲン (Fbg)	血液 1.8 灯域 0.5	16 ↓ 02	凍	光散乱法	mg/dL 200~400	23	1 5 2	1	l ヶ 月
出血	25	EDD	血液 1.8 灯域 0.5	1	凍	ラテックス 免疫比濁法	μg/mL 5.0未満	80	1	へパリン投与患者はその旨依 頼書へご記入下さい。	l ヶ 月
凝固	749	- FDP	尿 2.0	20	冷	LPIA	ng/mL 100以下	72 尿便	3		
検査	1579	D-ダイマー	血液 1.8 灯嫩嫩 0.5	16 ↓ 02	凍	ラテックス 免疫比濁法	μg/mL 1.00未満	127	1	(3) 1	
	1149	プロテインC(抗原量)	血液 1.8 /II/酸漿 0.3	16 ↓ 02	凍	LPIA	70~150	226 血液	3 ~ 6	⊕ 1	
	1272	プロテインC(活性)	血液 1.8 /ii/		凍	凝固時間法	64~146	227 血液	3 ~ 5	(♣)] (♣)	
	1768	プロテインS(抗原量)	血液 1.8 加液 0.3	16 ↓ 02	凍	ラテックス 凝集反応	M 73~137 F 59~143	154	3 ~ 5		日
	1213	プロテインS(活性)	血液 1.8 加液 0.4	16 ↓ 02	凍	凝固時間法	M 67~164 F 56~126	163	3 ~ 5	(a) 1 (b) 1 (b) 8	
	1150	プロテインS(遊離)	血液 1.8 クエン酸漿 0.3	1	凍	LA (ラテックス 凝集比濁法)	M 74~132 F 60~127	154	3 \ 4	(⊕) 1 (⊕) 2	2週

血液学検査

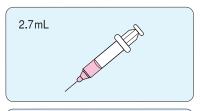
	⊐- KNa.	検 査 項	目	採取量(mL) ^{趣心} 提出量(mL)	容保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	734	プラスミノーゲン (PLG)	/ーゲン 活性 血液 1.8 16 ↓ ケンダ酸 0.5 02		↓凍	合成基質法	71~128	100	3 4	⊕ 1	2週
	733	アンチトロンビンⅢ (ATⅢ) (抗トロンビンⅢ)	活性	血液 1.8 /ji/ ()	16 ↓ 凍 02	合成基質法	80~130	70	1	1	1 ヶ 月
	1230	トロンビン・アンラ ンビンⅢ複合体 (TAT)	チトロ	血液 1.8 河辺 (1.2)	↓ 凍 CLEIA		ng/mL 3.0以下	171	3~5	[PTF1+2] および「SFMC」 を同時に測定した場合は、主たる項目のみ算定できます。 ⑧8	
出	735	α₂-ブラスミンインヒビ (α₂-PI) (アンチプラスミン)		血液 1.8 /jiii 0.5	↓凍	合成基質法	85~118	128	3 4	⊕ 1	2 週
血凝	1311	α₂プラスミンイン ター・プラスミン∛ (PIC)		血液 1.8 /jail / 7I/触線 0.5	↓凍	ラテックス 免疫比濁法	μg/mL 0.8以下	150	1 5 2	(∄) 1	
固検	1191	フィブリンモノマー (FMテスト)	複合体	血液 1.8 プエン酸素 0.5	↓凍	赤血球凝集法	(-)	93	1	1	
查	1262	β-トロンボグロブ (<i>β</i> -TG)			22 ↓ 凍 02	EIA	ng/mL 50以下	171	3 { 7	②290頁参照真空採血禁止③8	1 ケ 月
	834	血小板第4因子 (PF-4)		血液 2.7 動脈 0.3	↓凍	EIA	ng/mL 20以下	173	3 7	② 90頁参照真空採血禁止③ 8	1 ケ 月
	1639	トロンボモジュリン	·/	血液 1.0 血清 0.3	01	OL TIA	^{U/mL} 12.1∼24.9	204	3		4
	1640	(TM)		血液 1.8 红水 0.3	16 ↓ 02	CLEIA	∪/mL 8.7~22.7	血液	6	(B) 1 (B) 2	週

⊐— KNa	検査項目	採取量(mL) 容 保存方 提出量(mL) 器 法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
716	凝固活性 第11因子	血液 1.8 16 ↓ 凍 / / / / / / / / / / / / / / / / / /	凝固時間法	75~135	[%] 223 血液	3 ~ 5		21 日
719	凝固活性 第V因子	血液 1.8 16 ↓ /汀/麒麟 0.4 02	凝固時間法	70~135	[%] 223 血液	3 ~ 5	1	21 日
721	凝固活性 第VII因子	血液 1.8 16 ↓ /江/離鱗 0.4 02	凝固時間法	75~140	[%] 223 血液	3~5	⊕ 1	21 日
722	凝固活性 第VII因子	血液 1.8 16 ↓ /江/髄漿 0.4 02	凝固時間法	60~150	[%] 223 血液	3 ~ 5	⊕ 1	21 日
723	凝固活性 第IX因子	血液 1.8 16 ↓ 凍 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	凝固時間法	70~130	[%] 223 血液	3 ~ 5	(∄] (⊛ 8)	21 日
724	凝固活性 第X因子	血液 1.8 16 ↓ /汀/鹹蘇 0.4 02	凝固時間法	70~130	[%] 223 血液	3 ~ 5	⊕ 1	21日
725	凝固活性 第XI因子	血液 1.8 16 ↓ クエン髄漿 0.4 02	凝固時間法	75~145	[%] 223 血液	3 ~ 5	1	21日
726	凝固活性 第XII因子	血液 1.8 16 ↓ 凍 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	凝固時間法	50~150	[%] 223 血液	3 ~ 5	1	21日
727	凝固活性 第XIII因子	血液 1.8 16 ↓ クエン髄縁 0.4 02	合成基質法	70~140	[%] 223 血液	3 ~ 5	1	21日
1261	フォン・ウィルブランド 因子抗原定量	血液 1.8 16 ↓ /江/齜綠 0.3 02	ラテックス 凝集反応	50~155	[%] 147 血液	3 ~ 5	1	21 日
1275	フォン・ウィルブランド 因子活性 (リストセチンコファクター)	血液 1.8 16 ↓ 凍 クエン髄鯵 0.5 02	固定血小板凝集法	60~170	[%] 126 血液	3 ~ 5	(a) 1 ⊗8	20日
1585	ループス アンチコアグラント (LA)	血液 3.6	希釈ラッセル 蛇毒時間法	1.2以下	265 免疫	3 ~ 5	(♣) 1 (♣) 8	21日
1282	C1インアクチベーター 活性	血液 1.8 16 ↓ /江/齜綠 0.5 02	発色性 合成基質法	70~130	[%] 253 免疫	3 ~ 5	(♣) 1 (♣) 8	16日
3488	HIT抗体 (血小板第4因子へパリン複合体抗体)	血液 1.8 16 ↓ /江/齜綠 0.5 02	ラテックス 凝集法	U/m 1.0未満	390 免疫	3	1,2HIT抗体 (IgG、IgMおよびIgA) を 測定し、その濃度をご報告しますが、 免疫グロブリンの各クラス別の濃度 報告は行いません。	週
	716 719 721 722 723 724 725 726 727 1261 1275 1585 1282	716 凝固活性 第II因子 719 凝固活性 第VII因子 721 凝固活性 第VII因子 722 凝固活性 第VII因子 723 凝固活性 第XX因子 724 凝固活性 第XX因子 725 凝固活性 第XII因子 726 凝固活性 第XII因子 727 凝固活性 第XII因子 1261 フォン・ウィルブランド 因子抗原定量 1275 フォン・ウィルブランド 因子活性 (リストセチンコファクター) 1585 アンチコアグラント (LA) 1282 C1インアクチベーター 活性 3488 HIT抗体	716 疑固活性 第II因子 加液 1.8 16 東 東 東 東 東 東 東 東 東	716 凝固活性 第II因子 加液 1.8 16 1.8 18 1.8 18 18 18 18	716 凝固活性 第IIB子 加液 1.8 16 水	716 凝固活性 第1四子 加液 1.8 16 東 凝固時間法 75~135 加液 223 加液 772 凝固活性 第1四子 加液 1.8 16 東 凝固時間法 75~140 223 加液 75~145 15~1	716 凝固活性 第II 図子 加液 1.8 16 16 16 16 17 17 18 18 16 18 18	716 凝固活性 第1四子 1.8 1.6 1.8 1.6 1.8 1.8 1.6 1.8 1

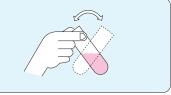
	⊐- FNo.	検査項目	遠心	容保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
出血凝	1194	凝固抑制 第VII因子	血液 1.8 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	16 ↓ 凍 02	Bethesda法	BU/mL 検出せず	144	3 \ 6	∄ 1	2 週 ®2
出血凝固検査	2597	凝固抑制 第IX因子	血液 1.8 灯波 0.5	16 ↓ 凍 02	Bethesda法	BU/mL 検出せず	144	3 6	∄ 1	2 週 <u></u>

(金) ↑:3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。

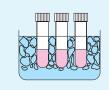
βトロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)の採血方法



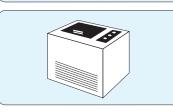
- 1) 20ゲージ (19~21ゲージ) の針を用いたポリエチレン注射器で血液3.0mLを採取して下さい。
- <留意事項>
- ①真空採血管、カテーテル及び他の方法は使用しないで下さい。
 - ②できれば止血帯も使用しないで下さい。
- ③10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。



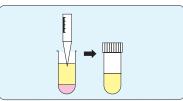
- 2) 予め冷却しておいた専用容器(容器22) に採血した血液2.7mLを移し、ゆっくり2~3回転倒混和して下さい。
- <留意事項>
- ①指定のサンプリングチューブ以外は使用しないで下さい。
- ②サンプリングチューブは振とうさせないで下さい。



- 3) 採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却して下さい。 <留意事項>
- 、国心(デス) ①砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにして下さい。
- ②角氷は使用しないで下さい。
- ※1) ~3) を2分以内で行って下さい。



4) 砕氷水に15~30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2~4℃で遠心分離して下さい。また、1時間以内に必ず冷却下で遠心分離して下さい。



- 5) 上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.3mL検体容器(容器02) へ採取して下さい。
- <留意事項>
 - ①検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存して下さい。(1ヶ月安定)
 - ②血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けて下さい。

2000G換算表

操作を2分以内に行う

30分間

半径(cm)	回転数(r.p.m.)	半径(cm)	回転数(r.p.m.)
10	4, 200	22	2,800
12	3,800	24	2,700
14	3,500	26	2,600
16	3,300	28	2,500
18	3, 100	30	2,400
20	3,000		

微生物学検査のご依頼について

【ご依頼上の注意】

- 1) 材料採取部位ならびに材料名を必ず依頼書に明記して下さい。
- 2)薬剤投与中の材料採取の場合は、使用薬剤名を依頼書に明記して下さ 610
- 3) 目的菌がある場合は、目的菌を依頼書に明記して下さい。 目的菌のみのご依頼はできません。

【検体の採取方法】

- 1) 口腔気道・呼吸器系材料
- 喀 痰:口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2~3回 うがいしてから喀出痰を採取して下さい。できるだけ唾液・鼻粘 液の混入は避けるようにして下さい。
- 咽頭液:滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒(シードスワブ1号付 髄 液:採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行って 属の綿棒)で病変部をよく擦って粘液を採取し、指定容器(シー ドスワブ1号)に入れて下さい。
- 2) 消化器系材料
- 糞 便:急性期の排出便を採取して下さい。糞便は滅菌綿棒 (シードスワ ブ1号付属の綿棒)で採取して指定容器(シードスワブ1号)に 入れて下さい。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手 5) その他の部位 がかりとなりますので、ご記入願います。
- 胆 汁:胆管内胆汁(A胆汁)、胆囊内胆汁(B胆汁)、胆内胆汁(C胆汁) のうち、検査には通常、胆囊内胆汁(B胆汁)を培養します。滅 菌スピッツ管(容器30)にできるだけ採取して下さい。
- 3) 泌尿器·生殖器系材料
 - 尿 :患者自身が採尿する場合がほとんどなため、採尿に際して適切な 指示をして下さい。
 - ・男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌ハルンカッ プ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管(容器30)に入れてもらい ます。
 - ・女性の場合は、膣等の常在菌汚染があるため、充分に洗浄してか ら採尿して下さい。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数 回洗浄します。ガーゼは1回毎に取り替えるよう指示して下さい。 尿は滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管(容器番 号30) に入れてもらいます。
 - ・いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨てて、 中間尿を採取して下さい。

生殖器分泌液:男性の場合は、陰茎をしごき、分泌物を採取して下さい。

- ・女性の場合は、外陰部を消毒した後、膣鏡を用いて滅菌綿棒で後 膣内蓋部より採取して下さい。
- ・淋菌を疑われる場合は、菌死滅を防ぐためシードスワブ3号に採 取して提出して下さい。
- ・トリコモナスを疑われる場合は、採取後の綿棒を専用培地(トリ コモナス培地:容器39) に入れて下さい。

いずれも35~37℃の孵卵器(止むを得ない場合は、室温)で保管し て下さい。

- 4) 血液・穿刺液
- 血 液:採血に当たり、穿刺部位を十分に消毒して下さい。
 - ・消毒方法は70%アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に 向かい描くよう拭いて下さい。
 - ・その後、少し擦るようにして下さい。乾燥後ヨードチンキで同 様の方法で消毒して下さい。
 - ・1分後に注射器で採血して下さい。
 - ・血液培養ボトル(容器58)は、予めキャップを取り、ゴム上部 を70%アルコールで消毒して下さい。
 - ・血液培養ボトル(容器58)への血液接種量は3~10mLです。
 - ・接種後の血液培養ボトル(容器58)は、室温で保管して下さい。
- 下さい。
 - ・髄液は血液培養ボトル(容器58)に入れ、35~37℃の孵卵器 (止むを得ない場合は、室温) で保管して下さい。
 - ・塗抹検査(グラム染色等)が必要な場合には、髄液を滅菌スピ ツツ管(容器30)に入れ、提出して下さい。

腫瘍・創傷:皮下組織や粘膜下の閉鎖性腫瘍は、穿刺部位を消毒後注 射器で採取し、滅菌スピッツ管(容器30)に入れて下さい。

嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気用指定容器 (ケンキポーター: 容器37) のゴム栓に刺し、注入して下さい。

開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清掃後、滅菌綿棒(シードスワ ブ1号付属の綿棒)で膿性部を採取し、指定容器(シードスワブ1号) に入れて下さい。

<留意事項>

- ① 検体採取は、環境細菌による汚染や常在菌等の混入を極力避けるよ う慎重に行って下さい。また、消毒液等の混入も避けて下さい。
- ② 原則として抗菌剤投与前に採取して下さい。
- ③ 投与後の採取の場合は、48時間以上経過後または投薬直前(薬剤 血中濃度が最も低い時期)に採取して下さい。
- ④ 検体採取後直ちに当社指定の検体容器に入れ、保存条件(ほとんど の検体は冷蔵)を厳守して下さい。
- ⑤ 菌株接種培地にて培養・同定をご依頼の場合は、培地を室温にて保 存して下さい。
- ⑥ 指定容器以外での提出について。
 - ・シャーレ等の密閉不可の容器での提出は避け、密閉できる容器で ご提出して下さい。
 - ・注射針が装着されたままの状態での提出は大変危険です。滅菌ス ピッツ管等の容器に入れてご提出して下さい。
- ⑦ お預かりした検体は微生物検査材料のため腐敗・変性が著しい可能 性があります。この場合、検査実施後速やかに処分させていただき ますので、予めご了承下さい。

	⊐- KNa.	楨	È	査	項	目	検査材料·量	容器	保存方法	検査方法 (使用培地·検査方法)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性			
	52	グラ	ム嶺	绝			尿・喀痰/その他	94 頁参照	冷凍結不可	ハッカー変法	67 微生	1	ご依頼方法については91頁 を参照下さい。材料が便又は 培地の時、検査は実施しませ ん。				
	57				道ま 治養		喀痰・咽頭液/その他			同定は質量分析法を使用。使用培地は、目的 菌、検査材料により異なりますが、基本的に は羊血液寒天培地、チョコレート寒天培地及 び各種確認培地、診断用免疫血清を使用。	180						
	58		消	化器	培養	同定	糞便·胆汁·胃液/ その他		冷凍結不可	同定は質量分析法を使用。使用培地は、目的菌、 検査材料により異なりますが、基本的には羊血 液寒天培地、マッコンキー寒天培地、SSK寒天 培地及び各種確認培地、診断用免疫血清を使用。	200 微生	3~5	検体を乾燥させないようにして下さい。 淋菌・髄膜炎菌・トリコモナスの検査で は検体を室温保存して下さい。ご依頼方 法については91頁を参照下さい。				
	59	培養同定	1		また語養		尿・分泌物/その他	94 頁 参 照		同定は質量分析法を使用。使用培地は、目的 菌、検査材料により異なりますが、基本的に は羊血液寒天培地、マッコンキー寒天培地及 び各種確認培地、診断用免疫血清を使用。	190						
—	60			液ま 養同		穿刺液	加液3~10mL、穿刺液		室冷	同定は質量分析法を使用。使用矩触は、目的應、検査材料に より異なりますが、基本的には培養ボトルを使用します。歯 陽性詞に羊血液衰天培地、マッコンギー寒天培地、チョコレー ト寒天培地及び各種確認培地、診断用免疫血清を使用。	225 122 加算	3 \ 10	で依頼方法については91頁 を参照下さい。				
細菌	61	その他の部位同定		位培養	膿·耳漏·分泌物/ その他		冷凍結不可	同定は質量分析法を使用。使用培地は、目的 菌、検査材料により異なりますが、基本的に は羊血液寒天培地、マッコンキー寒天培地及 び各種確認培地、診断用免疫血清を使用。	180	3~5	検体を乾燥させないようにして下さい。 淋菌・髄膜炎菌・トリコモナスの検査で は検体を室温保存して下さい。ご依頼方 法については91頁を参照下さい。						
検査	65	嫌気性培養				膿・分泌物・血液・穿刺液・胆汁/その他	94 頁参照	冷凍結不可	HK半流動寒天培地、ブル セラHK寒天培地等を使用。	122加算 微生	3 } 10	嫌気ポーター等専用輸送培地をご利用下さい。 で依頼方法については91頁を参照下さい。					
	77 77 77	感受	性枯	生検査 2菌種 3菌種 以上		2菌種	培養同定に同じ	94頁参照		微量液体希釈法 ディスク拡散法	185 微生 240 微生 310 微生	3~5	CLSI法 95頁、96頁(「抗菌剤一覧」) 参照				
	4323	酵母	₩₩	真菌	感受	性検査	培養同定に同じ	94 頁参照		微量液体希釈法	150	3~5	CLSI法 実施薬剤はMCFG、CPFG、 AMPH-B、5-FC、FLCZ、 ITCZ、VRCZ、MCZの8薬剤です。				
	71	尿菌	数	定量			尿10mL	94頁参照	冷凍結不可	定量白金耳塗抹法	60 微生	1	培養同定と同時に算定できません。ご依頼方法については 91頁を参照下さい。				
	73	抗酸	菌	杂色	(蛍	光法)	喀痰/その他	94頁参照	冷凍結不可	蛍光法(蛍光法で陽性の 場合はチール・ネルゼン法 で確認致します。)	50 微生	1					
抗酸	66	抗酸	菌	分離	培養		喀痰/その他	94 頁参照	冷凍結不可	小川法	209 微生	4~8週					
菌検	2575	抗酸	遠	音養	(液(本法)	喀痰/その他	94 頁参照	冷凍結不可	MGIT法	300	3~6週					
查	70	抗酸菌感受性検査			性検証	查	培養陽性菌株 または菌株	94 頁参照		一濃度比率法 微量液体希釈法	400 微生	2~4週	(計) 菌株に対して行う検査です。生材料からは直接検査できません。 感受性検査薬剤は菌株が結核菌群か迅速 発育抗酸菌かまたその他の非結核性抗酸 菌かによって種類と数が異なります。 抗酸菌感受性検査薬剤参照				

微生物学検査

	⊐− FNo.	検 査 項	目	検査材料·量	容器	保存方法	検査方法 (使用培地·検査方法)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	3864	抗酸菌同定		培養陽性菌株 または菌株	94 頁参照	室	質量分析法	361	1 5 7	菌株に対して行う検査です。生材料 からは直接検査できません。所要日 数は、同定検査に入ってからの日数 です。培養日数は含まれません。	
抗酸	2186	結核菌群核酸検出		呼吸器材料/その他	77	冷	リアルタイム	410 微生	2 \	同容器で結核菌とアビウム・ イントラセルラー核酸検出の 2種類が検査できますが、他	
菌	2187	アビウム・イントラセ 核酸検出	ルラー				PCR法	421 微生	4	検査と併用はできません。 94頁参照	
検査	3960	結核菌特異的IFN-γ (QFT-Plus)		ヘパリンリチウム血液 5mL	147	冷	ELISA法	593 免疫	3 ~ 5	①必ずへパリンリチウム容器(容器番号147)をご使用ください。 ②採血後3時間以内に冷蔵(2~8℃)で48時間保存可能です。 ③結果の解釈等は102頁を参照。	
	3496	結核菌特異的IFN (T-スポット.TB)	-Y	ヘパリン加血液 5mL	10	室	ELISPOT法	593 免疫	3 ~ 5	32時間以内に前処理が必要なため早めの提出をお願いします。結果の解釈等は100頁を参照。(IGRAs)	
医真菌検査	55	皮膚糸状菌染色		爪・皮膚のみ対象	94 頁参照	室	10% KOH法 パーカーインク加苛性カリ法	67 微生	1	シードスワブ不可	
	78	CD抗原・トキシンA/B		糞便1g(小指大)	32	冷	IC	80 免疫	2 \ 3	ToxinA·ToxinBの区別はで きません。	
	1862	ヘリコバクター・ピロ	リ培養	胃粘膜(組織)		冷	HP分離培地	200 微生	5 7	専用輸送培地にてご提出下さい。	
	2132	尿素呼気試験	服用前呼気 1服用後呼気 1		105	室	非分散赤外方式	70 微生	1 / 3	呼気採取バッグにて服用前後 の計2個のバッグをご提出下 さい。101頁参照	
	64	トリコモナス培養		尿・分泌物/その他	39	室	トリコモナス培地	60 微生	6		
その	72	簡易培養			94 頁参照	冷	羊血液寒天培地	60 微生	3 ~ 5	培養同定と同時に算定できま せん。	
の他	100	MRSA培養			94 頁参照	冷	培養同定	_	4 6		
	2267	レジオネラ菌定量	培養	環境水 500mL	109	冷凍結不可	定量培養・同定	_	11 \$ 15	予めご連絡下さい。専用の滅 菌ボトルを用い、冷蔵にてご 提出下さい。	
	3206	06 透析液 (メンブランフィルター		透析液 100mL	77	冷	メンブランフィルター法	_	8 } 10	R2A培地にて17~23℃ 7日間培養。 生菌数を報告。	
	3207	透析液(混釈培養	法)	透析液 5~10mL	77	冷	混釈培養法	_	8 5 10	R2A培地にて17〜23℃ 7日間培養。 生菌数を報告。	
	3208	28 透析液(平板塗抹法)		透析液 5~10mL	77	冷	平板塗抹法	_	8 { 10	R2A培地にて17~23℃ 7日間培養。 生菌数を報告。	

主な微生物輸送培地・容器

	容器名	材料容器No	尿	尿道分泌物	膣分泌物	喀痰咽頭粘液	膿(開放)	膿(非開放)	胆汁	髄液	穿刺液	血液	耳漏	糞便	皮膚	目的および使用
	シードスワブ γ 1号			•	•	•	•	•					•	•	•	一般細菌用
	シードスワブ γ 2号	43											•			耳鼻科用
輸	シードスワブ γ3号			•	•											淋菌用
送培	レズンボトル(好)	- 58								•	•	•				採取量3-10mL
地	レズンボトル(嫌)	30								•	•	•				採取量3-10mL
	ケンキポーター	37						•			•			•		嫌気性菌用
	トリコモナス培地	39	•	•	•											トリコモナス専用培地
輸	滅菌スピッツ	30	•						•	•	•				•	
送容	喀痰容器	38				•										
器	採便容器	32												•		

●主として用いられる検体

●必要に応じて用いられる検体

抗酸菌核酸検出検査の留意点

- 1)組織は生材料を3mm角程度にして滅菌容器に入れご提出下さい。
- 2) 胸水、腹水、髄液、関節液、血液、骨髄血の採取に当たっては、フィブリンの析出防止のため、必ずEDTAを用いて採取して下さい。ヘパリン-Naは使用しないで下さい。
- 3) 検体は、冷蔵保存して下さい。

- 4) PCR法においては、臨床材料の違いにより抽出方法が異なるため、検査所要日数の延長を余儀なくされる場合がございます、予めご了承下さい。
- 5) 検査結果において、"陽性" は結核菌あるいはアビウム・イントラセルラー の存在を示唆しますが、"陰性" の場合、必ずしも結核菌あるいはアビウム・ イントラセルラーの存在を否定するものではありません。塗抹、培養など 他の検査との併用により総合的にご診断いただきますようお願い致します。

[臨床材料と検査可否]

○:受託可能材料 △:参考材料 ×:受託不可材料

	喀痰	胸水	腹水	胃液	髄液	気管支 洗浄液	尿	関節液	組織	血液	骨髄血	糞便
結核菌核酸検出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	\triangle	\triangle	×
アビウム・イントラセルラー 核酸検出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	Δ	Δ	×

微生物学検査

抗菌剤一覧

系統	化療略号	一般名/商品名
	PC	ペニシリン /ペニシリンG
	ABPC	アンピシリン /アミノベンジルペニシリン・ビクシリン
~	AMPC	アモキシシリン /サワシリン・クラモキシル
シ	PIPC	ピペラシリン/ペントシリン
ペニシリン系	SBT/ABPC	スルバクタム・アンピシリン /ユナシンS
系	AMPC/CVA	アモキシシリン・クラブラン酸/オーグメンチン
	SBTPC	スルタミシリン /ユナシン
	TAZ/PIPC	タゾバクタム・ピペラシリン /ゾシン
アミ	GM	ゲンタマイシン
アミノグリコシド系	ABK	硫酸アルベカシン /ハベカシン
クロシ	ISP	硫酸イセパマイシン /エクサシン
ド系	AMK	アミカシン /ビクリン・アミカマイシン
クテリト	TC	テトラサイクリン /アクロマイシン
ンラ 系サ イ	MINO	ミノサイクリン /ミノマイシン
	EM	エリスロマイシン /エリスロシン
マクロライド系	CAM	クラリスロマイシン /クラリス・クラリシッド
ド系	AZM	アジスロマイシン /ジスロマック
クロラムフェ ニコール系	СР	クロラムフェニコール /クロロマイセチン
カ	IPM/CS	イミペネムシラスタチン /チエナム
ルバ	MEPM	メロペネム /メロペン
~	BIPM	ビアペネム /オメガシン
ペネム系	DRPM	ドリペネム /フィニバックス
	TBPM	テビペネム /オラペネム
モノバク タム系	AZT	アズトレオナム /アザクタム
	OFLX	オフロキサシン /タリビッド
	NFLX	ノルフロキサシン /バクシダール
酵ピ	CPFX	シプロフロキサシン /シプロキサシン
素(キノロン)	LFLX	ロメフロキサシン /バレオン・ロメバクト
ナシ	TFLX	トシル酸トスフロキサシン /オゼックス·トスキサシン
ロカー	PZFX	パズフロキサシン/パシル
ンボー	MFLX	塩酸モキシフロキサシン /アベロックス·ベガモックス
(2)	GRNX	ガレノキサシン /ジェニナック
	STFX	シタフロキサシン /グレースビット
	LVFX	レボフロキサシン / クラビット

系	統	化療略号	一般名/商品名
	セ	CEX	セファレキシン /ケフレックス・イワレキシン
	フ	CCL	セファクロル /ケフラール
	アロ	CTM-HE	セフォチアム /パンスポリン・ハロスポア
	ロスポ	CFIX	セフィキシム /セフスパン
	ボ	CFTM-PI	セフテラムピボキシル /トミロン
	リン系	CPDX-PR	セフポドキシムプロキセチル /バナン
		CFDN	セフジニル /セフゾン
		CDTR-PI	セフジトレン /メイアクト
	F	CFPN-PI	セフカペン /フロモックス
		CEZ	セファゾリン /セファメジン・セファゾペン
		CTM	セフォチアム /パンスポリン・ハロスポア
セ		CZX	セフチゾキシム /エポセリン
フェ	ファ	CMX	セフメノキシム /ベストコール
エム系		CTX	セフォタキシム /クラフォラン・セフォタックス
系	ス	CTRX	セフトリアキソン /ロセフィン
	ポリ	CAZ	セフタジジム /モダシン
	リン	CPZ	セフォペラゾン /セフォペラジン・セフォビッド
		SBT/CPZ	スルバクタムセフォペラゾン /スルペラゾン
	注	CPR	セフピロム /ケイテン・ブロアクト
	射	CZOP	セフォゾプラン /ファーストシン
		CFPM	セフェピム /マキシピーム
		TAZ/CTLZ	タゾバクタム・セフトロザン/ザバクサ
	イシファ マ	CMZ	セフメタゾール /セフメタゾン
	フオェキ	LMOX FMOX	ラタモキセフ /シオマリン
	ムサ 系セ	FMOX	フロモキセフ /フルマリン
イシ	リンコマ	LCM	リンコマイシン /リンコシン
※	구	CLDM	クリンダマイシン /ダラシン
ポリ	ペプ	CL	コリスチン
チト	※ 系	PL	ポリミキシンB
		VCM	バンコマイシン
		TEIC	テイコプラニン /タゴシッド
7	5	LZD	リネゾリド /ザイボックス
0	0	DAP	ダプトマイシン/キュビシン
11	也	ST	スルファメトキサゾールトリメトプリム /バクタ・バクトラミン
		FOM	ホスホマイシン /ホスミシン・ホスミシンS
		FRPM	ファロペネム /ファロム

※判定が(R):耐性、(I):中間(比較的感受性)、(S):感受性と表現します。

微生物学検査

食品従事者検便検査

	検査名称	コードNo.	検査項目	採取容器	保存方法	所要日数	備考	
		62	赤痢菌					
		63	サルモネラ菌	104:食品関係者検便容器 (32:採便容器でも可)	常温 _{又は} 冷蔵	3~5		
	栓 価栓本	3596	腸管出血性大腸菌				陽性の場合、同定検査及	
	検便検査	2585	腸チフス菌	the state of the s			び血清型まで進みます。	
		2586	パラチフス菌	24				
		81	腸管出血性大腸菌 O157					
	その他 便検査	3435	ノロウイルス (リアルタイムRT-PCR法)	145: ノロウイルスPCR容器	凍結 ^{又は} 冷蔵	2~3	指定容器以外は受託不可。	

食品衛生関連検査

コードNo.	検査項目	採取容器	保存方法	所要日数	備考	
2125	一般生菌数	201:滅菌サンプル袋				
2126	大腸菌群	(大・中 2種類有り)				
2127	黄色ブドウ球菌				 予めご予約が必要です。	
2128	サルモネラ菌		冷蔵	2 7	食材サンプル量(約200g)	
2241	腸管出血性大腸菌〇157	1	冷凍	3~1	• 食品保存方法に従って 下さい(常温品・冷蔵品	
2293	腸炎ビブリオ菌				は冷蔵。凍結は冷凍)。	
2388	E.coli(大腸菌)	1				
	その他(お問い合わせ下さい)					
2504	一般生菌数	205: スタンプ培地				
2505	大腸菌群	#3-man				
2506	黄色ブドウ球菌		冷所	3~5	予めご予約が必要です。	
		Tośco9				
2243	一般生菌数	203:拭取り容器				
2244	大腸菌群					
2245	黄色ブドウ球菌					
2253	サルモネラ菌		冷所	3~7	予めご予約が必要です。	
2248	腸管出血性大腸菌〇157					
2247	腸炎ビブリオ菌					
2537	E.coli(大腸菌)					
	2125 2127 2128 2241 2293 2388 2504 2505 2506 2243 2244 2245 2245 2245 2248 2247	2125一般生菌数2126大腸菌群2127黄色ブドウ球菌2128サルモネラ菌2241腸管出血性大腸菌O1572293腸炎ビブリオ菌2388E.coli (大腸菌)・・・ その他(お問い合わせ下さい)2504一般生菌数2505大腸菌群2506黄色ブドウ球菌2243一般生菌数2244大腸菌群2245黄色ブドウ球菌2245黄色ブドウ球菌2248腸管出血性大腸菌O1572247腸炎ビブリオ菌	2125一般生菌数201:滅菌サンプル袋2126大腸菌群(大・中 2種類有り)2127黄色ブドウ球菌2128サルモネラ菌2241腸管出血性大腸菌の1572293腸炎ビブリオ菌2388E.coli (大腸菌)・・・ その他(お問い合わせ下さい)2504一般生菌数2505大腸菌群2506黄色ブドウ球菌2243一般生菌数2244大腸菌群2245黄色ブドウ球菌2253サルモネラ菌2248腸管出血性大腸菌の1572247腸炎ビブリオ菌	2125 一般生菌数 201:滅菌サンプル袋 (大・中 2種類有り) 2127 黄色ブドウ球菌 (大・中 2種類有り) 2128 サルモネラ菌 冷蔵 スは 冷凍 2241 腸管出血性大腸菌の157 2293 腸炎ビブリオ菌 2388 E.coli (大腸菌) その他 (お問い合わせ下さい) 2504 一般生菌数 205:スタンプ培地 2505 大腸菌群 2506 黄色ブドウ球菌 2243 一般生菌数 203: 拭取り容器 2244 大腸菌群 2245 黄色ブドウ球菌 2253 サルモネラ菌 2248 腸管出血性大腸菌の157 2247 腸炎ビブリオ菌 冷所	2125 一般生菌数 201:滅菌サンブル袋(大・中 2種類有り) 2127 黄色ブドウ球菌 2128 サルモネラ菌 2241 陽管出血性大腸菌の157 2293 陽炎ビブリオ菌 2388 E.coli (大腸菌) 205:スタンプ培地 2504 一般生菌数 205:スタンプ培地 2505 大腸菌群 2506 黄色ブドウ球菌 2244 大腸菌群 203:拭取り容器 2245 黄色ブドウ球菌 203:拭取り容器 2246 黄色ブドウ球菌 冷所 3~7 2248 陽管出血性大腸菌の157 2247 腸炎ビブリオ菌	

※検体の採取方法は別途ご案内いたします。

	⊐- FNa	楨	章 項 目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	101		рН					5.0~7.5 @2			6	
	103		蛋白定性					(-)				
	104	尿中	糖定性				試験紙法	,				
	105	尿中一般物質定性半定量検査	ウロビリノーゲン 定性		28	·^	四、河大州北(人)	(±)	(26)] (()は当該医療機関内で、	
	109	性半定量	ビリルビン定性	, TO.O	86	711		(-)		2	検査を行った場合に算定。	
尿	110	性	ケトン体定性					()				
検査	111		比重				屈折計法	1.006~1.030				
	112		潜血				試験紙法	(-)	尿便			
	107	蛋白	定量	蓄 尿 または 5.0 部分尿	28	冷	比色法 (ピロガロールレッド)	20.0~120.0mg/day 10.0mg/dL以下	7 尿便	1 5 2	1	
	377	尿糖	定量	尿 5.0	28	冷	酵素電極法	mg/dL 20以下	9 尿便	1 5 2		
	106	尿沈	渣	尿 10.0	28	冷	遠沈鏡検 (無染色)		(27) 尿便	1		
	119	蛋白	スジョーンズ 定性 蛋白定性)	尿 10.0	28	冷	Putnum法	(-)	_	1	陽性の場合には、免疫学的同 定をお勧め致します。	
糞便検査	131	虫卵	(塗抹)	糞便親指頭大	32	冷	直接塗抹法	(-)	20 尿便	1	実施料は「塗抹顕微鏡検査」 として一連の算定となりま す。	

③ 1:蓄尿の場合は、依頼書に1日蓄尿量を必ず明記して下さい。定性・定量を同時に行った場合、実施料は定量検査の所定点数のみとなります。 ③ 2:基準値上限は臨床検査法提要32版、基準値下限は試験紙法測定下限を参照しています。

一般臨床検査

	⊐− KNo.	検査項目	採取量(mL) 趣 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	132	虫卵(集卵)	糞便親指頭大	32	冷	浮遊法/沈殿法	(-)	15 尿便	1 5 2		
	140	便中へモグロビン定性	糞便 (専用容器)	34	冷	ラテックス凝集法	(-)	37 尿便	1 5 2	101頁参照	
	2214	便中へモグロビン定量	糞便 (専用容器)	34	冷	ラテックス凝集法	ng/mL (参考値)99以下	41 尿便	1 5 2	101頁参照	
糞便	3285	便中へモグロビン及び トランスフェリン	糞便 (専用容器)	34	冷	ラテックス凝集法	ヘモグロビン 100未満 (ng/mL) トランスフェリン 50未満 (ng/mL)	56 尿便	1 5 2	101頁参照	
検査	147	アメーバ	糞便親指頭大	32	室	直接塗抹法(ヨード法)	(-)	67 微生	1 5 2		
	136	便脂肪球	糞便親指頭大	32	冷	ズダンⅢ染色法		20 尿便	1 5 2	実施料は「塗抹顕微鏡検査」 として一連の算定となりま す。	
	139	消化度		32	冷	ズダンⅢ染色法 (ヨード染色法)		20 尿便	1 5 2	実施料は「塗抹顕微鏡検査」 として一連の算定となりま す。	
	56	虫体同定	虫体	47	冷	肉眼/鏡検		23 尿便		10%ホルマリン又は70%ア ルコールにて固定しご提出下 さい。	
	161	比重(髄液)	髄液 0.5	30	冷	屈折計法	1.005~1.007	62 尿便	1 5 2	実施料は「髄液一般検査」と して一連の算定となります。	
	162	ノンネアペルト反応	髄液 0.5	30	冷	ノンネアペルト 反応	(−) ~ (±)	62 尿便	1 5 2	実施料は「髄液一般検査」と して一連の算定となります。	
	163	パンディ反応	髄液 0.5	30	冷	パンディ反応	(-) ~ (+)	62 尿便	1 5 2	実施料は「髄液一般検査」と して一連の算定となります。	
髄液	164	細胞数	髄液 0.5	30	冷	Fuchs- Rosenthal法	/μL 5以下	62 尿便	1 5 2	実施料は「髄液一般検査」と して一連の算定となります。	
検査	165	トリプトファン反応	髄液 1.0	30	冷	里見変法	(-)	62 尿便	1 5 2	実施料は「髄液一般検査」と して一連の算定となります。	
	166	クロール(髄液)	髄液 0.5	30	冷	電極法	mEq/L 120∼125	11 生 I	1 5 2		
	168	蛋白定量(髄液)	髄液 1.0	30	冷	比色法 (ピロガロールレッド)	mg/dL 10~40	11 生 I	1 5 2		
	169	糖定量(髄液)	髄液 0.5	30	冷	酵素電極法	mg/dL 50~75	11 生 I	1 5 2		

一般臨床検査

	⊐- FNa.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	181	比重(穿刺液)	穿刺液 1.0	30	冷	屈折計法	浸出液1.018以上 漏出液1.015以下	_	1		
腹水	182	リバルタ反応	穿刺液 1.0	30	冷	リバルタ反応	浸出液 (+) 漏出液 (一)	_	1		
小・胸水・	183	蛋白定量(穿刺液)	穿刺液 1.0	30	冷	屈折計法 比色法 (ピロガロールレッド)	g/dL 浸出液 4.0以上 漏出液 2.5以下	11 生 I	1 5 2		
穿刺液検査	184	沈査(穿刺液)	穿刺液 1.0	30	冷	遠沈鏡検		_	1		
快 查	185	糖定量(穿刺液)	穿刺液 1.0	30	冷	酵素電極法	mg/dL	11 生 I	1		
	3425	沈渣(関節液)	関節液 1.0	30	冷	遠沈鏡検		50 尿便	1		
精液	123	精液量	精液 全量	30	冷	肉眼的測定	^{mL} 2.0∼4.5	70 尿便	1	実施料は「精液一般検査」と して一連の算定となります。	
精液検査	124	精子数	精液 全量	30	冷	視算法	10³/mL 20,000以上	70 尿便	1 5 2	実施料は「精液一般検査」として一連の算定となります。	

T-スポット、TB検査について

【採血量】(測定年齢に制限はありません)

年 齢	2歳未満	2歳~9歳	10歳以上
提出検体量	2mL以上	4mL以上	5mL以上

【検査結果の判定法】

判定基準

1. 以下の計算式を用いて、①および②を算出します。

[(パネルAウェルのスポット数) - (陰性コントロールウェルのスポット数)]…① [(パネルBウェルのスポット数) - (陰性コントロールウェルのスポット数)]…②

2.1で算出した①、②の数値を用いて、以下の判定基準にしたがつて結果を判定します。

陽性: ①および②の双方、あるいはいずれか一方が8スポット以上の場合

陰性: ①および②の双方が4スポット以下の場合

判定保留:①および②の双方、あるいは双方の値の最大値が5~7の場合

※数値が5~7となった場合は、8以上または4以下となった場合と比較して信頼性がやや低下する可能性があります。 そのため、「判定保留」の場合には再検査を行うことが推奨されます。

再検査

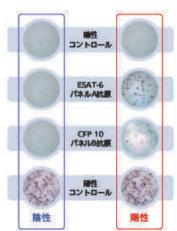
次の場合は「判定不可」のため再検査が必要です。

陰性コントロールウェルのスポット数が10を超える場合

陽性コントロールウェルのスポット数が20未満となる場合

【検査結果の解釈】

、快旦和未の胜例』	
陽性	結核菌の感染が強く疑われます。 ただし、Tースボット、TBの陽性結果のみで結核菌感染を確定することはできません。 臨床症状ならびに他の検査結果から総合的に判断して下さい。
陰性	検査上、結核菌への感染の疑いはありません。 ただし、T-スポット、TBの陰性結果はM. tuberculosisの感染を否定するものではありません。結核患者との接触が否定できないなどの疑いがある場合は、 6週間以内に再検査を行うか、臨床症状ならびに他の検査結果から総合的に判断して下さい。
判定保留	反応が陽性、陰性の境界域にあり、判定を保留とします。再検査が推奨されます。再検査を行い再度「判定保留」となった場合は、 他の臨床的判断をもって総合的に解釈して下さい。
判定不可	十分な免疫能を有していない、あるいはT細胞が非特異的な反応をしていることが疑われます。 再検査が推奨されます。再検査を行い再度「判定不可」となった場合、他の臨床的判断をもって総合的に解釈して下さい。

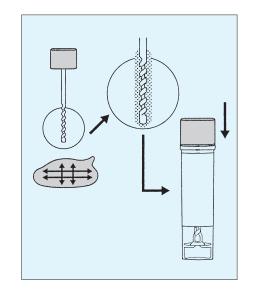


便中へモグロビン検体採取法について

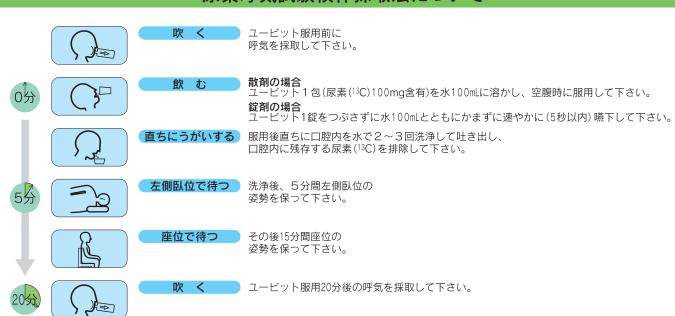
- 1) キャップを回しながら引き抜いて下さい。
- 2) キャップに付いている採便スティックで、便表面を幅広く擦って採取して採便スティ ックの先端に便を取って下さい。便の量は、先端のみぞが埋まるくらいが適量です。
- 3) 容器に採便スティックを戻し、パチンと音がするまで、強く押し込んで下さい。
- 4) キャップをしつかり締めた後、容器を数回強く振って下さい。
- 5) 採便後、検体回収までの間、冷暗所で保管して下さい。

<留意事項>

そのまま室温に放置すると便へモグロビン濃度が低下してしまいます。



尿素呼気試験検体採取法について



〈留意事項〉

- ① 呼気中のCO2濃度が低い場合には△13C値の再現性が乏しくなることがあり、低値領域では判定に影響することがあるので注意して下さい。
- ¹³C-尿素呼気試験法の判定結果は、オメプラゾールやランソプラゾール等のプロトンポンプインヒビター(PPI)、アモキシシリンやテトラサイク リン等の抗生物質、ビスマス製剤及び抗ウレアーゼ活性のあるエカベトナトリウム等の服用中や中止直後では偽陰性になる可能性があるため注意 してください。除菌判定を行う場合には、除菌治療薬剤投与中止後、4週以降の時点で実施することが望まれます。 ③ 胃切除を受けた患者では本剤の胃内滞留時間が短縮することにより、判定に影響を及ぼすことがあるので注意して下さい。
- ④ 臨床第三相試験では、約1.8%(165例中3例)の割合で偽陰性が生じたので、臨床症状からH. pylori感染が示唆されるようであれば、別の検査 法を参考にして下さい。
- 無塩酸症の患者の場合、あるいはHelicobacter heilmanii等ウレアーゼ活性を有する細菌が胃内に生息する患者の場合、偽陽性となるおそれがあ るので注意して下さい。
- 胃内のH. pyloriの菌体数と 13 C-尿素呼気試験法の結果(\triangle 13 C値)の相関は確立していません。

QFT-Plusについて

検査結果に対する基準

Nil値	TB1值	TB2值	Mitogen値	判定	解釈		
	0.35以上 かつNil値 の25%以上	不問	不問	陽性	結核感染を疑う。		
8.0以下	不問	0.35以上 かつNil値 の25%以上	小问	物性	桁似燃米を延り。		
0.000		るいは0.35以上	0.5以上	陰性	結核感染 していない。		
	かつNil値の259	%未満	0.5未満	判定不可	結核感染の 有無について		
8.0を超える	不問	不問	不問	刊定作刊	判定できない。		

報告項目の説明および報告範囲

判定 陰性・陽性・判定不可(判定保留はありません)

 $\begin{array}{ll} TB1 \hat{u} \; (IU/mL) & IFN-yTB1^{{\underline{\pm}}1)} - IFN-yN^{{\underline{\pm}}4)} \\ TB2 \hat{u} \; (IU/mL) & IFN-yTB2^{{\underline{\pm}}2)} - IFN-yN^{{\underline{\pm}}4)} \end{array}$

Nil値 (IU/mL) IFN-γN^{注4)}

Mitogen値 (IU/mL) IFN-yM^{注3)} -IFN-yN^{注4)} 注1) IFN-yTB1: QFT TB1 チューブ血漿のIFN-y濃度注2) IFN-yTB2: QFT TB2 チューブ血漿のIFN-y濃度

注3) IFN-yM: QFT Mitogen (陽性コントロール) チューブ血漿のIFN-y濃度

注4) IFN-yN: QFT Nil (陰性コントロール) チューブ血漿のIFN-y濃度

測定値につきましては、小数点以下第2位まで報告いたします。報告範囲は10.00 (IU/mL) 以下は実数で報告します。 また10.01以上につきましては、一律>10.01と報告いたします。

判定不可になる可能性のある疾患や治療を受けている患者検体

- ・HIV感染、AIDS、臓器移植等により免疫抑制されている患者検体
- ・糖尿病、ケイ肺症、慢性腎不全、血液病(白血病、リンパ腫等)、その他特定の悪性腫瘍(頭部癌、頸部癌、肺癌)等により 免疫低下の可能性のある患者検体
- ・免疫抑制剤(コルチコステロイド、メトトレキサート、アザチオプリン、化学療法等)により免疫抑制されている患者検体

病理組織・細胞診検査のご依頼について

- 1) 病理組織、細胞診検査それぞれに専用依頼書を用意していますのでご利用下さい。
- 2) 専用依頼書の記載欄には、もれなくご記入下さい。
- 3) 患者名は漢字もご記入下さい。
- 4) 検体は、本案内書をご参照の上ご提出下さい。検体容器は、密栓され、液漏れのないものをご使用下さい。
- 5) 提出容器には、患者名、性別、年齢及び病院名を正確に記入したラベルを貼って下さい。

病理組織固定(ホルマリン固定)法

- 1) 検体は、採取後出来るだけ速やかに固定して下さい。
- 2) 検体は、組織の約10倍量以上の10~20%中性緩衝ホルマリン液に浸し、固定して下さい。
- 3) 生検材料は、広口ビンを用いて固定して下さい。
- 4) 手術材料は、形態をそこなわない程度に切開して、固定液が充分に浸透する様に固定して下さい。
- 5) 検体郵送時における安全上の観点から提出容器に「ホルマリン固定組織」であることを明示したうえでご提出下さい。

〈留意事項〉

- ①胃・腸管は、切開後、粘膜面を上に、板あるいは厚紙に広げて固定して下さい。
- ②子宮は、前面よりY字型に切開して固定して下さい。
- ③肺は、割面にガーゼを挟み、表面にも厚めのガーゼを掛けて固定して下さい。
- ④リンパ節は、切除時に郭清し、部分番号あるいは部位名を明記し、別々の広口ビンにて固定して下さい。
- ⑤乾燥した組織や、結石、虫体などは病理検査の対象となりませんので、ご注意下さい。
- ⑥遺伝子検査を実施する場合は10%中性緩衝ホルマリン使用を推奨します。

検査実施料の算定例

● 1 臓器………860点

胃・十二指腸生検、食道生検、肺生検、肝生検、上行・横行・下行結腸生検、S状結腸生検、直腸生検、胆のう、乳腺、前立腺、子宮

● 2 臓器……1720点

。S状結腸生検+直腸生検、甲状腺+上皮小体、睾丸+副睾丸、胃癌(胃+所属リンパ節)、子宮筋腫(子宮+卵巣)、乳癌(乳腺+所属リンパ節)

●3臓器……2580点

腎癌(腎+尿管+所属リンパ節)、肝癌(肝+胆のう+所属リンパ節)、大腸癌(大腸+虫垂+所属リンパ節)

- ●病理組織検査に当たって 免疫抗体法(その他)を用いた検査を行った場合、所定点数に400点を加算することができます。但し、加算については、 試薬(抗体)の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみの算定となります。
- ●エストロジェンレセプター (IHC法) を行った場合は720点、プロジェステロンレセプター (IHC法) を行った場合は690点を算定することができます。但し、同一月に併せて実施した場合は、主たる点数 (720点) に180点を加算して算定することになります。 (免疫染色加算)
- ●胃癌・大腸癌・唾液腺癌 HER2(IHC法)を行った場合は、690点を算定することができます。
- ●胃癌 HER2(IHC法)を行った場合は690点を算定することができます。
- ●HER2タンパク(FISH法)に関しては、染色体検査の項を参照して下さい。
- ●EGFRタンパク(IHC法)を行った場合は、690点を算定することができます。
- ●RAS-BRAF遺伝子変更解析を行った場合、4000点を算定することができます。
- ●ALK融合タンパク(高感度IHC)D5F3は非小細胞癌患者に対して、ALK阻害剤の投与の適応を判断する目的として、ブリッジ試薬を用いた免疫組織染色 法により病理標本作製を行った場合(当該薬剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として)、また悪性リンパ腫患者に対して、悪性リンパ腫の診断補 助を目的として免疫組織染色法を行った場合(悪性リンパ腫の病型分類までの間の1回に限る)、2700点を算定出来ます。
- ●CD30(IHC)は悪性リンパ腫の診断補助を目的として、HQリンカーを用いた免疫組織染色法により病理標本作製を行った場合、400点を加算できます。
- ●確定診断のため4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、所定点数に1200点を加算することができます。

「確定診断のため4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、 消化管、間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部組織、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)又は悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患 者を指す。

●エストロジェンレセプター(IHC法)、プロジェステロンレセプター(IHC法)、EGFRタンパク(IHC法)、肺癌ALKタンパク(高感度IHC法)D5F3、HER2タンパク(IHC法)(FISH法)、胃癌HER2(IHC法)を実施する場合は、10%中性緩衝ホルマリン使用を推奨します。

細胞診検査のご依頼について

1) 提出までに日数を要する場合は、塗抹標本を作製して下さい。

パパニコロウ用:塗抹後、直ちに95%エタノールで湿潤固定して下さい。

ギムザ用:塗抹後、直ちに冷風で急速乾燥して下さい。

[喀痰等]

- ① パパニコロウ用に塗抹標本を2枚作製して下さい。
- ② 粘稠性のある材料の場合は、小豆大をスライドガラスにのせてスリ合わせ法により塗抹して下さい。

[体腔液·尿·髄液等]

- ① パパニコロウ用とギムザ用に塗抹標本を各2~3枚作製して下さい。
- ② 1500rpm (髄液 800rpm) で5分間遠沈し、沈渣を塗抹して下さい。
- 2) 郵送標本及び細胞数の少ない検体の場合は、コーティング固定剤(噴霧式)をご使用下さい。

病理学

	⊐— KNa.	検 査 項 目	検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
病 理 組 織 検	252 252 252	1 臓器 2 臓器 3 臓器	10%~20%中性緩衝ホルマリン固定組織	47	ヘマトキシリンエオジン 染色	860 病理 1720 病理 2580 病理	4 5 10	検査内容には標本作製と診断を含みます。 所要日数は一応の目安です。 切り出し、再固定・特殊染色 等の必要が生じた際は、さら に日数を要する場合がありま すので、予めご了承下さい。 依頼方法および提出方法につ いては103頁をご参照下さ い。	
査	252	セルブロック法	生材料(体腔液) (冷蔵保存し提出)	28 30 77	冷 ヘマトキシリン エオジン染色	860	4 5 10	30~50mL必要ですので、 相当量を冷蔵保存にてご提出 下さい。	
	261	〈婦人科〉子宮頸部・ 腟部および腟部断端部 子宮体部(EMスメア)	湿潤固定標本部位別に1枚 生材料の場合は冷蔵保存し提出	62 30	パパニコロウ染色	150	3 ~ 5	使] 依頼方法および提出方法については103頁をご参照下さい。	
	269 3570	〈婦人科液状化細胞診〉 子宮頸部・腟部および 腟部断端部 〈婦人科液状化加算〉	子宮頸部・腟および 腟断端部	142	パパニコロウ染色	150 + 45 病理	3~6	サーベックスブラシを用いて 検体を採取します。プレザー ブサイト液(シンプレップ容 器)の蓋を開け検体を採取し たブラシを保存液の中でブラ シの毛先が広がるように押し 付け、細胞を洗い落とし、容 器の蓋をしっかりしめてご提 出下さい。	
細	251	〈呼吸器〉 喀痰 蓄痰 気管支洗浄液 気管支擦過・穿刺物	喀痰・気管支洗浄液等の生材料 専用容器(固定液入)に入れた 喀痰 気管支擦過・穿刺物 湿潤固定標本 2枚 乾燥固定標本 1枚	30 38 49 62 23	パパニコロウ染色 ギムザ染色	190	3~5	● 1 生材料の場合は冷蔵保存しご 提出下さい。 依頼方法および提出方法につ いては103頁をご参照下さい。	
胞診検査	251	〈体腔液・穿刺液〉 胸水 腹水 心のう液、その他	生材料 (冷蔵保存し提出)	30 28	パパニコロウ染色 PAS染色 ギムザ染色	190	3~5	依頼方法および提出方法については103頁をご参照下さい。	
	251	尿 胆汁 胃液、その他	生材料 (冷蔵保存し提出)	30 28	パパニコロウ染色 ギムザ染色 (PAS染色)	190	3 ~ 5	依頼方法および提出方法については103頁をご参照下さい。	
	251	乳腺、甲状腺	湿潤固定標本 2枚 乾燥固定標本 1枚	62 23	パパニコロウ染色 ギムザ染色 (PAS染色)	190	3	(金) 1 依頼方法および提出方法については103頁をご参照下さい。	
	251	髄液	生材料 (冷蔵し至急提出)	30	パパニコロウ染色 ギムザ染色	190	3~5	採取後は、至急ご提出下さい。 依頼方法および提出方法につ いては103頁をご参照下さ い。	
	251	捺印標本 (リンパ節等)	湿潤固定標本 2枚 乾燥固定標本 1枚	62 23	パパニコロウ染色 ギムザ染色 (PAS染色)	190	3~5	億1 依頼方法および提出方法については103頁をご参照下さい。	

[※]細胞診検査におきましては、専門医の判定が必要な場合、通常日数よりご報告が遅れることがあります。 ※細胞診検査は必ずしも確定診断ではありません。臨床診断、その他の検査結果、組織検査等による総合的な診断をお勧めいたします。 ①] : 塗抹固定標本提出の場合は、スライドガラスのフロスト部分に鉛筆で患者名、材料名を明記して下さい。

	⊐— FNa.	検 査 項 目	検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
細胞診検査	3527	HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ)	子宮頸部・膣および膣 断端部	142	PCR法	347 微生	3 { 7	サーベックスブラシを用いて検体を採取します。ブレザーブ サイト液(シンブレップ容割)の悪を開け検体を採取したブ ラシを保存液の中でブラシの毛先が広がるように押し付け、 細胞を洗い落とし、容器の蓋をしっかりしめてご提出下さい。	

(HPV核酸検出結果報告書)

判定対象は《16.18.その他の12種(31.33.35.39.45.51.52.56.58.59.66.68)のハイリスクグループについて陰性・陽性で判定いたします。》その他の12種類ハイリスクグループについては型別の判定はありません。

●HPV核酸検出の施設基準について

- 「HPV 核酸検出」を「HPV 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
- ・予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。

免疫抗体一覧

上皮系マーカー	CD34	細菌・ウィルス		
Pankeratin (AE1/AE3)	CD56	H.pylori		
HMW Keratin (34βE12)	CD68 (KP-1)	CMV		
Cytokeratin5 / 6	Chromogranin A	spirochete		
Cytokeratin7	C-kit	癌遺伝子・増殖因子関連		
Cytokeratin14	D2-40	P53		
Cytokeratin17	Desmin	Ki67		
Cytokeratin19	DOG1	Cyclin D1		
Cytokeratin20	E-Cadherin	bcl-2		
EMA	Factor VIII	腫瘍マーカー		
CDX2	GATA3	ALK融合タンパク (高感度IHC) D5F3		
CAM5.2	GFAP	HMB45		
リンパ球関連	Glycophorin A	PSA		
CD3	Hepato cyte	CEA		
CD4	HHF35	AFP		
CD5	Myoglobin	CA19-9		
CD7	MUC-1	CA125		
CD8	MUC-2	HCG		
CD10	MUC-5AC	ER		
CD15	MUC-6	PgR		
CD20 (L26)	Napsin A	HER2		
CD23	Neuro fila ment	EGFR MelanA		
CD30	NSE			
CD43	P16	Myb		
CD45 (LCA)	P40	血漿蛋白など		
CD79α	P504S	IgG		
CD138	P57	IgA		
MPO MUM1	P63	IgM		
MOM bcl-6	Pepsinogen I	κ		
TdT	S-100	λ		
組織マーカー	surfactant apoprotein A (PE10)	IgG4		
ATPase	synaptophysin Thyroglobulin			
Calcitonin	TTF-1			
Calponin	Vimentin			
Calretinin	vimentin α-SMA			
CD31	α-SIVIA			
0001				

病理検体の保管について

検査報告後の一定期間、委託元に代わり弊社で保管させて頂きます。 検査後、返却希望の場合はご連絡下さい。

●臓器摘出物5年 ●パラフィンブロック10年 ●組織標本5年 ●細胞診標本10年

※保管期間経過後は、廃棄させて頂きます。

病理学

(細胞診検査報告書)

細胞診検査報告書には、Class判定、ベセスダ判定、またはABC判定、所見、細胞成分、細胞検査士等を記載し報告いたします。

Class判定の例

ClassI : Abscence of atypical or abnormal cells.

Class II : Atypical cytology but no evidence of malignancy.

ClassII: Cytology suggestive of, but not conclusive for malignancy. ClassIIa: Probaby benign atypia.

ClassIIa: Probaby benign atypia ClassIIb: Malignacy suspected.

ClassIV: Cytology strongly suggestive of malignacy.

ClassV: Cytology conclusive for malignancy.

ベセスダシステム2001に準拠した子宮頸部細胞診報告様式

ベセスダシステム	略語	推定される病理診断	取扱い(参考)
陰性	NILM	非腫瘍性所見、炎症	異常なし:定期検査
意義不明な異型扁平上皮細胞	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い	要精検: ① HPV検査による判定が望ましい。 陰性:1年後に細胞診HPV 併用検査 陽性:コルポ、生検 ② HPV検査非施行 6ヶ月以内細胞診検査
HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い	要精検:コルポ、生検
軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV感染 軽度異形成	要精検:コルポ、生検
高度扁平上皮内病変	HSIL	中等度異形成 高度異形成 上皮内癌	要精検:コルポ、生検
扁平上皮癌	SCC	扁平上皮癌 (微小浸潤癌を含む)	要精検:コルポ、生検
異型腺細胞	AGC	腺異形成、腺系病変疑い	要精検:コルポ、生検、 頸管内膜細胞診または組織診
上皮内腺癌	AIS	上皮内腺癌	要精検:コルポ、生検、 頸管内膜細胞診または組織診
腺癌	Adeno carcinoma	腺癌	要精検:コルポ、生検、 頸管内膜細胞診または組織診
その他の悪性腫瘍	other	その他の悪性腫瘍	要精検:病変検索

集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分

日本肺癌学会 肺癌細胞診判定基準改訂委員会

		F	14肿瘤子云 肿瘤种胞移利定基单以引发复云
判断	区分	細胞所見	指導区分
	А	喀痰中に組織球を認めない	材料不適、再検査
			現在異常を認めない次回定期検査
	С	中等度異型扁平上皮細胞 核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞	程度に応じて6ヶ月以内の追加検査と追跡
	D	高度(境界)異型扁平上皮細胞または悪性腫 瘍の疑いのある細胞を認める	直ちに精密検査
	Е	悪性腫瘍細胞を認める	

	⊐-FNo.	検 査 項 目	検査材料	実施料 判断料	備考	所要日数
ホルター心電図検査	270	ホルター心電図解析	●フクダ電子・日本光電・フクダMEによるデジタル記録 ●フクダ電子によるインターネット送信	30分又はその端数増 ごとに90点、8時間 以上1750点	下欄を参照。 ※機器レンタル可	3 5 5
	273	HRV・パワースペクトル解析	●フクダ電子・日本光電・フクダMEによるデジタル記録	_		2 5 3
	274	24時間自由行動下 血圧測定	●フクダ電子デジタル記録(血圧測定機能付)	200点		2 5 3
	281	終夜睡眠ポリグラフィー (携帯装置)	●フクダ電子デジタル記録(SAS測定機能付)	720点	※機器レンタル可	3 5
	3563	LP解析	●フクダ電子(高分解サンプリング記録)	_		3 5
	3668	QT解析	●フクダ電子デジタル記録器	_		3 5
	3669	T波オルタナンス (TWA)	●フクダ電子デジタル記録	_		3 6
	5045	イベントホルター (携帯型発作時心電図)	●フクダ電子デジタル記録器	1750点		3 5

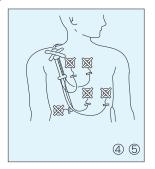
電極取り付けの留意点

電極の取り付けは、データ解析に大きな影響を与えますので、下記の順序に従い確実に取り付けて下さい。

- ①電極に誘導コードを取り付けます。取り付けた後に、電極とクリップの接触を良くするために、擦るように2~3回まわして下さい。 クリップの接続部分が汚れている時は、きれいにしてから取り付けます。
- ②サンドクリームをガーゼにつけて装着皮膚部を強く数回こすります。
- ③サンドクリームをきれいに拭き取ります。
- ④電極のシールをはがし、皮膚をのばして電極が浮かないように貼り付けます。(電極中央部は、強く押さないようにして下さい)
- ⑤コードの集合部分は鎖骨部にサージカルテープなどで固定します。
- ⑥クリップの部分が動かないようにテープで固定します。
- ⑦電極からわずかのところでコードに弛みを作りテープでコードを固定します。



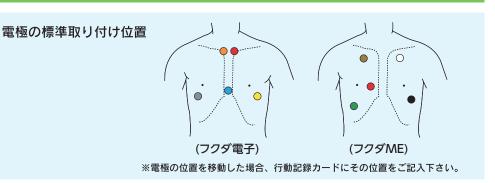




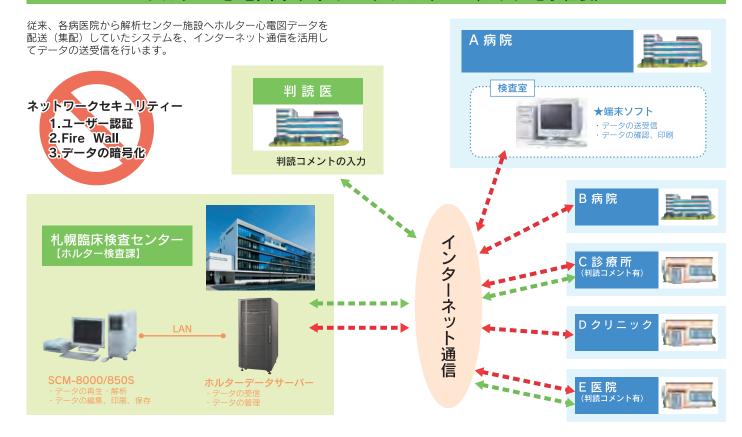


電極の標準取り付け位置

レコーダーの種類によって 取り付け位置および電極の色が 異なりますのでご注意下さい。



ホルター心電図ネットワークシステム (フクダ電子社製)



長時間心電図記録解析装置



フクダ電子 SCM-8000

フクダ電子 SCM-850S

フクダME HS-1000

日本光電 DSC-3200

ホルター心電図検査の必要性

《診断的適応》

- 胸痛、胸部不快感、呼吸困難、動悸、めまいなど自覚症状がある場合。
- 不整脈、特に一過性の不整脈を疑う場合や発作の回数の把握など定量的検討が必要な場合。
- 高血圧、糖尿病などの危険因子があり、虚血性心疾患の可能性がある場合。

《治療的な対応》

- 薬剤、特に抗不整脈剤の薬効判定。薬剤投薬前と投薬後の不整脈発生頻度の比較。
- 心臓ペースメーカーのペーシング、センシング不全の確認。

《予後的な適応》

- 心筋梗塞回復期患者の生活指導や予後の判定。
- 広範囲なリハビリテーションへの応用。

主要参考文献

■生化学検査

総蛋白(TP)

アルブミン

蛋白分画(キャピラリー)

総ピリルピン (T-BIL) 直接ピリルピン (D-BIL) AST (GOT) ALT (GPT) LDH (乳酸脱水素酵素) ALP (アルカリフォスファ ターゼ) LAP (ロイシンアミノペプ チダーゼ) γ -GT

コリンエステラーゼ(Ch-E) CK (CPK) アルドラーゼ(ALD) 血清アミラーゼ(S-AMY) 尿アミラーゼ(U-AMY)

グアナーゼ アデノシンデアミナーゼ (ADA) リゾチーム(ムラミダーゼ) トリプシン 膵ホスホリパーゼA₂(膵 PLA₂) ペプシノゲン(PG) (CLIA) ペプシノゲン(PG) 〈ラテックス凝集比濁法〉

MMP-3 (マトリックスメ タロプロテアーゼ-3) LDHアイソザイム ALPアイソザイム CKアイソザイム (CPKア イソザイム) CK-MB (CPK-MB) 膵アミラーゼ クレアチニン (CRE)

シスタチンC 尿酸(UA)

尿素窒素(UN)

血中アンモニア(NH₃)

アミノ酸分画

アミノ酸11分画〈血漿〉 BTR(総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比) 総ホモシステイン

血糖 (GLU) 尿糖定量 グリコアルブミン (GA)

グリコヘモグロビン (S-HbA1c)

2000

1,5-アンヒドログルシト ール (1,5-AG) ヒアルロン酸 KL-6 乳酸 ピルビン酸 シュウ酸

ケトン体分画〈動脈血〉

ケトン体分画〈静脈血〉

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p473-480, 金原出版.2005

伊藤喜久: Medical Technology 39(3): 278-284,2011. 藤川麻由美,他: 医学検査 62(suppl): 37,2013. 徳田邦明,他:臨床化学**22**(2),116-122,1993 同 ト

同 上 日本臨床化学会:臨床化学**18**(4),18-41,1989 日本臨床化学会:臨床化学**18**(4),42-54,1989 日本臨床化学会:臨床化学**18**,46-64,1989 日本臨床化学会:臨床化学**18**,27-45,1989

堺隆弘:日本臨床53,303-306,1995

日本臨床化学会:臨床化学**24**(2),106-121,1995 日本臨床化学会:臨床化学**30**,171-184,2001 日本臨床化学会:臨床化学**32**,162-179,2003 日本臨床化学会:臨床化学**18**,184-208,1989 三浦雅一,他:臨床検査機器·試薬**12**(50)1005-1009,1989 加藤隆則, 他:日本臨床検査自動化学会会誌**28**,353,2003 日本臨床化学会:臨床化学**34**,350-361,2005 出口松夫, 他:機器·試薬 XIV (2),201-212,1991 手登根稔, 他:検查と技術**13**,(10),901-905,1985 佐野史良,他:臨床検查機器·試薬**9**(4),715-720.1986

仁科甫啓, 他:臨床病理**21**,37,1973 植田進之介,他:医学と薬学**77**(12),1659-1668,2020 竹田昌弘, 他:ホルモンと臨床**38**(7),729-734,1990

北内信太郎, 他:Prog.Med.21,2451,2001

三木一正, 他:医学と薬学49,519,2003

干住紀, 他:臨床病理**33**(12),1407-1412,1985 芝紀代子, 他:臨床検査**32**(11),1222-1232,1988 氏家真二, 他:医学と薬学**67**(5),741-747,2012

井出純子,他:日臨検自動化会誌**28**,364,2003 同 上 同 ト

米田孝司, 他:臨床検査機器試業**22**(1),51-56,1999 池田勝義, 他:日臨検自動化会誌**27**,183,2002 小島進, 他:日本臨床**53**,460-463,1995 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p499-503, 金原出版,2005

佐藤弘恵, 他:モダンメディア**52**(4),7-22,2006 西岡久寿樹:日本臨床**43**,247-250,1985

加賀美年秀:プリン・ピリミジン代謝**20**(2),162-165,1996 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p496-499, 金原出版,2005

HEINRICH KALTWASSER et al.:Analytical,Biochemistry **16**, 132-138.1966

金井正光 (編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p507-510, 金原出版,2005

植木眞琴, 他:臨床病理28(補),138,1980 大沢恵津子, 他:臨床化学シンポジウム20,142,1980 Stein,W.H.and Moore,S.:J.Biol.Chem.176,337,1948 小田治, 他第24回液体クロマトグラフ研究会講演要旨集22,32,1981 中村俊之,他:臨床病理37(8),911-917,1989 Christian Hellmuth,et al:Journal of Chromatography B, 879:83-89,2011

日本糖尿病学会:糖尿病治療ガイド2012-2013 後藤由夫:日本臨床**53**,133-137,1995 古川聡子, 他:医学検査**61**(1),95-98,2012 島健二:グリコアルブミンの血糖値をみる・考える別冊,2000

富永真琴:検査と技術**32**(6),515-518,2004 清水章, 他:日本臨床検査自動化学会会誌**25**(5),629-635,

遠藤輝夫, 他:医療と検査機器・試薬26(1),45-50,2003

島村朗, 他:医学と薬学**44**(6),1141-1146,2000 諏訪部章:検査と技術,**38**(10),926-930,2010 浅沼和子, 他:生物試料分析**8**(3),16-24,1985 同 上 小川由英, 他:腎と透析臨増,151-157,1997

切り日央、他:育と透析區場、151-157,1997 西ヶ谷晴美、他:医学検査**45**(3)353,1996 同 ト TG(中性脂肪)

総コレステロール (T-Cho)

HDL-コレステロール (HDL-Cho) LDL-コレステロール (LDL-Cho)

リン脂質 (PL) 総胆汁酸 (TBA) (血清) 全脂質脂肪酸分画 脂肪酸分画4成分 リポ蛋白分画 コレステロール分画 リパーゼ(血清)

リポ蛋白(a) [Lp(a)] レムナント様リポ蛋白-コ レステロール (RLP-コレ ステロール) アポ蛋白 β -カロチン ビタミンA ビタミンB₁ ビタミンB₂ ピタミンB₆ 葉酸

カルニチン分画

ビタミンC(アスコルビン酸)

25-OHビタミンD (骨粗鬆症) 1,25-(OH)₂ビタミンD ビタミンE レチノール結合蛋白(RBP) ナトリウム(Na) クロール(CI) カリウム(K) マグネシウム(Mg)

カルシウム(Ca)

無機リン(IP)

鉄(Fe) 996 99,

> 総鉄結合能(TIBC)(比色法) 不飽和鉄結合能(UIBC)

血清銅 (Cu) 尿中銅 亜鉛 (Zn) アルミニウム (Al)

〈比色法〉

マンガン(Mn) 鉛(Pb)

クロム(Cr) カドミウム(Cd)

水銀(Hg) δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) ウロポルフィリン

コプロポルフィリン定量 〈血液〉 コプロポルフィリン定量 〈尿〉

赤血球プロトポルフィリン

福井巌, 他:日本臨床40巻秋季臨時増刊号,264-276,1982 日本動脈硬化学会動脈硬化性疾患診療ガイドライン,p5-7,2002 W.Richmond;Clin,Chem.19(12),1350-1356,1973 日本動脈硬化学会動脈硬化性疾患診療ガイドライン,p5-7,2002 井沢幸子, 他:医学と薬学37,1385-1388,1997 平井信弘, 他:医学検査55(3),202-207,2006 石田千春, 他:Progress in Medicine20,1869-1872,2000

佐伯仁志,他:機器·試薬**21**(5),492-502,1998 鈴木博,他:日本臨床**53**,623-625,1995 藤原啓子:臨床病理**37**(10),1114-1121,1989 小沢昭夫,他:分析化学**31**,87-91,1982 同 上

芝紀代子:目でみる電気泳動法**2**,91-99,1989 櫻林郁之介.他:HDL-コレステロール基礎と臨床(株) テクノ:207-220,1980 Shigeyuki Imamura .et al.:CLINICAL CHEMISTRY**35**(6), 1126,1989

野村秀一, 他:代謝**28**(4),265-274,1991 大石千早, 他:日本臨床検査自動化学会会誌**35**(1),83-87, 2010

野間昭夫、他:動脈硬化16,832,1988 加美山茂利,他:臨床検査31(3),268-274,1987 須原聡,他:臨床検査36(3),235-239,1992 宮川秀則,他:生物試料分析36(4),327-330,2013 大石誠子:ビタミンハンドブック3 ビタミン分析法 (化学同人:71-80,1989 吉田継親,他:薬学雑誌98(10),1319-1326,1978 西村和子,森和雄:葉酸最近の話題;生物試料分析, 35(4),299-308,2012 市本景子,他:新薬と臨牀66(9),1176,2017

松井朝義, 生物試料分析35(4),271,2012 Lykkesfeldt J et al.:Analytical Biochemistry **229**,329-335,1995

岡崎 亮:25水酸化ビタミンD測定の意義;モダンメディア63巻3号,pp47-50,2017

Fraser WD et al:Ann Clin Biochem **34**,632-637,1997 阿部皓一,他:栄養と食糧**28**(5),277-280,1975 古田島伸雄,他:日本臨床検査自動化学会誌**32**(1)84-88,2007

木野内喬:日本臨床**53**,748-752,1995 木野内喬:日本臨床**53**,758-761,1995 木野内喬:日本臨床**53**,758-761,1995 荒川泰行,他:日本臨床**53**,762-768,1995

金井正光 (編著): 臨床検査法提要 (改訂第32版), p574-577, 金原出版, 2005

赤津拓彦:日本臨床**53**,769-777,1995

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第31版),p569-574, 金原出版,2005

John A. Daly et al.:Clin.Chem.**18**(3),263-265,1972 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p577-579, 金原出版.2005

松原高賢:鉄と血色素**3**,157-164,1963 D. H. Jung,PH.D,et al.:Am.J.clin,path**54**,813-817,1970 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p579-581,

金原出版,2005 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p581-582,

金原出版,2005 W.N.M.RAMSAY:Clin.Chim**2**,221-226,1957

金井正光(編著): 臨床検査法提要(改訂第32版),p581-582, 金原出版,2005

西美和:日本臨牀**53**,815-818,1995 奥田稔, 林康之:臨床病理(特集第17号),84,1970 井上哲, 他:医療と検査機器・試薬**41**(3),283,2018 Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N.:Clin.Chim.Acta **147**,247,1985

加地浩,他:日本災害医学会会誌**37**,195,1989 労働省労働基準局労働衛生課(監修):鉛健康診断のすすめ方,p56,(社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990 田中俊行,他:医学と生物学**101**,277,1980

Lagesson, V. and Andrasko, L.:Clin.Chem. 25,1948, 1979

宮永昭一,他:食品衛生学雑誌**25**,30,1984 岡山明,他:医学のあゆみ**139**,845,1986

Nuttall,K.L.et al.:Ann.Clin.Lab.Sci.26,313,1996 近藤雅雄:日本臨牀**53**(6),1377,1995 Salmi,M.:Clin.Chem.26,1832,1980

Nuttall,K.L.et al.:Ann.Clin.Lab.Sci.**26**,313,1996 近藤雅雄:日本臨牀**53**,13*77*,1995

労働省労働基準局労働衛生課(監修):鉛健康診断のすすめ 方,p81(社)全国労働衛生団体連合会事務局.1990

エタノール 馬嶋正隆, 他:北里医学14,424-430,1984 メタノール 深掘すみ江, 中明賢二:労働科学59,555,1983 アセトン 同 H 金田恵孝, 他:機器·試薬22(6),475-482,1999 浸透圧 山西八郎, 他:機器·試薬10(6),1080-1084,1987 ICG 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1357-1358.金原出版.2005 24時間クレアチニンクリ 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1422-アランス 1423,金原出版,2005 神ちひろ, 他:分析化学53(7),735-741,2004 結石分析(成分比率) 馬尿酸(HA) 労働省労働基準局労働衛生課(監修):有機溶剤健康診断のす すめ方,p135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990 メチル馬尿酸(MHA) 同上 スチレン代謝物 産業衛生学雑誌61(5).170.2019 総三塩化物(TTC) 労働省労働基準局労働衛生課(監修):有機溶剤健康診断のす すめ方,p135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990 トリクロル酢酸(TCA) 同 上 N-メチルホルムアミド 同上 2,5-ヘキサンジオン 同 上 (2, 5-HD) ■薬物検査■ フェノバルビタール Daniel R. Henderson.et al.:Clin.Chem.32(9).1637-1641 1986 プリミドン 宮本侃治:臨床化学6(3),202-211,1978 フェニトイン HENN KUTT.et al.: ARCHIVES OF NEUROLOGY11,642 -648 1964 カルバマゼピン J.J.MacKICHAN,et al.: Br.J.clin.Pharmac12,31-37,1981 バルプロ酸ナトリウム DAVID CHADWICK, D.M, F.R.C.P: The American Journal of Medicine**84**,3-6,1988 エトスクシミド 宮本侃治:臨床化学6(3),202-211,1978 ジアゼパム Brodie RR et al: Journal of Chromatography 150, 361-366, 1978 ゾニサミド 安田真依, 他:医療と検査機器・試薬38(2),205-210,2015 レベチラセタム Mendu D R. Soldin S J:Clinical Biochemistry 43.485-489.2010 トピラマート 小嶺幸弘:沖縄医報45(9),51,2009 金澤治:こころの科学(157),45,2011 山内俊雄, 他: 臨床医薬15(8),1341,1999 ルフィナミド Perucca, E. et al: Epilepsia 49 (7), 1123, 2008 ペランパネル 花田敬久:脳21 16(3),322,2013 Mano, Y.et al: J. Pharm. Biomed. Ana. 107, 56, 2015 ラコサミド Kim.J.S.et al:Brain Dev36(6).510.2014 リチウム 細羽恵美子, 他: 臨床化学46(1), 39-46, 2017 ハロペリドール 白井晶子, 他:医学と薬学49(6),1011-1017,2003 ブロムペリドール 白井晶子, 他:医学と薬学50(1),101-107,2003 キニジン

木村英樹,他:日本臨床検査自動化学会会誌33,(5),860-864,2008 プロカインアミド 同上 菅沼利之, 他:Therapeutic Research 3(4),719-724,1985 横須賀クリニック検査室 前田悟, 他: 医学と薬学14(3), 685~688,1985 宮本侃治:臨床化学6(3),202-211,1978 市川林, 他:臨床医薬11(4),903-906,1995 Tagawa M. et al.:Jpn Circ J.65 (Suppl1-A),386,2001 John Lindenbaum,et al.:The New England Journal of Medicine 28, 1344-1347, 1971 Jacob V.Aranda, et al.:THE NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE**295** (8) ,413-416,1976 ゲンタマイシン Jolley,M.E.et al.:Clin.Chem.27,1575,1981 トブラマイシン Anhalt J.P.:Interpretation of antimicrobial concentrations in serum. American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program. April, 1981 同上 バンコマイシン 清水直也, 他:TDM研究 Xiv 2,168-173,1997 テイコプラニン 諸岡美里,他:日本臨床検査自動化学会会誌38(1),79-82,2013 Jolley, M.E. et al.: Clin. Chem. 27, 1575, 1981 木村英樹,他:日本臨床検査自動化学会会誌33,(5),860-864,2008 アセトアミノフェン 野口佳男, 他:基礎と臨床21,511,1987

中原佑香里, 他:医学と薬学72(4),761-767,2015

古屋実, 他:医学と薬学70(5・6),961-973,2013

守和子:産業医学17:170-171,1975

同上

ジソピラミド

リドカイン

ジゴキシン

テオフィリン

アミカシン

アルベカシン

サリチル酸

L-ドーパ

メトトレキサート

シクロスポリン

タクロリムス

ピルメノール ソタロール

(ACTH) 抗利尿ホルモン(AVP) TSH(甲状腺刺激ホルモン) F-T4 (遊離サイロキシン) F-T3 (游離トリヨードサイロニン) 抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab) 抗TPO抗体(抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体) TSHレセプター抗体定量 (TRAb定量)第3世代 甲状腺刺激抗体 (TSAb) サイロキシン結合G(TBG) カルシトニン(CT) 副甲状腺ホルモン (whole PTH) 副甲状腺ホルモンintact (PTH-intact) 副甲状腺ホルモン関連蛋 白intact (PTHrP-intact) オステオカルシン(BGP) デオキシピリジノリン [DPD] 骨粗鬆症 TRACP-5b I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (total P I NP) 骨型アルカリフォスファ ターゼ(BAP) Ucオステオカルシン カテコールアミン3分画 〈血漿〉 カテコールアミン3分画 〈尿〉 バニリルマンデル酸(VMA) 〈定量〉 ホモバニリン酸(HVA)(尿) ドーパミン・総 5-ハイドロキシインドー ル酢酸(5-HIAA)(尿) レニン活性(PRA) レニン濃度(ARC) アンギオテンシン [転換 酵素(ACF) 尿中コルチゾール アルドステロン アルドステロン尿 11-ハイドロコキシコルチコ ステロイド(11-OHCS) デハイドロエピアンドロ ステロンサルフェート (DHEA-S) プレグナンジオール (P₂) プレグナントリオール (P₃) テストステロン 遊離テストステロン プロゲステロン 抗ミューラー管ホルモン(AMH) ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 子宮頸管粘液中顆粒球工 ラスターゼ 頸管膣分泌液中癌胎児性

■内分泌学検査■

成長ホルモン(GH)

副腎皮質刺激ホルモン

フィブロネクチン C-ペプタイド (CPR) hANP(ヒト心房性Na利

インスリン(IRI)

インスリン抗体

抗GAD抗体

抗IA-2抗体

膵グルカゴン

尿ポリペプチド)

ガストリン

小山沙世, 他:医学と薬学68(5),899-910,2012 古屋実,他:医学と薬学74(7),819-830,2017

田中誠仁, 他:医学と薬学72(8),1379,2015 北川亘, 他:医学と薬学78(1):59-70,2021 矢野美沙紀, 他:医学と薬学77(5):793-804,2020

矢野美沙紀, 他:医学と薬学77(5):793-804,2020

矢野美沙紀. 他: 医学と薬学77(5): 793-804.2020

矢野美沙紀, 他:医学と薬学77(5):793-804,2020

矢野美沙紀, 他:医学と薬学77(5),793-804,2020

田上哲也, 他:糖尿病·内分泌代謝科**53**(5),479-486.2021 上條桂一, 他:医学と薬学79(9),1199-1207,2022 家入蒼生夫:日本臨牀63(増刊号8),272.2005 北川亘, 他:医学と薬学72,97,2015 森山和重, 他:医学と薬学70(4),829-836,2013

三浦雅一、丁藤康之: 医学と薬学63(1), 121-126, 2010

福本誠二. 他:ホルモンと臨床40(12),1309-1314,1992

吉村典子, 他:Osteoporosis Japan 13(3),759-765,2005 山本逸雄、他:ホルモンと臨床44(7),747-757,1996

三木隆巳, 他:医学と薬学55,443,2006 日高好博:医学と薬学70(2),357-365,2013

倉澤健太郎, 他:医学と薬学55(2),279-285,2006

西村順 他·医学と薬学57(4):527-535 2007 辻潮,他:臨床検査機器·試薬11(4),635-641,1988

Honda S et al: Analytica Chimica Acta 149.297-303.1983

Flood, J.G. et al.: Clin. Chem. 25, 1234, 1979

Rosano T G et al :Clin Chem 27 228 1981 Hansson, C.et al.: J. Chromatogr. 162, 7, 1979 Rosano, T.G.et al.: Clin. Chem. 28, 207, 1982

宇津貴央,他:医学と薬学73(3),311-321,2016 佐藤文俊,他:医学と薬学76(12),1827-1832,2019 Kasahara, Y.et al.: Clin. Chem. 27(11), 1922-1925, 1981

関口昌江,他:医学と薬学69(6),985-991,2013 佐藤文俊,他:医学と薬学76(12),1819-1826,2019 西川哲男,他:糖尿病・内分泌代謝科52(5):496,2021 宇田川美佐子.他: 臨床化学5(3): 321-325.1977

増戸梨恵, 他:医学と薬学56(3),443-448,2006

Suzuki, T.et al.: Endocrine J.50, 571, 2003 同上 古屋実, 他:医学と薬学74(7),819-830,2017

Van Uytfanghe, K.et al: Clin. Biochem. 38, 253, 2005 古屋実, 他:医学と薬学74(7),819-830,2017 浅田義正, 他:医学と薬学76(10)1527-1532,2019 斉藤裕, 他:ホルモンと臨床40,651,1992

北村光, 他:機器·試薬**21**(4),357,1998 高田竜二, 他:医学と薬学33,979,1995 奥田直貴, 他:医学と薬学72(9),1591,2015 Lockwood C.J., et al: N. Engl. J. Med 325, 669, 1991 千葉正志, 植木亘:衛生検査35,715-719,1986 内潟安子, 他:医学と薬学65(4),525-530,2011 及川洋一, 他:医学と薬学72(9),1551-1560,2015 川崎英二, 他:医学と薬学75(6),669,2018 川崎英二, 他:医学と薬学66(2),345,2011

近藤啓, 他:日本臨床検査自動化学会会誌33(2),190-195,2008 稲垣貴之, 他:医学と薬学72(3),491-497,2015 花石智子, 他:医学と薬学80(5),513-520,2023 下迫賢一, 他:医学と薬学57,901,2007

主要参考文献

BNP (脳性Na利尿ポリペ プチド)

Tリスロポエチン(FPO) 肝細胞増殖因子(HGF) サイクリックAMP(c-AMP) アディポネクチン

辻哲, 他:機器·試薬27(1),31-36,2004 石坂美紀, 他:JJCLA 31(3),276-280,2006 野津吉友, 他:医学と薬学52(3),397-402,2004 増用詩織. 他: 医学と薬学67(2). 297-306. 2012 武藤泰敏, 他:肝胆膵25,541,1992 Honma, M.et al.: Biochem. Med. 18, 257, 1977 Nishimura A.et al:Clinica Chimica Acta 371:163-168.2006

■腫瘍関連検査■

 $AFP(\alpha \supset \bot \vdash J' \sqcup \neg \vdash \bot)$ AFPレクチン分画

癌胎児性抗原(CEA) 塩基性フェトプロテイン CA19-9 SPan-1抗原 DUPAN-2 エラスターゼ1 PIVKA-II シアリルLe^X-i抗原(SLX) NCC-ST-439 血清抗p53抗体 BCA225 CA15-3 NSE (神経特異エノラーゼ) ガストリン放出ペプチド 前駆体 (ProGRP) SCC抗原 シフラ (サイトケラチン 19フラグメント) PSA (前立腺特異抗原) γ -セミノプロテイン(γ -Sm) PSAタンデム PSA F/T比 CA125

シアリルTn抗原(STN) CA72-4 遊離HCG-β (HCG-βサ ブユニット) I 型コラーゲン-C-テロペ プチド(I CTP) デオキシピリジノリン (DPD)

HE4(ヒト精巣上皮蛋白4)

黒田雅顕, 他:医学と薬学56(5),757-764,2006 Shimizu,K.et al.:Clin.Chim.Acta214,3,1993 Oka, H. et al: J. Gastroenterol. Hepatol. 16,1378,2001 黒田雅顕, 他:医学と薬学56(5),757-764,2006 設楽光弘, 他:臨床病理36(9),1039-1044,1988

黒用雅顕. 他: 医学と薬学56(5). 765-770. 2006 梅山馨, 他:膵臓3(4),528-539,1988 櫻林郁之介, 他:臨床病理34(6),705-710,1986 大出勝也, 他:肝と膵23(6),477-480,2002 高津和子, 他:臨床と研究73(11),2656-2664,1996 井村裕夫, 他:癌と化学療法14(5),1315-1321,1987 吉岡久, 他:臨床病理35(11),1233-1238,1987 橋本礼輔. 他: 医学と薬学75(8).955.2018 小林美耶子, 他:医学と薬学72(7),1249,2015 黒田雅顕, 他:機器·試薬29(6),589-596,2006 有吉寛:癌の臨床30(6),569-573,1984 山本典江. 他: 医療と検査機器・試薬32(2), 263-267, 2009

林佳織, 他:医学と薬学76(12),1809-1818,2019 CYFRA21-1 日本臨牀,63巻,増刊号8,654-658,(2005)

黒田雅顕, 他:医学と薬学56(3),449-454,2006 佐藤達郎, 他:医学と薬学43(1),97-106,2000 野村朋子, 他:医学と薬学51(1),179-185,2004 野村朋子, 他:医学と薬学51(1),179-185,2004 黒田雅顕, 他:機器·試薬29(6),589-596,2006 木村英三:産婦人科の実際64(8),1055,2015 竹内聡, 他:Biotherapy **23**(2),136,2009 井村裕夫, 他:癌と化学療法16(9),3213-3219,1989 矢田紗世, 他:医学と薬学74(7),831-840,2017 Cole LA: Clinical Chemistry 43(12), 2233-2243, 1997 伊吹令人, 他:日本臨牀47(増刊号),1279-1285,1989 清原剛, 他:ホルモンと臨床42(12),1189-1193,1994

山本逸雄 他·ホルモンと臨床44(7) 747-757 1996

北村元仕, 他:臨床検査マニュアル(文光堂):880-886,1988

国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学総論2版

国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学総論2版

■ウイルス学検査■

ウイルス抗体の検出(CF法) インフルエンザA型(HI法)

インフルエンザB型(HI法)

パラインフルエンザ・エコーHI法

臨床ウイルス談話会(編):ウイルス実験室診断法,p76-86, 101-105,日本栄養化学,東京,1964 芦原義守:臨床とウイルス 別冊,77,1975 国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論 (改訂二版).p133-135.丸善.東京.1982 ムンプス・風疹HI法 国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学総論2版

(丸.善):260-274 1973

(丸善):214-225,1973

日本脳炎HI法

ウイルス抗体の検出(NT法)

EBV〈FAT法〉 水痘帯状疱疹IgG

水痘帯状疱疹IgM 風疹IgG 風疹IgM 麻疹IgG 麻疹IgM 単純ヘルペスIgG 単純ヘルペスIgM サイトメガロIgG サイトメガロIgM ムンプスIgG

厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・クラミジア・リケッチア 検査(第3版)第 Ⅰ Ⅱ Ⅲ分冊,日本公衆衛生協会,東京,1987 (丸善):214-225,1973 厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・クラミジア・リケッチア 検査第3版 第2分冊:81-97,1987 国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学総論2版 (丸善):260-274,1973 日沼頼夫, 他:臨床病理 特(35),179-189,1978 厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・リケッチア検査 (第3版第 I 分冊),p48,日本公衆衛生協会,東京,1987 同 上

同上 同 H 同 上 同 上 同 上

同 H

熊田洋高,他:医学と薬学72(6),1087-1094.2015 同 上

尾崎降男.他:臨床とウイルス**50**(3),129,2022 尾崎隆男,他:臨床とウイルス47(5),420,2022

ムンプスIgM

ヒトパルボウイルスB19IgG ヒトパルボウイルスB19IgM IgG·HA抗体 IgM·HA抗体 HBs抗原(IC) HBs抗原(CLIA) HBs抗体(IC) HRs抗体(CIIA)

HBe抗原 HBe抗体 HBc抗体〈凝集法〉 HBc抗体〈CLIA〉 IgM·HRc抗体 HBV DNA定量IU HCV抗体(3rd)

HCV抗体2nd HCV RNA定量PCR HBVゲノタイプ B型肝炎ウイルス コア関連抗原(HBcrAg) HCV抗体(IC)

HCV群別(グルーピング) HCV抗原(コア蛋白) HCVサブタイプ系統解析 IgA-HEV抗体 HIV-1/2抗体<確認試験> HIV-1RNA定量〈Taq ManPCR法〉 HTLV- I 抗体(ATLA抗体)

HTLV- I 抗体(ATLA抗体) 〈確認試験〉 ロタウイルス抗原

単純ヘルペス特異抗原 サイトメガロウイルス抗原 〈アンチジェネミア法〉 アデノウイルス抗原

ノロウイルスRNA定性 ノロウイルス (SRSV)-RNA同定

■免疫血清検査■

ASO (ASLO) 梅毒TP抗体定性(LA) 梅毒TP抗体定量(IA) 梅毒定性〈FTA-ABS法〉

梅毒脂質抗体定性(RPR) 梅毒脂質抗体定量(RPR) マイコプラズマ(PA) マイコプラズマ(CF) 寒冷凝集反応 トキソプラズマIgG抗体 トキソプラズマIgM抗体 MAC抗体(抗酸菌抗体定性)

エンドトキシン定量 透析液中エンドトキシン β-D-グルカン プロカルシトニン(PCT) プレセプシン

厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・リケッチア検査 (第3版第 I 分冊),p48,日本公衆衛生協会,東京,1987 要藤裕孝,他:感染症誌69(10),1135,1995 同上

矢野公士,他:医学と薬学58(1),151-161,2007 同上

国立感染症研究所 体外診断薬委員会:医学検查50(11).81.2001 関口仁, 他:機器·試薬22(4),283-288,1999 飯野四郎:臨床検査35(1),9-14,1991

抗HBs抗体国際標準品(WHO 2nd)を基準としたHBs抗体 測定試薬[アーキテクト オーサブ・アボット]の評価:出口 松夫,他:医学と薬学74(9),1137-1144,2017

宮川正明, 他:医学と薬学52(4),621-628,2004 宮川正明, 他:医学と薬学52(4),621-628,2004 森藤隆夫, 他:臨床病理 特(67),101-108,1986 飯田健一, 他:Progress in Medicine 22 (4), 1037-1046, 2002

熊谷保之:日本臨床検査自動化学会会誌25(1):70-74,2000 菅原昌章, 他:医学と薬学,73(10),1329-1339,2016 林田栄治, 他:全自動化学発光免疫測定システム「ルミパル スPresto II 」によるHCV抗体検出試薬の使用経験:医学と

薬学,Vol.58,No.6,pp.881-885 (2007) 長瀬真幸,他:医学と薬学78(10):1207-1215,2021 菅原昌章, 他:医学と薬学,73(10),1329-1339,2016 田中靖人, 他:臨床病理57(1):42,2009 Inoue T,et al: J Hepatol 75(2), 302-310, 2021

梶原富士子,他:イムノクロマトグラフィー法によるHCV 抗体検出試薬「オーソクイックチェイサーHCVAb」改善 試薬の検討:医学と薬学,Vol.59,No.6,pp1121-1127, 自然科学社(2008)

長谷川瞳, 他:医学と薬学**70**(3),633-641,2013 田原和子, 他:日本臨床検査自動化学会会誌36(2),267-274,2011 P.Simmonds, et al.: J.General Virology, 77, 3013, 1996 飯野四郎 他·医学と薬学53(4) 461 2005 Kondo M et al:PLoS ONE 13(10)e0198924:1-10.2018 目崎和久, 他:医学と薬学,73(6),705,2016

出口松夫, 他:医学と薬学66(6),1053,2011 有馬直道, 他:医学と薬学**65**(5),651,2011 Zrein M, et al.:Clin Diagn Lab Immunol.5(1):45,1998 Umeki K et al :Clin Lab 63(2) 227 2017 野間清司:小児科臨床51.2423.1998 中田修司:小児科臨床51,2587,1998 清水英明, 他:感染症学雑誌75,1040,2001 小田幸生,他:医学と薬学46.579.2001 原三千丸:小児科臨床56,887,2003 川名 尚,他:感染症学雑誌61(9)1030-1037,1987 浅井隆善, 他:今日の移植7,553,1994

野間清司:小児科臨床51,2423,1998 中田修司:小児科臨床51,2587,1998 清水英明. 他:感染症学雑誌75.1040.2001 小田幸生, 他:医学と薬学46,579,2001 原三千丸:小児科臨床56,887,2003

Kageyaya T, et al: J Clin Microbiol 41(4),1548-1557,2003 武田直和, 他:臨床栄養94,768,1999

加野象次郎:日本臨床57,107-116,1999

桜庭尚哉, 他:TP 抗体測定試薬 ラピディアオートTPの基本 性能評価;医学と薬学,Vol.64,No.5,pp.751-758 (2010) 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第34版),p917 金原出版,東京,2015

桜庭尚哉,他:梅毒脂質抗体測定試薬ラピディアオートRPR の基礎検討;医学と薬学,Vol.63,No.1,pp.103-109 (2010) 大関トシイ, 他:自治医科大学臨床検査技師年報12:62-64,1988 北村元仕, 他:臨床検査マニュアル (文光堂) 880-886,1988 原島典子, 他:衛生検査27(1):67-71,1978

亀井喜世子, 他:臨床病理**42**(7),743-747,1994

Kitada S.et al:AMERICAN JOURNAL OF Respiratory and Critical Care Medicine 177(1):793-797,2008 土谷正和, 他:日本細菌学雑誌45(6),903-911,1990 渡邊真紀, 他:臨牀透析 別冊,149,1996 吉田耕一郎, 他:医学と薬学67(6),895-902,2012

小林一三, 他:医学と薬学73(4),459-467,2016 Shozushima, T. et al: J. Infect. Chemother. 17(6), 764, 2011 岡村佳和:臨床病理63,62,2015

111

ツツガ虫Gilliam IgG ツツガ虫Gilliam IgM ツツガ虫Kato IgG ツツガ虫Kato IgM ツツガ虫Karp IgG ツツガ虫Karp lgM 百日咳菌抗体 オウム病 クラミジア・トラコマチス 抗体IgA&IgG クラミドフィラ・ニュー モニエ抗体IgG クラミドフィラ・ニュー モニエ抗体IgA クラミドフィラ・ニューモ 二工抗体IgM カンジダマンナン抗原 アスペルギルス抗原 抗ヘリコバクター・ピロリ 抗体 プレアルブミン 尿中アルブミン

 α_1 マイクログロブリン $(\alpha_1 M)$ β_2 マイクログロブリン フェリチン

 α_1 アシドグリコプロテイ ン (α_1AG) ハプトグロビン(Hp) α_{9} マクログロブリン α_1 アンチトリプシン $(\alpha_1$ AT)

アミロイドA(SAA) セルロプラスミン(Cp) トランスフェリン(Tf) 尿中トランスフェリン(CRE換算) クリオグロブリン ミオグロビン〈血清〉 心室筋ミオシン軽鎖「 心筋トロポニンT

ヒト心臓由来脂肪酸結合 蛋白(H-FABP) プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P) IV型コラーゲン7S 尿中Ⅳ型コラーゲン M2BPGi L-FABP TARC 肺サーファクタントプロテ インD(SP-D) 免疫電気泳動(抗ヒト)

免疫電気泳動(特異) 免疫電気泳動(BJ蛋白同定) 游離| 鎖 K/I比 オリゴクローナルバンド

IgG

lgΑ IgM IgE〈非特異的〉 IgE〈特異的〉 Ara h 2(ピーナッツ由来) アトピー鑑別12種吸入 (特異的吸入性アレルゲン) IgE-CAP16 (特異的アレ ルゲン16種) Viewアレルギー39 血清補体価(CH50) $C3(\beta_1C/\beta_1A\mathcal{J}\Box\mathcal{J}\cup\mathcal{J})$ C4(β₁Eグロブリン) リウマチ因子定量 抗ガラクトース欠損IgG 抗体(CA·RF)

山本正悟:臨床とウイルス12(3),270-274,1984

同上 同 上 同 上 同 上 同上

岡田賢司: 医学と薬学65(4).531-536.2011 北村元仕, 他:臨床検査マニュアル (文光堂) 880-886,1988 梶原祥子, 他:医学と薬学37,711,1997

松本明:第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1

同上

宮下修行, 他:小児科診療71(1),95-99,2008

新崎晃弘 他·臨床検査機器·試薬23(3) 197-203 2000 見手倉久治, 他:医学と薬学42(1),207-212,1999 乾正幸, 他:日本ヘリコバクター学会誌19(1):33-42,2017

古田島伸雄, 他:日本臨床検査自動化学会会誌32(1)84-88.2007 羽田勝計:医学と薬学16(5),1335-1339,1986 熊坂一成:日本臨床57,85-88,1999 中野卓. 他: 臨床検査機器: 試薬11(3),469-476,1988

伊藤喜久:血液・尿化学検査免疫学的検査 255-257 編著:市原清志, 河口勝憲, エビデンスに基づく 検査診断実践マニュアル 株式会社 日本教育研究センター、365-367、(2011) 山下順香, 他:医学と薬学29,1239,1993

河合忠, 他:臨床病理(特集第101号),207,1996 飯村康夫, 他:日本臨牀42(春季臨増),1209,1984 櫻林郁之介, 他:臨床病理 特(53)71-81,1983 大谷英樹:臨床検査32(2),173-177,1988 西田陽:北里医学16(6),373-401,1986 永徳広美, 他:生物物理化学37(1),19-23,1993 櫻林郁之介,他:臨床病理 特(53)71-81,1983 伊藤忠一:検査と技術16(7),593-598,1988 齋藤良一, 他:日本臨床検査自動化学会会誌25(5),687-690,2000 金井正光: 臨床検査法提要 (第33版),729,2010 吉川文雄, 他:医学と薬学37(5),1243-1253,1997 宮崎修一, 他:医学と薬学52(3),443-449,2004 戸田圭三, 他:高感度心筋トロポニンT測定試薬の性能評価 と新たな可能性62(2),331-340,2009 藤田孝, 他:医療と検査機器・試薬33(5):629-632,2010

北原志穂, 他:医学と薬学72(9)1579-1590,2015

大高木結媛 他・医学と薬学77(5) 785-792 2020 小幡賢一, 他:臨床検査機器·試薬18(3)439,1998 柴田宏, 他:臨床病理**63**(1),72-77,2015 森さゆり, 他:医療と検査機器・試薬41(6),615-620,2018 安江智美, 他:アレルギーの臨床34(10),60-65,2014 土居耕介, 他:医学と薬学78(3)261-267,2021

大谷英樹, 他:日常検査法シリーズ11免疫電気泳動2版,8-26,1977

同上 同上

守田由香, 他:医学と薬学74(8):945,2017 佐々木征治, 他:最新電気泳動実験法(医歯薬出版)

櫻林郁之介, 他:臨床免疫18(7),595-603,1986 望月照次, 他:臨床化学16(8),745-750,1988

同上 同上

冨岡玖夫:ラボ-トピックス. (Vol.9 No.2). 1-2.1988 奥田勲, 他:医学検査46(10)1525-1530,1997

同上 同上

奥平博一, 他:アレルギー40,544,1991

張田聖恵:医学と薬学73(6):721-726.2016 中藤聡子, 他:臨床検査機器・試薬19(4)609-613,1996 山岸安子:Medical Technology 16 (12),1141-1149,1988 山岸安子:Medical Technology 16 (12),1141-1149,1988 吉野谷定美:日本臨床57,386-389,1999 平山吉郎, 他:医学と薬学42(5),817-828,1999

抗CCP抗体

抗核抗体(ANA)FA 抗DNA抗体〈RIA〉 抗dsDNA抗体IgG

抗ssDNA抗体IgG 抗RNP抗体 抗Sm抗体 抗SS-A抗体 抗SS-B抗体 抗Scl-70抗体 抗Jo-1抗体 抗ARS抗体 抗セントロメア抗体 抗MDA5抗体 抗Mi-2抗体 抗TIF1-γ抗体 抗ミトコンドリア抗体 抗ミトコンドリアM2抗体 抗平滑筋抗体 抗I KM-1抗体 抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA, C-ANCA) 抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA, P-ANCA) 抗糸球体基底膜抗体(抗 GBM抗体) 抗胃壁細胞抗体 抗カルジオリピン・β2 GP I 複合体抗体 抗カルジオリピンIgG抗体 抗アセチルコリンレセプ ター抗体 抗デスモグレイン1抗体

抗デスモグレイン3抗体 抗BP180抗体 ミエリン塩基性蛋白(MBP) 抗血小板抗体 PAIgG(血小板IgG) ABO式血液型

RhD式血液型

Rh-Hr式血液型 直接クームス試験

間接クームス試験

不規則性抗体

妊娠反応定性

玉井慎美,川上純,江口勝美:抗CCP 抗体測定キット(AR CHITECT Anti-CCP) の臨床的評価,医学と薬学64(5), 779-783 2010

東條毅:臨床検査30(7),687-692.1986 鈴木王洋, 他:臨床免疫25(8),1096-1102,1993 陣内記代, 他:日本臨牀検査自動化学会会誌26(6), 747-753,2001

同上 西山進, 他:医学と薬学68(2),345,2012

同上 同上 同上

小島和夫, 他:医学と薬学69(4),677,2013 松下雅和, 他:医学と薬学70(1)109,2013 山田祐介, 他:リウマチ科45(2),133-138,2011 小島和夫, 他:医学と薬学69(4),677,2013 Sato S.et al:Plos One.11(4)e0154285.2016 Fujimoto M,et al: J Dermatol Sci.84(3),272-281,2016

同上 山内進, 他:臨床免疫7(7),825-830,1975 丹野瑞木, 他:医学と薬学67(3),485,2012 山内進, 他:臨床免疫7(7),825-830,1975 竹村真理, 他:医学と薬学46(1),109-114,2001 松下雅和,他:医学と薬学**66**(5)823-828,2011

臼井丈一, 他:医学と薬学68(4)697-704,2012

山内進:衛生検査22(12):1085-1089,1973 野島順三, 他:医学と薬学32(6),1315-1320,1994

小川昌起, 他:医学と薬学78(4),447-459,2021 太田光熙, 他:ホルモンと臨床48,89-93,2000

横山知明, 他:Mebio27(6),102,2010 天谷雅行:日本臨牀68(増刊6),102,2010 □ F

吉田かおり, 他:医学と薬学**70**(5·6):989,2013 Ohta M,et al:Clinical Chemistry46(9):1326,2000 柴田洋一:輸血学(中外医学社):457-470,1978 林悟 他·臨床病理32(11) 1253-1257 1984 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会:輸血·移植検査技 術教本,2,4-13,22-25,30-35,60-63,152-166,175,丸善出 版,2016

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会: 輸血·移植検査技 術教本,13-15,22-25,30-35,60-63,167-169,175,丸善出 版 2016

山崎順啓·Med Technol 11 631 1983

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会:輸血·移植検査技術

教本,53-56,60-63,178-184,丸善出版,2016

認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会:スタンダード 輸血検査テキスト第2版.78.85.89.96. 医 索薬 出版.2007 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p948-949, 金原出版,2005

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会: 輸血·移植検査技術 教本,22-29,36-39,60-63,171,173,丸善出版,2016 -般社団法人 日本臨床衛生検査技師会:輸血·移植検査技術 教本,22-29,36-48,60-63,171-174,丸善出版,2016 認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会:スタンダード 輸血検査テキスト第2版,78,85,89,91,医歯薬出版,2007 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p948-949.954-955.金原出版.2005

丸尾猛, 他:産科と婦人科**58**,1413,1991

更参考文献

T細胞·B細胞百分率

IgG-FcR+T細胞百分率 B細胞表面免疫グロブリ ン(Sm-Ig) CD34陽性細胞数定量 リンパ球幼若化試験(全 血微量培養法) リンパ球幼若化試験(リ ンパ球分離培養法) 薬剤によるリンパ球幼若 化試験(リンパ球分離培 養法) (LST) 好中球倉食能 好中球殺菌能

HLA型判定(A,B Locus) HLA型判定(DR Locus) HLA遺伝子型判定 (A Locus) HLA遺伝子型判定 (B Locus) HLA遺伝子型判定 (C Locus) HLA遺伝子型判定 (DRB1)

HLA遺伝子型判定

HLA遺伝子型判定

(DQA1)

(DQB1) HLA遺伝子型判定

(DPB1)

■染色体検査■

G-バンド分染法

13染色体(13トリソミー /patau症候群) 18染色体(18トリソミー /Edwards症候群) 21染色体(21トリソミー /Dawn症候群) X染色体(CENの検出) Y染色体(CFNの検出) 7染色体(Williams症候群)

15染色体 (Prader-Willi症 候群)

15染色体(Angelman症 候群)

22染色体 (DiGeorge症候 群)

異性間骨髄移植BMT 7染色体 (-7/7 a -)

8染色体(8トリソミー) フィラデルフィア染色体 bcr/abl PML/RARα[t(15;17)転 座解析] AML1/ETO[t(8;21)転座

解析] MLL(11染色体11 q 23 転座解析) IgH/CCND1[t(11;14)転

座解析1 IgH/BCL2[t(14;18)転座 解析]

IRF1 (5染色体5 q 31欠失 解析) BCL6 (3染色体3 q 27転

座解析) CBFB (16染色体16 q 22 逆位/転座解析) RB1 (13染色体13 q 14 欠失解析)

IgH(14染色体14q32転 座解析)

M A LT(18染色体18q 21.1転座解析)

松元康治, 他:臨床免疫16,862,1984

網野信行, 他:細胞性免疫機能検査のすべて,p102,医歯薬 出版.東京.1985

同上

田沢裕光, 他:臨床病理33,426,1985

稲葉享, 他:検査と技術26,49,1998

大野竜三, 岩本公史:免疫実験操作法C,p2197,日本免疫学 会(編) 1981

大野竜三,三島秀人:免疫実験操作法B,p1417,日本免疫学 会(編),1978

北見啓之, 他:臨床免疫15,727,1983

関秀俊,多賀千之:Immunohaematology7,486,1985 関秀俊. 他: 臨床病理33.371.1985 吉川枝里, 他:MHC 10,21,2003

猪子英俊, 他(監修):移植·輸血検査学,講談社,東京,2004

同上

同上

同上

Olerup, O. and Zetterquist, H.: Tissue Antigens 39, 225, 1992

猪子英俊, 他(監修):移植·輸血検査学,講談社,東京,2004

同上

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p110-113,金 原出版.1996

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p169-173,金 原出版,1996

同上

同上

Takahasi, E., et al.: Human Gene. 86:14,1990 同 上

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p169-173,金 原出版,1996

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p529-532,金 原出版,1996

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p533-535,金 原出版.1996

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p545-547,金

原出版,1996 Takahasi, E., et al.: Human Gene. 86:14,1990

古庄敏行(編集):臨床染色体診断法(第1版),p169-173,金 原出版.1996 同上

Takahasi, E., et al.: Human Gene. 86:14,1990

同上

同上

同上

Li, J.-Y. et al.: Am. J. Pathol. 154, 1449, 1999

Vaandrager, J.-W.et al.: Genes Chrom, Cancer 27, 85, 2000

阿部達生編:臨床FISHプロトコール:90-95,秀潤社,1997

Ueda, Y., et al.: Cancer Genet. Cytogenet. 99 (2):102-107 1997

Liu, P.et al.: Science 261, 1041, 1993

古庄敏行(編集): 臨床染色体診断法(第1版).p169-173. 金原出版.1996

阿部達生編:臨床FISHプロトコール:90-95,秀潤社,1997

Takahasi.F., et al.: Human Genet. 86:14,1990

■血液学検査■

白血球数(WBC)

赤血球数(RBC)

ヘモグロビン(Hb)

ヘマトクリット(Ht)

m小板数(PIT)

平均赤血球容積 (MCV)

平均赤血球血色素量 (MCH)

平均赤血球血色素濃度 (MCHC)

網状赤血球数(レチクロ)

鼻汁喀痰中好酸球数

血液像

好塩基斑点赤血球 骨髄像(マルク) 血液塗沫標本ペルオキシ ダーゼ染色 血液塗沫標本エステラー

ゼ染色 血液塗沫標本鉄染色 血液塗沫標本PAS染色 血液塗沫標本ALP染色 骨髄液途沫標本ペルオキ シダーゼ染色

骨髄液塗沫標本エステラ -ゼ染色

骨髄液塗沫標本鉄染色 骨髄液塗沫標本PAS染色 LE細胞(LE現象) マラリア原虫

プロトロンビン時間(PT)

活性化部分トロンボプラ スチン時間(APTT) フィブリノーゲン(FIB)

プロテインC(活性)

プロテインC(抗原量)

血中FDP 尿中FDP

プロテインS(活性) プロテインS(抗原量) D-ダイマー プラスミノーゲン(PLG) 〈活性〉 アンチトロンビンⅢ(AT Ⅲ)〈活性〉 トロンビン・アンチトロ ンビンⅢ複合体(TAT) アンチプラスミン $(\alpha_{7}PI)$ α_2 プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体(PIC) フィブリンモノマー複合 体(FMテスト) β -トロンボグロブリン $(\beta-TG)$ 血小板第4因子(PF4)

トロンボモジュリン(TM) フォン・ウィルブランド 因子活性(リストセチンコ ファクター)

ループスアンチコアグラ ント(LA) 凝固活性 第Ⅱ因子

凝固活性 筆Ⅴ因子 凝固活性 第111因子 凝固活性 第1個因子

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p277,金原 出版 2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p268-

271,金原出版,2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p272-274,金原出版,2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p271-272,金原出版,2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p277-280.金原出版.2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p275,金原 出版,2005

同上

同上

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p280-281,金原出版,2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p857-858.金原出版.2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p295-316.金原出版.2005

三輪史郎. 他:血液細胞アトラス(第4版).文光堂.1991 阿南健一, 他:形態学からせまる血液疾患,近代出版,1999 同上

丹羽欣正:Med.Technol(. 別冊 新染色法のすべて),267,1999 亀井喜恵子:Med.Technol (, 別冊 新染色法のすべて).276. 1999

阿南健一:Med.Technol (. 別冊 新染色法のすべて),272,1999

岡田美樹:Med.Technol(. 別冊 新染色法のすべて),308,1999 安達真二:Med.Technol (. 別冊 新染色法のすべて),295,1999 桜井典子:Med.Technol(. 別冊 新染色法のすべて),270,1999 亀井喜恵子:Med.Technol (. 別冊 新染色法のすべて),276, 1999

阿南健一:Med.Technol(. 別冊 新染色法のすべて),272,1999

岡田美樹:Med.Technol(. 別冊 新染色法のすべて),308,1999 安達真二:Med.Technol (. 別冊 新染色法のすべて),295,1999 相賀静子:検査と技術10,1054,1982

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1104-1107.金原出版.2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p413-416.金原出版.2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p410-412,金原出版,2005 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p419-

421 金原出版 2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p447-451,金原出版,2005

堀内伸純, 他;臨床検査機器·試薬14(2),267,1991 藤岡貴: 医学と薬学73(5).621-626.2016 筒井聰明, 他:検査と技術12(7),581-587,1984 藤岡貴:医学と薬学73(5),621-626,2016

安藤秀実, 他:医療と検査機器·試薬41(5),509-519,2018 堀内伸純,他;臨床検査機器·試薬**14**(2),267,1991

坂東史郎, 他:機器·試薬8,811,1985

金井正光(編著): 臨床検査法提要(改訂第32版).p434-436.金原出版.2005

木村真波, 他:医療と検査機器·試薬33(4),525-533,2010

坂東史郎, 他:機器·試薬8,811,1985

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p458-459.金原出版.2005

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p455-456,金原出版,2005

高橋芳右, 他:血液と脈管18(4),326-335,1987

天野景裕, 他:臨床病理39,967,1991 Macfarlane DE et al.:Thrombos Diathes Haemorth 34,306-308,1975

藤岡貴:医学と薬学73(5),621-626,2016

安達眞二:Medical Technology. 24,(6)629-633,1996

同上 同上

同上

凝固活性 第10因子 安達眞二:Medical Technology.24,(6)629-633,1996 細胞数(髄液) 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p254,金原 凝固活性 第 X 因子 同上 出版,2005 凝固活性 第 X I 因子 同上 大用喜考. 他:髓液検查法2002.日本臨床衛生検查技師会. 凝固活性 第 X Ⅱ 因子 同上 2002 凝固活性 第 X Ⅲ 因子 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, Fickenscher K et al:Thrombosis and Haemostasis65 (5),535-540.1991 2017 凝固抑制 第1410日子 高松純樹:日本臨牀57(増刊 広範囲血液・尿化学検査、 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p257,金原 蛋白定量(髄液) 免疫学的検査2),604,1999 出版,2005 凝固抑制 第10天 日笠 聡:日本臨牀57(増刊 広範囲血液·尿化学検査、 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 2017 免疫学的検査2).611.1999 阪田敏幸:医学と薬学68(3),547,2012 HIT抗体 糖定量(髄液) 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p260,金原 宮田茂樹:日本検査血液学会雑誌12(1),60,2011 出版,2005 大田喜考, 他:髓液検査法2002,日本臨床衛生検査技師会, 2002 ■微生物学検査■ 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 微生物学検査全般 山口恵三:感染症治療の基礎「血液・髄液」, 国際医学出版 2017 株式会社 2006 穿刺液検査全般 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p237,金原 町田勝彦(編):検査微生物学(I),臨床病理 7月·臨時増刊, 出版,2005 特集 第105号,1997 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 臨床微生物検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査 2017 胃液検査全般 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1299,金 技師会 2017 五島瑳智子:細菌感染症の臨床と検査,国際医学出版,2005 原出版,2005 小栗豊子:臨床微生物検査ハンドブック第3版 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, CLSI:Perormance Standards for Antimicrobial 2017 感受性検査 Susceptility Testing M100-S22,2012 精液検査全般 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p231,金原 医真菌検査 金井興美:細菌·真菌検査 微生物検査必携 第3版,日本公衆 出版,2005 衛生協会,1987 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, D.H.ラローン:医真菌 同定の手引き 第5版,2013 2017 抗酸菌検査 抗酸菌検査ガイド,日本結核・非結核性抗酸菌症学会(編), CD抗原 加藤はる:クロストリジウム・ディフィシル毒素 臨床検査47, p169,2003 QFT-Plus 公益財団法人結核予防会:IGRA使用の手引きver.2 . 沢辺悦子, 他:当院で分離されたクロストリジウムの分子 T-スポット.TB 同上 疫学的解析,日本臨床学雑誌Vol.13,No.1,1-7,2003 ノロウイルス抗原 厚生労働省HP:ノロウイルスに関するQ&A 富田文:C.difficileの強毒素株が出現;Nikkeimedica15, http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/ 28-29.2007 dI/040204-1 pdf 結核菌群核酸検出 田口直子, 玉造滋:TaqManPCR法を用いたM.tuberculosis, M.aviumおよびM.intracellulare検出試薬の基礎評価,医学 ■病理学検査■ と薬学別刷62(1),p121-127,2009 病理組織検査 石川栄世(編著):外科病理学,文光堂,(2020.第5版) アビウム・イントラセルラー 日暮芳己,他:コバスTaqMan48の基礎的評価と臨床検体に :免疫組織化学(病理と臨床 臨時増刊),文光堂, 核酸検出 よる検討,Kekkaku**84**(3),p117-124,2009 (2020.Vol 38) クラミジア・淋菌核酸検出 熊本悦明, 松本哲朗,他:C.trachomatisとN.gonorrhoeae 細胞診検査 坂本穆彦(編集):細胞診を学ぶ人のために,第6版 医学書院, の新たな遺伝子検査法-cobas 4800 CT/NG tes(t TaqMan 2019 PCR法)の性能評価およびうがい液および女性尿からの 坂本穆彦(編集):子宮頸部細胞診ベセスダシステム運用の実際, C.trachomatisとN.gonorrhoeaeの検出-,医学と薬学別刷 医学書院,2010 66(6),p1007-1014,2011 清水恵子(編集):子宮内膜細胞診の実際,近代出版,2012 佐々木寛. 他(編集):細胞診ガイドライン1 婦人科・泌尿器. 2015年版,公益社団法人日本臨床細胞学会編,金原出版, ■一般臨床検査■ 2015 佐々木寛、他(編集):細胞診ガイドライン2 乳腺・皮膚・軟部 -- 船臨床検査全船 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版) 金原出版 2005 骨,2015年版,公益社団法人日本臨床細胞学会編,金原出版, 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 2017 佐々木寛, 他(編集):細胞診ガイドライン3 甲状腺・内分 泌·神経系,2015年版,公益社団法人日本臨床細胞学会編, 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p171,金原 蛋白定量 出版,2005 金原出版,2015 佐々木寛, 他(編集):細胞診ガイドライン4 呼吸器・胸腺・ -般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 2017 体腔液・リンパ節,2015年版,公益社団法人日本臨床細胞 沈渣 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p205,金原 学会編,金原出版,2015 佐々木寛,他(編集):細胞診ガイドライン5消化器,2015 出版,2005 伊藤機一, 他:尿沈渣検査法 2010,日本臨床衛生検査技 年版,公益社団法人日本臨床細胞学会編,金原出版,2015 師会.2010 西国広(編集):~基礎から学ぶ~細胞診のすすめ方〈第3版〉, 尿沈渣検査法補遺(日本臨床検査技師会)1995 近代出版,2012 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 2017 虫卵·集卵 金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1088,金 原出版,2005 吉田幸雄, 他:図説人体寄生虫学,南山堂,1984 金子清俊:臨床検査アトラス4寄生中, 医歯薬出版, 1982 鈴木了司(筆者):寄生虫卵図鑑,青村出版社,1974

一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会,

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1088,金

金井正光(編著):臨床検査法提要(改訂第32版),p1088,金

-般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会,

吉田幸雄, 他:図説人体寄生虫学,南山堂,1984 金子清俊:臨床検査アトラス4寄生虫,医歯薬出版,1982 鈴木了司(筆者):寄生虫卵図鑑,青村出版社,1974 一般検査技術教本,一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会,

2017

2017

2017

原出版,2005

原出版,2005

蟯虫卵

虫体同定

容器一覧



乳酸・ピルビン酸

hANP

PTH-rP-intact

膵グルカゴン

容器 容器 器 備 考 容 器 備 考 容 番号 番号 10 ヘパリン容器 14 血球検査用容器 採取量 容量 5mL·10mL 2mL 添加剤 添加剤 ヘパリンNa EDTA-2K 保管方法 室 保管方法 室 有効期限 容器および箱表示 有効期限 包装表示 主な検査項目 主な検査項目 アミノ酸分析・微量 末梢血液一般検査・ 金属・染色体・その 血液像・血液型・ その他 ※容器番号100と同一容器 15 内分泌学用容器 16 凝固検査用容器 容量 採取量 1.8mL · 4.5mL 7_mL 添加剤 添加剤 EDTA-2Na 3.2% クエン酸Na 0.2mL · 0.5mL 保管方法 保管方法 有効期限 容器および箱表示 有効期限 包装表示 主な検査項目 主な検査項目 レニン・抗利尿ホルモン 凝固因子活性·PT· APTT · Fbg · カテコールアミン ACTH・その他 AT-Ⅲ·FDP(血 液)・その他 20 FDP (尿) 容器 22 β-TG・PF-4用容器 採取量 採取量 2mL 2.7mL 添加剤 添加剤 抗プラスミン剤 テオフィリン・アデノ シン・ジピリダモール 製造番号:22G08F 使用期限 2024.07 「アルミ包装開封後速やかに使用すること」 クエン酸・クエン酸ナトリウム 保管方法 室 保管方法(冷蔵、遮光) 有効期限 容器および外袋表示 有効期限 製造から1年 主な検査項目 主な検査項目 β - \square 無機 FDP (尿) 血小板第4因子

容器一覧



保管方法 有効期限

主な検査項目

査

尿一般検査·尿生化 学検査·尿糖定量検

容器一覧

容器 容器 器 容 器 備 考 容 備 考 番号 番号 30 滅菌スピッツ管 32 採便容器 採取量 容量 10mL 3~5g 添加剤 添加剤 保管方法 室 保管方法 🦳 有効期限 有効期限 主な検査項目 主な検査項目 尿細菌検査・胃液検 糞便検査 查 · 十二指腸液検查 · 髓液検査·穿刺液検 査・PCR検査 37 ケンキポーター 34 便中ヘモグロビン採便管 採取量 採取量 添加剤 添加剤 アジ化ナトリウム 培地:インジケータ 一付寒天 保管方法 保管方法 有効期限 容器表示 有効期限 1年 男女日 主な検査項目 主な検査項目 4 4 00 便中ヘモグロビン 微生物学検査 便中ヘモグロビン及び (嫌気性培養) トランスフェリン 38 喀痰容器 39 トリコモナス培地 採取量 採取量 添加剤 添加剤 培地:トリコモナス 保管方法 保管方法 有効期限 有効期限 3ヶ月 主な検査項目 主な検査項目 微生物学検査 喀痰検査 トリコモナス

容器一覧

室

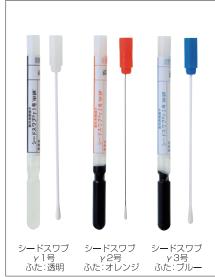
43 輸送培地 (シードスワブ)

容

器

容器

番号



採取量

備

添加剤

キャリーブレア (1号) 変法アミーズ(2号・3号)

考

保管方法

有効期限 容器表示

主な検査項目

微生物学検査

y1号:一般細菌用 y2号: 耳鼻咽喉科用 γ3号: 淋疾用

47 組織片容器

容

容器

番号



容量

備

器

添加剤

保管方法

有効期限

主な検査項目 病理学検査 虫体同定検査

49 喀痰容器(固定液入)



容量

添加剤

エタノール ポリエチレングリコール 粘液融解剤

保管方法(冷暗所)

有効期限 容器表示

主な検査項目 喀痰細胞診

53 PAIgG用容器



採取量 7.5mL

添加剤 ACD-A液

保管方法

有効期限 製造から1年 (アルミ包装開封後1ヶ月)

主な検査項目 **PAIgG**

55 エンドトキシン用容器



採取量 2mL

添加剤

ノボヘパリン15IU

保管方法 室

有効期限 製造から1年

主な検査項目 エンドトキシン β -Dグルカン

58 血液培養ボトル



キャップ グレー&ブル-(ラベル シルバー) キャップオレンジ&ゴールド (ラベル ゴールド) 容量

各3~10mL

添加剤

精製水・消化ブロス 酵母エキス・アミノ酸 他



有効期限 容器表示

主な検査項目 微生物学検査

容器一覧

容器 容器 器 器 備 考 容 備 考 容 番号 番号 62 ドーゼ 63 イオン化カルシウム用容器 容量 採取量 20_mL 5.5mL 添加剤 添加剤 凝固促進剤 保管方法(保管方法 有効期限 有効期限 包装表示 主な検査項目 主な検査項目 細胞診 イオン化カルシウム 64 金属分析用(血清) 66 ウイルス遺伝子検査用容器 採取量 容量 3mL 5_mL 添加剤 添加剤 凝固促進剤 凝固促進剤 保管方法 保管方法 有効期限 容器および箱表示 有効期限 製造から1年 主な検査項目 主な検査項目 アルミニウム・ HBVDNA定量IU セレン・クロム HCVRNA定量PCR 67 クラミジアトラコマチス・淋菌-PCR用容器(ぬぐい液用) 69 シードチューブHP (ヘリコバクター・ピロリ培養用) 採取量 採取量 添加剤 添加剤 グアニジン塩酸塩 チオグリコール酸 他 保管方法 室 保管方法 有効期限 1年 有効期限 3ヶ月 主な検査項目 主な検査項目 クラミジア核酸検出 ヘリコバクター・ ピロリ培養 淋菌核酸検出 ※尿・うがい液用は容器番号178、p126参照

容器一骛

80 HSV抗原容器



採取量

添加剤

保管方法 有効期限 製造から1年 主な検査項目 単純ヘルペスウイルス特異抗原

81 ビタミンC用容器



採取量

血清 0.5mL

添加剤

O.8N過塩素酸

保管方法(一)冷 有効期限 製造から1年

主な検査項目 ビタミンC

82 金属分析用(尿)



容量

添加剤

保管方法 室 有効期限 容器表示

主な検査項目 尿中銅・亜鉛・ マンガン・クロム・ 水銀

84 遮光容器(血液)



容量 5_mL

添加剤

ヘパリンNa

保管方法 室

有効期限 容器および箱表示

主な検査項目 コプロポルフィリン・ 赤血球プロトポルフィ リン







容器一覧 容器 容器 器 器 備 考 容 備 考 容 番号 番号 108 透析液エンドトキシン用容器 109 滅菌採水ボトル 採取量 容量 4mL 500mL 添加剤 添加剤 0.64% トリエタノールアミン 0.16% ポリエチレングリコール 0.01M クエン酸三ナトリウム 保管方法 保管方法 有効期限 容器表示 有効期限 主な検査項目 主な検査項目 透析液中エンドトキシン レジオネラ菌定量培養 131 免疫抑制剤用容器 110 便中へリコバクター・ピロリ抗原用 容量 採取量 2mL 添加剤 添加剤 EDTA-2K 3.6mg ほう酸1mL 探使日 保管方法 保管方法 有効期限 製造から1年 有効期限 製造から1年 主な検査項目 主な検査項目 便中H・ピロリ抗原 シクロスポリン タクロリムス 142 プレザーブサイト液 145 ノロウイルスPCR採便容器 採取量 採取量 20_mL 1~3g



添加剤

メタノール含有

保管方法 室 有効期限 容器表示

主な検査項目 HPV核酸検出 細胞診



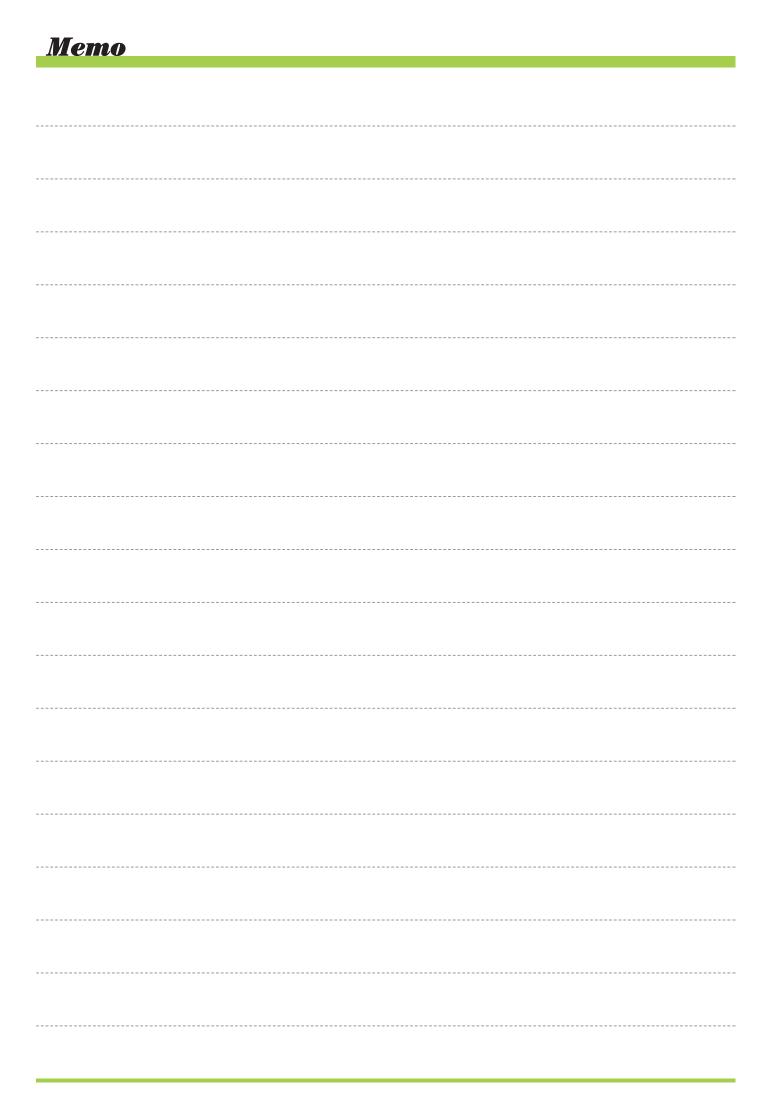
添加剤

保管方法 有効期限

主な検査項目 ノロウイルスPCR検 査

178 クラミジアトラコマチス・淋菌-PCR用容器(尿・うがい液用) 201 食品検査用滅菌サンプル袋 採取量 採取量 200g 添加剤 添加剤 グアニジン塩酸塩 保管方法 保管方法 有効期限 1年 有効期限 主な検査項目 主な検査項目 クラミジア核酸検出 食品微生物検査 淋菌核酸検出







個人情報保護方針

札幌臨床検査センター株式会社(以下「当社」という。)は、地域医療体制を担う臨床検査事業およ び調剤薬局事業を柱とした様々な医療関連サービスを提供しております。

当社は、事業活動を通じて得られた個人情報が、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取扱われるべきものと深く認識し、個人情報を保護することは、当社の社会的責務であり、事業活動の基本であると考えております。よって、以下の個人情報保護方針を定め、全従業者に個人情報保護の重要性を認識させ、周知徹底させることにより、個人情報の保護を推進することを宣言いたします。

1. 法令、国が定める指針およびその他規範の遵守について

個人情報の取扱いに関する法令、国が定める指針およびその他の規範を遵守いたします。

2. 個人情報の取得、利用および提供について

- (1) 適正かつ公正な手段によって個人情報を取得いたします。
- (2) 個人情報の利用目的を定め、事前に本人の同意を得て、その範囲内で業務遂行上必要な限りにおいて利用します。また、本人から同意を得た目的以外の利用をしないため、適正に管理いたします。
- (3) 法令および当社の個人情報保護規程に定める場合を除き、個人情報を本人の同意を得ることなく、第三者に提供いたしません。

3. 個人情報の安全管理について

- (1) 個人情報の正確性を保ち、これを安全に管理いたします。
- (2) 個人情報の漏えい、滅失およびき損の防止を図るため必要かつ適切な安全管理措置のほか、問題が発生した場合には、ただちに是正処置を講じます。

4. 個人情報の苦情および相談への対応について

個人情報の取扱いおよび個人情報保護マネジメントシステムに関する本人からの苦情および 相談については、適切に、かつ、迅速に対応いたします。

5. 個人情報に関する本人の権利について

保有個人データに関して、本人から利用目的の通知、開示、内容の訂正、追加または削除、 利用の停止、消去および第三者への提供の停止を求められた場合には、適正に、かつ、迅速に 対応いたします。

6. 組織および体制について

- (1) 個人情報保護管理者を任命し、個人情報の適正な管理を実施いたします。
- (2) 全従業者に対し、個人情報の保護および適切な取扱いについての研修教育を定期的に実施いたします。

7. 継続的な改善について

個人情報に関する社内規程を定め、日常業務における個人情報の適切な取扱いを徹底するとともに、定期的に監査し、継続的な見直しおよび改善を実施いたします。

2022年6月29日 **札幌臨床検査センター** SAPPORO CLINICAL LABORATORY INC. 代表取締役社長 伊達 忠應

住所: 札幌市中央区北3条西18丁目2番地2

個人情報に関するお問い合わせ窓口 <総務部> TFL 011-613-3210

<総務部> TEL. 011-613-3210 E-Mail info@saturin.co.jp

(制定: 平成16年11月26日)

登録衛生検査所一覧

衛生検査所名称	業務内容	所 在 地	
札幌臨床検査センター	新分類※ 生·免·血·尿·微·病·遺	〒060-0003 札幌市中央区北3条西18丁目2-2	
株式会社 札幌ミライラボラトリー	新分類※ 生·免·血·尿·微·遺	〒060-0003 札幌市中央区北3条西18丁目2-2	
札幌臨床検査センター紫紅 道 北 支 店	新分類※ 生·免·血·尿·遺	〒078-8220 旭川市10条通22丁目2-1	
札幌臨床検査センタ ー繁 苫小牧支店	生·清·血	〒053-0023 苫小牧市錦町1丁目1-4	
札幌臨床検査センタ - 繁 道 南 営 業 所	生·清·血·微	〒041-0853 函館市中道1丁目31-1	
札幌臨床検査センター繁 室 蘭 営 業 所	生・清・血	〒050-0074 室蘭市中島町3丁目28-16	
札幌臨床検査センタ —繁発 新 ひ だ か 営 業 所	生·清·血	〒056-0004 日高郡新ひだか町静内緑町7丁目 1-26	
札幌臨床検査センター繁発 千歳営業所	新分類※ 生·血·尿	〒066-0027 千歳市末広6丁目4番4号 アルファ千歳ビル2階	
札幌臨床検査センター繁報 小 樽 営 業 所	生·清·血	〒047-0032 小樽市稲穂5丁目9-4	
札幌臨床検査センター繁 岩 見 沢 営 業 所	生·清·血	〒068-0021 岩見沢市1条西7丁目2-2	
札幌臨床検査センター 舞 滝 川 営 業 所	生·清·血	〒073-0021 滝川市本町2丁目3-5	
札幌臨床検査センター 北見営業所	血清分離	〒090-0818 北見市本町5丁目1-30	
札 <mark>幌臨床検査センタ</mark> ー舞 釧 路 営 業 所	新分類※ 生·免·血·尿·微·遺	〒085-0043 釧路市喜多町3-2	
	生·清·血	- 7080-0802	

(注) 生:生化学的検査 清:血清学的検査 血:血液学的検査 微:微生物学的検査 寄:寄生虫学的検査 病:病理学的検査

※新分類 生:生化学的検査 血:血液学的検査 尿:尿糞便等一般検査 免:免疫学的検査 微:微生物学検査 病:病理学的検査

遺:遺伝子関連・染色体検査



ISO15189認定 本社取得



使用許諾証

> 医療関連サービスマーク認定 (一財)医療関連サービス振興会



*** **大幌幅床検査センタ**ー 株式 SAPPORO CLINICAL LABORATORY INC.

	URL http://www.saturin.co.jp		
本 社 〒060-0003 株式会社札幌ミライラボラトリー 〒060-0003	札幌市中央区北3条西18丁目2番地2 札幌市中央区北3条西18丁目2番地2	☎011-641-6311	⊞011-641-9802
	旭川市10条通22丁目2番地1	☎0166-35-3511	₩0166-35-6010
苫 小 牧 支 店 〒053-0023	苫小牧市錦町1丁目1番4号	☎0144-33-2222	₩0144-33-2228
道 南 営 業 所 〒041-0853	函館市中道1丁目31番1号	☎0138-52-7411	20 0138-52-7462
	小樽市稲穂5丁目9番4号	☎0134-31-5826	₩0134-23-1042
	岩見沢市1条西7丁目2-2	☎ 0126-22-1603	
	芦別市北4条西1丁目1番	☎ 0124-22-3281	₩0124-22-3491
	釧路市喜多町3番2号	☎ 0154-22-3500	₩0154-22-3510
	帯広市東2条南17丁目7番地1	☎ 0155-25-9567	₩0155-22-2028
	北見市本町5丁目1番30	☎ 0157-26-2230	20 0157-26-2237
	室蘭市中島町3丁目28番16号	☎ 0143-47-7794	
	日高郡新ひだか町静内緑町7丁目1番26号	2 0146-45-0533	
	滝川市本町2丁目3番5号 千歳市末広6丁目4番4号 アルファ千歳ビル2F	☎ 0125-23-1311 ☎ 0123-29-6377	20 0125-23-5007 20 0123-29-6399
	札幌市中央区北3条西18丁目2番地2	☎ 011-622-1000	2 0111-622-1002
【保険調剤薬局】			
	札幌市中央区北3条西18丁目2番地2	☎ 011-640-3553	20 011-613-3288
ノルデン薬局南1条店 〒060-0061		☎ 011-280-0751	2 011-280-0752
	札幌市中央区南2条西1丁目 アーバンビル1F	☎011-241-1225	20 011-241-1228
ノルデン薬局南3条店〒060-0063		☎011-208-5911	20 011-208-5910
ノルデン薬局南13条店 〒064-0913	札幌市中央区南13条西22丁目2番3号	☎011-205-3411	₩011-205-3412
ノルデン薬局北6条店 〒060-0006	札幌市中央区北6条西19丁目22番地6	☎011-640-2117	₩011-640-2118
ノルデン薬局北円山店 〒060-0009	札幌市中央区北9条西24丁目1番27号	☎ 011-215-8191	₩011-215-8192
ノルデン薬局旭ヶ丘店 〒064-0941		☎ 011-520-2011	20 011-520-2013
ノルデン薬局円山公園店 T 064-0820		☎ 011-624-0111	20 011-624-0112
ノルデン薬局札幌医大前店 〒060-0061		☎ 011-590-9151	20 011-590-9152
ノルデン薬局宮の森店 〒060-0007		☎ 011-676-3281	20 011-676-3286
ノルデン薬局栄町店 〒007-0841 ノルデン薬局北栄店 〒007-0841		☎ 011-790-8715 ☎ 011-733-6411	20 011-790-8705 20 011-733-6421
	札幌市東区北41条東7丁目3番11号 札幌市西区発寒13条4丁目13番56号 発寒メディカルビル1F	☎ 011-733-0411	20 011-733-6421
	札幌市西区琴似4条4丁目1番30号 アクロメディックビル1F	☎ 011-622-8511	20 011-622-8512
ノルデン薬局山の手店 〒063-0005		☎ 011-640-5311	20 011-640-5312
ノルデン薬局西町店 〒063-0061		☎ 011-668-3011	20 011-668-3012
ノルデン薬局宮の沢東店 T063-0826		☎ 011-668-1701	2 011-668-1702
ノルデン薬局山の手3条店 〒063-0003	札幌市西区山の手3条5丁目1番20号	☎011-676-4751	20 011-676-4752
ノルデン薬局五輪橋店 〒005-0802		☎011-572-9811	20 011-572-9810
ノルデン薬局藤野店 〒061-2282	札幌市南区藤野2条2丁目1番16号	☎011-594-6011	20 011-594-6012
ノルデン薬局新琴似店 〒001-0906		☎011-769-5411	₩011-769-5413
ノルデン薬局新川店〒001-0925		☎ 011-738-9511	20 011-738-9512
ノルデン薬局麻生店 〒001-0038		☎011-706-1211	20 011-706-1212
	札幌市豊平区福住2条1丁目2番1号 イトーヨーカドー福住店5F		₩011-836-3501
ノルデン薬局月寒中央店 〒062-0051		☎ 011-859-1031	20 011-859-1032
ノルデン薬局水車町店 〒062-0912		☎ 011-827-7815	20 011-827-7805
ノルデン薬局白石店 〒003-0027 ノルデン薬局白石本通店 〒003-0026		☎ 011-867-6511	20 011-867-6522 20 011-876-9351
ノルデン案局日石本通店 T003-0026 ノルデン薬局石狩店 〒061-3253		☎ 011-876-9311 ☎ 0133-75-6111	20 011-876-9351
ノルデン薬局大麻店 〒069-0852		☎ 011-388-5211	20 0133-75-0113
ノルデン薬局南小樽店 〒047-0014		☎ 0134-31-0711	20 0134-31-0712
ノルデン薬局北広島店 〒061-1133		☎ 011-376-7211	
ノルデン薬局北千歳店 T066-0081	千歳市清流5丁目2番1号	☎ 0123-22-1011	2 0123-22-1012
ノルデン薬局苫小牧店 〒053-0054	苫小牧市明野新町5丁目1-24	☎ 0144-51-6611	20 0144-51-6612
ノルデン薬局新ひだか店 〒056-0004	日高郡新ひだか町静内緑町7丁目1番26号	☎0146-45-1011	20 0146-45-1012
ノルデン薬局ウェルネスセンター店 〒078-8392	旭川市宮前2条1丁目1番7号	☎0166-76-4681	₩0166-76-4682
ノルデン薬局旭川4条店 〒070-0034	旭川市4条通16丁目411-1 4.16ビル1F	☎0166-25-5558	20 0166-25-5700
ノルデン薬局旭川豊岡店 〒078-8234	旭川市豊岡4条2丁目124-3	☎0166-35-3711	₩0166-35-3005
ノルデン薬局旭川春光台店 〒071-8142	旭川市春光台2条6丁目2番	☎0166-55-6011	₩0166-55-4011
ノルデン薬局旭川東店 〒078-8241	旭川市4条通22丁目118	☎0166-37-4321	20 0166-37-4300
ノルデン薬局旭川緑が丘店 〒078-8804	旭川市緑が丘東4条1丁目3番16号	☎0166-60-5111	₩0166-60-5222
ノルデン薬局深川店〒074-0005	深川市5条7番	☎ 0164-26-0071	20 0164-26-0031
ノルデン薬局富良野店 〒076-0028	富良野市錦町1番2号	2 0167-23-8211	20 0167-23-8212
ウェルネス薬局湯の川店 〒042-0932 ウェルネス薬局函館石川店 〒041 0903	函館市湯川町1丁目29-8	2 0138-59-2011	20 0138-59-2240
ウェルネス薬局函館石川店 〒041-0802 ウェルネス薬局神山店 〒041-0832		☎ 0138-34-5811 ☎ 0138-35-5531	20 0138-34-4811 20 0138-35-5532
ウェルネス薬局亀田本町店 〒041-0813		☎ 0138-62-6011	20 0138-62-7911
ウェルネス薬局七飯店 〒041-1011		☎ 0138-64-7711	20 0138-64-7710
2 - 70 1 71 75 75 10 MA /L 10+15-1111		_0100 07 7711	_0100 04 1110